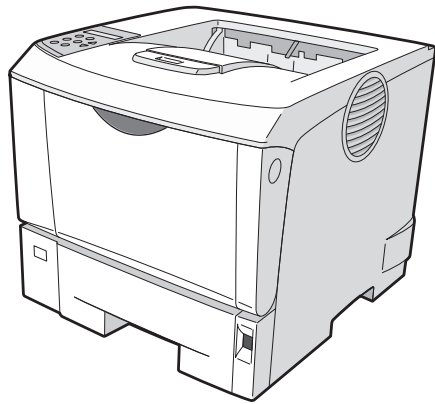
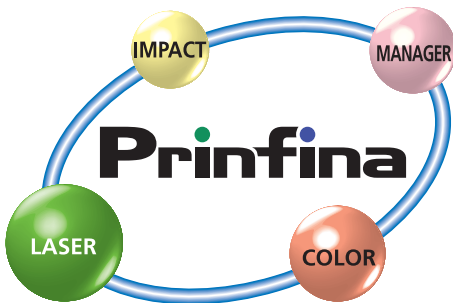


HITACHI
Inspire the Next

日立モノクロページプリンター
Prinfina LASER BX3240

Prinfina

PC-PL3240シリーズ ページプリンター取扱説明書 ソフトウェアガイド



マニュアルはよく読み、保管してください。

- ・製品を使用する前に、安全上の説明をよく読み、十分に理解してください。
- ・このマニュアルは、いつでも参照できるように、手近な所に保管してください。

■重要なお知らせ

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断で転載あるいは引用することを禁止します。
- (2) 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の記述内容について万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- (4) 本製品を運用した結果については(3)項にかかわらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- (5) 弊社指定のオプションまたは消耗品以外を装着してのトラブルについては(3)項にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

■プリンターの信頼性について

本プリンターは、一般事務用を意図して設計・作成されています。生命、財産に著しく影響のある高信頼性を要求される用途への使用は避けてください。このような使用に対する万一の事故に対し、弊社は一切責任を負いません。

■規制、対策などについて

●電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

●高調波電流規格：JIS C 6100-3-2 適合品

JIS C 6100-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性 - 第3-2部：限度値 - 高調波電流発生限度値（1相当当たりの入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

●プリンターでの印刷について

紙幣、有価証券などをプリンターで印刷すると、その印刷物の使用如何に拘らず、法律に違反し、罰せられます。

(1) 複製、印刷することが禁止されているもの

（見本と書かれているものでも複製、印刷できない場合があります。）

- ・紙幣、貨幣、銀行券、国債証券、地方債券など
- ・日本や外国の郵便切手、印紙
 - ・関連法規 刑法 第148条、第149条、第162条
 - ・通貨及証券模造取締法 第1条、第2条
 - ・郵便切手類模造等取締法
 - ・紙幣類似証券取締法
 - ・印紙等模造取締法

(2) 不正に複製、印刷することが禁止されているもの

- ・外国の紙幣、貨幣、銀行券
- ・株券、手形、小切手などの有価証券
- ・国や地方公共団体などの発行するパスポート、免許証、許可証、身分証明書などの文書または図画
- ・個人、民間会社などの発行する定期券、回数券、通行券、食券など、権利や事実を証明する文書または図画
 - ・関連法規 刑法 第149条 第155条 第159条 第162条
 - ・外国ニ於テ流通スル貨幣紙幣銀行券証券偽造変造及模造ニ関スル法律

(3) 著作権法で保護されているもの

- ・著作権法により保護されている著作物（書籍、音楽、絵画、版画、地図、図面、映画および写真など）を複製、印刷することは、個人または家庭内その他これに準ずる限られた範囲内で使用する目的で複製、印刷する場合を除き、禁止されています。

●輸出規制について

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。この装置に付属する周辺機器やソフトウェアも同じ扱いになります。なお、ご不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■保守部品について

本プリンターの保守用部品の保有期限は製造打ち切り後5年です。

■著作権についてのお知らせ

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

はじめに

このたびは、日立ページプリンターをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
本機を正しくお使いいただくために、本書は必ずお読みください。
また、お読みいただいたあとも大切に保管してください。

添付品に欠損・欠品等ありましたら、担当営業またはご購入先までご連絡ください。

お問い合わせ先

●プリンターの操作方法などについてのお問い合わせ

HITAC カスタマ・アンサ・センターにお問い合わせください。

製品の技術的なお問い合わせについて回答いたします。

ただし、各言語によるユーザープログラム等の技術支援は除きます。

また、明らかに故障であると思われる内容につきましては、販売会社、担当営業、または保守会社にご連絡ください。

HITAC カスタマ・アンサ・センター（HCA センター）

フリーダイヤル 0120-2580-12

受付時間 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00

（土・日・祝日・弊社指定休日を除く）

■コールバック方式

受付担当者がお問い合わせ内容を承り、専門エンジニアが折り返し電話またはメールでお答えします。

●故障や保守サービスについてのお問い合わせ

トラブルが発生した場合は、まず、取扱説明書（本書）をご確認ください。

故障と判断される場合は販売会社、担当営業、または保守会社にご連絡ください。

目次

使用説明書について	10
使用説明書の紹介	10
マークについて	11
サポート終了 OS について	11
IP アドレスについて	11
おもなオプションと略称	12
操作部	13

1. 印刷するための準備

接続方法を確認する	15
ネットワーク接続	15
Windows の印刷ポートを使用する	15
プリントサーバを使用する	16
ローカル接続	17
プリンタードライバについて	18
おすすめインストール	19
各ポート別インストール	21
Network Monitor for Client ポートを使う	21
Network Monitor for Client のインストール	21
プリンタードライバのインストール (TCP/IP)	22
プリンタードライバのインストール (IPP)	25
Network Monitor for Client ポートの設定を変更する	27
Standard TCP/IP ポートを使う	29
LPR ポートを使う	32
WSD ポートを使う	34
Windows ネットワークプリンターを使う	36
USB 接続	38
Windows 2000 と USB で接続する	38
Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 と USB で接続する	39
Windows Vista、Windows Server 2008 と USB で接続する	41
Windows 7、Windows Server 2008 R2 と USB で接続する	42
USB 接続がうまくいかないとき	43
パラレル接続	44
CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき	46
Windows 2000 の場合	46
Windows XP Professional、Windows Server 2003/2003 R2 の場合	46
Windows XP Home Edition の場合	47
Windows Vista、Windows Server 2008 の場合	47
Windows 7、Windows Server 2008 R2 の場合	47
オプション構成の設定	48
双方向通信が働く条件	48
双方向通信が働かない場合	49

2. 印刷する

2 種類の操作画面	51
プリンタードライバーの設定画面を表示する	52
プロパティを表示する	52
印刷設定を表示する	53
アプリケーションから印刷設定を表示する	54
よく使う印刷	55
通常印刷する	55
プリンタードライバーで通常印刷を設定する	55
両面印刷する	57
プリンタードライバーで両面印刷を設定する	57
両面印刷の種類	58
複数のページを集約して印刷する	61
プリンタードライバーで集約印刷を設定する	61
集約印刷の種類	62
原稿にイメージや文字をスタンプする	64
プリンタードライバーでスタンプ印字を設定する	64
スタンプの種類	65
ワンクリック設定を使用する	67
便利な機能	68
プリンタードライバーのタブについて	68
表紙を印刷する	70
合紙を挿入する	71
部単位で印刷する (ソート)	72
スプール印刷をする	73
PDF ファイルを直接印刷する	74
UNIX コマンドを使用する	74
文書の複製を抑止する	75
不正コピーガード機能	75
マスクパターン	77
おことわり	78
プリントジョブに分類コードを入力する	79
仮想プリンターを使用する	80
仮想プリンターを追加する	80
仮想プリンターの設定を変更する	82
仮想プリンターの設定内容を確認する	83
仮想プリンターを削除する	84
仮想プリンターで印刷する	85
メモリー容量と用紙サイズ	86
片面印刷の場合	86
両面印刷の場合	86
プリンター内蔵フォントについて	87
用紙のサイズや種類がエラーになったとき	88
強制印刷するとき	88
印刷を中止するとき	89

3. 本機に蓄積された文書を印刷・削除する

文書印刷機能を使用する	91
試し印刷する	91
1部目を印刷する	92
2部目以降を印刷する	93
試し印刷文書を消去する	96
機密印刷する	98
プリンターに機密文書データを送る	98
操作部を使って機密印刷する	99
機密印刷文書を消去する	103
保留文書を印刷する	106
プリンターに保留文書データを送る	106
操作部を使って保留印刷する	107
保留印刷文書を消去する	109
保存文書を印刷する	112
プリンターに保存文書データを送る	112
操作部を使って保存文書を印刷する	113
保存文書を消去する	116
印刷を中止する	119
中止したいデータが印刷されている場合	119
中止したいデータが印刷されていない場合	120
印刷終了後にプリンターのエミュレーションを切り替える	121

4. プリンター本体の設定

[メニュー] キー機能一覧	123
エラー文書を確認する	130
メモリー内残存データ状態確認メニュー	132
メモリー内のデータ状態を確認する	132
用紙設定メニュー	133
用紙設定メニューの設定項目	133
用紙設定メニューの設定を変更する	134
特定のトレイを自動トレイ選択の対象から外す	134
優先給紙トレイを設定する	135
テスト印刷メニュー	136
テスト印刷メニューの項目	136
テスト印刷をする	138
システム設定リストを印刷する	138
システム設定リストの見かた	139
印刷条件を設定する	141
エミュレーションを切り替える	141
印刷条件を設定する	142
RPDLの印刷条件設定項目一覧表	143
RPDLの印刷条件の設定項目	145
印刷条件リストを印刷する	154
印刷条件リストの見方	155
よく使う印刷条件を登録する	156
プログラムを登録する	156
プログラムを呼び出す	157
プログラムを削除する	157
プログラム内容を印刷する	158
給紙トレイを選択する	159
調整/管理メニュー	160

調整 / 管理メニューの項目	160
調整 / 管理メニューの設定を変更する	162
オプションのハードディスクをフォーマットする (初期設置以降)	162
無線 LAN の電波状態を表示する	163
無線 LAN の設定値を初期化する	164
システム設定メニュー	166
システム設定メニューの設定項目	166
システム設定メニューの設定を変更する	172
システム設定 (EM) メニュー	173
システム設定 (EM) メニューの設定項目	173
印刷設定メニューの設定を変更する	174
PS 設定メニュー	175
PS 設定メニューの設定項目	175
PS 設定メニューの設定を変更する	176
PDF 設定メニュー	177
PDF 設定メニューの設定項目	177
PDF 設定メニューの設定を変更する	178
インターフェース設定メニュー	179
インターフェース設定メニューの設定項目	179
インターフェース設定メニューの設定を変更する	183
表示言語メニュー	184
表示言語を変更する	184

5. 機器の監視

Web ブラウザーを使う	185
トップページを表示する	187
メニュー構成とモード	188
管理者モードでアクセスする	190
Web Image Monitor のヘルプについて	191
ヘルプへのアドレス (URL) リンク	191
分類コードを登録する	193
分類コードの設定	194
Network Monitor for Admin を使う	195
Network Monitor for Admin のインストール	196
ネットワークインターフェイスボードの設定を変更する	197
機器側プリンター操作部のメニューをロックする	198
用紙を設定する	199
ユーザー情報を管理する	200
ユーザー情報管理ツールを起動する	200
印刷枚数を表示する	201
印刷枚数の情報を保存する	201
印刷枚数の情報をリセットする	202
利用制限を設定する	204
ユーザーごとに利用可能な機能を設定する	205
省エネモードを設定する	207
パスワードを設定する	208
機器の状態を表示する	209
本体名とコメントを変更する	210
スプール印刷ジョブの一覧を確認する	211
アドレス情報を管理する	212
Network Monitor for Client を使う	213
監視する機器を設定する	213
機器の状態を表示する	214

Network Monitor for Client で IPP を使用する場合	215
機器の状態をメールで通知する	216
メール通知用アカウントの設定	218
メールの認証について	219
「自動メール通知」の設定	220
「要求時メール通知」の設定	221
要求メールの書式について	222
telnet を使う	223
操作の流れ	223
8021x	224
access	225
appletalk	226
authfree	227
autonet	228
bmlinks	229
bonjour	230
devicename	231
dhcp	231
dhcp6	232
diprint	233
dns	233
domainname	235
etherauth	235
etherconfig	235
help	236
hostname	236
ifconfig	237
info	238
ipp	238
ipsec	239
ipv6	239
logout	239
lpr	240
passwd	240
pathmtu	241
prnlog	241
rhttp	241
route	242
set	243
show	245
slp	246
smb	246
snmp	247
snmp	249
spoolsw	250
ssdp	251
ssh	251
status	252
syslog	252
upnp	252
web	253
wiconfig	254
wins	257
wsmfp	258
SNMP	259

ネットワーク経由で確認できる情報	260
機器の状態	260
機器情報	263
取得情報の内容	264
プリントジョブ情報	264
プリントログ情報	265
ネットワークインターフェースボードの情報	266
メッセージ一覧	273
システムログ情報	273

6. プリントサーバーの準備

Windows ネットワークプリンターを設定する	279
Network Monitor for Client 経由で印刷通知をする	280
プリントサーバーの設定をする	280
クライアントの設定をする	281

7. UNIX で使う

セットアップ	283
IP アドレスの設定	284
インストールシェルの実行	284
インストールシェルの実行結果	287
/etc/hosts への IP アドレスとホスト名の追加	287
/etc/printcap へのエントリーの追加	287
スプールディレクトリの作成	288
ログファイルの作成	289
オプション指定 (UNIX)	290
エミュレーションとプログラム	290
漢字フィルター	292
給紙トレイ	292
用紙サイズ	293
用紙種類	294
排紙トレイ	295
印刷部数	295
ソート部数	296
両面印刷	296
解像度	297
usercode	297
オプション指定の変更方法	298
本機の状態表示	299
表示する場合	299
ファイルにコピーする場合	299

8. 付録





CD-ROM 収録ソフトウェア	301
ファイル一覧	301
ドライバー (RPCS)	302
RPCS プリンタードライバー	302
ドライバー (PS3)	302
PS3 プリンタードライバー	302
Network Monitor for Admin	303
Network Monitor for Client	304
Network Monitor for Client	304
マニュアル	305
Windows からのファイル直接印刷	306
セットアップ	306
IP アドレスの代わりにホスト名を使用する	307
DNS を使用している場合	307
DHCP を使用してプリンターの IPv4 アドレスを設定している場合	307
その他の場合	307
印刷方法	308
lpr	308
rcp	309
ftp/sftp	309
DHCP を使用する	311
AutoNet 機能を使用する	311
WINS サーバーを使用する場合	312
Web ブラウザーを使用する方法	312
telnet を使用する方法	312
ダイナミック DNS 機能を使用する	313
更新処理について	313
動作対象の DNS サーバー	314
動作対象の DHCP サーバー	314
ダイナミック DNS 機能の設定方法	314
使用上の注意	315
ネットワークに ISDN 回線を接続している場合	315
拡張無線 LAN ボードを取り付けているとき	315
設定を行う場合	315
ネットワーク接続している場合	316
通信経路の保護と暗号化通信	317
SSL (暗号化通信) の設定	317
機器証明書の作成と導入 (自己証明書)	319
機器証明書の作成 (認証局証明書)	320
機器証明書の導入 (認証局証明書)	321
SSL を有効にする	322
SSL (暗号化通信) のユーザーの設定	323
SSL/TLS 通信許可設定	323
暗号化通信モードの設定	323
SNMPv3 暗号化通信の設定	324
IPsec を使用して通信する	325
IPsec が実現する通信データの暗号化と認証	326
自動鍵設定と手動鍵設定	326
IPsec 設定の設定項目	327
自動鍵設定のながれ	332
手動鍵設定のながれ	337
telnet で IPsec を設定する	338

操作部から IPsec を無効に設定する	344
telnet 接続時の認証について	345
authfree コマンドについて	345
ハードディスクのデータを上書き消去する	346
メモリー自動消去設定	346
消去方式	346
メモリー自動消去設定を使用する	347
メモリー自動消去設定を使用しない	348
上書き消去できるデータ/できないデータ	348
メモリー全消去	348
メモリー全消去を使用する	349
メモリー全消去を中止する	350
管理者の方へ	351
パスワードについて	351
[メニュー] キー機能の補足情報	352
管理者のための隠しメニュー	352
隠しメニューを表示する	353
ネットワークセキュリティーレベル設定	355
各機能とセキュリティーモードレベルの関係	355
スーパーバイザーの操作	357
注意と制限	358
プリンターおよびシステムについて	358
最新情報の入手	358
接続について	358
仕様（プリントタイム、本体・消耗品寿命）	359
PDL について	360
電源について	361
使用環境	361
使用上の注意と制限事項	361
OS のサポートについて	362
ソフトウェアに関して	362
ドライバーインストール・アンインストール	362
ドライバーに関する注意と制限事項	363
RPCS プリンタードライバーに関する注意と制限事項	366
PostScript ドライバーについて	373
Network Monitor for Admin に関する注意と制限事項	375
Network Monitor for Client に関する注意と制限事項	377
印刷ポートについての注意と制限事項	381
TCP/IP 使用時の注意と制限	381
ハードウェアに関して	382
使用上の条件	382
用紙の保管について	383
再生紙について	383
再生紙の購入、保管	383
用紙が詰まったとき	383
注意と制限事項	384
トナー寿命について	385
保守・運用	385
運用上の注意事項	385
保守・運用について	385
性能低下の条件	386
その他	386
形名の読み替え	386
USB について	386
C/S560 について	386

印刷結果の相違について注意事項	387
印字品質について	387
移行に関する注意事項	388
清掃について	388
内蔵フォント	389
有償定期交換部品と有償寿命部品について	389
寿命および保守について	390
装置寿命	390
保守部品の保有期間	391
サービス期間について	391
サポート対象外機能一覧	391
本体、オプション、消耗品一覧	392
最新ソフトウェアのダウンロード	393
最新の OS について	393
搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報	394
expat (Ver 1.95.2) について	394
NetBSD について	395
Netatalk (NetBSD 1.5.3 kernel)/NetaTalk 1.4b2+asan2.1.3 (pap/atp) について	396
FreeBSD 4.6.2 について	396
Sablotron	397
RSA BSAFE®	397
Open SSL	398
Open SSH	400
Open LDAP	404
Heimdal	405
IPS™ print language emulations	405
racocon	405
TrouSerS	406
索引	411

使用説明書について

使用説明書の紹介

本機には紙の使用説明書  と画面で見る使用説明書 (PDF)  が用意されています。画面で見る使用説明書  は付属の CD-ROM  に収録されています。説明書の開きかたや使いかたについては、『ハードウェアガイド』「使用説明書の使いかた」を参照してください。本機を使用するためにお読みいただく使用説明書と内容は以下のとおりです。紙の使用説明書も画面で見る使用説明書も記載内容は同じです。

◆ かんたんセットアップ ()

プリンターを梱包箱から取り出し、パソコンと接続、プリンタードライバーをインストールするまでの手順を説明しています。

◆ クイックガイド ()

困ったときの対処方法や、消耗品の交換などについて説明しています。困ったときにすばやく対処できるよう、プリンターの近くに常備しておいてください。

◆ ハードウェアガイド ()

オプションの接続方法や用紙に関する情報、消耗品の交換手順、印刷がはじまらないとき・思いどおりに印刷できないときの解決方法、紙づまりの処置など、本機を使用する上で重要な情報がまとめられています。必要に応じてご活用ください。

◆ ソフトウェアガイド (本書) ()

プリンタードライバーのインストール手順や設定方法を説明しています。使用しているパソコンに対応する部分をお読みください。

◆ PostScript 3 ガイド ()

PostScript 3 エミュレーションを使用して印刷するための設定や操作方法について説明しています。

↓ 補足

- PDF 形式の使用説明書をご覧になるには、Adobe Acrobat Reader/Adobe Reader が必要です。

マークについて

本書で使われているマークには次のような意味があります。

★重要

機能をご利用になるときに留意していただきたい項目を記載しています。紙づまり、原稿破損、データ消失などの原因になる項目も記載していますので、必ずお読みください。

↓補足

機能についての補足項目、操作を誤ったときの対処方法などを記載しています。

E参照

説明、手順の中で、ほかの記載を参照していただきたい項目の参照先を示しています。各タイトルの一番最後に記載しています。

[]

キーとボタンの名称を示します。

『 』

本書以外の分冊名称を示します。

サポート終了 OS について

Microsoft のサポートが終了している OS については、サポート対象外となります。Windows 2000 について本書中に記載がありますが、Microsoft のサポートが終了しているため、サポート対象外となります。

IP アドレスについて

本書で「IP アドレス」と表記されている場合は、IPv4 と IPv6 の両環境に対応していることを示しています。お使いの環境に合わせてお読みください。

おもなオプションと略称

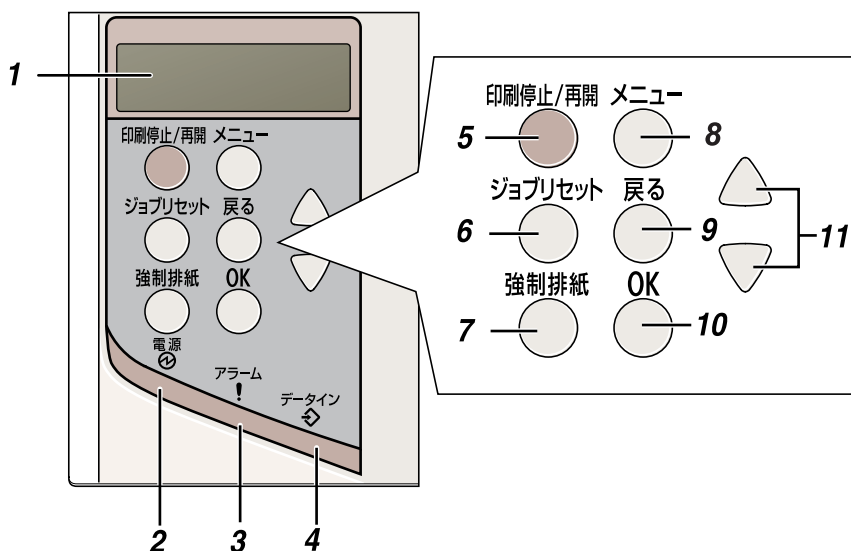
本体に用意されているおもなオプションの名称と、本文中で使用している略称を示します。

商品名	略称
250 枚増設トレイユニット	250 枚増設トレイ
500 枚増設トレイユニット	500 枚増設トレイ
両面印刷ユニット	両面印刷ユニット
拡張 HDD タイプ M	ハードディスク
SDRAM モジュールⅧ 256MB タイプ C	SDRAM モジュール 256MB
拡張無線 LAN ボード タイプ A	無線 LAN ボード
拡張 1284 ボード タイプ A	拡張 1284 ボード
1Giga イーサネットボード タイプ B	拡張ギガビットイーサネットボード

商品名	略称	総称
PS3 カードタイプ D	PS3 カード	拡張 SD カード
セキュリティカード タイプ E	セキュリティーカード	

操作部

操作部の各部の名称とはたらきについて説明します。



BMT003S

1 画面

プリンターの状態やエラーメッセージが表示されます。
省エネモードに移行すると、バックライトが消灯します。
設定が有効になっている項目の左側には、「*」が表示されます。

2 電源ランプ

電源が入っているときに点灯します。ただし、省エネモードになっているときは消灯します。

3 アラームランプ

エラーが発生しているときに点灯します。画面でエラーの内容を確認して対処してください。

4 データインランプ

パソコンから送られたデータを受信しているときに点滅します。印刷待ちのデータがあるときは点灯します。

5 [印刷停止 / 再開] キー

印刷中または受信中のデータを一時停止するときに押します。一時停止中はランプが点灯します。

印刷またはデータの受信を再開するときには、再度 [印刷停止 / 再開] キーを押します。

6 [ジョブリセット] キー

印刷中または受信中のデータを取り消すときに押します。

7 [強制排紙] キー

オフライン状態のときはプリンター内に残っているデータを強制的に印刷します。

オンライン状態のときに送られたデータの内紙サイズや用紙種類が、実際にセットされている用紙サイズや用紙種類と合わなかった場合に、強制的に印刷することができません。

8 [メニュー] キー

設定を変更したり、現在の設定を確認するときに押します。

各種の設定中に [メニュー] キーを押すと、通常の画面に戻ります。

9 [戻る] キー

設定を有効にせずに上位の階層に戻るとき、またはメニューから通常の表示に戻るときに押します。

10 [OK] キー

設定や設定値を確定させるとき、または下位の階層に移動するときに押します。

11 [▲] [▼] キー

表示画面をスクロールさせるとき、設定値を増減させるときに押します。キーを押すにつけると、表示が早くスクロールしたり、あるいは数値が 10 単位で増減します。

↓ 補足

- ・表示言語メニューの切り替えについては、「表示言語メニュー」を参照してください。

📖 参照

- ・P.184 「表示言語メニュー」

1. 印刷するための準備

同梱の CD-ROM からドライバーやソフトウェアをインストールする手順などについての説明です。

接続方法を確認する

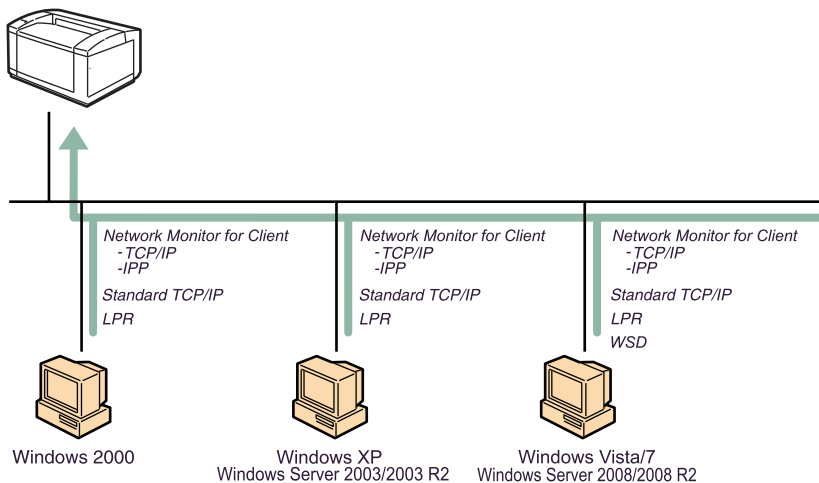
プリンターは、ネットワーク接続またはローカル接続することができます。プリンタードライバーをインストールする前に、プリンターをどのように接続したかを確認し、ご使用の接続方法でのインストール方法を参照し、プリンタードライバーをインストールしてください。

ネットワーク接続

ネットワーク接続では、Windows の印刷ポートを使用してプリンターへダイレクト印刷 (Peer-to-Peer ネットワーク)、またはサーバーを使用してクライアントから印刷するネットワークプリンターとして本機を使用します。

Windows の印刷ポートを使用する

ご使用の Windows とインターフェースによって、使用できるポートが異なります。インターフェースは、イーサネット、無線 LAN インターフェースを使用します。



BPD201S

◆ Windows 2000/XP の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット / 無線 LAN	<ul style="list-style-type: none">• Network Monitor for Client ポート (推奨)• Standard TCP/IP ポート• LPR ポート

◆ Windows Server 2003/2003 R2 の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット / 無線 LAN	<ul style="list-style-type: none"> • Network Monitor for Client ポート (推奨) • Standard TCP/IP ポート • LPR ポート

◆ Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 の場合

接続方法	使用できるポート
イーサネット / 無線 LAN	<ul style="list-style-type: none"> • Network Monitor for Client ポート (推奨) • Standard TCP/IP ポート • LPR ポート • WSD ポート

↓ 補足

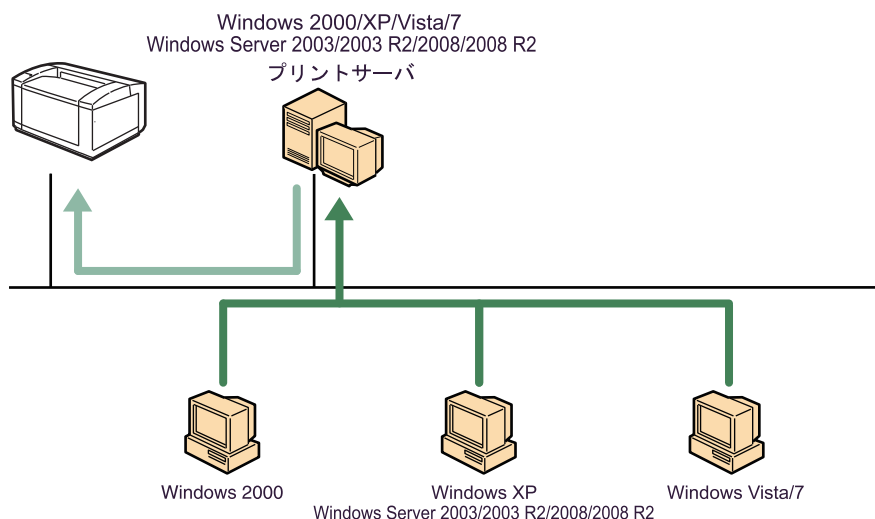
- 各ポートごとにプリンタードライバーのインストール方法を記載しています。ご使用のポートの記載を参照してください。

📖 参照

- P.21 「Network Monitor for Client ポートを使う」
- P.29 「Standard TCP/IP ポートを使う」
- P.32 「LPR ポートを使う」
- P.34 「WSD ポートを使う」

プリントサーバを使用する

Windows ネットワークプリンターとして使用できます。



BPD200D

↓ 補足

- ネットワークプリンターの種類ごとにプリンタードライバーのインストール方法を記載しています。ご使用のネットワークプリンターの記載を参照してください。

📖 参照

- P.36 「Windows ネットワークプリンターを使う」

ローカル接続

ローカル接続には、USB 接続、パラレル接続があります。

↓ 補足

- 接続方法ごとにプリンタードライバーのインストール方法を記載しています。ご使用の接続方法の記載を確認してください。

📖 参照

- P.38 「USB 接続」
- P.44 「パラレル接続」

プリンタードライバーについて

プリンタードライバーのダウンロードとサポートについて説明します。

1

◆ プリンタードライバーのダウンロードについて

プリンタードライバーは、付属の CD-ROM からインストールするか、日立プリンタホームページからダウンロードしていただく必要があります。

ドライバーをダウンロードするには、日立プリンタホームページで本機を選択し、お使いの OS を選択してください。

(<http://prinфина.jp/>)

おすすめインストール

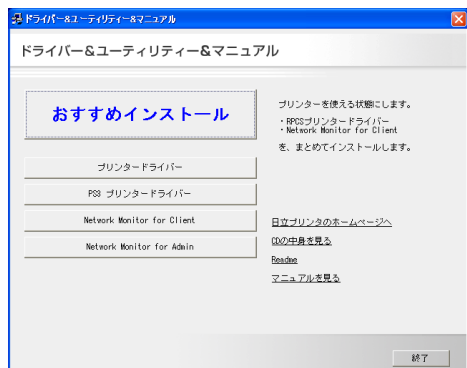
同梱の CD-ROM から簡単にソフトウェアをインストールすることができます。
[おすすめインストール] ボタンをクリックすると、プリンターをネットワーク接続している場合は「プリンタードライバ」と「Network Monitor for Client」がインストールされ、Network Monitor for Client ポートが設定されます。プリンターをパラレル接続している場合は「プリンタードライバ」がインストールされ、LPT1 ポートが設定されます。

★重要

- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。
- ・本機を USB 接続で使用する場合、おすすめインストールではプリンタードライバをインストールすることができません。USB 接続で使用する場合は、「USB 接続」を参照してください。
- ・パラレル接続で本機とパソコンが双方向通信していない場合、おすすめインストールをすることができません。「双方向通信が働かない場合」を参照して、本機とパソコン間の双方向通信を設定してください。

1 すべてのアプリケーションを終了します。

2 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。
インストーラーが起動します。



3 [おすすめインストール] をクリックします。

「使用許諾」ダイアログが表示されます。

4 ソフトウェア使用許諾契約のすべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し [次へ] をクリックします。

5 [モデル名] をクリックし、使用する機種を選択します。

ネットワーク接続の場合、[接続先] に IP アドレスが表示されているプリンターを選択します。

パラレル接続の場合、[接続先] にプリンタポートが表示されているプリンターを選択します。

6 [インストール] をクリックします。

プリンタドライバがインストールされ、「導入完了」ダイアログが表示されます。インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

7 [完了] をクリックします。

ダイアログに「再起動の確認」が表示された場合は、Windows を再起動してください。

8 最初の画面で [終了] をクリックし、CD-ROM を取り出します。

補足

- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUPEXE」をダブルクリックして起動してください。

参照

- P.38 「USB 接続」
- P.49 「双方向通信が働かない場合」

各ポート別インストール

1

Network Monitor for Client ポートを使う

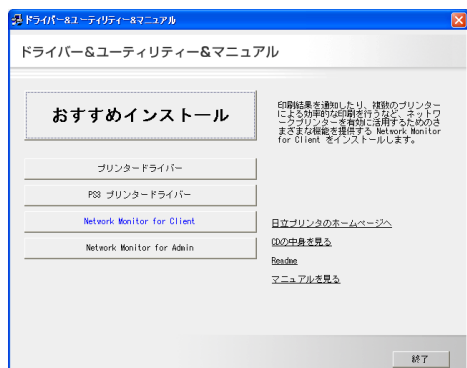
ここでは Network Monitor for Client を使用する場合は方法を説明します。

★重要

- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。
- ・Network Monitor for Client ポートを使う場合、プリンタードライバーをインストールする前に Network Monitor for Client をインストールします。
- ・Network Monitor for Client をインストールすると、同時に Network Monitor for Client ポートもインストールされます。

Network Monitor for Client のインストール

- 1 すべてのアプリケーションを終了します。
- 2 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。インストーラーが起動します。
- 3 [Network Monitor for Client] をクリックします。



Network Monitor for Client のインストーラーが起動します。

- 4 [Network Monitor for Client] をクリックします。ダイアログが表示されます。内容の確認をしたあと、[はい] をクリックします。
- 5 Network Monitor for Client のセットアップ画面が表示されます。[次へ] をクリックします。
- 6 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し [はい] をクリックします。

- 7 ユーザー名、会社名を入力し、[次へ] をクリックします。
- 8 [フルインストール] または [カスタムインストール] をクリックします。
- 9 表示されるメッセージに従って Network Monitor for Client をインストールします。
インストールが完了するとメッセージが表示されます。
- 10 [完了] をクリックします。
「Windows の再起動」ダイアログが表示されます。Windows を再起動してください。

補足

- ・インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ・OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUPEXE」をダブルクリックして起動してください。

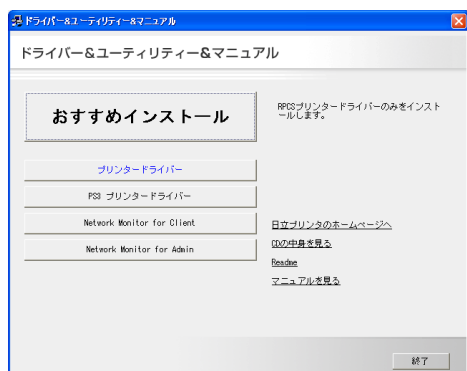
プリンタードライバーのインストール (TCP/IP)

TCP/IP を使用する場合の、インストール方法です。

重要

- ・「プリンターの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

- 1 すべてのアプリケーションを終了します。
- 2 本機に付属のCD-ROM をパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
インストーラーが起動します。
- 3 [プリンタードライバー] をクリックします。



- 4 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し [次へ] をクリックします。

5 「コンポーネントの選択」ダイアログで、使用するプリンタードライバーをチェックし、[次へ] をクリックします。

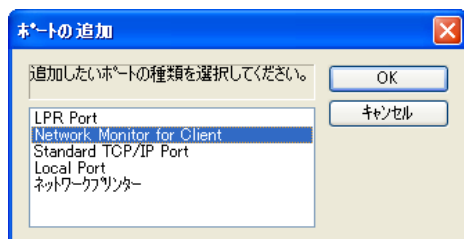
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 「プリンタードライバーの導入」ダイアログで、使用する [プリンター名] をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

[コメント:]、[ドライバー:]、[ポート:] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

7 [ポート:] を選択し、[追加] をクリックします。

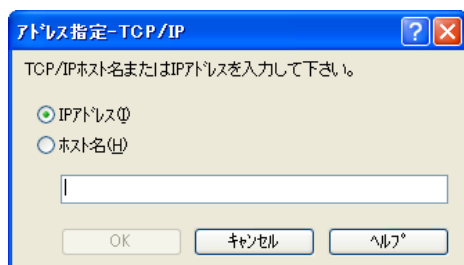
8 「Network Monitor for Client」を選択し、[OK] をクリックします。



9 [TCP/IP] をクリックします。

10 [機器検索] をクリックします。

TCP/IP プロトコルで印刷可能なプリンターが検索され、一覧表示されます。コンピューターからのブロードキャストに回答したプリンターだけが表示されます。表示されないプリンターに印刷するときは、[アドレス指定] をクリックし、本機アドレスまたはホスト名を直接入力してください。



11 印刷するプリンターをクリックして選択します。

12 [OK] をクリックします。

「ポートの追加」ダイアログが閉じます。

13 [ポート:] に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

14 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

15 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

16 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、[完了] をクリックします。

プリンタードライバーがインストールされます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

17 「コンポーネントの選択」ダイアログに戻り、[完了] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

18 「導入完了」ダイアログが表示されたら、[完了] をクリックします。

ダイアログに「再起動の確認」が表示される場合は、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

↓ 補足

- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUPEXE」をダブルクリックして起動してください。
- ユーザーコードを設定しておくこと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Network Monitor for Admin で確認できます。詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

☞ 参照

- P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

プリンタードライバーのインストール (IPP)

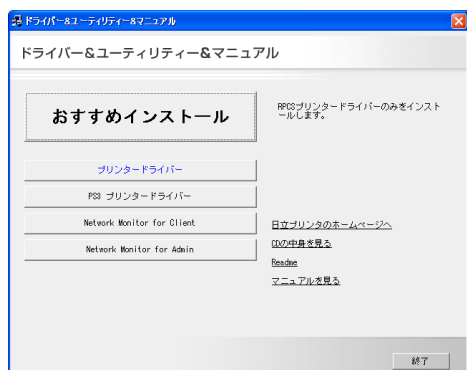
IPP を使用する場合のインストール方法です。

★重要

- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

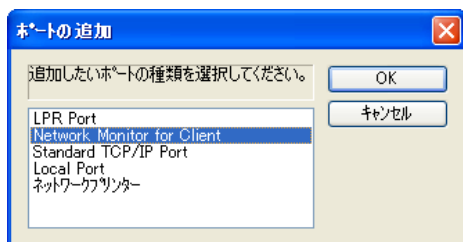
1

- 1 すべてのアプリケーションを終了します。
- 2 本機に付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。インストーラーが起動します。
- 3 [プリンタードライバー] をクリックします。



- 4 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し[次へ] をクリックします。
- 5 「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。
- 6 「プリンタードライバーの導入」ダイアログで、使用する [プリンタ名] をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。
[コメント:]、[ドライバ:]、[ポート:] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。
- 7 [ポート:] を選択し、[追加] をクリックします。

- 8** 「Network Monitor for Client」を選択し、[OK] をクリックします。



- 9** [IPP] をクリックします。

「IPP の設定」ダイアログが表示されます。

- 10** [プリンタの URL] に「http:// (本機のアドレス) /printer」のように入力します。

SSL (暗号化通信) の設定を有効にしている場合、「https:// (本機のアドレス) /printer」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。最新のバージョンをお使いください。Internet Explorer6.0 以降を推奨します。

[プリンタの URL] には「http:// (本機のアドレス) /ipp」のように入力することもできます。

- 11** 必要に応じて [IPP ポート名] にプリンターを区別するための名前を入力します。すでにある他の IPP ポート名と違う名前を入力してください。

入力を省略すると、[プリンタの URL] に入力したアドレスが IPP ポート名に設定されます。

- 12** プロキシサーバーや IPP ユーザー名などの設定を行う場合は、[詳細設定] をクリックし、必要な項目を設定し、[OK] をクリックします。

詳しい設定項目については、Network Monitor for Client のヘルプを参照してください。

- 13** [OK] をクリックします。

「ポートの追加」ダイアログが閉じます。

- 14** [ポート:]に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

- 15** 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

[ユーザーコード:] をクリックして選択します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

- 16** 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

- 17** 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、[完了] をクリックします。

プリンタードライバーがインストールされます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

18 「コンポーネントの選択」ダイアログに戻り、[完了] をクリックします。
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

19 「導入完了」ダイアログが表示されたら、[完了] をクリックします。
ダイアログに「再起動の確認」が表示される場合は、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

補足

- ・「http:// (本機のアドレス) /」で本機のアドレスを入力するとき、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。
- ・インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ・OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。
- ・ユーザーコードを設定しておく、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Network Monitor for Admin で確認できます。詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- ・「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- ・P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

Network Monitor for Client ポートの設定を変更する

TCP/IP のタイムアウト、代行印刷や並行印刷、プリンタグループなど、Network Monitor for Client の設定を変更することができます。

■ Windows 2000 の場合

- 1** [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントし、[プリンタ] をクリックします。
- 2** 印刷するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。
- 3** [ポート] タブをクリックし、[ポートの構成] をクリックします。
ポートの設定画面が表示されます。

■ Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。
- 2 印刷するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。
- 3 [ポート] タブをクリックし、[ポートの構成] をクリックします。
ポートの設定画面が表示されます。

■ Windows Vista、Windows Server 2008 の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- 2 [ハードウェアとサウンド] から [プリンタ] をクリックします。
- 3 印刷するプリンターのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [プロパティ] をクリックします。
- 4 [ポート] タブをクリックし、[ポートの構成] をクリックします。
ポートの設定画面が表示されます。

■ Windows 7、Windows Server 2008 R2 の場合

- 1 [デバイスとプリンター] ウィンドウを表示します。
- 2 印刷するプリンターのアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [プリンターのプロパティ] をクリックします。
- 3 [ポート] タブをクリックし、[ポートの構成] をクリックします。ポートの設定画面が表示されます。

↓ 補足

- 印刷通知、代行印刷 / 並行印刷の設定は拡張機能設定でおこないます。Network Monitor for Client を起動し、タスクトレイの Network Monitor for Client アイコンを右クリックして [拡張機能設定] を選択してください。
- [代行印刷 / 並行印刷] はポート毎に設定できます。Network Monitor for Client を起動し、タスクトレイの Network Monitor for Client アイコンを右クリックして [拡張機能設定] を選択し、[代行 / 並行印刷をポート毎に設定する] にチェックを付けます。
- IPP の場合、IPP ユーザー設定、プロキシ設定、タイムアウト設定ができます。
- 設定方法の詳細は、Network Monitor for Client のヘルプを参照してください。

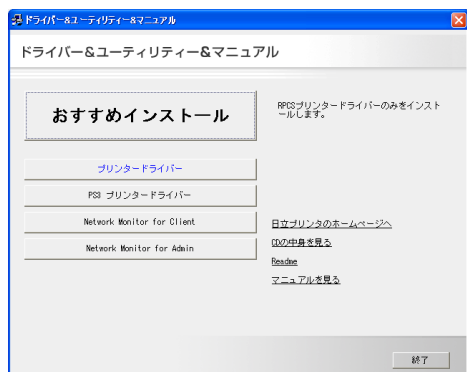
Standard TCP/IP ポートを使う

Standard TCP/IP ポートを使用する場合の、インストール方法です。

★重要

- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

- 1 すべてのアプリケーションを終了します。
- 2 本機に付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。インストーラーが起動します。
- 3 [プリンタードライバー] をクリックします。



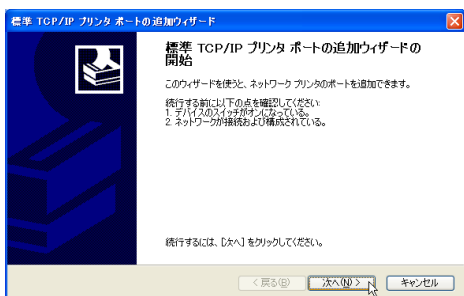
- 4 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し[次へ] をクリックします。
- 5 「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。
- 6 「プリンタードライバーの導入」ダイアログの使用する [プリンター名] をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。
[コメント:]、[ドライバ:]、[ポート:] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。
- 7 [ポート:] を選択し、[追加] をクリックします。

8 「Standard TCP/IP Port」を選択し、[OK] をクリックします。



「Standard TCP/IP Port」が表示されない場合は、Windows のヘルプを参照して Standard TCP/IP の設定をしてください。

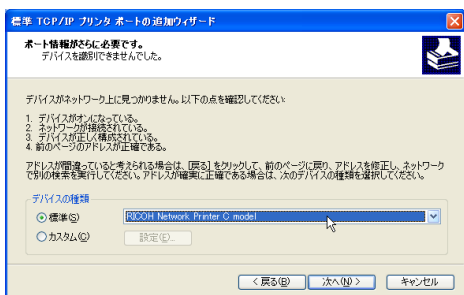
9 「標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード」の開始画面で、[次へ] をクリックします。



10 [プリンタ名または IP アドレス]ボックスにプリンター名または本機のアドレスを入力し、[次へ] をクリックします。

[ポート名] ボックスには自動的にポート名が入力されます。必要があれば変更してください。

デバイスの種類を選択する画面が表示された場合は、「RICOH NetworkPrinter C Model」を選択してください。



11 「標準 TCP/IP プリンタポートの追加ウィザード完了」の画面で、[完了] をクリックします。

プリンタードライバの導入画面に戻ります。

12 [ポート:]に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。

13 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

[ユーザーコード:] をクリックして選択します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

14 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。**15** [完了] をクリックします。

プリンタードライバがインストールされます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

16 「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、[完了] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

17 「導入完了」ダイアログが表示されたら、[完了] をクリックします。

「再起動の確認」ダイアログで、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

↓ 補足

- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。
- ユーザーコードを設定しておくことで、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Network Monitor for Admin で確認できます。詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

E 参照

- P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」

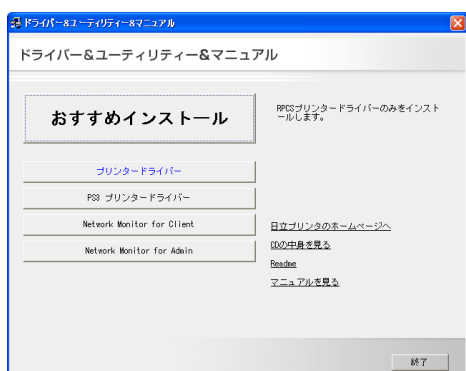
LPR ポートを使う

LPR ポートを使用する場合の、インストール方法です。

★重要

・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

- 1 すべてのアプリケーションを終了します。
- 2 本機に付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。インストーラーが起動します。
- 3 [プリンタードライバー] をクリックします。



- 4 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し[次へ] をクリックします。
- 5 「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。
- 6 「プリンタードライバーの導入」ダイアログの使用する [プリンター名] をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。
[コメント:]、[ドライバ:]、[ポート:] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。
- 7 [ポート:] を選択し、[追加] をクリックします。
- 8 「LPR Port」を選択し、[OK] をクリックします。



「LPR Port」が表示されない場合は、Windowsのヘルプを参照して組み込んでください。

- 9 [lpd を提供しているサーバーの名前またはアドレス] ボックスに、本機のアドレスを入力します。
- 10 [サーバーのプリンタ名またはプリンタキュー名] ボックスに「lp」と入力し、[OK] をクリックします。
ポートが追加されます。
- 11 [ポート:] に選択したプリンターのポートが表示されていることを確認します。
- 12 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。
[ユーザーコード:] をクリックして選択します。
入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。
- 13 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。
- 14 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、[完了] をクリックします。
プリンタードライバがインストールされます。
インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。
- 15 「コンポーネントの選択」ダイアログに戻り、[完了] をクリックします。
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。
- 16 「導入完了」ダイアログが表示された場合は、[完了] をクリックします。
「再起動の確認」ダイアログで、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

補足

- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUPEXE」をダブルクリックして起動してください。
- ユーザーコードを設定しておくこと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Network Monitor for Admin で確認できます。詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

参照

- P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」

WSD ポートを使う

WSD ポートを使用する場合の、インストール方法です。

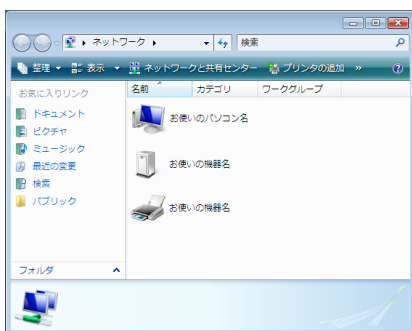
★重要

- Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 の場合にご使用いただけます。
- 管理者権限が必要です。Administratorsグループのメンバーとしてログオンしてください。
- 本機とパソコンが異なるネットワークセグメントに接続されている場合や、Windows Vista の「ネットワーク探索」が無効になっている場合、本機を検出することができません。詳しくは、Windows のヘルプを参照してください。

1 すべてのアプリケーションを終了します。

2 [スタート] ボタンをクリックし、[ネットワーク] をクリックします。

[ネットワーク] ウィンドウが表示され、機器の検索が自動的に始まります。



3 本機のプリンターアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [インストール] をクリックします。

「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示された場合は [続行] をクリックします。

「新しいハードウェアが見つかりました」ダイアログが表示されます。

4 [ドライバソフトウェアを検索してインストールします (推奨)] をクリックします。

「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示された場合は [続行] をクリックします。

[新しいハードウェアの検出] 画面が表示されます。

5 [オンラインで検索しません] をクリックします。

6 [コンピュータを参照してドライバソフトウェアを検索します (上級)] をクリックします。

7 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

「自動再生」ダイアログが表示された場合は、[クローズ] ボタンをクリックして次の手順に進みます。

8 **【参照】** をクリックし、プリンタードライバーの場所を指定します。

インストールするプリンタードライバーの収録フォルダは、CD-ROMドライブがD:¥の場合

64bit : 「D¥DRIVERS¥x64¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1」

32bit : 「D¥DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K_XP¥DISK1」

9 **【次へ】** をクリックします。

インストールの途中で [ドライバソフトウェアの発行元を検証できません] というメッセージが表示された場合は、[このドライバソフトウェアをインストールします] をクリックします。

10 **【閉じる】** をクリックします。

インストールが正常に終了すると、「WSD」から始まるポートを [印刷するポート] に指定したプリンターが [プリンタ] ウィンドウに作成されます。

↓ 補足

- ・「WSD」に続くポート名は不特定の文字列になります。任意に変更することはできません。
- ・インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。再度インストールを行う場合は、[ネットワーク] ウィンドウで本機のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから [アンインストール] を実行してください。

目 参照

- ・P48 「オプション構成の設定」
- ・P223 「telnet を使う」

Windows ネットワークプリンターを使う

1

Windows ネットワークプリンターを使う場合は、プリンタードライバーを「ネットワークプリンタ」を指定してインストールし、Windows ネットワーク上の共有プリンターを選択します。

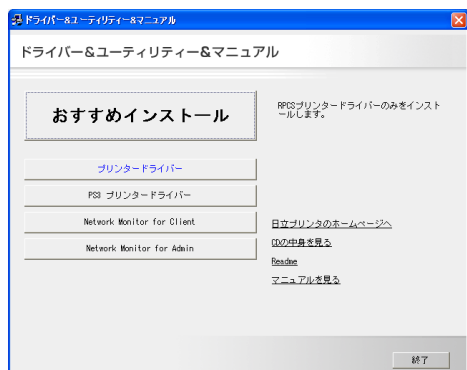
★重要

- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。
- ・Network Monitor for Client ポートで本機を接続しているネットワークプリンターをご使用の場合、クライアントからの代行印刷、並行印刷を行うことはできません。
- ・Windows の共有プリンターの場合、クライアントに印刷通知が行われない場合があります。

1 すべてのアプリケーションを終了します。

2 本機に付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。
インストーラーが起動します。

3 [プリンタードライバー] をクリックします。



4 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し[次へ] をクリックします。

5 「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。

お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

6 「プリンタードライバーの導入」ダイアログの使用する [プリンター名] をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。

[コメント:]、[ドライバ:]、[ポート:] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。

7 [ポート:] を選択し、[追加] をクリックします。

8 [ネットワークプリンター] を選択し、[OK] をクリックします。



9 ネットワークツリー上で、プリントサーバーとして使用するコンピューターの名前をダブルクリックします。

10 印刷するプリンターを選択し、[OK] をクリックします。

11 [ポート:] に選択したプリンターのパスが表示されていることを確認します。

12 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。

[ユーザーコード:] をクリックして選択します。

入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

13 必要に応じて、選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

14 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、[完了] をクリックします。

プリンタードライバがインストールされます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

15 「導入完了」ダイアログが表示されたら、[完了] をクリックします。

ダイアログに「再起動の確認」が表示される場合は、Windows を再起動してください。

補足

- ・インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- ・OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUPEXE」をダブルクリックして起動してください。
- ・ユーザーコードを設定しておく、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Network Monitor for Admin で確認できます。詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- ・「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。
- ・Windows ネットワークプリンターが正しく設定されていないと、インストールを続けることができません。インストールをキャンセルしてから、「Windows ネットワークプリンターを設定する」を参照して Windows ネットワークプリンターを設定してください。

参照

- ・P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」
- ・P.279 「Windows ネットワークプリンターを設定する」

USB 接続

1

ここでは、本機とパソコンを USB ケーブルで接続し、必要なドライバーをインストールする方法を説明します。

セットアップを始める前に USB ケーブルを接続するパソコンが以下の状態であることを確認してください。

- ・ OS 以外のソフトウェアが起動していない
- ・ 印刷を行っていない

Windows 2000 と USB で接続する

Windows 2000 の USB 接続について説明します。

★重要

・ 管理者権限が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。USB ケーブルを初めて使用した場合、[新しいハードウェアの検出ウィザード] が表示され、Windows 2000 の「USB 印刷サポート」が自動的にインストールされます。

ご使用の機器のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、[プリンタ] フォルダに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。

プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プリンターのプラグアンドプレイ画面に従って、本機に同梱の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。

- 1** 本機の電源が切れていることを確認します。
- 2** 本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。
- 3** 本機の電源を入れます。
プラグアンドプレイが働き [新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示されます。
- 4** [次へ] をクリックします。
- 5** [デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)] をチェックし、[次へ] をクリックします。
- 6** [場所を指定] をチェックし、[次へ] をクリックします。
- 7** キーボードの左側の [Shift] キーを押しながら、本機と同梱の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。
パソコンが CD-ROM を完全に認識するまで左側の [Shift] キーを押し続けます。
CD-ROM のオートランが起動した場合は、[キャンセル] をクリックします。

8 [参照] をクリックし、プリンタードライバーの場所を指定します。

インストールするプリンタードライバーの収録フォルダは、CD-ROMドライブがD:¥の場合には「D¥DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K_XP¥DISK1」です。

9 [製造元のファイルのコピー元] にプリンタードライバーの場所が表示されていることを確認し、[OK] をクリックします。**10** [次へ] をクリックします。**11** プリンタードライバーのインストールが開始されます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

12 [完了] をクリックします。

インストールが正常に終了すると、「USB001」を [印刷するポート] に指定したプリンターが [プリンタ] ウィンドウに作成されます。

↓ 補足

- ・「USB」に続く数字は、接続しているプリンターの台数によって異なります。
- ・「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

目 参照

- ・P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 と USB で接続する

Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の USB 接続について説明します。

★ 重要

・管理者権限が必要です。Administratorsグループのメンバーとしてログオンしてください。USB ケーブルを初めて使用した場合、[新しいハードウェアの検出ウィザード] が表示され、Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の「USB 印刷サポート」が自動的にインストールされます。

ご使用の機器のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、[プリンタ] フォルダに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。

プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プリンターのプラグアンドプレイ画面に従って、本機に同梱のCD-ROMからプリンタードライバーをインストールします。

1 本機の電源が切れていることを確認します。**2** 本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。

3 本機の電源を入れます。

プラグアンドプレイが働き [新しいハードウェアの検出ウィザード] 画面が表示されます。

4 [一覧または特定の場所からインストールする (詳細)] をチェックし、[次へ] をクリックします。

5 キーボードの左側の [Shift] キーを押しながら、本機と同梱の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

パソコンが CD-ROM を完全に認識するまで左側の [Shift] キーを押し続けます。CD-ROM のオートランが起動した場合は、[キャンセル] をクリックします。

6 [次の場所で最適のドライバを検索する] の [次の場所を含める] をチェックし、[参照] をクリックしてプリンタードライバーの場所を指定します。インストールするプリンタードライバーの収録フォルダは、CD-ROM ドライブが D:\ の場合

64bit : 「D:\DRIVERS\64\RPCS\XP_VISTA\DISK1」

32bit : 「D:\DRIVERS\86\RPCS\WIN2K_XP\DISK1」

7 プリンタードライバーの場所が表示されていることを確認し、[次へ] をクリックします。

8 プリンタードライバーのインストールが開始されます。

インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

9 [完了] をクリックします。

インストールが正常に終了すると、「USB001」を [印刷先のポート先] に指定したプリンターが [プリンタ] ウィンドウに作成されます。

↓ 補足

- ・「USB」に続く数字は、接続しているプリンターの台数によって異なります。
- ・「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

目 参照

- ・P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

Windows Vista、Windows Server 2008 と USB で接続する

Windows Vista、Windows Server 2008 の USB 接続について説明します。

★重要

・管理者権限が必要です。Administratorsグループのメンバーとしてログオンしてください。ご使用の機器のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、[プリンタ] フォルダに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プラグアンドプレイのウィザードに従って、付属の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。

1 本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。

[新しいハードウェアが見つかりました] ダイアログが表示されます。

2 [ドライバソフトウェアを検索してインストールします (推奨)] をクリックします。

「ユーザーアカウント制御」ダイアログが表示された場合は[続行]をクリックします。
[新しいハードウェアの検出] 画面が表示されます。

3 [オンラインで検索しません] をクリックします。

本機に付属している CD-ROM の挿入を促すメッセージが表示されます。

4 付属の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

自動的に検索が始まり、プリンタードライバーの一覧が表示されます。

5 本機の RPCS プリンタードライバーを選択し、[次へ]をクリックします。

インストールの途中で「ドライバソフトウェアの発行元を検証できません」というメッセージが表示された場合は、[このドライバソフトウェアをインストールします] をクリックします。

6 [閉じる] をクリックします。

インストールが正常に終了すると、「USB001」を [印刷するポート] に指定したプリンターが [プリンタ] ウィンドウに作成されます。

↓補足

- ・「USB」に続く数字は、接続しているプリンターの台数によって異なります。
- ・「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

📖参照

- ・P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

Windows 7、Windows Server 2008 R2 と USB で接続する

1

Windows 7、Windows Server 2008 R2 の USB 接続について説明します。

★重要

・管理者権限が必要です。Administratorsグループのメンバーとしてログオンしてください。ご使用の機器のプリンタードライバーがインストールされている場合、プラグアンドプレイの画面が表示され、[プリンター] フォルダに USB ケーブルをポート先に指定したプリンターが自動的に追加されます。プリンタードライバーがインストールされていない場合は、プラグアンドプレイのウィザードに従って、付属の CD-ROM からプリンタードライバーをインストールします。

1 本機とパソコンを USB ケーブルで接続します。

[新しいハードウェアが見つかりました] ダイアログが表示されます。

2 [コンピューターを参照してドライバーソフトウェアを検索します] の [参照] をクリックします。

本機のRPCSプリンタードライバーのある場所を指定します。プリンタードライバーのディスクが CD-ROM で RPCS ドライバーの場合のインストール元は CD ROM の ¥DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K_XP¥DISK1、x64 Edition は ¥DRIVERS¥x64¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1 になります。

3 [次へ] をクリックします。

インストールの途中で「ドライバーソフトウェアの発行元を検証できません」というメッセージが表示された場合は、[このドライバーソフトウェアをインストールします] をクリックします。

4 「プリンタードライバーが正常に更新されました」というメッセージが表示されたら、[閉じる] をクリックします。

インストールが正常に終了すると、[デバイスとプリンター] 画面の「未指定」にあったプリンターアイコンが「プリンターと FAX」に移動します。

↓補足

・「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

目参照

・P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき」

USB 接続がうまくいかないとき

状態	対処方法
本機が自動認識されない。	本機の電源を OFF にして、ケーブルを再接続し、接続した後電源を ON にしてください。
Windows が自動的に USB 接続の設定をしてしまった。	Windows のデバイスマネージャで、不正なデバイスを [ユニバーサル シリアル バス コントローラ] または [USB(Universal Serial Bus) コントローラ] から削除してください。不正なデバイスは、アイコンに黄色の [!] がついたり、黄色の [?] がついたりしています。必要なデバイスを削除しないようにご注意ください。デバイスマネージャへのアクセス方法、デバイスの削除について詳しくは、Windows のヘルプを参照してください。

パラレル接続

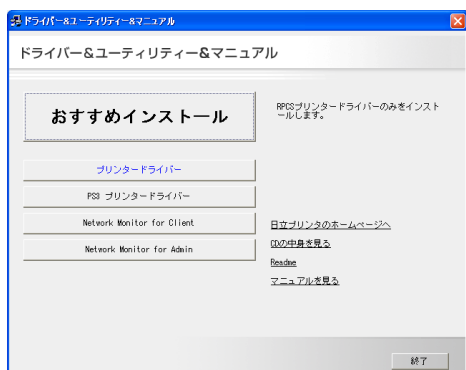
プリンターをパラレル接続して使う場合は、プリンタードライバーを「ローカルポート」に指定してインストールします。

1

★重要

- ・「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

- 1 すべてのアプリケーションを終了します。
- 2 本機に付属のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。インストーラーが起動します。
- 3 [プリンタードライバー] をクリックします。



- 4 「使用許諾」ダイアログにソフトウェア使用許諾契約が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、「同意します」を選択し[次へ] をクリックします。
- 5 「コンポーネントの選択」ダイアログが表示された場合は、使用するプリンタードライバーを選択し、[次へ] をクリックします。
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。
- 6 「プリンタードライバーの導入」ダイアログで、使用する[プリンター名]をダブルクリックし、プリンターの設定を展開します。
[コメント:]、[ドライバ:]、[ポート:] は、ご使用のオペレーティングシステム、選択したプリンター機種、使用するポートによって、それに応じた表示となります。
- 7 [ポート:] にプリンターを接続したポート（通常は、LPT1:）が設定されていることを確認します。
- 8 必要に応じて、ユーザーコードを設定します。
[ユーザーコード:] をクリックして選択します。
入力できるのは、半角数字最大 8 桁です。英字や記号はご使用になれません。

9 使用するプリンターのチェックボックスにチェックし、必要に応じて選択したプリンターを通常使うプリンターに設定します。

10 [完了] をクリックします。

プリンタードライバがインストールされます。
インストールの途中で「デジタル署名が見つかりませんでした」という画面や、Microsoft のメッセージが表示されることがあります。その場合は、[はい] または [続行] をクリックし、インストールを続行してください。

11 「コンポーネントの選択」ダイアログに戻り、[完了] をクリックします。
お使いの機種によっては、このダイアログが表示されない場合があります。その場合は、次の手順に進んでください。

12 「導入完了」ダイアログが表示されたら、[完了] をクリックします。
「再起動の確認」ダイアログで、今すぐ再起動するか、後で再起動するかを選択し、Windows を再起動してください。

↓ 補足

- インストールの途中で [キャンセル] を押すと、ソフトウェアのインストールが中止されます。
- OS の設定によってはオートランプログラムが起動しない場合があります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUPEXE」をダブルクリックして起動してください。
- ユーザーコードを設定しておくこと、各ユーザーごとの印刷枚数の統計をとることができ、Network Monitor for Admin で確認できます。詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- 「新しいドライバが既に存在しているため、インストールを継続することができません。」というメッセージが表示された場合、オートランプログラムでのインストールを続けることができません。「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」を参照してインストールし直してください。

☞ 参照

- P.46 「CD-ROM からのプリンタードライバのインストールに失敗したとき」

CD-ROM からのプリンタードライバーのインストールに失敗したとき

おすすめインストールに失敗したときは、「Network Monitor for Client ポートを使う」を参照してインストールしてください。CD-ROM の [プリンタードライバー] のインストールにも失敗したときは、以下の手順でインストールしてください。

Windows 2000 の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントし、[プリンタ] をクリックします。
 - 2 [プリンタの追加] アイコンをダブルクリックします。
 - 3 [プリンタの追加ウィザード] に従ってインストールします。
プリンタードライバーのディスクが CD-ROM の場合、RPCS のインストール元は CD-ROM の D:\DRIVERS\i386\RPCS\WIN2K_XP\DISK1 になります。インストーラーが起動したときは [キャンセル] をクリックして終了させます。
-

Windows XP Professional、Windows Server 2003/2003 R2 の場合

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。
- 2 [プリンタの追加] をクリックします。
- 3 [プリンタの追加ウィザード] に従ってインストールします。
プリンタードライバーのディスクが CD-ROM の場合、RPCS のインストール元は CD-ROM の 64bit : 「D:\DRIVERS\i64\RPCS\XP_VISTA\DISK1」
32bit : 「D:\DRIVERS\i386\RPCS\WIN2K_XP\DISK1」 になります。インストーラーが起動したときは [キャンセル] をクリックして終了させます。

Windows XP Home Edition の場合

- 1** [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- 2** [プリンタとその他のハードウェア] をクリックします。
- 3** [プリンタと FAX] をクリックします。
- 4** [プリンタのインストール] をクリックします。
- 5** [プリンタの追加ウィザード] に従ってインストールします。
プリンタードライバーのディスクが CD-ROM の場合、RPCS のインストール元は CD-ROM の D:\DRIVERS\x86\RPCS\WIN2K_XP\DISK1 になります。インストーラーが起動したときは [キャンセル] をクリックして終了させます。

Windows Vista、Windows Server 2008 の場合

- 1** [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- 2** [ハードウェアとサウンド] をクリックします。
- 3** [プリンタ] をクリックします。
- 4** [プリンタのインストール] をクリックします。
- 5** [プリンタの追加] に従ってインストールします。
プリンタードライバーのディスクが CD-ROM の場合、RPCS のインストール元は CD-ROM の 64bit : 「D:\DRIVERS\x64\RPCS\XP_VISTA\DISK1」
32bit : 「D:\DRIVERS\x86\RPCS\WIN2K_XP\DISK1」 になります。インストーラーが起動したときは [キャンセル] をクリックして終了させます。

Windows 7、Windows Server 2008 R2 の場合

- 1** [スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。
- 2** [デバイスとプリンター] をクリックします。
- 3** [プリンターの追加] をクリックします。
指示に従ってインストールします。
- 4** ポートを設定します。

オプション構成の設定

1

双方向通信が働いていない場合は、本体オプションの構成をプリンタードライバーに設定してください。

↓ 補足

- ・本体オプションを設定する方法は、「双方向通信が働かない場合」を参照してください。

双方向通信が働く条件

双方向通信が働いていると、本機にセットされている用紙サイズなどの情報が自動的にパソコンに伝わります。またパソコン側からも本機の状態を確認することができます。双方向通信が働く条件についての説明です。

◆ ネットワーク接続の場合

- ・標準 TCP/IP ポートが使用されている
- ・RPCS プリンタードライバーの [ポート] タブにある [双方向サポートを有効にする] が選択されており、[プリンタプールを有効にする] が選択されていない

標準 TCP/IP ポートを使用しない場合、上記 2 つの条件のほかに、以下のいずれかの条件を満たしている必要があります。

- ・プロトコルに TCP/IP を使っている
- ・IPP プロトコル使用時に、ポート名に IP アドレスを含んでいる

◆ ローカル接続の場合

- ・パソコンが双方向通信に対応している
- ・プリンターのプロパティで双方向通信が可能な設定になっている

上記 2 つの条件のほかに、以下のいずれかの条件を満たしている必要があります。

- ・本機の平行コネクタとパソコンの平行コネクタが、双方向通信に対応したインターフェースケーブルで接続されている
- ・本機の USB インターフェースコネクタとパソコンの USB コネクタが、USB ケーブルで接続されている

双方向通信が働かない場合

双方向通信が働かない場合は、手動で本体オプションの構成をプリンタードライバに設定します。

★重要

- ・ [プリンタ] フォルダでプリンタープロパティを変更するには、「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。

1 Windows XP、Windows Server 2003/2003 R2 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。

Windows 2000 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントし、[プリンタ] をクリックします。

Windows Vista、Windows Server 2008 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。[ハードウェアとサウンド] のカテゴリの中から、[プリンタ] をクリックします。Windows 7、Windows Server 2008 R2 の場合は、[デバイスとプリンター] ウィンドウを開きます。

2 追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。

インストール後最初にプリンターのプロパティを表示する場合、または装着しているオプションを設定していない場合は、オプション設定を促す画面が表示されます。[OK] をクリックします。

3 [オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定] タブをクリックします。

[オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定] タブの項目がグレー表示になっていて選択できないときは、双方向通信が働いています。このときオプションの設定は必要ありません。

4 [オプション選択:] ボックスで、取り付けたオプションにチェックを付けます。

5 SDRAM モジュールを増設した場合は、[トータルメモリー:] で増設後の合計メモリー容量を選択し、[OK] をクリックします。

6 追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、「ファイル」メニューの [印刷設定] をクリックします。

7 [基本] タブの [給紙トレイ:] で設定するトレイを選択し、[原稿サイズ]・[原稿方向]・[用紙種類] を正しく設定します。

8 [OK] をクリックし、プリンターの印刷設定を閉じます。

2. 印刷する

プリンタードライバーの画面と印刷方法についての説明です。

2 種類の操作画面

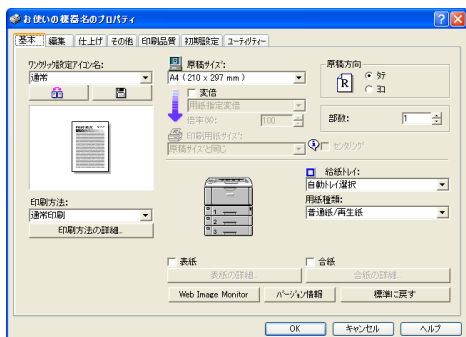
2

プリンタードライバーの設定画面は「機能別ウィンドウ」と「ワンクリック設定」の2つの表示タイプがあります。

本書では「機能別ウィンドウ」の画面例を使用しています。表示タイプの切り替え方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

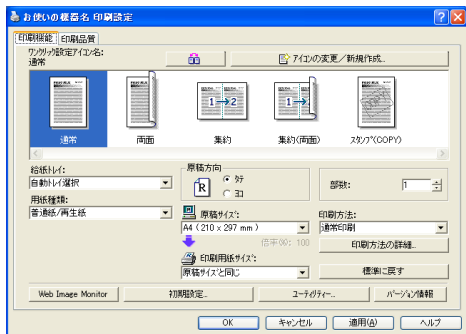
◆ 機能別ウィンドウ

印刷のたびに設定を変更することが多く、さまざまな印刷をする方に向いているウィンドウタイプです。



◆ ワンクリック設定

あまり印刷条件を変えず、いつも決まった印刷のしかたをする方に向いているウィンドウタイプです。



ワンクリック設定の表示はオプションの装着状態によって変化することがあります。

プリンタードライバの設定画面を表示する

プリンタードライバの設定画面を表示させる方法について説明します。

2

プロパティを表示する

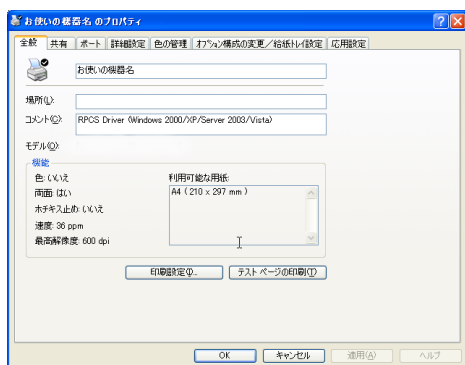
[プリンタと FAX] ウィンドウから、プリンタードライバのプロパティを表示させる方法です。

★重要

- Windows XP Professional および Windows Server 2003/2003 R2 でご使用の場合、プリンターのプロパティの内容を変更するには「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。内容を変更するときは、Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。
- プリンターのプロパティの設定をユーザーごとに変えることはできません。プリンタープロパティで行った設定が、このプリンタードライバを使って印刷するすべてのユーザーの設定になります。
- アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。

[プリンタと FAX] ウィンドウからプリンターのプロパティを表示させると、Windows XP では [全般]、[共有]、[ポート]、[詳細設定]、[色の管理]、[オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定]、[応用設定] タブが表示されます。

Windows Vista/7、Windows server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 では [全般]、[共有]、[ポート]、[詳細設定]、[色の管理]、[セキュリティ]、[オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定]、[応用設定] タブが表示されます。



[全般]、[共有]、[ポート]、[詳細設定]、[色の管理]、[セキュリティ] タブは Windows が追加するタブで、Windows の機能に関する設定を行います。

[オプション構成の変更 / 給紙トレイ設定]、[応用設定] タブはプリンターに関する設定を行うタブです。

[プリンタと FAX] を Windows 2000/Vista、Windows Server 2008 の場合は [プリンタ] Windows 7、Windows Server 2008 R2 の場合は [デバイスとプリンター] に読み換えてください。

- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。
[プリンタと FAX] ウィンドウが表示されます。
- 2 初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、
[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。
プリンターのプロパティが表示されます。

補足

- ・ここでの設定が、すべてのアプリケーションでの設定の初期値になります。

2

印刷設定を表示する

[プリンタと FAX] ウィンドウから、プリンタードライバーの印刷設定を表示させる方法です。

重要

- ・印刷設定（ドキュメントプロパティ）は、設定項目によって動作が異なります。プリンタードライバーごとやプリンターアイコンごと、プリンターアイコンごとのユーザーごとに、それぞれの設定を保持できる設定項目があります。
 - ・アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。
- [プリンタと FAX] ウィンドウから印刷設定を表示させると、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[ユーティリティ] タブが表示されます。



これらのタブはプリンタードライバーの印刷に関する設定を行うタブです。このタブで行った設定が、すべてのアプリケーションで印刷するための設定の初期値になります。

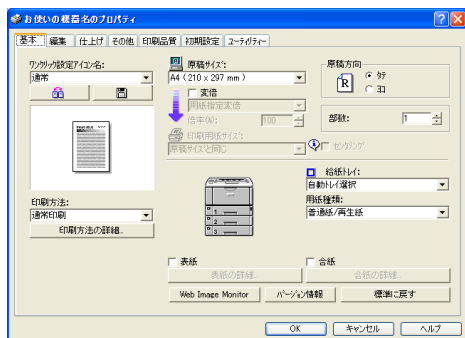
- 1 [スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。
[プリンタと FAX] ウィンドウが表示されます。
- 2 初期値を設定するプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、
[ファイル] メニューの [印刷設定] をクリックします。
印刷設定が表示されます。

補足

- ・ここでの設定がアプリケーションから印刷するときに必要な設定の初期値になります。

アプリケーションから印刷設定を表示する

アプリケーションからプリンタードライバーの印刷設定を表示させる方法です。アプリケーションから印刷ダイアログを表示させると、[基本]、[編集]、[仕上げ]、[表紙/合紙]、[その他]、[印刷品質]、[初期設定]、[ユーティリティー] タブが表示されます。



これらのタブには [プリンタと FAX] ウィンドウから表示させた印刷設定の内容が初期値として表示されますので、アプリケーションからの印刷時は必要な項目を変更して印刷します。

印刷を行うアプリケーションだけに有効な設定をするには、プリンターのプロパティをアプリケーションから表示させて設定します。ここでは Windows XP に付属の「ワードパッド」を例に説明します。

1 [ファイル] メニューの [印刷] をクリックします。

2 本機を選択し、[詳細設定] をクリックします。

[印刷設定] ダイアログが表示されます。

補足

- ここでの設定は印刷するアプリケーションでのみ有効な設定です。
- アプリケーションによっては印刷の初期値を変更するものもあります。
- 実際の表示の方法はアプリケーションによって異なります。詳しくは、アプリケーションの説明書やヘルプを参照してください。
- アプリケーションの [印刷] ダイアログから表示したプロパティは、一般ユーザーでも変更することができます。

よく使う印刷

通常印刷、両面印刷、集約印刷、スタンプ印刷の印刷のしかたについて説明します。ここで説明するそれぞれの機能は、「ワンクリック設定」と呼ばれる1つの設定にあらかじめ登録されています。ワンクリック設定の設定値を変更するだけで、これらの機能を適用することもできます。

↓ 補足

- ・ワンクリック設定については、「ワンクリック設定を使用する」を参照してください。

📖 参照

- ・P67 「ワンクリック設定を使用する」

2

通常印刷する

プリンタードライバーで文書を通常印刷する方法について説明します。

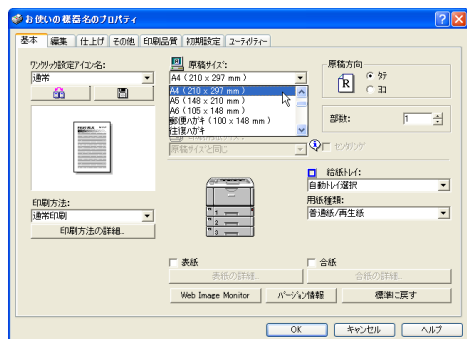
★ 重要

- ・印刷する前に、本機に取り付けたオプションとセットした用紙の情報を必ず設定してください。

プリンタードライバーで通常印刷を設定する

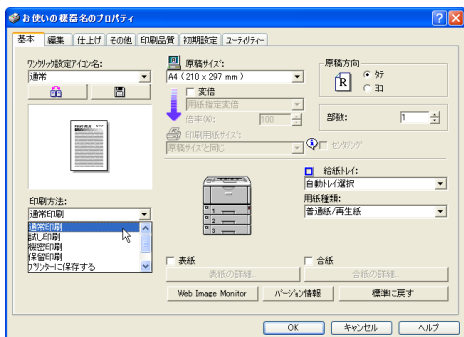
プリンタードライバーの設定方法について説明します。

- 1 アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。
[基本] タブが表示されます。
- 2 [原稿サイズ:] プルダウンメニューから、印刷する原稿のサイズを選択します。



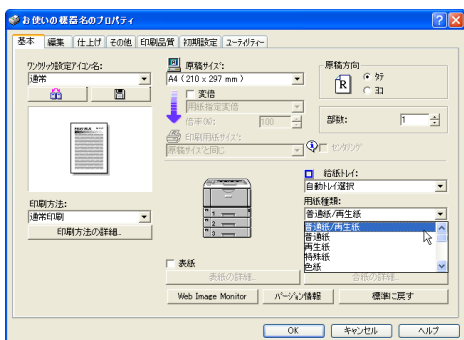
- 3 印刷する原稿の向きを [原稿方向] の [タテ] または [ヨコ] から選択します。

4 [印刷方法:] プルダウンメニューから [通常印刷] を選択します。



複数の部数を印刷する場合は、[部数] ボックスに部数を入力します。

5 [給紙トレイ:]、[用紙種類:] プルダウンメニューから、印刷に使用する給紙トレイと、指定した給紙トレイにセットされている用紙種類を選択します。



[給紙トレイ:] で [自動トレイ選択] を選択した場合は、用紙サイズと用紙種類に応じて給紙トレイが自動的に選択されます。

6 [OK] をクリックします。

7 アプリケーションから印刷の指示を出します。

補足

- 本機の給紙トレイにセットされている用紙の種類は、[ヨウシセッテイ] の [ヨウシユルイ] で確認できます。
- プリンタードライバーで選択できる用紙種類の設定値と、本機の画面での用紙種類表示は異なる場合があります。プリンタードライバーで用紙の種類を選択するときは、どのトレイにどの種類の用紙がセットされているかも確認してください。
- 設定した用紙サイズや用紙種類に合致するトレイがないときは、操作部に警告画面が表示されます。その場合は表示された画面の指示に従って、トレイを選んで強制印刷をするか、ジョブリセットを押して印刷を中止してください。強制印刷については「用紙のサイズや種類がエラーになったとき」を参照してください。

参照

- P.88 「用紙のサイズや種類がエラーになったとき」

両面印刷する

プリンタードライバーで用紙の両面に印刷する方法について説明します。

★重要

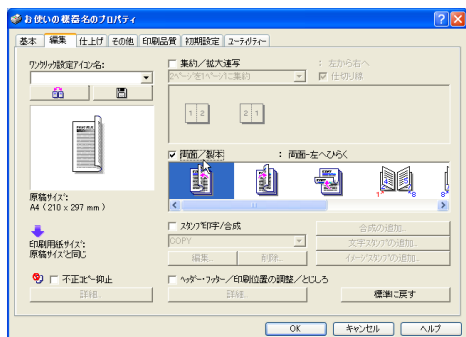
- ・次の種類の用紙には両面印刷することができません。両面印刷するときは、これらの用紙以外を指定してください。
 - ・厚紙、特殊紙、ラベル紙、OHP フィルム、封筒、色紙、ユーザー用紙種類
 - ・不定形サイズ用紙

2

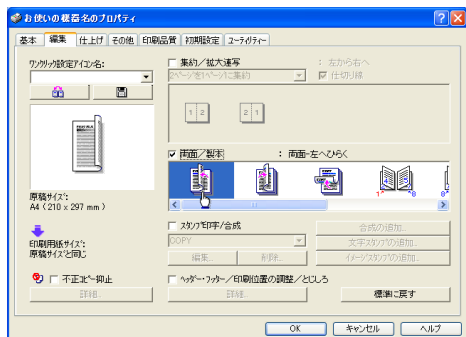
プリンタードライバーで両面印刷を設定する

プリンタードライバーの設定方法について説明します。

- 1 アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。
[基本] タブが表示されます。
- 2 [編集] タブをクリックします。
- 3 [両面／製本] にチェックを付けます。



- 4 用紙のひらきかたをアイコンの中から選択します。



とじしるを付ける場合は [ヘッダー・フッター／印刷位置の調整／とじしる] にチェックを付け、[詳細 ...] をクリックして [両面印刷時のとじしる] を設定します。

5 その他の印刷の設定を必要に応じて指定し、[OK] をクリックします。

6 アプリケーションから印刷の指示を出します。

↓ 補足

- ・ 1つの文書内に原稿サイズの異なるページがある場合、そのページの前で改ページすることがあります。

2

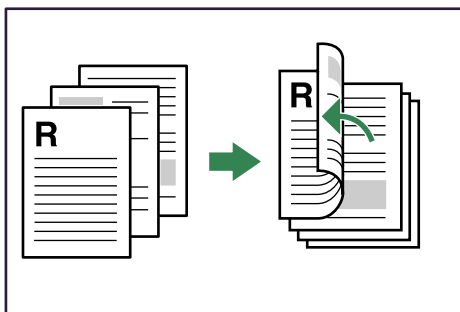
両面印刷の種類

両面印刷で指定できる用紙のひらきかたについて説明します。

設定できる用紙のひらきかたは、用紙の一边でとじる形態と、用紙の中央でとじる形態があります。

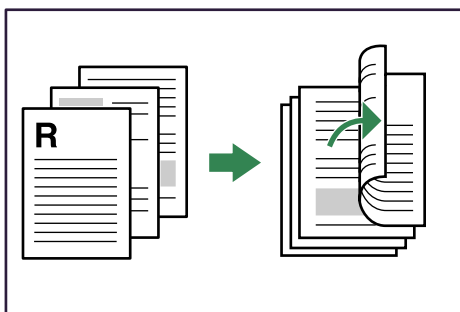
◆ 用紙の一边でとじる形態

- ・ 両面（左へひらく）



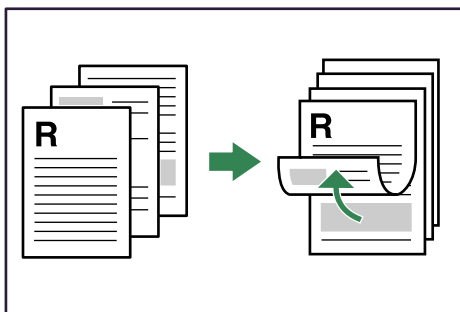
BMF006S

- ・ 両面（右へひらく）



BMF007S

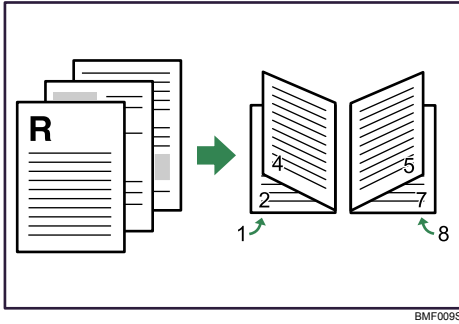
- ・ 両面（上へひらく）



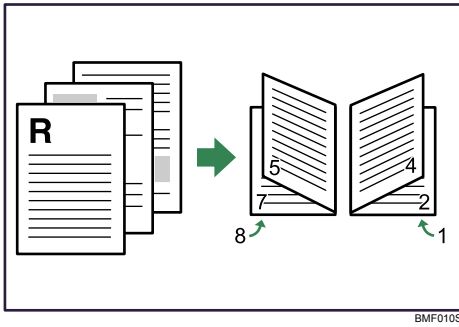
BMF008S

◆ 用紙の中央でとじる形態

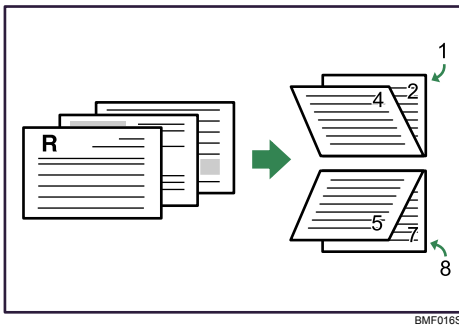
- ・ ミニ本（左へひらく）



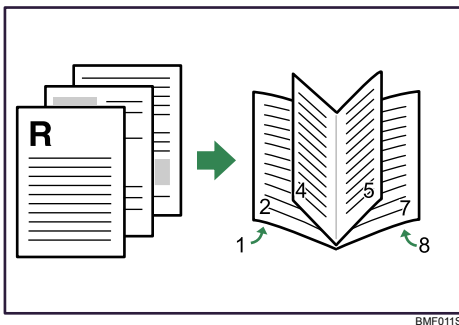
- ・ ミニ本（右へひらく）



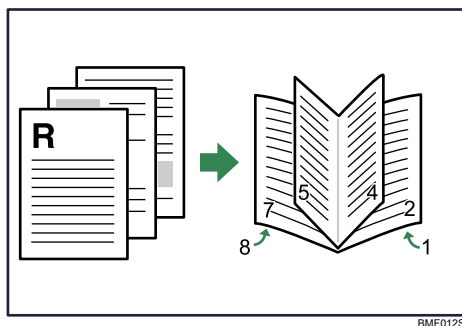
- ・ ミニ本（上へひらく）



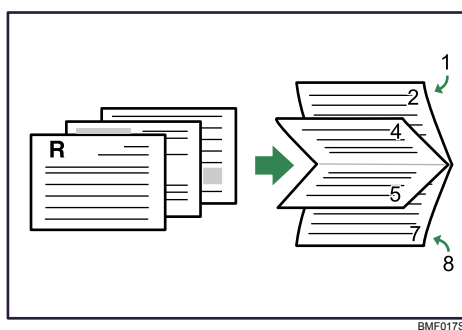
- ・ 週刊誌（左へひらく）



- ・週刊誌（右へひらく）



- ・週刊誌（上へひらく）



↓ 補足

- ・ミニ本（左へひらく）、ミニ本（右へひらく）、週刊誌（左へひらく）、週刊誌（右へひらく）は「原稿方向」が「タテ」の場合のみ指定できます。
- ・ミニ本（上へひらく）、週刊誌（上へひらく）は「原稿方向」が「ヨコ」の場合のみ指定できます。

複数のページを集約して印刷する

プリンタードライバーで集約印刷する方法について説明します。集約を設定すると、複数のページを縮小して1ページにまとめて印刷することができます。

★重要

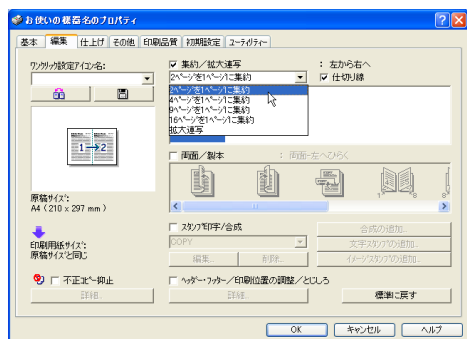
- ・不定形サイズの内紙には集約を設定することができません。定型サイズの内紙を使用してください。

2

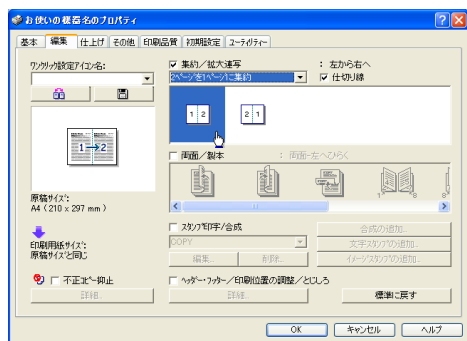
プリンタードライバーで集約印刷を設定する

プリンタードライバーの設定方法について説明します。

- 1 アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。
[基本] タブが表示されます。
- 2 [編集] タブをクリックします。
- 3 [集約/拡大連写] にチェックを付け、プルダウンメニューから集約の種類を選択します。



- 4 ページの並べ方をアイコンの中から選択します。



- 5 その他の印刷の設定を必要に応じて指定し、[OK] をクリックします。
- 6 アプリケーションから印刷の指示を出します。

 補足

- ・1つの文書内に原稿方向の異なるページがある場合は、そのページの前で改ページします。
- ・同じ機能を設定できるアプリケーションから印刷する場合は、アプリケーション側では機能を設定しないでください。アプリケーション側の設定を有効にして印刷すると、意図しない印刷結果になることがあります。
- ・縦横が混在する原稿を集約する場合など、詳しくはプリンタードライバーのヘルプを参照してください。

2

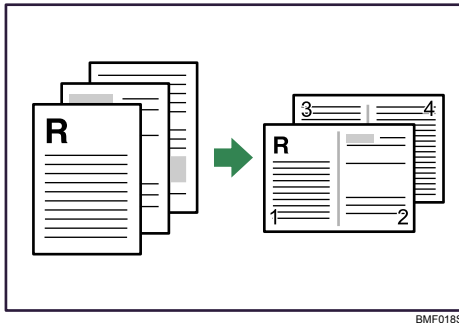
集約印刷の種類

集約の種類について説明します。

集約印刷で1ページにまとめることができるのは、2ページ、4ページ、9ページ、16ページです。ページの並べ方は最大4つのパターンの中から任意に選択することができます。

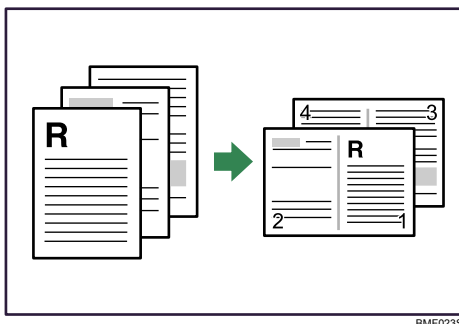
◆ 2ページを1ページに集約

- ・左から右へ



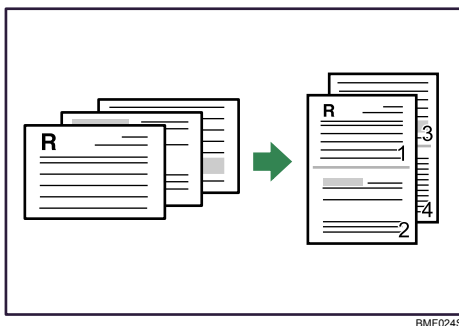
BMF018S

- ・右から左へ



BMF023S

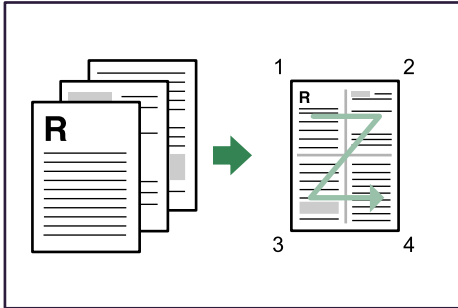
- ・上から下へ



BMF024S

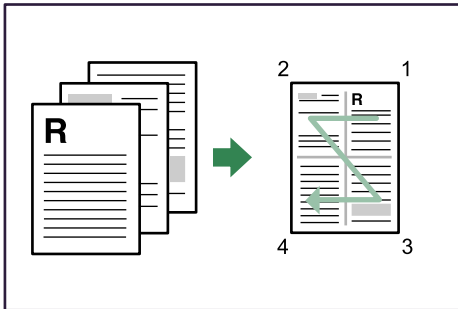
◆ 4 ページを 1 ページに集約

- ・ 左上→右上→左下→右下



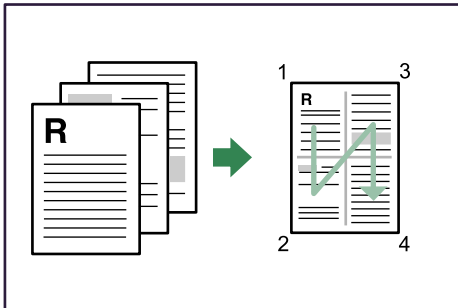
BMF019S

- ・ 右上→左上→右下→左下



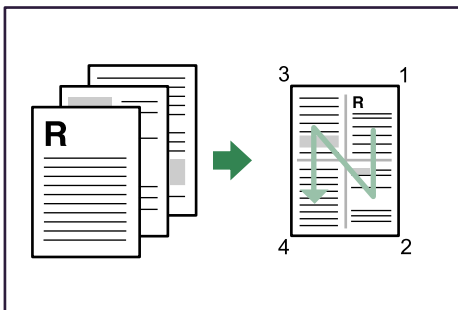
BMF020S

- ・ 左上→左下→右上→右下



BMF021S

- ・ 右上→右下→左上→左下



BMF022S

原稿にイメージや文字をスタンプする

プリンタードライバーでスタンプ印刷する方法について説明します。スタンプを設定すると、作成した文書にイメージデータや文字を重ねて印刷することができます。

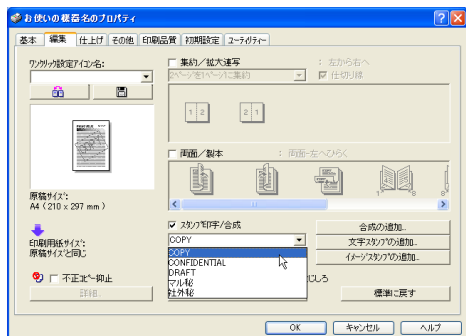
スタンプには、ビットマップファイル (.bmp) を使った「イメージスタンプ」と、文字データを使った「文字スタンプ」があります。一度に指定できるスタンプはどちらかのみです。

2

プリンタードライバーでスタンプ印字を設定する

プリンタードライバーの設定方法について説明します。

- 1 アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの印刷設定を開きます。
[基本] タブが表示されます。
- 2 [編集] タブをクリックします。
- 3 [スタンプ印字/合成] にチェックを付け、プルダウンメニューからスタンプの種類を選択します。



選択したスタンプの内容を変更するときは [編集 ...] をクリックします。

- 4 その他の印刷の設定を必要に応じて指定し、[OK] をクリックします。
- 5 アプリケーションから印刷の指示を出します。

補足

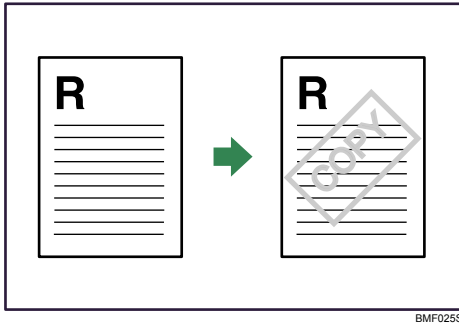
- あらかじめ用意されているスタンプのほかにも、任意にスタンプを作成し、使用することができます。
- スタンプの作成・編集方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

スタンプの種類

スタンプの種類について説明します。

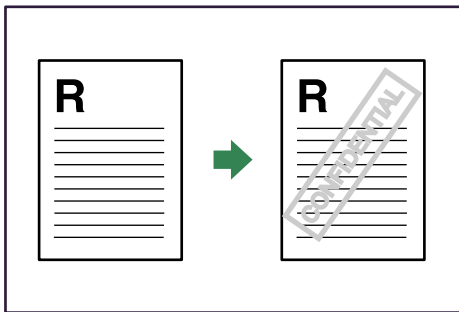
本機のプリンタードライバーにはいくつかの文字スタンプがあらかじめ登録されています。利用できるスタンプの種類は次のとおりです。

- COPY



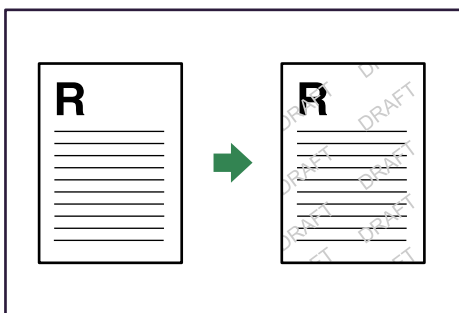
BMF025S

- CONFIDENTIAL



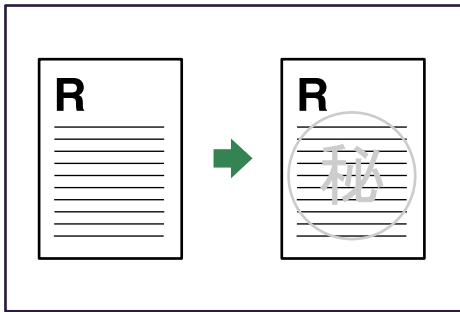
BMF026S

- DRAFT



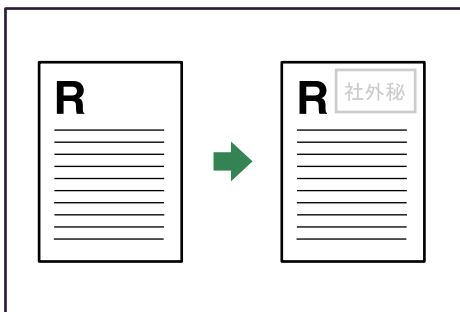
BMF027S

• マル秘



BMF028S

• 社外秘



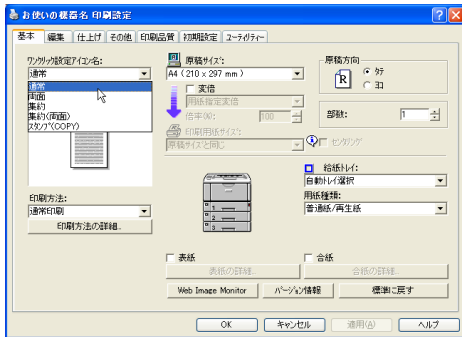
BMF029S

ワンクリック設定を使用する

プリンタードライバーのワンクリック設定について説明します。

「よく使う印刷」のそれぞれの機能は、[基本] タブの「ワンクリック設定」にあらかじめ登録されています。メニューから設定名を選択するだけで、両面印刷や集約印刷などを指定することができます。

ワンクリック設定を使用するには、[ワンクリック設定アイコン名:] から、適用したい設定名をクリックします。



設定名を選択するだけで登録されている設定内容が反映されるため、印刷するときに何箇所も設定を変更したり、誤って設定して無駄な印刷をしてしまうミスを防ぐことができます。ワンクリック設定は任意に追加、変更、削除することができます。また、複数のメンバーで同じワンクリック設定を共有して使用することもできます。プリンタードライバーに関する特別な知識がなくても、登録したワンクリック設定を使うだけで、さまざまな機能を活用することができます。

ワンクリック設定の登録や削除、変更については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

便利な機能

表紙用の用紙への印刷、合紙の挿入、またはソートなどの、便利な印刷機能について説明します。

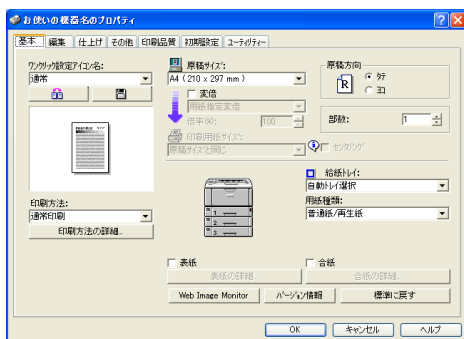
「よく使う印刷」で使用する機能のほかにも、各タブから印刷に関する機能を設定することができます。

2 プリンタードライバーのタブについて

[基本]、[仕上げ]、[その他] タブから、便利な印刷機能を設定することができます。ここで説明するそれぞれの機能は、次のタブから設定することができます。

◆ [基本] タブ

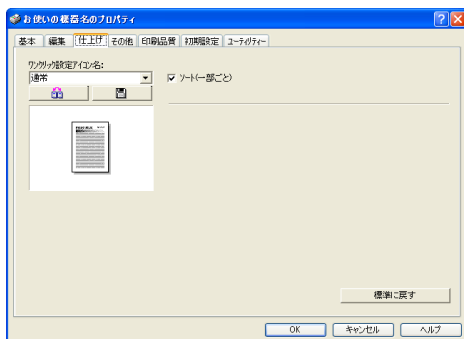
用紙サイズや用紙種類、給紙トレイに関する設定のほかに、表紙や合紙について設定することができます。



- 表紙
表紙用の用紙に印刷します。または、1 ページ目の前に表紙用の用紙を挿入します。
この機能の説明については「表紙を印刷する」を参照してください。
- 合紙
ページごとに合紙を挿入します。
この機能の説明については「合紙を挿入する」を参照してください。

◆ [仕上げ] タブ

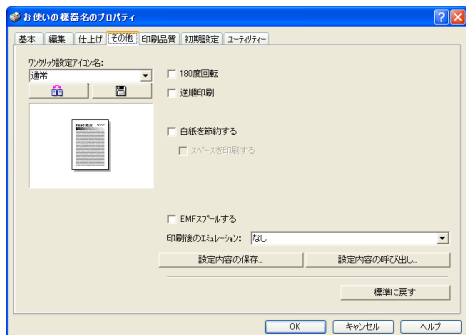
ソートについて設定することができます。



- ソート
会議資料など複数部数の印刷をする場合、ページ順に仕分けして印刷できます。
この機能の説明については「ソートする」を参照してください。

◆ [その他] タブ

スプール印刷やその他の印刷オプションを設定することができます。



• スプール印刷

パソコンから転送される印刷ジョブを一時的に本機に蓄積して印刷する機能です。
この機能の説明については「スプール印刷について」を参照してください。

↓ 補足

• 印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

目 参照

- P.70 「表紙を印刷する」
- P.71 「合紙を挿入する」
- P.72 「部単位で印刷する（ソート）」
- P.73 「スプール印刷をする」

表紙を印刷する

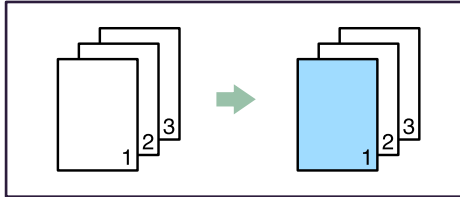
表紙用の用紙に印刷します。または、1 ページ目の前に表紙用の用紙を挿入します。

★重要

- ・ソートの設定が必要です。
- ・表紙用の用紙は印刷する用紙と同じサイズのものを同じ方向にセットします。

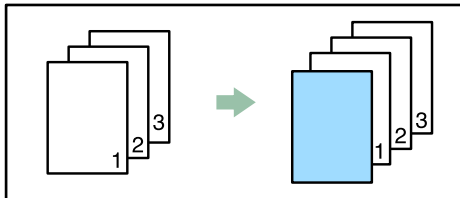
◆片面印刷の場合

- ・表紙用の用紙に印刷するとき



BAB039S

- ・表紙用の用紙に印刷しないとき

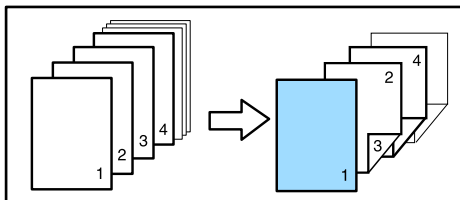


BAB041S

◆両面印刷の場合

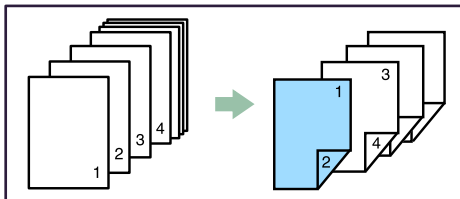
1 ページ目の原稿と最終ページの原稿を、表紙用の用紙に印刷します。

- ・表紙用の用紙に片面印刷するとき



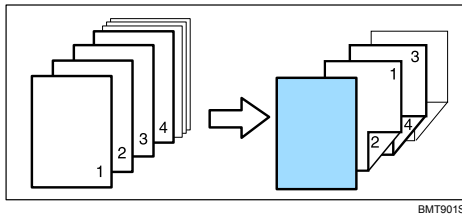
BMT900S

- ・表紙用の用紙に両面印刷するとき



BAB040S

- ・表紙用の用紙に印刷しないとき



↓ 補足

- ・印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

2

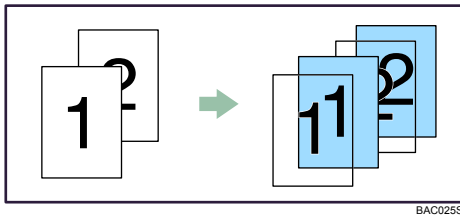
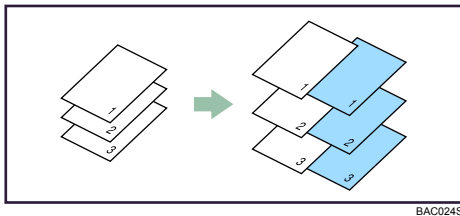
合紙を挿入する

ページごとに合紙を挿入します。

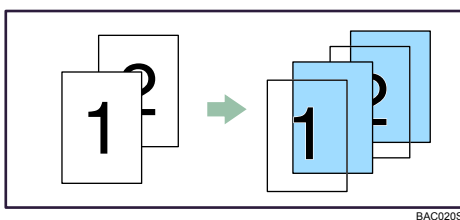
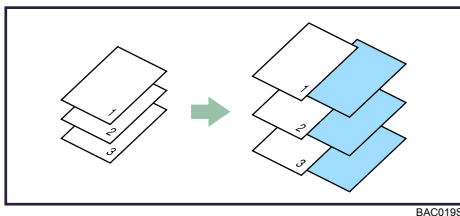
★ 重要

- ・両面印刷、表紙が指定されているときは、合紙の挿入はできません。

◆ 合紙に印刷する



◆ 合紙に印刷しない



↓ 補足

- ・合紙用の用紙は、印刷する用紙と同じサイズのものと同じ方向にセットします。
- ・印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

部単位で印刷する（ソート）

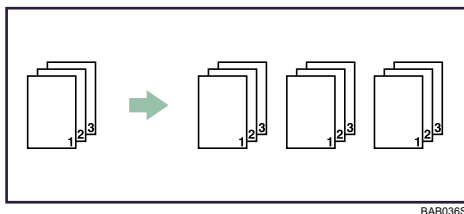
会議資料など複数部数の印刷をする場合、ページ順に仕分けして印刷できます。この機能を「ソート」といいます。ソートは、パソコンから送信されてきたデータをメモリーに読み込むことによって行います。

★ 重要

- ・ソート可能なページ数は、RAM による場合は最大 150 ページ、ハードディスクを増設した場合は最大 1,000 ページです。
- ・1 部目でエラースキップや強制印刷が発生した場合は、ソートは解除されます。

◆ ソートの種類について

- ・ソート
1 部ずつそろえて印刷します。



↓ 補足

- ・プリンタードライバーでソートの設定をするときは、アプリケーションのソート（部単位印刷設定）が無効になっていることを確認してください。アプリケーションのソート設定を有効にして印刷をすると、意図しない印刷結果になることがあります。
- ・印刷方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

スプール印刷をする

スプール印刷とは、パソコンから転送される印刷ジョブを一時的に本機に蓄積して印刷する機能です。スプール印刷をすると、大容量のデータのと看、パソコンが早く印刷処理から開放されます。

★重要

- スプール印刷中は、ハードディスクへのアクセスが行われ、データインランプが点滅します。スプール印刷中に本機やパソコンの電源を切ると、ハードディスクが破損するおそれがあります。スプール印刷中は本機やパソコンの電源を切らないでください。
- BMLinkS、diprint、ftp、IPP、LPR、SMB (TCP/IP (IPv4))、sftp、WSD (Printer) 以外のプロトコルで受信したデータは、スプール印刷できません。

◆スプール印刷を設定する

Web ブラウザーと telnet で設定できます。

- Web ブラウザーの場合
詳しくは、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- telnet の場合
「spoolsw spool on」で設定します。詳しくは、「telnet を使う」を参照してください。

◆Web ブラウザーからスプールジョブを閲覧・削除する

Web ブラウザーを起動し、URL としてプリンターの IP アドレスを指定すると、Web Image Monitor のトップページが表示されます。

↓補足

- 一度に最大 150 ジョブまでスプールできます。
- スプール印刷をすると、1 ページ目の印刷開始は遅くなります。
- プリンターに蓄積されたスプールジョブは、Web ブラウザーから閲覧・削除することができます。詳しくは、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- スプール印刷の指定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

📖参照

- P.185 「Web ブラウザーを使う」
- P.223 「telnet を使う」

PDF ファイルを直接印刷する

PDF ファイルを開くアプリケーションを起動することなく、PDF ファイルを本機に直接送信して印刷することができます。

★重要

- この機能は、オプションの PS3 カードを装着しているときに使用できます。
- Adobe 純正の PDF のみ可能です。
- 対応している PDF ファイルのバージョンは、1.3、1.4、1.5、1.6 です。
- PDF バージョン 1.5 の固有機能である Crypt Filter や、8 コンポーネントを超える DeviceN のカラースペースには対応していません。
- PDF バージョン 1.6 の固有機能であるウォーターマーク注釈や、バージョン 1.6 で機能拡張されたオプションコンテンツには対応していません。
- PDF バージョン 1.7 の固有機能を使用していない PDF ファイルは印刷できます。
- 透明機能を含むデータを印刷する場合、オプションの SDRAM モジュール 256MB の増設が必要です。ただし、メモリの容量を最大まで増設した場合でも、印刷するデータによっては印刷できないことがあります。この場合はプリンタードライバーを使用して印刷してください。

↓補足

- 不定形サイズの内紙に印刷する場合は、用紙サイズエラーが発生することがあります。

目 参照

- P.185 「Web ブラウザーを使う」
- P.223 「telnet を使う」

UNIX コマンドを使用する

UNIX から、ftp、lpr などのコマンドを使用して、PDF ファイルを直接印刷できます。

目 参照

- P.290 「オプション指定 (UNIX)」

文書の複製を抑止する

本機では、不正コピー抑止用の地紋と文字列を埋め込んで印刷することができます。不正コピー抑止印刷には、「不正コピーガード機能」と「マスクパターン」があります。

★重要

- ・不正コピー抑止印刷は、必ずしも情報漏洩を防止するものではありません。
- ・不正コピーガード機能は、トナーセーブモードには対応していません。

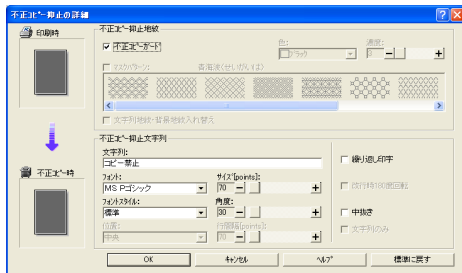
2

■不正コピー抑止の詳細ウィンドウを表示する

- 1 プリンタードライバーの印刷設定を開き、[編集] タブをクリックします。
- 2 [不正コピー抑止] のチェックボックスにチェックし、[詳細 ...] をクリックします。

不正コピーガード機能

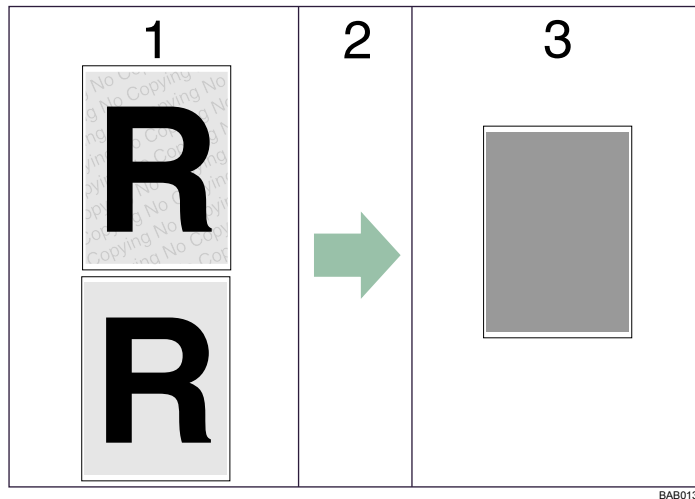
プリンタードライバーで不正コピーガード用の地紋を埋め込んで、印刷することができます。



◆必要な設定項目

- ・[不正コピーガード] のチェックボックスにチェックを入れます。[文字列] に、不正コピー抑止文字列を入力することもできます。
- ・[マスクパターン] を選択することはできません。
- ・不正コピーガードでグレー地に印刷するには、本機側での設定もあわせて必要です。設定方法については、管理者に確認してください。

◆ 不正コピーガードを設定した文書を印刷すると



BAB013S

- 1 不正コピーガードを設定すると、不正コピーガード用の地紋および不正コピー抑止文字列が埋め込まれて印刷されます。
- 2 不正コピーガードモジュールが搭載済みの複写機 / 複合機を使用して、コピーやドキュメントボックスへの蓄積を行います。
- 3 文書内の文字や画像が、グレー地に変換されます。

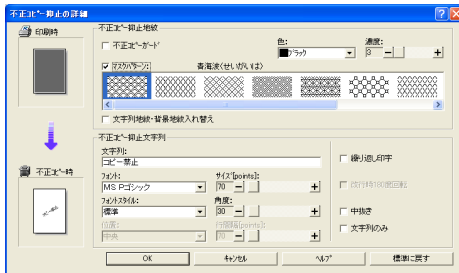
↓ 補足

- RPCS プリンタードライバーにのみ対応しています。
- 印刷するデータに対して、部分的に地紋を埋め込むことはできません。
- 用紙サイズは B5 以上をご使用ください。
- 用紙種類は普通紙、または白色度 70% 以上の再生紙をご使用ください。
- 両面印刷は可能ですが、裏面の文字や模様が透けることにより、機能が正常に動作しないことがあります。
- 地紋と文字列を埋め込んで印刷すると、通常の印刷時よりも出力に時間がかかります。
- 「不正コピー抑止の詳細」画面の設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

マスクパターン

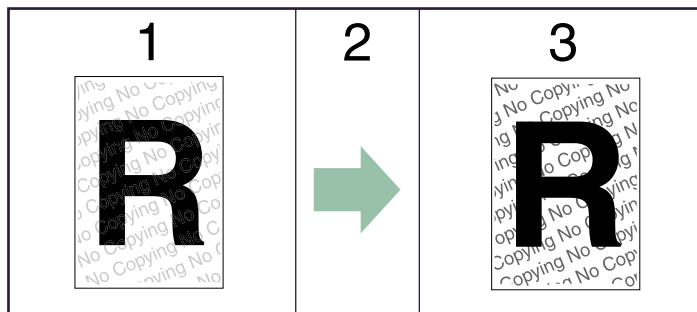
プリンタードライバーで不正コピー抑止地紋と不正コピー抑止文字列を設定し、文書に埋め込んで印刷することができます。

◆ 必要な設定項目



- ・ [マスクパターン] で不正コピー抑止地紋を選択し、[文字列] で不正コピー抑止文字列を設定します。
- ・ [文字列] だけを設定することはできますが、[マスクパターン] だけを設定することはできません。

◆ 「不正コピー抑止印刷」を設定した文書を印刷すると



BAC034S

- 1 不正コピー抑止印刷を設定した文書を印刷すると、設定した不正コピー抑止地紋および不正コピー抑止文字列が表示されます。
- 2 本機や他の複写機 / 複合機を使って、コピーやスキャン、ドキュメントボックスへの蓄積を行います。
- 3 不正コピー抑止文字列が浮き上がります。

↓ 補足

- ・ RPCS プリンタードライバーにのみ対応しています。
- ・ 印刷するデータに対して、部分的に地紋と文字列を埋め込むことはできません。
- ・ 地紋効果は、コピー、スキャン、ドキュメントボックスへの蓄積結果をすべて保証しているものではありません。また蓄積結果は、使用する機種とその設定条件により異なります。
- ・ 地紋と文字列を埋め込んで印刷すると、通常の印刷時よりも出力に時間がかかります。
- ・ 不正コピー抑止印刷のための文字列地紋を効果的に浮き上がらせるために、文字列サイズは 70~80pt (最低 50pt)、文字列角度は 30~40 度の範囲内で設定してください。

- ・「不正コピー抑止の詳細」の設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

おことわり

2

- 1) 当社は、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガード機能が、常時有効に機能することを保証するものではありません。使用する用紙ならびにコピー機の機種および設定条件等によっては、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガード機能が有効に機能しない場合もあります。この点をご理解の上、ご使用ください。
- 2) 不正コピー抑止地紋および不正コピーガード機能を使用または使用できなかったことにより生じた損害については、当社は一切その責任をおい兼ねますので、あらかじめご了承ください。

プリントジョブに分類コードを入力する

分類コードが必須の環境で印刷するときは、プリントジョブに分類コードを指定して印刷します。

★重要

- 入力した分類コードはプリンタードライバーに保持されます。
- 複数の分類コードを切り替えたい場合は、プリンタードライバーを別の名前で複数インストールし、それぞれに個別の分類コードを設定します。

2

■RPCS プリンタードライバーの場合

- 1 印刷したいアプリケーションから本機の印刷設定画面を開きます。
- 2 [基本] タブから [印刷方法の詳細 ...] をクリックします。
- 3 [分類コード:] ボックスに分類コードを入力します。
分類コードは半角英数字と-(ハイフン)を合計32文字まで使用することができます。
- 4 [OK] をクリックします。

仮想プリンターを使用する

仮想プリンターについて説明します。

仮想プリンターとは、ネットワーク上でのみ認識することができる擬似的なプリンターです。仮想プリンターには、印刷に関するさまざまなオプション（給紙トレイの指定や両面印刷の有無など）を設定しておくことができます。また、割り込み印刷を設定することができます。割り込み印刷とは、印刷中や処理中のジョブを一時停止させて、別のジョブを先に印刷することです。この機能を使うには、ハードディスクが必要です。UNIX や Solaris などから印刷するとき仮想プリンターを指定すると、コマンドによる印刷オプションの指示ができない場合でも、さまざまな印刷をすることができます。

2

仮想プリンターを追加する

仮想プリンターを追加する手順について説明します。

★重要

- ・仮想プリンターの追加を行うには管理者モードでログインする必要があります。
- ・仮想プリンターで使用可能なプロトコルは、[TCP/IP（指定なし・通常）]、[TCP/IP（DIPRINT）]、[TCP/IP（RHPP）]、[AppleTalk] です。

1 Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

ログイン方法については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2 左フレームのメニューから [設定] をクリックし、[プリンター] カテゴリーの中の [仮想プリンター設定] をクリックします。

本機に設定されている仮想プリンターの一覧が表示されます。

仮想プリンター機能が無効になっています。
基本設定画面で設定を変更できます。

仮想プリンター数 : 1

	仮想プリンター名	プロトコル
<input type="radio"/>	Default	---

3 [追加] をクリックします。

仮想プリンターの追加画面が表示されます。



■ 仮想プリンター名 : Printer_001

■ プロトコル : TCP/IP (指定なし)

4 [仮想プリンター名] に任意のプリンター名を入力し、[プロトコル] を選択してください。

5 [OK] をクリックします。

仮想プリンターが追加されます。

補足

- [プロトコル] で [AppleTalk] を指定した場合、仮想プリンターの名前を任意に設定することはできません。
- 仮想プリンターの名前は、半角英数字と記号で 47 文字まで設定できます。
- 追加できる仮想プリンターの数は 50 個までです。登録されている仮想プリンターが 51 個に達している場合、[追加] ボタンは表示されません。

参照

- P.185 「Web ブラウザーを使う」

仮想プリンターの設定を変更する

仮想プリンターの設定を変更する手順について説明します。

★重要

- 仮想プリンターの設定を変更するには管理者モードでログインする必要があります。

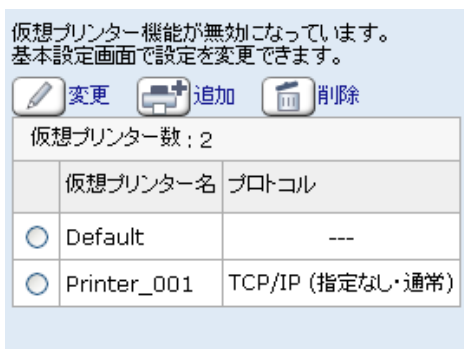
2

1 Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

ログイン方法については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

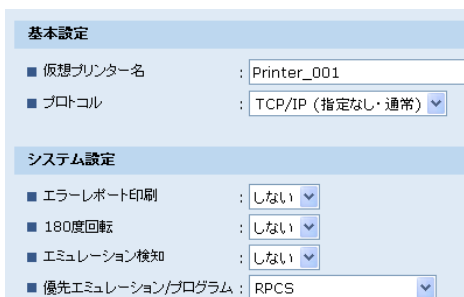
2 左フレームのメニューから [設定] をクリックし、[プリンター] カテゴリーの中の [仮想プリンター設定] をクリックします。

本機に設定されている仮想プリンターの一覧が表示されます。



3 変更したい仮想プリンターを選択し、[変更] をクリックします。

変更可能な設定項目の一覧が表示されます。



ここで設定した仮想プリンターを割り込み印刷用の仮想プリンターとして設定する場合は、[プロトコル] で [TCP/IP (指定無し：優先)] を選択します。

4 各項目の設定内容を任意に変更し、[OK] をクリックします。

↓ 補足

- 設定内容の詳細については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

目 参照

- P.185 「Web ブラウザーを使う」

仮想プリンターの設定内容を確認する

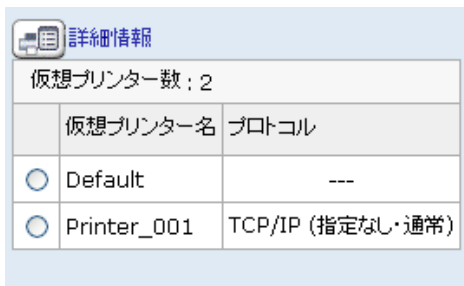
仮想プリンターの設定内容を確認する手順について説明します。

1 Web Image Monitor を起動します。

ログイン方法については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2 左フレームのメニューから [設定] をクリックし、[プリンター] カテゴリーの中の [仮想プリンター設定] をクリックします。

本機に設定されている仮想プリンターの一覧が表示されます。



詳細情報	
仮想プリンター数: 2	
仮想プリンター名	プロトコル
<input type="radio"/> Default	---
<input type="radio"/> Printer_001	TCP/IP (指定なし・通常)

3 確認したい仮想プリンターを選択し、[詳細情報] をクリックします。

設定内容の一覧が表示されます。

補足

- 管理者モードでログインしている場合、[詳細情報] は表示されません。[変更] で現在の設定内容を確認してください。
- ゲストモードでログインしている場合、仮想プリンター機能が無効になっていると仮想プリンターの一覧は表示されません。仮想プリンターを有効にする方法については、「仮想プリンターで印刷する」を参照してください。

参照

- P.85 「仮想プリンターで印刷する」

仮想プリンターを削除する

仮想プリンターを削除する手順について説明します。

★重要

- 仮想プリンターを削除するには管理者モードでログインする必要があります。

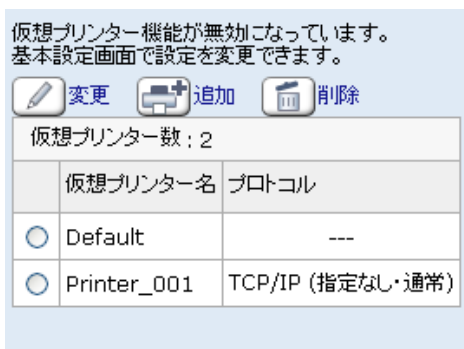
2

1 Web Image Monitor に管理者モードでログインします。

ログイン方法については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2 左フレームのメニューから [設定] をクリックし、[プリンター] カテゴリーの中の [仮想プリンター設定] をクリックします。

本機に設定されている仮想プリンターの一覧が表示されます。



3 削除したい仮想プリンターを選択し、[削除] をクリックします。

仮想プリンター削除の確認画面が表示されます。

4 [OK] をクリックします。

↓補足

- Default の仮想プリンターは削除できません。
- Default の仮想プリンターしか登録されていない場合、[削除] ボタンは表示されません。

目参照

- P.185 「Web ブラウザーを使う」

仮想プリンターで印刷する

仮想プリンターを使って印刷するには、各コマンドのオプションに [仮想プリンター名] を指定します。最初に印刷を行う前に、仮想プリンターを [有効] に設定してください。

★重要

- 仮想プリンターを有効にするには、管理者モードでログインする必要があります。

- 1** Web Image Monitor に**管理者モード**でログインします。
ログイン方法については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。
- 2** 左フレームのメニューから [設定] をクリックし、[プリンター] カテゴリーの中の [プリンター基本設定] をクリックします。
- 3** [仮想プリンター] の項目から [有効] を選択し、[OK] をクリックします。
- 4** パソコンから印刷の指示を出します。

◆ lpr の場合

```
c:> lpr -S プリンターの IP アドレス (またはホスト名 [-P 仮想プリンター名]
[-o]) ¥パス名 ¥ファイル名
```

◆ rcp の場合

```
c:> rcp [-b] ¥パス名 ¥ファイル名 [¥パス名 ¥ファイル名...] プリンター
のホスト名: [仮想プリンター名]
```

◆ ftp の場合

```
ftp> put ¥パス名 ¥ファイル名 [仮想プリンター名]
```

E 参照

- P185 「Web ブラウザーを使う」

メモリー容量と用紙サイズ

本機に搭載されているメモリー容量と、印刷可能な用紙サイズについての説明です。

片面印刷の場合

2

メモリー容量	印刷可能な用紙サイズ
256MB (標準)	A4、B5、A5、はがき、長形 3 号封筒、 Legal (8 ¹ / ₂ " × 14")、Letter (8 ¹ / ₂ " × 11")、 160mm × 356mm、140 mm × 900mm * ¹
512MB (標準 + SDRAM モジュール 256MB)	A4、B5、A5、はがき、長形 3 号封筒、 Legal (8 ¹ / ₂ " × 14")、Letter (8 ¹ / ₂ " × 11")、 160mm × 356mm、140 mm × 900mm

*¹ システム設定メニューの [ユウセンメモリー] で [ユーザーメモリー] を選択している場合、1200 dpi × 600 dpi では、データによっては印刷できない場合があります。

両面印刷の場合

メモリー容量	印刷可能な用紙サイズ
256MB (標準)	A4 * ¹ 、B5、A5、Legal (8 ¹ / ₂ " × 14") * ¹ 、 Letter (8 ¹ / ₂ " × 11") * ¹
512MB (標準 + SDRAM モジュール 256MB)	A4、B5、A5、Legal (8 ¹ / ₂ " × 14")、 Letter (8 ¹ / ₂ " × 11")

*¹ システム設定メニューの [ユウセンメモリー] で [ユーザーメモリー] を選択している場合、1200 dpi × 600 dpi では、データによっては印刷できない場合があります。

プリンター内蔵フォントについて

印刷に使用するフォントの変更方法について説明します。

RPCSドライバーのインストール時の設定では、Windows Vistaから導入されたJIS2004フォントに対応するため、プリンター内蔵フォントを使用しません。プリンター内蔵フォントを使用した場合と比べ、字形が変わったり、ボールド指定の文字がより太くなったり、文字がきれいに縮小されなかったりする場合があります。

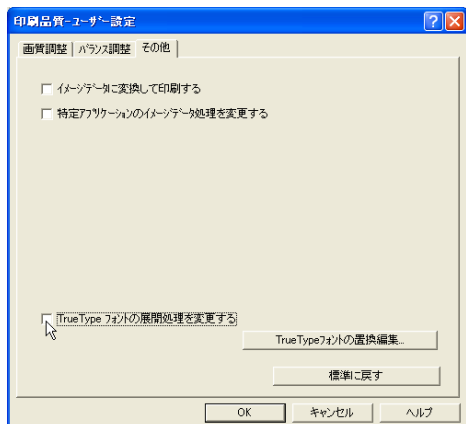
プリンター内蔵フォントを使用して印刷する場合は、プリンタードライバーで次のように設定してください。

2

- 1 プリンタードライバーの設定画面で【印刷品質】タブをクリックします。
- 2 【ユーザー設定】にチェックを付けます。
- 3 リストボックスの中から任意のユーザー設定をクリックして反転表示させます。



- 4 【ユーザー設定の変更...】をクリックします。
- 5 【その他】タブをクリックします。
- 6 【TrueType フォントの展開処理を変更する】のチェックを外します。



- 7 【OK】をクリックします。

用紙のサイズや種類がエラーになったとき

印刷時に指定した用紙サイズ、用紙種類に合致するトレイがないときや、本機にセットした用紙がなくなったときの操作について説明します。

印刷時に指定した用紙サイズ、用紙種類に合致するトレイがないときや、本機にセットした用紙がなくなったときは、操作部に警告画面が表示されます。

表示された画面の指示に従って、[強制排紙] キーを押し、トレイを選んで強制印刷をするか、[ジョブリセット] キーを押し、印刷を中止してください。

★重要

- ・表紙、合紙が設定されている場合は、トレイの変更はできません。

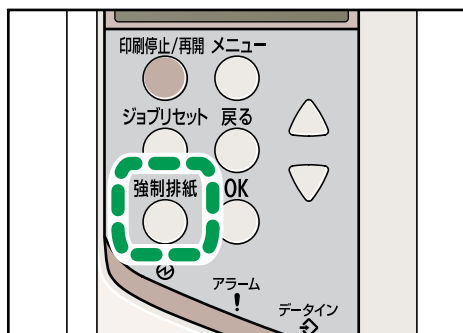
↓補足

- ・エラースキップの設定がされている場合は、設定時間経過後に、いずれかのトレイの用紙で印刷されます。

強制印刷するとき

トレイを選んで強制印刷する方法です。

1 警告画面で [強制排紙] キーを押します。



確認画面が表示されます。

2 [▼] [▲] キーを押して印刷する用紙またはトレイを表示させ、[OK] キーを押します。

トレイ2カラ インサツシマスカ?
A 4タテ

選んだトレイで印刷されます。

用紙を補給して印刷したいときは、正しい用紙をセットしてからトレイを選んでください。

強制印刷を取り消す場合は、[戻る] キーを押します。

↓ 補足

- ・用紙サイズが小さいトレイを選択すると、端が切れるなど正しく印刷されないことがあります。

印刷を中止するとき

印刷を中止する方法です。

2

1 警告画面で [ジョブリセット] キーを押します。

トレイ1ノ セッテイヲヘンコウ
(マタハ キョウセイインサツ)

蓄積されている印刷データを消去して印刷を中止します。
確認画面が表示されます。

2 [▲] [▼] キーを押して、印刷されていたジョブのみを消去したい場合は [カレントジョブ] を、すべてのジョブを消去したい場合は [スベテノジョブ] を表示させ、[OK] キーを押します。

ジョブリセットシマスカ？
スベテノジョブ

印刷を継続したい場合は、[▲] [▼] キーを押して [インサツケイゾク] を表示させ、
[OK] キーを押します。

3 確認画面が表示されます。確認して、[OK] キーを押します。

スベテノジョブヲ
リセットシマスカ？

文書が消去されます。
消去を取り消す場合は、[戻る] キーを押します。

↓ 補足

- ・印刷を中止したデータが途中から再び印刷される場合は、「インターフェース設定」の [IF キリカエジカン] を長くしてください。
- ・大容量データの印刷を中止したいときは、[ジョブリセット] キーを押した後、パソコン側からも印刷を中止することをお勧めします。

3. 本機に蓄積された文書を印刷・削除する

試し印刷、機密印刷、保留文書印刷、保存文書印刷や、印刷の中止などの注意事項についての説明です。

文書印刷機能を使用する

本機に蓄積された文書を印刷する、文書印刷機能の説明です。

文書印刷機能では、あらかじめプリンタードライバーからの印刷指示で本機のハードディスクに蓄積された、試し印刷文書、機密印刷文書、保留印刷文書および保存文書の印刷、または削除ができます。

試し印刷文書、機密印刷文書および保留文書は、文書印刷機能で指示された印刷が終了すると蓄積されていた文書は消去されます。保存文書は、印刷が終了しても消去されません。文書印刷機能を使うためには、ハードディスクが必要です。

試し印刷する

複数部数印刷する場合など、最初に1部だけ印刷し、その結果を確認した後に操作部を使用して残り部数を印刷できます。いったん本機にデータを蓄積し、操作部を使用して蓄積したデータを印刷することができます。内容や印刷の指定を間違えたときなどに大量のミスプリントを防ぐことができます。

★重要

- ・この機能は、オプションのハードディスクが装着されている場合に使用できます。
- ・以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー文書表示で確認できます。(印刷データによっては、以下の文書数よりも少なくなることがあります。)
 - ・1文書あたり1,000ページを超える文書
 - ・保存印刷と一時的な蓄積文書(試し印刷 / 機密印刷 / 保留印刷の文書)が、合計して100ジョブ本機に蓄積されているときに、送信された101番目の文書
 - ・保存印刷と一時的な蓄積文書(試し印刷 / 機密印刷 / 保留印刷の文書)の合計が、9,000ページを超えた場合

1 部目を印刷する

- 1 試し印刷する文書に印刷指示をします。
- 2 プリンタードライバーのプロパティの [基本] タブで、[印刷方法] から [試し印刷] を選択します。
「ワンクリック設定」を選択しているときは、[印刷機能] タブをクリックします。
- 3 [印刷方法の詳細] をクリックします。
「印刷方法の詳細」画面が表示されます。
- 4 [ユーザー ID] を半角英数字 8 文字以内で入力します。
- 5 [OK] をクリックします。
- 6 印刷の指示をします。
1 部目が印刷され、本機に文書が蓄積されます。
- 7 印刷結果を確認し、操作部から 2 部目以降を印刷するか消去するかを指示します。

↓ 補足

- ここでは RPCS プリンタードライバーを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバーを使用した場合の説明については、『PostScript 3 編』「Windows で使う」を参照してください。
- 主電源を「Off」にしても、蓄積された試し印刷文書は消去されずに残りますが、[イチジオキゼンショウキョ] や [ホゾンゼンショウキョ] が優先されます。設定については、「調整 / 管理メニュー」の [イチジオキゼンショウキョ] や [ホゾンゼンショウキョ] を参照してください。

目 参照

- P.96 「試し印刷文書を消去する」
- P.160 「調整 / 管理メニュー」
- P.130 「エラー文書を確認する」

2 部目以降を印刷する

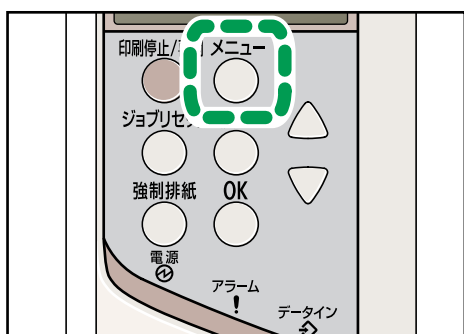
試し印刷で、2部目以降を印刷する方法です。

★重要

- ・印刷が終了すると、蓄積されていた文書は消去されます。

■選択した文書のみを印刷する

1 [メニュー] キーを押します。



BMT098S

2 [▼] [▲] キーを押して「タメシインサツ ブンシヨ」を選択し、[OK] を押します。

```
<メニュー>
タメシインサツ ブンシヨ
```

3 [▼] [▲] キーを押して、「1. センタクブンシヨ インサツ」を表示させ、[OK] を押します。

```
<タメシインサツブンシヨ>
1. センタクブンシヨ インサツ
```

蓄積されている文書の印刷指示を出した時間とファイル名が表示されます。

4 [▼] [▲] キーを押して、印刷する文書を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<ブンシヨ センタク>
08:56 Doc001
```

5 印刷部数を変更する場合は、[▼] [▲] キーを押して設定し、[OK] キーを押します。

```
プスウ: 6 (1-999)
プスウヲセットシテ OKキー
```

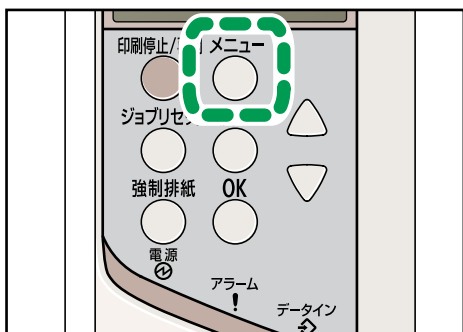
6 [戻る] キーを 1~4 回押します。

インサツスルニハ モドルキーヲ
1-4 カイ オシテクダサイ

文書が印刷され、通常の画面に戻ります。
オプションのハードディスクに蓄積された文書は削除されます。

■すべての文書を印刷する

1 [メニュー] キーを押します。



BMT098S

2 [▼] [▲] キーを押して「タメシインサツ ブンショ」を選択し、[OK] を押します。

<メニュー>
タメシインサツ ブンショ

3 [▼] [▲] キーを押して、「2. ゼンブンショ インサツ」を表示させ、[OK] を押します。

<タメシインサツ ブンショ>
2. ゼンブンショ インサツ

ユーザー ID が表示されます。

4 [▼] [▲] キーを押して、印刷するユーザー ID を表示させ、[OK] キーを押します。

<ユーザー ID センタク>
User001

5 印刷対象となる文書数が表示されます。確認して [OK] キーを押します。

タイショウブンショスウ：4
OKキーデ カクテイシマス

6 [▼] [▲] キーを押して印刷部数を設定し、[OK] キーを押します。

プスウ： 6 (1-999)
プスウヲセットシテ OKキー

印刷部数を設定しなかった場合、印刷対象の文書の中で、プリンタードライバーから指定したもっとも少ない部数より 1 部少ない部数で、選択したすべての文書が印刷されます。設定した中でもっとも少ない部数が 1 の場合、1 部ずつ印刷されます。

7 [戻る] キーを 1~4 回押します。

インサツスルニハ モドルキーヲ
1-4カイ オシテクダサイ

文書が印刷され、通常の画面に戻ります。
ハードディスクに蓄積されていた文書は削除されます。

↓ 補足

- 印刷を中止する場合は、[戻る] キーを押します。
- 2 部目以降の印刷中に [ジョブリセット] キーを押すと、印刷を中止することができます。この場合、本機に蓄積した文書は消去されます。
- 他のジョブがある場合は、そのジョブの終了後に印刷されます。
- 蓄積した文書を印刷するのに必要な用紙サイズまたは用紙種類がトレイにセットされていない場合、操作部に警告画面が表示されます。トレイの設定を変更するか、強制印刷をしてください。画面の表示はオプションの装着状態などによって異なります。

☰ 参照

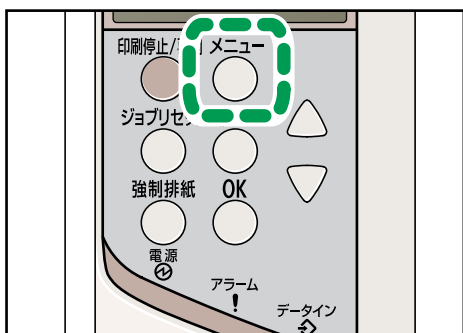
- P88 「用紙のサイズや種類がエラーになったとき」

試し印刷文書を消去する

試し印刷の内容を確認し、2 部目以降を印刷しない場合は、本機に蓄積されている文書を消去します。

■ 選択した文書のみを消去する

1 [メニュー] キーを押します。



BMT098S

メニュー画面が表示されます。

2 [▼] [▲] キーを押して「タメシインサツ ブンショ」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<メニュー>  
タメシインサツ ブンショ
```

3 [▼] [▲] キーを押して「3. センタクブンショシヨウキョ」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<タメシインサツ ブンショ>  
3. センタクブンショシヨウキョ
```

蓄積されている文書の印刷指示を出した時間とファイル名が表示されます。

4 [▼] [▲] キーを押して削除する文書を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<ブンショ センタク>  
19:37 Doc001
```

5 文書を確認し、[OK] キーを押します。

```
19:37 Doc001  
OKキーデ ショウキョサレマス
```

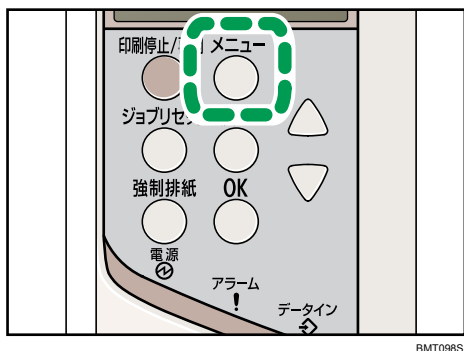
「ショウキョサレマシタ」というメッセージが表示され、試し印刷文書の選択画面に戻ります。

6 [メニュー] キーを押します。

通常の画面に戻ります。

■すべての文書を消去する

1 [メニュー] キーを押します。



メニュー画面が表示されます。

2 [▼] [▲] キーを押して「タメシインサツ ブンショ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー>
タメシインサツ ブンショ

3 [▼] [▲] キーを押して「4. ゼンブンショ ショウキョ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<タメシインサツ ブンショ>
4. ゼンブンショ ショウキョ

蓄積されている文書のユーザー ID が表示されます。

4 [▼] [▲] キーを押して全文書消去するユーザー ID を選択し、[OK] キーを押します。

<ユーザー ID センタク>
User001

5 対象となる文書数が表示されます。確認して、[OK] キーを押します。

タイショウブンショスウ：4
OKキーデ ショウキョサレマス

「ショウキョサレマシタ」というメッセージが表示され、試し印刷文書の選択画面に戻ります。

6 [メニュー] キーを押します。

通常の画面に戻ります。

↓ 補足

・消去を取り消す場合は、[戻る] キーを押します。

機密印刷する

ネットワークでプリンターを共有している場合など、他人に見られたくない文書を印刷するときなどに有効な機能です。いったん本機にデータを蓄積し、操作部を使用して蓄積したデータを印刷することができます。機密印刷を使うと本機の操作部からパスワードを入力しないと印刷できなくなりますので、他人に見られる心配がありません。

★重要

- ・この機能は、オプションのハードディスクが装着されている場合に使用できます。
- ・以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー文書表示で確認できます。(印刷データによっては、以下の文書数よりも少なくなることがあります。)
 - ・1文書あたり1,000ページを超える文書
 - ・保存印刷と一時的な蓄積文書（試し印刷 / 機密印刷 / 保留印刷の文書）が、合計して100ジョブ本機に蓄積されているときに、送信された101番目の文書
 - ・保存印刷と一時的な蓄積文書（試し印刷 / 機密印刷 / 保留印刷の文書）の合計が、9,000ページを超えた場合

プリンターに機密文書データを送る

- 1** 機密印刷する文書に印刷指示をします。
- 2** プリンタードライバーのプロパティの [基本] タブで、[印刷方法] から [機密印刷] を選択します。
「ワンクリック設定」を選択しているときは、[印刷機能] タブをクリックします。
- 3** [印刷方法の詳細] をクリックします。
「印刷方法の詳細」画面が表示されます。
- 4** [ユーザー ID] を半角英数字 8 文字以内で入力します。
- 5** [パスワード] を半角数字 4 文字以上 8 文字以内で入力します。
- 6** [OK] をクリックします。
パスワードの確認画面が表示されます。
- 7** パスワードを再度入力して、[OK] をクリックします。
- 8** 印刷の指示をします。
本機に文書が蓄積されます。
- 9** 操作部でパスワードを入力し、印刷するか消去するかを指示します。

補足

- ・オプションのハードディスクが装着されていない場合は、印刷文書は蓄積されません。
- ・ここでは RPCS プリンタードライバーを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバーを使用した場合の説明については、『PostScript 3 ガイド』『Windows で使う』を参照してください。
- ・主電源を「Off」にしても、蓄積された機密印刷文書は消去されずに残りますが、[イチジオキゼンショウキョ] や [ホゾンゼンショウキョ] が優先されます。設定については、「調整 / 管理メニュー」の [イチジオキゼンショウキョ] や [ホゾンゼンショウキョ] を参照してください。

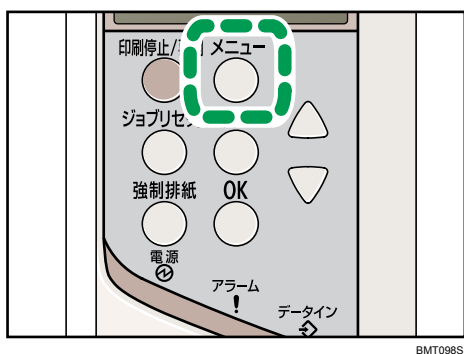
参照

- ・ P.103 「機密印刷文書を消去する」
- ・ P.160 「調整 / 管理メニュー」
- ・ P.130 「エラー文書を確認する」

操作部を使って機密印刷する

■ 選択した文書のみを印刷する

1 [メニュー] キーを押します。



BMT098S

2 [▼] [▲] キーを押して「キミツインサツ プンショ」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<メニュー>
キミツインサツ プンショ
```

3 [▼] [▲] キーを押して「1. センタクブンショ インサツ」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<キミツインサツ プンショ>
1. センタクブンショ インサツ
```

蓄積されている文書の印刷指示を出した時間とファイル名が表示されます。

4 [▼] [▲] キーを押して印刷する文書を表示させ、[OK] キーを押します。

<ブンショ センタク>
08:56 Doc001

パスワード入力画面が表示されます。

5 [▼] [▲] キーを押して設定したパスワードの 1 桁目を表示させ、[OK] キーを押します。

パスワード：
*

カーソルが次の桁に移動します。

6 同様にすべての桁を設定し、[OK] キーを押します。

パスワード：

印刷の確認画面が表示されます。

入力したパスワードが正しくないときは、メッセージが表示されますので、再度入力してください。

パスワードが分からなくなった場合は、管理者にご相談ください。

7 印刷する文書を確認し、[OK] キーを押します。

08:56 Doc001
OKキーデ カクテイシマス

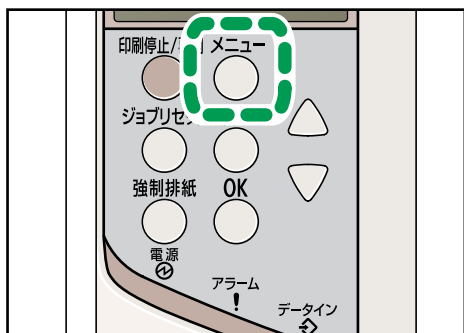
8 [戻る] キーを 1~4 回押します。

インサツスルニハ モドルキーヲ
1-4カイ オシテクダサイ

文書が印刷され、ハードディスクに蓄積されていた文書は削除されます。
通常画面に戻ります。

■すべての文書を印刷する

1 [メニュー] キーを押します。



BMT098S

3

2 [▼] [▲] キーを押して「キミツインサツ プンショ」を選択し、[OK] を押します。

<メニュー>
キミツインサツ プンショ

3 [▼] [▲] キーを押して、「2. ゼンブンショ インサツ」を表示させ、[OK] を押します。

<キミツインサツ プンショ>
2. ゼンブンショ インサツ

蓄積されている文書のユーザー ID が表示されます。

4 [▼] [▲] キーを押して、印刷するユーザー ID を表示させ、[OK] キーを押します。

<ユーザー ID センタク>
User001

パスワード入力画面が表示されます。

5 [▼] [▲] キーを押して設定したパスワードの 1 桁目を表示させ、[OK] キーを押します。

パスワード：
*

カーソルが次の桁に移動します。

6 同様にすべての桁を設定し、[OK] キーを押します。

パスワード：

印刷の確認画面が表示されます。

入力したパスワードが正しくないときは、メッセージが表示されますので、再度入力してください。

パスワードが分からなくなった場合は、管理者にご相談ください。

7 印刷対象となる文書数が表示されます。確認して、[OK] キーを押します。

タイショウブンショウスウ：4
OKキーデ カクテイシマス

入力したパスワードと合致するもののみが印刷対象となります。入力したものと違うパスワードの設定された文書を印刷する場合は、同様の手順で操作します。

8 [戻る] キーを 1~4 回押します。

インサツスルニハ モドルキーヲ
1-4カイ オシテクダサイ

文書が印刷され、通常の画面に戻ります。

ハードディスクに蓄積されていた文書は削除されます。

↓ 補足

- 印刷を中止する場合は、[戻る] キーを押します。
- 印刷開始後に [ジョブリセット] キーを押すと、印刷を中止することができます。この場合、本機に蓄積した文書は消去されます。
- 蓄積した文書を印刷するのに必要な用紙サイズまたは用紙種類がトレイにセットされていない場合、操作部に警告画面が表示されます。トレイの設定を変更するか、強制印刷をしてください。画面の表示はオプションの装着状態などによって異なります。

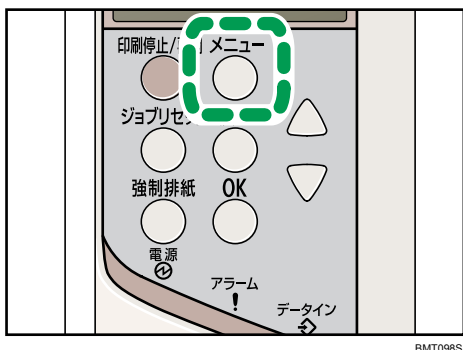
☞ 参照

- P88 「用紙のサイズや種類がエラーになったとき」

機密印刷文書を消去する

■ 選択した文書のみを消去する

1 [メニュー] キーを押します。



メニュー画面が表示されます。

2 [▼] [▲] キーを押して「キミツインサツ プンシヨ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー>
キミツインサツ プンシヨ

3 [▼] [▲] キーを押して「3. センタクブンシヨシヨウキヨ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<キミツインサツ プンシヨ>
3. センタクブンシヨシヨウキヨ

蓄積されている文書の印刷指示を出した時間とファイル名が表示されます。

4 [▼] [▲] キーを押して削除する文書を表示させ、[OK] キーを押します。

<ブンシヨ センタク>
19:37 Doc001

5 [▼] [▲] キーを押して設定したパスワードの 1 桁目を表示させ、[OK] キーを押します。

パスワード:
*

カーソルが次の位に移動します。

6 同様にすべての桁を設定し、[OK] キーを押します。

パスワード：

印刷の確認画面が表示されます。

入力したパスワードが正しくないときはメッセージが表示されますので、再度入力してください。

7 削除する文書を確認し、[OK] キーを押します。

19:37 Doc001
OKキーデ ショウキョサレマス

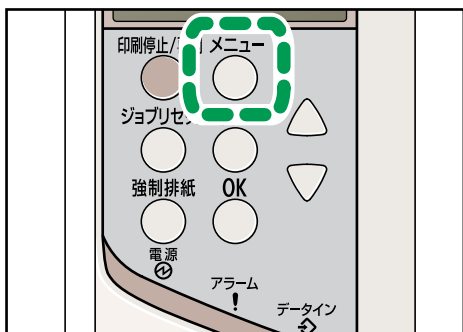
「ショウキョサレマシタ」というメッセージが表示され、機密印刷文書の選択画面に戻ります。

8 [メニュー] キーを押します。

通常画面に戻ります。

■ すべての文書を消去する

1 [メニュー] キーを押します。



メニュー画面が表示されます。

2 [▼] [▲] キーを押して「キミツインサツ ブンショ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー>
キミツインサツ ブンショ

3 [▼] [▲] キーを押して「4. ゼンブンショ ショウキョ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<キミツインサツ ブンショ>
4. ゼンブンショ ショウキョ

蓄積されている文書のユーザー ID が表示されます。

- 4** [▼] [▲] キーを押して全文書消去するユーザー ID を選択し、[OK] キーを押します。

<ユーザー ID センタク>
Doc001

- 5** [▼] [▲] キーを押して設定したパスワードの 1 桁目を表示させ、[OK] キーを押します。

パスワード：
*

カーソルが次の位に移動します。

- 6** 同様にすべての桁を設定し、[OK] キーを押します。

パスワード：

印刷対象となる文書数が表示されます。

入力したパスワードが正しくないときはメッセージが表示されますので、再度入力してください。

入力したパスワードと合致するものだけが消去対象となります。入力したものと違うパスワードの設定された文書を消去する場合は、同様の手順で操作します。

- 7** 対象となる文書数が表示されます。確認して、[OK] キーを押します。

タイショウブンショウスウ：4
OKキーデ ショウキョサレマス

「ショウキョサレマシタ」というメッセージが表示され、機密印刷文書の選択画面に戻ります。

- 8** [メニュー] キーを押します。

通常画面に戻ります。

補足

- ・消去を取り消す場合は、[戻る] キーを押します。
- ・入力したパスワードが正しくないときは、「パスワードが正しくありません」と表示されパスワード入力画面に戻るため、再度入力します。
- ・パスワードが分からなくなった場合は、管理者にご相談ください。

保留文書を印刷する

本機に文書を一時的に蓄積し、必要に応じて印刷を行います。複数の文書をまとめて印刷するときなどに有効です。

★重要

- この機能は、オプションのハードディスクが装着されている場合に使用できます。
- 以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー文書表示で確認できます。(印刷データによっては、以下の文書数よりも少なくなることがあります。
 - 1文書あたり 1,000 ページを超える文書
 - 保存印刷と一時的な蓄積文書（試し印刷 / 機密印刷 / 保留印刷の文書）が、合計して 100 ジョブ本機に蓄積されているときに、送信された 101 番目の文書
 - 保存印刷と一時的な蓄積文書（試し印刷 / 機密印刷 / 保留印刷の文書）の合計が、9,000 ページを超えた場合

3

プリンターに保留文書データを送る

- 1 保留印刷する文書に印刷指示をします。
- 2 プリンタードライバーのプロパティの【基本】タブで、【印刷方法】から【保留印刷】を選択します。
「ワンクリック設定」を選択しているときは、【印刷機能】タブをクリックします。
- 3 【印刷方法の詳細 ...】をクリックします。
「印刷方法の詳細」画面が表示されます。
- 4 【ユーザー ID】を半角英数字 8 文字以内で入力します。
- 5 【OK】をクリックします。
- 6 印刷の指示をします。
本機に文書が蓄積されます。

↓補足

- オプションのハードディスクが装着されていない場合は、印刷文書は蓄積されません。
- ここでは RPCS プリンタードライバーを使用した場合の説明をしています。PostScript 3 プリンタードライバーを使用した場合の説明については、『PostScript 3 ガイド』『Windows で使う』を参照してください。
- 主電源を「Off」にしても、蓄積された保留印刷文書は消去されずに残りますが、【イチジオキゼンショウキョ】や【ホゾンゼンショウキョ】が優先されます。設定については、「調整 / 管理メニュー」の【イチジオキゼンショウキョ】や【ホゾンゼンショウキョ】を参照してください。
- 保留文書には文書名とパスワードを設定できます。ただし、どちらも必須ではありません。

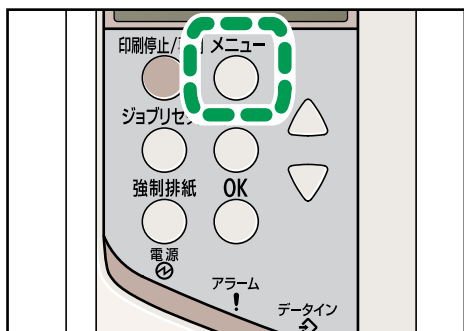
E 参照

- P.109 「保留印刷文書を消去する」
- P.160 「調整 / 管理メニュー」
- P.130 「エラー文書を確認する」

操作部を使って保留印刷する

■ 選択した文書のみを印刷する

1 [メニュー] キーを押します。



BMT098S

2 [▼] [▲] キーを押して「ホリュウインサツ ブンショ」を選択し、[OK] を押します。

```
<メニュー>
ホリュウインサツ ブンショ
```

3 [▼] [▲] キーを押して、「1. センタクブンショ インサツ」を表示させ、[OK] を押します。

```
<ホリュウインサツ ブンショ>
1. センタクブンショ インサツ
```

蓄積されている文書の印刷指示を出した時間とファイル名が表示されます。

4 [▼] [▲] キーを押して、印刷する文書を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<ブンショ センタク>
08:56 Doc001
```

5 メッセージを確認して、[OK] キーを押します。

```
08:56 Doc001
OKキーデ カクテイシマス
```

6 [戻る] キーを 1~4 回押します。

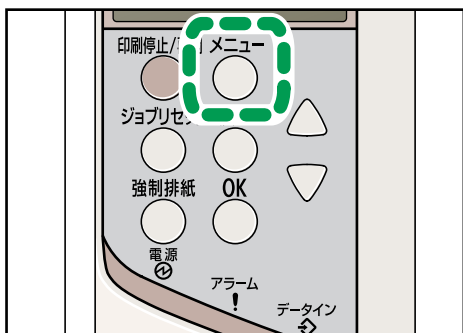
```
インサツスルニハ モドルキーヲ
1-4カイ オシテクダサイ
```

文書が印刷され、通常の画面に戻ります。

オプションのハードディスクに蓄積された文書は削除されます。

■すべての文書を印刷する

1 [メニュー] キーを押します。



2 [▼] [▲] キーを押して「ホリユウインサツ プンショ」を選択し、[OK] を押します。

<メニュー>
ホリユウインサツ プンショ

3 [▼] [▲] キーを押して、「2. ゼンブンショ インサツ」を表示させ、[OK] を押します。

<ホリユウインサツ プンショ>
2. ゼンブンショ インサツ

蓄積されている文書のユーザー ID が表示されます。

4 [▼] [▲] キーを押して、印刷するユーザー ID を表示させ、[OK] キーを押します。

<ユーザー ID センタク>
User001

5 対象となる文書数が表示されます。確認して、[OK] キーを押します。

タイショウブンショスウ：4
OKキーデ カクテイシマス

6 [戻る] キーを 1~4 回押します。

インサツスルニハ モドルキーヲ
1-4カイ オシテクダサイ

文書が印刷されます。通常の画面に戻ります。

オプションのハードディスクに蓄積されていた文書は削除されます。

補足

- 印刷を中止する場合は、[戻る] キーを押します。
- 2 部目以降の印刷中に [ジョブリセット] キーを押すと、印刷を中止することができます。この場合、本機に蓄積した文書は消去されます。
- 他のジョブがある場合は、そのジョブの終了後に印刷されます。
- 蓄積した文書を印刷するのに必要な用紙サイズまたは用紙種類がトレイにセットされていない場合、操作部に警告画面が表示されます。トレイの設定を変更するか、強制印刷をしてください。画面の表示はオプションの装着状態などによって異なります。

参照

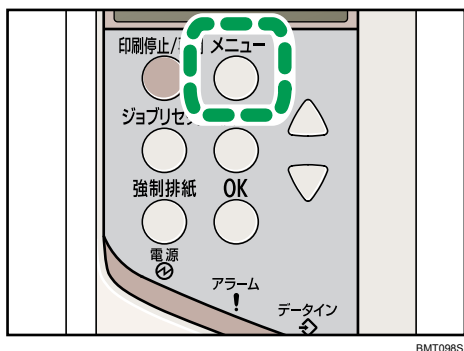
- P.88 「用紙のサイズや種類がエラーになったとき」

3

保留印刷文書を消去する

■ 選択した文書のみを消去する

- 1 [メニュー] キーを押します。



メニュー画面が表示されます。

- 2 [▼] [▲] キーを押して「ホリユウインサツ プンシヨ」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<メニュー>
ホリユウインサツ プンシヨ
```

- 3 [▼] [▲] キーを押して「3. センタクブンシヨシヨウキヨ」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<ホリユウインサツ プンシヨ>
3. センタクブンシヨシヨウキヨ
```

蓄積されている文書の印刷指示を出した時間とファイル名が表示されます。

- 4** [▼] [▲] キーを押して削除する文書を表示させ、[OK] キーを押します。

<ブンショ センタク>
08:56 Doc001

- 5** 文書を確認し、[OK] キーを押します。

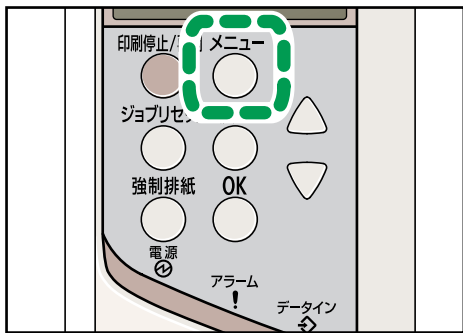
08:56 Doc001
OKキーデ ショウキョサレマス

「ショウキョサレマシタ」というメッセージが表示され、保留印刷文書の選択画面に戻ります。

- 6** [メニュー] キーを押します。
通常の画面に戻ります。

■すべての文書を消去する

- 1** [メニュー] キーを押します。



BMT098S

メニュー画面が表示されます。

- 2** [▼] [▲] キーを押して「ホリユウインサツ ブンショ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー>
ホリユウインサツ ブンショ

- 3** [▼] [▲] キーを押して「4. ゼンブンショ ショウキョ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<ホリユウインサツ ブンショ>
4. ゼンブンショ ショウキョ

蓄積されている文書のユーザー ID が表示されます。

- 4** [▼] [▲] キーを押し全文書消去するユーザー ID を選択し、[OK] キーを押します。

<ユーザー ID センタク>
User001

- 5** 対象となる文書数が表示されます。確認して、[OK] キーを押します。

タイショウブンショウ: 4
OKキーデ ショウキョサレマス

「ショウキョサレマシタ」というメッセージが表示され、保留印刷文書の選択画面に戻ります。

- 6** [メニュー] キーを押します。

通常の画面に戻ります。

↓ 補足

- ・ 消去を取り消す場合は、[戻る] キーを押します。

保存文書を印刷する

本機に文書を蓄積し、必要に応じて印刷を行います。印刷終了後にも文書が消去されない
ので、繰り返し印刷するときなどに有効です。

★重要

- ・この機能は、オプションのハードディスクが装着されている場合に使用できます。
- ・以下の場合、文書は本機に蓄積されません。蓄積されなかった文書は、エラー文書表示で確認できます。(印刷データによっては、以下の文書数よりも少なくなることがあります。)
 - ・1文書あたり1,000ページを超える文書
 - ・保存印刷と一時的な蓄積文書（試し印刷 / 機密印刷 / 保留印刷の文書）が、合計して100ジョブ本機に蓄積されているときに、送信された101番目の文書
 - ・保存印刷と一時的な蓄積文書（試し印刷 / 機密印刷 / 保留印刷の文書）の合計が、9,000ページを超えた場合

3

プリンターに保存文書データを送る

1 保存文書にする文書に印刷指示をします。

2 プリンタードライバーのプロパティの [基本] タブで、[印刷方法] から [プリンターに保存する] または [プリンターに保存して印刷する] を選択します。

- ・[プリンターに保存する] を選択した場合は、本機に蓄積のみを行い、後から本機の操作部で印刷します。
- ・[プリンターに保存して印刷する] を選択した場合は、1部目をすぐに印刷し、本機にも文書を蓄積します。
- ・「ワンクリック設定」を選択しているときは、[印刷機能] タブをクリックします。

3 [印刷方法の詳細...] をクリックします。

「印刷方法の詳細」画面が表示されます。

4 [ユーザー ID] を半角英数字8文字以内で入力します。

5 [OK] をクリックします。

6 印刷の指示をします。

本機に文書が蓄積されます。

↓補足

- ・ここではRPCSプリンタードライバーを使用した場合の説明をしています。PostScript 3プリンタードライバーを使用した場合の説明については、『PostScript 3ガイド』『Windowsで使う』を参照してください。
- ・主電源を「Off」にしても、蓄積された保存文書は消去されずに残りますが、[イチジョオキゼンショウキョ] や [ホゾンゼンショウキョ] が優先されます。設定については、「調整 / 管理メニュー」の [イチジョオキゼンショウキョ] や [ホゾンゼンショウキョ] を参照してください。
- ・保存文書には文書名とパスワードを設定できます。ただし、どちらも必須ではありません。

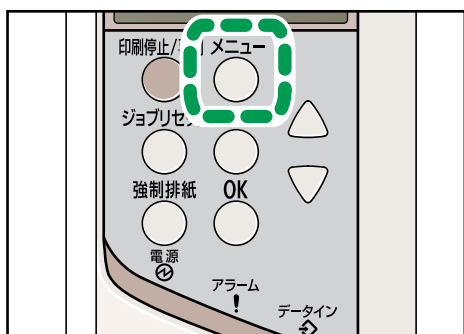
参照

- P.116 「保存文書を消去する」
- P.160 「調整 / 管理メニュー」
- P.130 「エラー文書を確認する」

操作部を使って保存文書を印刷する

■ 選択した文書のみを印刷する

1 [メニュー] キーを押します。



BMT098S

2 [▼] [▲] キーを押して「ホゾン プンシヨ」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<メニュー>
ホゾン プンシヨ
```

3 [▼] [▲] キーを押して「1. センタクブンシヨ インサツ」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<ホゾンブンシヨ>
1. センタクブンシヨ インサツ
```

蓄積されている文書の印刷指示を出した時間とファイル名が表示されます。

4 [▼] [▲] キーを押して印刷する文書を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<ブンシヨ センタク>
08:56 Doc001
```

5 印刷部数が表示されます。確認して、[OK] キーを押します。

```
ブスウ: 6 (1-999)
ブスウマセットシテ OKキー
```

印刷部数を変更する場合は、[▼] [▲] キーを押して設定します。

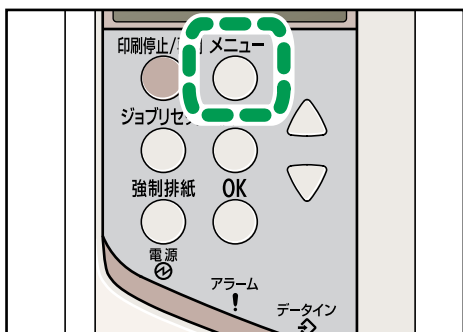
6 [戻る] キーを 1~4 回押します。

インサツスルニハ モドルキーヲ
1-4カイ オシテクダサイ

保存文書が印刷され、通常画面に戻ります。
印刷が終了しても、保存文書は消去されません。

■すべての文書を印刷する

1 [メニュー] キーを押します。



2 [▼] [▲] キーを押して「ホゾン プンショ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー>
ホゾン プンショ

3 [▼] [▲] キーを押して「2. ゼンブンショ インサツ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<ホゾンブンショ>
2. ゼンブンショ インサツ

蓄積されている文書のユーザー ID が表示されます。

4 印刷するユーザー ID を選択し、[OK] キーを押します。

<ユーザー ID センタク>
User001

5 対象となる文書数が表示されます。確認して、[OK] キーを押します。

タイショウブンショスウ：4
OKキーデ カクテイシマス

6 印刷部数が表示されます。確認して、[OK] キーを押します。

ブスウ： 6 : (1-999)
ブスウヲセットシテ OKキー

印刷部数を変更する場合は [▼] [▲] キーを押して印刷部数を設定します。
印刷部数を設定しなかった場合、印刷対象の文書の中でプリンタードライバーから指定したもっとも少ない部数で、選択したすべての文書が印刷されます。

7 [戻る] キーを 1~4 回押します。

インサツスルニハ モドルキーヲ
1-4カイ オシテクダサイ

保存文書が印刷され、通常画面に戻ります。
印刷が終了しても、保存文書は消去されません。

補足

- 文書にパスワードが設定されている場合は、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力してください。
- 蓄積されている保存文書の中で、パスワードが合致した文書、およびパスワードが設定されていない文書のみが印刷対象になります。
- パスワードが分からなくなった場合は、管理者にご相談ください。
- 印刷を中止する場合は、[戻る] キーを押します。
- 印刷開始後に [ジョブリセット] キーを押すと、印刷を中止することができます。[ジョブリセット] キーを押しても、保存文書は消去されません。
- 蓄積した文書を印刷するのに必要な用紙サイズまたは用紙種類がトレイにセットされていない場合、操作部に警告画面が表示されます。トレイの設定を変更するか、強制印刷をしてください。画面の表示はオプションの装着状態などによって異なります。

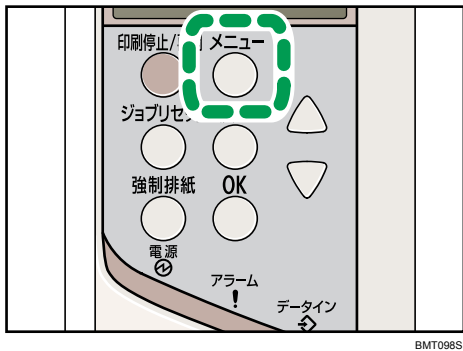
参照

- P88 「用紙のサイズや種類がエラーになったとき」

保存文書を消去する

■ 選択した文書のみを消去する

1 [メニュー] キーを押します。



メニュー画面が表示されます。

2 [▼] [▲] キーを押して「ホゾン プンシヨ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー>
ホゾン プンシヨ

3 [▼] [▲] キーを押して「3. センタクブンシヨ ショウキヨ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<ホゾン プンシヨ>
3. センタクブンシヨショウキヨ

蓄積されている文書の印刷指示を出した時間とファイル名が表示されます。

4 [▼] [▲] キーを押し削除する文書を表示させ、[OK] キーを押します。

<ブンシヨ センタク>
19:37 Doc001

5 文書を確認し、[OK] キーを押します。

19:37 Doc001
OKキーデ ショウキヨサレマス

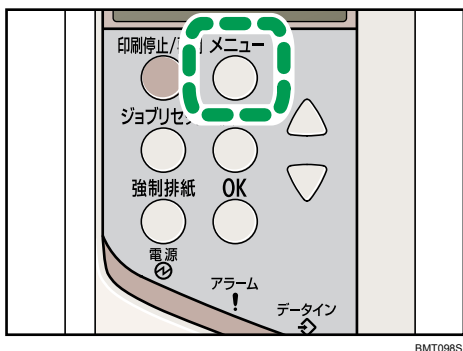
「ショウキヨサレマシタ」というメッセージが表示され、保存文書印刷の選択画面に戻ります。

6 [メニュー] キーを押します。

通常の画面に戻ります。

■すべての文書を消去する

- 1 [メニュー] キーを押します。



メニュー画面が表示されます。

- 2 [▼] [▲] キーを押して「ホゾン ブンシヨ」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<メニュー>
ホゾン ブンシヨ
```

- 3 [▼] [▲] キーを押して「4. ゼンブンシヨ ショウキヨ」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<ホゾンブンシヨ>
4. ゼンブンシヨ ショウキヨ
```

蓄積されている文書のユーザー ID が表示されます。

- 4 [▼] [▲] キーを押し削除するユーザー ID を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<ユーザー ID センタク>
User001
```

消去の対象となる文書数が表示されます。

- 5 [OK] キーを押します。

```
タイショウブンシヨスウ：4
OKキーデ ショウキヨサレマス
```

「ショウキヨサレマシタ」というメッセージが表示され、保存文書印刷の選択画面に戻ります。

- 6 [メニュー] キーを押します。

通常の画面に戻ります。

↓ 補足

- 文書にパスワードが設定されている場合は、パスワード入力画面が表示されます。パスワードを入力してください。この場合は、パスワードに合致したものとパスワードが設定されていないものが消去対象となります。入力したものと違うパスワードの設定された文書を消去する場合は、同じ手順で操作してください。
- パスワードが分からなくなった場合は、管理者にご相談ください。
- 消去を取り消す場合は、[戻る] キーを押します。

印刷を中止する

印刷を中止する場合は、本機とパソコン両方から行います。中止する方法は印刷データの状態によって異なりますので、状況を確認し、以下の手順で操作してください。

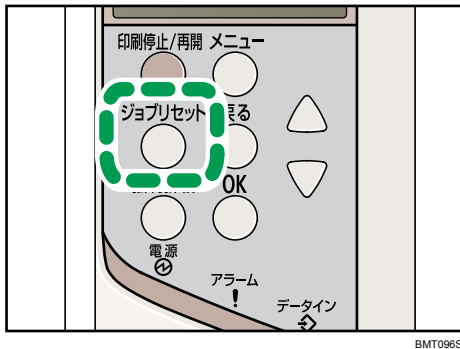
- 1 印刷を中止したいデータが、現在本機から印刷されているか確認します。
データが印刷されていないでもデータインランプが点滅・点灯していれば、本機はデータを受信しています。
- 2 印刷を中止します。
データの印刷状況によって、次のいずれかの操作を行ってください。

3

中止したいデータが印刷されている場合

印刷を中止したいデータが印刷されている場合の、操作方法です。

- 1 [ジョブリセット] キーを押します。



BMT096S

確認画面が表示されます。

- 2 [▼] [▲] キーを押して、印刷されていたジョブのみを消去したい場合は [カレントジョブ] を、すべてのジョブを消去したい場合は [スベテノジョブ] を表示させ、[OK] キーを押します。

ジョブリセットシマスカ?
スベテノジョブ

印刷を継続したい場合は、[▼] [▲] キーを押して [インサツケイゾク] を表示させ、[OK] キーを押します。

確認のメッセージが表示されます。

- 3 [OK] キーを押します。

スベテノジョブヲ
リセットシマスカ?

文書が消去されます。

消去を取り消すときは、[戻る] キーを押します。

↓ 補足

- ・印刷を中止し、いったん印刷は中止されたにもかかわらず、データ途中から印刷が再び開始されるときは、「インターフェース設定」の[IF キリカエジカン]を長くしてください。
- ・大容量データの印刷を中止したいときは、[ジョブリセット] キーを押した後、パソコン側からも印刷を中止することをお勧めします。

中止したいデータが印刷されていない場合

印刷を中止したいデータが、まだ印刷されていない場合の操作方法です。

3

- 1** Windows のタスクトレイのプリンターアイコンをダブルクリックします。
印刷中のプリンターのウィンドウが開くので、印刷を中止する文書の状態を確認します。
- 2** 印刷を中止する文書のドキュメント名をクリックして反転表示させます。
- 3** [ドキュメント] メニューの [キャンセル] をクリックします。
印刷が中止されます。

↓ 補足

- ・[プリンタ] メニューの [すべてのドキュメントの取り消し] をクリックすると、印刷待ち状態のすべてのドキュメントが削除されます。ただし、[すべてのドキュメントの取り消し] を使って印刷を中止するには、「プリンタの管理」のアクセス権が必要です。
- ・印刷の中止を選択したドキュメントの印刷が開始している場合は、プリンターのウィンドウからドキュメント名が消えるまで、多少時間がかかります。

印刷終了後にプリンターのエミュレーションを切り替える

複数のパソコンで本機を共有している場合で、その中に DOS または UNIX で印刷しているパソコンがあるときに使用する機能です。

通常 DOS または UNIX から印刷するには、使用するアプリケーションに応じてプリンターのエミュレーションを設定しておく必要があります。印刷後のエミュレーションとして DOS または UNIX から印刷するときのエミュレーション（またはプログラム）を選択しておく、次の印刷が DOS または UNIX からの場合でもエミュレーションを切り替えずに印刷できます。

3

- 1** アプリケーションで文書を作成し、プリンタードライバーの設定画面を表示します。
- 2** [その他] タブをクリックします。
[ワンクリック設定] を選択しているときは、[印刷機能] タブで [アイコンの変更／新規作成] をクリックし、[その他] をクリックします。
- 3** [印刷後のエミュレーション] ボックスのドロップダウンメニューからエミュレーションを選択します。
Windows だけでお使いのときは、[なし] または [直前のエミュレーション] を選択してください。
[直前のエミュレーション] を選択すると、印刷前に設定されていたエミュレーションに戻ります。
- 4** [ワンクリック設定] を選択しているときは [名前をつけて保存] または [上書き保存] をクリックし、設定を保存します。
- 5** その他の印刷条件を必要に応じて指定し、[OK] をクリックします。
プリンタードライバーの設定画面が閉じます。
- 6** 印刷の指示をします。

4. プリンター本体の設定

本機の操作部に表示されるメニューや、設定項目についての説明です。

[メニュー] キー機能一覧

操作部では、本機を使用するために必要な各種の基本的な設定や調整を行うことができます。ここでは設定可能なメニューと項目一覧を説明します。

◆ メモリー内残存データ状態確認 (データジョウタイカクニン)

メモリー内のデータ状況を確認します。

↓ 補足

- ・ オプションのセキュリティーカードを装着しているときに表示されます。

目 参照

- ・ P.132 「メモリー内残存データ状態確認メニュー」

◆ 試し印刷文書 (タメシインサツ ブンショ)

設定項目
1. 選択文書印刷 (センタクブンショ インサツ)
2. 全文書印刷 (ゼンブンショ インサツ)
3. 選択文書消去 (センタクブンショ ショウキョ)
4. 全文書消去 (ゼンブンショ ショウキョ)
5. エラー文書表示 (エラーブンショ ヒョウジ)

↓ 補足

- ・ 試し印刷文書は、オプションのハードディスクを装着しているときに表示されます。

目 参照

- ・ P.91 「試し印刷する」

◆ 機密印刷文書 (キミツインサツ ブンショ)

設定項目
1. 選択文書印刷 (センタクブンショ インサツ)
2. 全文書印刷 (ゼンブンショ インサツ)
3. 選択文書消去 (センタクブンショ ショウキョ)
4. 全文書消去 (ゼンブンショ ショウキョ)
5. エラー文書表示 (エラーブンショ ヒョウジ)

↓ 補足

- ・機密印刷文書は、オプションのハードディスクを装着しているときに表示されます。

目 参照

- ・P.98 「機密印刷する」

◆ 保留印刷文書（ホリユウインサツ プンショ）

設定項目
1. 選択文書印刷（センタクブンショ インサツ）
2. 全文書印刷（ゼンブンショ インサツ）
3. 選択文書消去（センタクブンショ ショウキョ）
4. 全文書消去（ゼンブンショ ショウキョ）
5. エラー文書表示（エラーブンショ ヒョウジ）

↓ 補足

- ・保留印刷文書は、オプションのハードディスクを装着しているときに表示されます。

目 参照

- ・P.106 「保留文書を印刷する」

◆ 保存文書（ホゾン プンショ）

設定項目
1. 選択文書印刷（センタクブンショ インサツ）
2. 全文書印刷（ゼンブンショ インサツ）
3. 選択文書消去（センタクブンショ ショウキョ）
4. 全文書消去（ゼンブンショ ショウキョ）
5. エラー文書表示（エラーブンショ ヒョウジ）

↓ 補足

- ・保存印刷文書は、オプションのハードディスクを装着しているときに表示されます。

目 参照

- ・P.112 「保存文書を印刷する」

◆ 用紙設定 (ヨウシセッテイ)

設定項目
1. 手差し用紙サイズ (テサシ ヨウシサイズ)
2. トレイ用紙サイズ (トレイ ヨウシサイズ)
3. 用紙種類 (ヨウシ シュルイ)
4. 両面印刷トレイ (リョウメンインサツトレイ) *1
5. 自動トレイ選択 (ジドウトレイセンタク)
6. 優先給紙トレイ (ユウセン キュウシトレイ)

*1 両面印刷ユニットが装着されているときに表示されます。

目 参照

- ・ P.133 「用紙設定メニュー」

◆ テスト印刷 (テストインサツ)

設定項目
1. 一括リスト印刷 (イッカツ リストインサツ)
2. システム設定リスト (システムセッテイ リスト)
3. エラー履歴 (エラー リレキ)
4. ネットワークサマリー (ネットワーク サマリー)
5. 印刷条件リスト (インサツジョウケン リスト)
6. メニューリスト (メニュー リスト)
7. 登録フォームリスト (トウロクフォーム リスト)
8. 全文字印刷 (ゼンモジ インサツ)
9. フォントリスト (フォント リスト)
10. PS 情報リスト (PS ジョウホウ リスト)
11. PDF 情報リスト (PDF ジョウホウ リスト)
12. ヘキサダンプ (ヘキサダンプ)

↓ 補足

- ・ 使用するエミュレーションによっては表示されないものがあります。

目 参照

- ・ P.136 「テスト印刷メニュー」

◆ 給紙トレイ選択 (キューシトレイ センタク)

印刷する給紙トレイを切り替えます。

RPDL をエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。

◆ エミュレーション呼び出し (エミュレーションヨビダシ)

エミュレーションやプログラムを切り替えるときに使用します。

◆ 印刷条件 (インサツジョウケン)

アプリケーションやパソコンに合わせて印刷条件を設定します。

RPDL をエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。

◆ プログラム登録 (プログラム トウロク)

設定した印刷条件を登録します。

RPDL をエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。

◆ 調整 / 管理 (チョウセイ / カンリ)

4

設定項目
1. 濃度調整 (ノウド チョウセイ)
2. 印刷位置調整 (インサツイチ チョウセイ)
3. カール低減 (カール テイゲン)
4. 一時置き文書全消去 (イチジオキゼンショウキョ)
5. 保存文書全消去 (ホゾン ゼンショウキョ)
6. HD フォーマット (HD フォーマット)
7. 日付 / 時刻設定 (ヒツケ / ジコク セッテイ)
8. 電波状態 (デンパ ジョウタイ)
9. 無線 LAN 設定値初期化 (ムセンセッテイチ ショキカ)
11. ブザー音 (ブザーオン)
12. ウォームアップ通知音 (ウォームアップツウ チオン)

↓ 補足

・装着されているオプションによって表示されないものがあります。

目 参照

・ P.160 「調整 / 管理メニュー」

◆ システム設定 (システムセッテイ)

設定項目
1. エラーレポート印刷 (エラーレポート インサツ)
2. エラースキップ (エラースキップ)
3. 画像エラー処理 (ガゾウエラー ショリ)
4. エラー表示設定 (エラーヒョウジ セッテイ)
5. 印刷枚数設定 (インサツマイルスウ セッテイ)

設定項目
6. 180度回転 (180ド カイテン)
7. 省エネモード (ショウエネ モード)
8. オートリセット設定 (オートリセット セッテイ)
9. 一時置き文書自動消去設定 (イチジオキ ショウキョ)
10. 保存文書自動消去設定 (ホゾン ショウキョ)
11. エミュレーション検知 (エミュレーション ケンチ)
12. 圧縮データ (アッシュクデータ)
13. 優先エミュレーション (ユウセン エミュレーション)
14. 優先メモリー (ユウセンメモリー)
15. スムージング (スムージング)
16. トナーセーブ (トナーセーブ)
17. スプール印刷 (スプールインサツ)
18. 補助用紙サイズ (ホジョヨウシ サイズ)
19. レターヘッド紙設定 (レターヘッド セッテイ)
20. 手差し設定選択 (テサシセッテイ センタク)
21. トレイ指定時動作切り替え (トレイドウサ キリカエ)
22. リミットレス給紙 (リミットレス キュウシ)
23. RAM ディスク (RAM ディスク)
24. 自動メール通知 (ジドウメール ツウチ)

↓ 補足

- 印刷枚数設定 (インサツマイスウ セッテイ)、スムージング (スムージング)、トナーセーブ (トナーセーブ)、トレイ指定時動作切り替え (トレイドウサ キリカエ) は、PostScript 3、PDF を搭載しているときに表示されます。
- スプール印刷 (スプールインサツ)、一時置き文書自動消去設定 (イチジオキ ショウキョ)、保存文書自動消去設定 (ホゾン ショウキョ) は、オプションのハードディスクを装着しているときに表示されます。
- RAM ディスク (RAM ディスク) は、オプションのハードディスクを装着していると表示されません。

目 参照

- ・ P.166 「システム設定メニュー」

◆ システム設定 (EM)(システムセッテイ (EM))

設定項目
1. 白紙排紙 (ハクシ ハイシ)

設定項目
2. 用紙なしエラー (ヨウシナシ エラー)
3. 自動排紙時間 (ジドウハイシジカン)
4. マクロキャッシュ (マクロキャッシュ)

↓ 補足

- RPD L をエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。

目 参照

- P.173 「システム設定 (EM) メニュー」

◆ PS 設定 (PS セッテイ)

4

設定項目
1. ジョブタイムアウト (ジョブ タイムアウト)
2. ウェイトタイムアウト (ウェイトタイムアウト)
3. 両面印刷 (リョウメン インサツ)
4. 白紙排紙 (ハクシ ハイシ)
5. データ形式 (データ ケイシキ)
6. 解像度 (カイゾウド)
7. 最大領域印刷 (サイダイ リョウイキ)
8. 印刷方向自動検知 (ホウコウ ジドウケンチ)

↓ 補足

- PostScript 3 をエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。

目 参照

- P.175 「PS 設定メニュー」

◆ PDF 設定 (PDF セッテイ)

設定項目
1. パスワード変更 (パスワード ヘンコウ)
2. グループパスワード (グループ パスワード)
3. 両面印刷 (リョウメン インサツ)
4. 白紙排紙 (ハクシ ハイシ)
5. 解像度 (カイゾウド)
6. 最大領域印刷 (サイダイ リョウイキ)
7. 印刷方向自動検知 (ホウコウ ジドウケンチ)

↓ 補足

- ・PDF をエミュレーション呼び出しで設定しているときに表示されます。

目 参照

- ・P.177 「PDF 設定メニュー」

◆ インターフェース設定 (インターフェースセッテイ)

設定項目
1. 受信バッファ (ジュシン バッファ)
2. I/F 切替時間 (I/F キリカエ ジカン)
3. ネットワーク設定 (ネットワーク セッテイ)
4. パラレル I/F 設定 (パラレル I/F セッテイ)
5. 無線 LAN 設定 (ムセン LAN)
7. USB ポート固定 (USB ポート コテイ)

↓ 補足

- ・パラレル I/F 設定 (パラレル I/F セッテイ) は、オプションの IEEE1284 ボードを装着しているときに表示されます。
- ・無線 LAN 設定 (ムセン LAN セッテイ) は、オプションの無線 LAN ボードを装着しているときに表示されます。

目 参照

- ・P.179 「インターフェース設定メニュー」

◆ シャットダウン (シャットダウン)

電源スイッチを「Off」にするための準備をします。ハードディスクやメモリーが破損し、誤作動を起こすのを避けるため、操作部からシャットダウンを行った後に電源スイッチを「Off」にしてください。

↓ 補足

- ・シャットダウンの方法は、『ハードウェアガイド』「電源の切りかた」を参照してください。

◆ 表示言語切替（ヒョウジゲンゴ）

設定項目
日本語（ニホンゴ）
English（English）

 参照

・P.184 「表示言語メニュー」

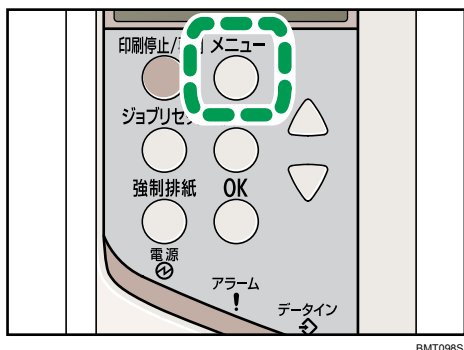
エラー文書を確認する

エラーなどにより文書を印刷できなかった場合は、操作部で確認することができます。

★重要

- ・エラー文書の表示は最新の 30 件が蓄積されます。すでに 30 件蓄積されているときに新たなエラーが加わると、最も古い履歴が消去されます。ただし、最も古い履歴が次の印刷の場合は消去されずに、蓄積エラーとして 30 件まで別に蓄積されます。エラー文書表示として、どちらも確認することができます。
 - ・ 試し印刷文書
 - ・ 機密印刷文書
 - ・ 保留印刷文書
 - ・ 保存文書

1 [メニュー] キーを押します。



メニュー画面が表示されます。

2 [▼] [▲] キーを押してエラー文書の見たい文書種類を選択し、[OK] キーを押します。

<メニュー>
ホゾン プンショ

ここでは保存文書を例にしています。

- 3** [▼] [▲] キーを押して「5. エラーブシヨ ヒヨウジ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<ホゾブシヨ> 5. エラーブシヨ ヒヨウジ

蓄積されているエラー文書の印刷指示を出した時間とファイル名が表示されます。

- 4** [▼] [▲] キーを押して履歴を確認します。

<エラー ブシヨ> 21:03 Doc002

- 5** 履歴を確認し終わったら、[戻る] キーを押します。
文書選択の画面に戻ります。

- 6** [メニュー] キーを押します。
通常の画面に戻ります。

↓ 補足

- ・エラーになった文書を印刷するには、オプションのハードディスクに蓄積されている該当文書を印刷するか、または削除してから再度パソコンから印刷指示をしてください。

メモリー内残存データ状態確認メニュー

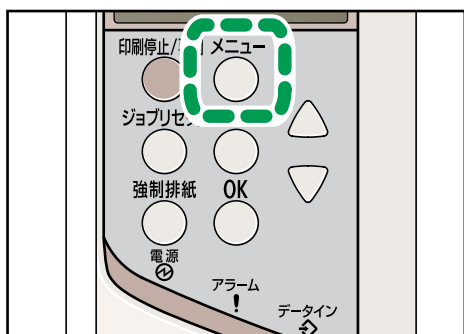
オプションのハードディスクが装着されている場合は、メモリー内のデータ状態を確認します。

★重要

- ・この機能は、オプションのセキュリティーカードを装着しているときに表示されます。

メモリー内のデータ状態を確認する

- 1 操作部の【メニュー】キーを押します。



BMT098S

- 2 [▲] [▼] キーを押して「データジョウタイカクニン」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー>
データジョウタイカクニン

- 3 メモリー内にデータが残っている場合は「ショウキョタイショウデータアリ」、データが残っていない場合は「ショウキョタイショウデータナシ」、データ消去実行中は「ショウキョチュウデス」と表示されます。

ショウキョタイショウデータ
アリ

ショウキョタイショウデータ
ナシ

ショウキョチュウデス

- 4 [OK] キーを押します。
メニュー画面に戻ります。

用紙設定メニュー

各トレイにセットする用紙のサイズや種類の設定など、用紙設定メニューで設定できる項目の説明です。

用紙設定メニューの設定項目

用紙設定メニューの設定項目の説明です。

- ◆ **手差し用紙サイズ (1. テサシ ヨウシサイズ)**
手差しトレイにセットする用紙サイズを設定します。
- ◆ **トレイ用紙サイズ (2. トレイ ヨウシサイズ)**
用紙サイズダイヤルが「*」に設定されている給紙トレイにセットする用紙サイズを設定します。
- ◆ **用紙種類 (3. ヨウシ シュルイ)**
セットする用紙の種類を設定します。
本機のパネルで必ず用紙種類を設定してください。設定していないと、期待した印刷結果が得られない場合があります。
- ◆ **両面印刷トレイ (4. リョウメンインサツトレイ)**
オプションの両面ユニットが装着されているときのメニュー項目です。
トレイごとに両面印刷をするかしないかを設定します。工場出荷時は、すべてのトレイが「リョウメンインサツ スル」になっています。
- ◆ **自動トレイ選択 (5. ジドウトレイ センタク)**
「自動トレイ選択」を設定すると、プリンタードライバーから指定された用紙サイズ、用紙種類に応じて、給紙トレイが自動的に選択されます。工場出荷時は、すべてのトレイが「タイショウニスル」になっています。
- ◆ **優先給紙トレイ (6. ユウセン キュウシトレイ)**
「優先給紙トレイ」とは、本機の電源を入れたときに選択される給紙トレイで、自動トレイ選択やリミットレス給紙のときに一番最初に対象となるトレイです。工場出荷時の設定は「トレイ1」です。

↓ 補足

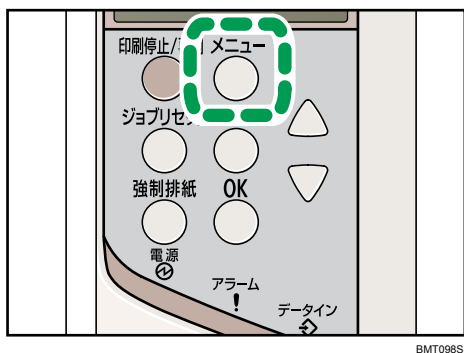
- ・手差し用紙サイズや、トレイ用紙サイズ、用紙種類でセットできる用紙のサイズや種類については、『ハードウェアガイド』「用紙のセット」を参照してください。

用紙設定メニューの設定を変更する

特定のトレイを自動トレイ選択の対象から外す

自動トレイ選択の対象としないトレイを設定します。

- 1 [メニュー] キーを押します。



BMT098S

- 2 [▲] [▼] キーを押して、「ヨウシセッテイ」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<メニュー>
ヨウシセッテイ
```

- 3 [▲] [▼] キーを押して、「5. ジドウトレイ センタク」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<ヨウシセッテイ>
5. ジドウトレイ センタク
```

- 4 [▲] [▼] キーを押して、自動トレイ選択の対象としないトレイを表示させ、[OK] キーを押します。

```
<ジドウトレイ センタク>
2. トレイ2
```

対象にするかどうかの選択画面が表示されます。

- 5 [▲] [▼] キーを押して、「タイショウニ シナイ」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<トレイ2>
*タイショウニ シナイ
```

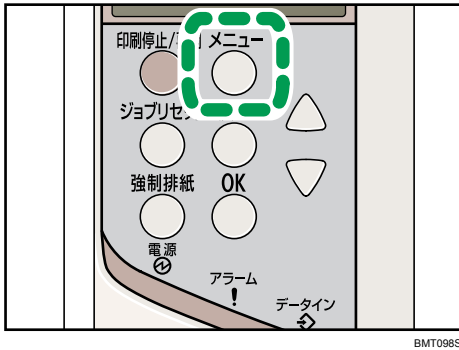
設定が確定し、自動トレイ選択メニューに戻ります。

- 6 [メニュー] キーを押します。
通常の画面が表示されます。

優先給紙トレイを設定する

優先給紙トレイを設定します。

1 [メニュー] キーを押します



2 [▲] [▼] キーを押して、「ヨウシセッテイ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー>
ヨウシセッテイ

3 [▲] [▼] キーを押して「6. ユウセン キュウシトレイ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<ヨウシセッテイ>
6. ユウセン キュウシトレイ

4 [▲] [▼] キーを押して目的のトレイを表示させ、[OK] キーを押します。

<ユウセン キュウシトレイ>
*トレイ1

設定が完了し、2秒後に用紙設定メニューに戻ります。

5 [メニュー] キーを押します。

通常の画面が表示されます。

テスト印刷メニュー

テスト印刷メニューでは、本機の使用環境や印刷に関する条件の設定状況の一覧表を印刷することができます。

また、印字可能なすべての文字やフォントの種類も印刷して確認できます。

テスト印刷メニューの項目

テスト印刷メニューの設定項目です。

◆一括リスト印刷 (1. イッカツ リストインサツ)

システム設定リスト、ネットワークサマリーとエラー履歴が印刷されます。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

◆システム設定リスト (2. システムセッテイ リスト)

本機のシステム構成やシステム設定の設定内容などが印刷されます。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

◆エラー履歴 (3. エラー リレキ)

エラーになったジョブの履歴が印刷されます。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

◆ネットワークサマリー (4. ネットワーク サマリー)

ネットワークの設定内容が印刷されます。

◆印刷条件リスト (5. インサツジョウケン リスト)

印刷条件の設定内容が印刷されます。

エミュレーションの RPD L が対象となります。

◆メニューリスト (6. メニュー リスト)

[メニュー] キーを使って設定できる各項目と設定内容をツリー状に印刷します。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

◆登録フォームリスト (7. トウロクフォーム リスト)

登録されているフォームの一覧が印刷されます。

オプションのハードディスクが装着されているときのメニュー項目です。エミュレーションの RPD L が対象となります。

◆全文字印刷 (8. ゼンモジ インサツ)

現在設定されているプリンター言語やエミュレーションで印刷できる全ての文字が印刷されます。

エミュレーションの RPD L が対象となります。

◆フォントリスト (9. フォント リスト)

現在設定されているプリンター言語やエミュレーションで印刷できるフォントの一覧が印刷されます。

エミュレーションの RPD L が対象となります。

◆ PS 情報リスト (10. PS ジョウホウ リスト)

オプションの PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。PS3 のシステム情報と搭載されているフォントの一覧が印刷されます。詳しくは、PostScript 3 使用説明書を参照してください。

◆ PDF 情報リスト (11. PDF ジョウホウ リスト)

オプションの PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。PDF の情報が印刷されます。

エミュレーションの PDF が対象となります。

◆ ヘキサダンプ (12. ヘキサダンプ)

印刷不良の原因を調べるために、パソコンから送られたデータを 16 進数で印刷するモードに移行します。

選択されている全てのプリンター言語とエミュレーションが対象となります。

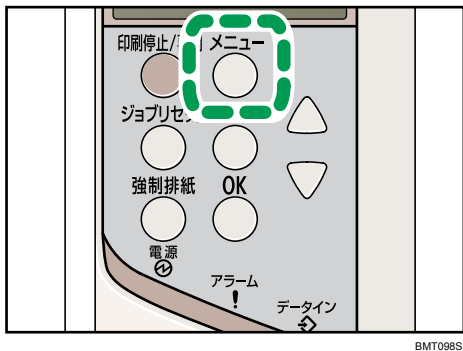
テスト印刷をする

ここでは「システム設定リスト」の印刷手順を説明しますが、基本的な操作方法は他のリストを印刷する場合も同じです。

システム設定リストを印刷する

システム設定リストの印刷方法です。

- 1 [メニュー] キーを押します。



- 2 [▲] [▼] キーを押して「テストインサツ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー>
テストインサツ

- 3 [▲] [▼] キーを押して印刷したいリスト名を表示させ、[OK] キーを押します。

<テストインサツ>
2. システムセッテイ リスト

印刷終了後、テスト印刷メニューに戻ります。

- 4 [メニュー] キーを押します。

通常の画面が表示されます。

補足

- ・システム設定リストは A4 または Letter (8 1/2"×11") で印刷されます。給紙トレイや手差しトレイに A4 または Letter (8 1/2"×11") の用紙をセットしてください。

システム設定リストの見かた

システム設定リストの見かたの説明です。

システム設定リストの印刷例を示します。ご使用のプリンターの設定や状態により、ここに示す例とは異なる場合があります。

システム設定リスト	
1	■システム構成情報 機種 未設定 搭載メモリ 384 MB トータルカウンター 33 フォームフェーザン [0.15 / G1725431], エンジン[0.14.1:03 / G1705135], MCS[0.14 / G1715432] 接続デバイス ハードディスク、IEEE 802.11b HDI:フォント/マクロ 空巻容量 510116 KB、最大容量 510446 KB 搭載エミュレーション RPS [0.5.4], RPQL [7.31d], R88 [5.18d], R16 [5.18b], R56 [5.15b], RPQL [0.1.1], RPQL2 [0.1.1], RTIFF [9.48F], SMLinkS [1.04], Adobe PostScript 3 [0.04], Adobe PDF [0.04], MS18 [7.00.03], KML-G [1.01.00] 接続機器 前面ユニット、増設給紙トレイ
2	■用紙設定 優先給紙トレイ トレイ1 手差しトレイ(マルチ) A 4 297.0 x 210.0mm 厚紙 トレイ1 不定形(カスタム) 297.0 x 210.0mm *4(4分)自動トレイ選択対象外 両面印刷禁止 トレイ2 A 4 R 210.0 x 297.0mm 普通紙 トレイ3 A 4 R 210.0 x 297.0mm 普通紙
3	■調整/管理 濃度調整 0 印刷位置調整-ヨコ: トレイ1 0.0 印刷位置調整-ヨコ: トレイ2 0.0 印刷位置調整-ヨコ: トレイ3 0.0 印刷位置調整-ヨコ: 手差しトレイ(マルチ) 0.0 印刷位置調整-ヨコ: 両面時裏面 0.0 印刷位置調整-タテ: 本体トレイ 0.0 印刷位置調整-タテ: 増設トレイ 0.0 印刷位置調整-タテ: 手差しトレイ(マルチ) 0.0 印刷位置調整-タテ: 両面時裏面 0.0 プザー音 On ウォームアップ通知音 On
4	■システム設定 *マークは設定値が初期値と異なる項目です。 エラーレポート印刷 しない エラースキップ しない 画像エラー処理 フォリセット エラー表示設定 全て表示 100%回転 しない 省エネモード 移行設定 *移行しない 省エネモード 移行時間 *60分 オートリセット設定 しない オートリセット時間(秒) 60 一時保存文書自動消去 しない 消去までの時間 8 保存文書自動消去 する 消去までの日数 3 エミュレーション検知 しない 搭載エミュレーション RPS しない ページメモリー しない スプルー印刷 しない 補助用紙サイズ しない レターヘッド紙使用設定 使用しない ドライバー/コマンド優先 する 自動メール通知 する
5	■システム設定 (EM) 自動睡眠 しない 用紙なしエラー通知 印刷実行時 自動睡眠時間 押紙しない マクロキャッシュ マクロなし リミット紙給紙 しない
6	■登録プログラム一覧 プログラム番号 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 エミュレーション名 - - - - - - - - - - - - - - - - - -
7	■PS設定 両面設定 しない 白紙給紙 する データ形式 TRCP 解像度 600dpi 最大解像度印刷 通常で印刷する
8	■PDF設定 両面設定 しない 白紙給紙 する 解像度 600dpi 最大解像度印刷 通常で印刷する
	■インターフェース設定 受信バッファ 128 KB 1/2切り替え時間 15 秒 DHCP Off IPv4アドレス 133.139.146.058 サブネットマスク 250.255.255.000 ゲートウェイアドレス 133.139.146.001 ステータス設定 有効 IPv4 有効 IPv6 有効 SMB イーサネット速度 自動選択 AppleTalk 有効 イーサネット速度 ACK outside 1/2選択 高速 パラレル通信速度 セレクト状態 HIGH パラレル通信速度 高速 無効 両方向通信 する インットプライム 無効 802.11 アドホック チャンネル 11 通信モード 自動設定 通信速度 選択しない SSID セキュリティ方式 WPA-PSK 暗号方式 *CCMP (AES) 認証方式 WPA-PSK USB *-1設定 しない
	■インターフェース情報 物理アドレス 00.00.74.ac.83.3c ホスト名 RNPAC833C MACアドレス名(SMB) RNPAC833C ネットワークパス名(SMB) \\RNPAC833C\PS_P18_001130 物理アドレス(IEEE 802.11b) 00.00.74.86.b5.e8 無効インターフェース なし

4

1 システム構成情報

本機のバージョン情報やオプションの装着状況、カウンター情報、搭載エミュレーション、プリンター言語の名称などが印刷されます。

2 トータルカウンター

本機から出力した枚数が表示されます。

3 用紙設定

現在選択されている優先給紙トレイと各トレイにセットされている用紙のサイズと種類など用紙設定メニューの設定項目が印刷されます。

4 調整/管理

濃度調整や印刷位置設定など、調整/管理メニューの設定項目が印刷されます。

5 システム設定

システム設定メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。

*印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

6 システム設定 (EM)

システム設定 (EM) メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。
*印がついている項目は工場出荷時の設定から変更されています。

7 登録プログラム一覧

登録されているプログラムのエミュレーション名が表示されます。

8 インターフェース設定、インターフェース情報

インターフェース設定メニューで設定可能な項目と現在の設定値が印刷されます。

印刷条件を設定する

ここでは、MS-DOS アプリケーションから印刷する場合に必要な印刷条件の設定方法について説明します。

★重要

- ・エミュレーションが搭載されている場合に設定できます。

印刷データを正しく印刷するには、アプリケーションやパソコンに合わせた印刷条件を設定する必要があります。正しい印刷条件を設定しないと、思いどおりの印刷結果が得られません。

印刷条件の設定は、本機の操作部を使用して行います。

なお Windows でプリンタードライバーを使用して印刷する場合は、プリンタードライバーで印刷条件を設定するため、本機で設定する必要はありません。

ここでは RPD L を例で説明します。

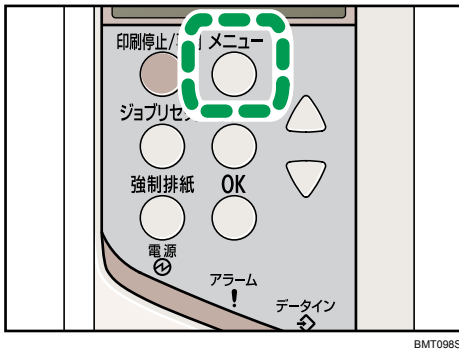
RPDL はサポート対象外となります。

4

エミュレーションを切り替える

エミュレーションを切り替える方法を説明します。

- 1 [メニュー] キーを押します。



BMT098S

- 2 [▲] または [▼] キーを押して「エミュレーションヨビダシ」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<メニュー>
エミュレーションヨビダシ
```

- 3 [▲] または [▼] キーを押して「RPDL」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<エミュレーションヨビダシ>
RPDL
```

エミュレーションが切り替わり、次の画面が表示されます。

インサツ	デキマス	トレイ1
RPDL		A4タテ

印刷条件を設定する

印刷するデータに応じた印刷条件をプリンターの操作パネルで設定できます。

★重要

- この操作で設定した「印刷条件」は、次の条件で初期値に戻ります。
 - プリンターの電源を切ったとき
 - ほかのエミュレーションに切り替わったとき

1 [メニュー] キーを押します。

2 [▲] または [▼] キーを押して「インサツジョウケン」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー> インサツジョウケン

3 [▲] または [▼] キーを押して項目を選び、[OK] キーを押して印刷条件を設定します。

4 [メニュー] キーを押します。
通常の画面に戻ります。

↓補足

- 使用頻度が高いアプリケーションの環境は、プログラム登録しておくことをお勧めします。プログラムを登録しておくこと、エミュレーションが切り替わったり、プリンターの電源を切っても、プログラムを呼び出せば、同じ条件で印刷することができます。プログラムを登録する方法については、「プログラムを登録する」を参照してください。
- 印刷条件の設定項目については、「RPDLの印刷条件の設定項目」を参照してください。
- 設定した印刷条件は、印刷条件リストで内容を確認できます。「印刷条件リストを印刷する」を参照してください。

E参照

- P.145 「RPDLの印刷条件の設定項目」
- P.154 「印刷条件リストを印刷する」
- P.156 「プログラムを登録する」

RPDL の印刷条件設定項目一覧表

印刷条件の設定項目と設定値の一覧を示します。

★重要

- ・接続したオプションによっては、表示されない項目もあります。
- 「★」マークが付いた設定値は、各項目の初期値になります。

項目	設定値				
	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10
	11	12	-	-	-
1. 給紙トレイ	トレイ 2/ 手差し *1	トレイ 1	★システムデ フォルト	トレイ 2	トレイ 3
	-	手差し	-	-	-
2. 印刷方向	★単票・縦	単票・横	帳票・縦	帳票・横	-
3. CR,LF,FF 機能	CR,LF,FF	CR+LF,LF,FF	★CR,LF・ FF+CR	CR+LF,LF・ FF+CR	-
4. 自動改行	する	★しない	-	-	-
5. 行ピッチ	★6LPI	3LPI	8LPI	フォントサイズ	-
6. 文字ピッチ	★10CPI	12CPI	15CPI	フォントサイズ	-
7. ANK フォント	★クーリエ 10	プレステージ エリート 12	レターゴシック 15	ボールドフェ イス PS	ラインプリンタ
	明朝半角	-	-	-	-
89. 国別指定	アメリカ	イギリス	ドイツ 1	ドイツ 2	フランス
	スウェーデン	フィンランド	スイス	★日本 1	日本 2
	日本 3	-	-	-	-
A. キャンセル コード	★CR	クリア	-	-	-
B. 印刷領域	★標準	最大	センタリング	-	-
D. リミットレ ス給紙	しない	★する	-	-	-
I. スペーシン グユニット	★H=1/120, V=1/48	H=1/180, V=1/120	H=1/160, V=1/120	H=1/160, V=1/160	H=1/240, V=1/120
	H=1/240, V=1/240	H=1/400, V=1/400	H=1/600, V=1/600	-	-
J. 漢字コード	★新 JIS/JIS	旧 JIS/JIS	新 JIS / シフト JIS	旧 JIS / シフト JIS	JIS X0213/JIS
	JIS X0213 / シフト JIS	-	-	-	-

項目	設定値				
	1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10
	11	12	-	-	-
K. 左余白	*0mm (0~50mm の範囲で、1mm 単位で設定できます。)				
L. 上余白	*0mm (0~50mm の範囲で、1mm 単位で設定できます。)				
M. 変倍率	*100% (等倍)	88% (11"×14"→B4)	80% (B4→A4)	75% (B4→A4')	70% (11"×14"→A4)
	67% (A3→A4)	115% (B4→A3)	-	122% (A4→B4)	141% (A4→A3)
	200% (A5→A3)	50% (A3→A5)	-	-	-
O. 半角ピッチ	*1/2	2/3	-	-	-
Q. ページ長	*11 インチ	最大長	-	-	-
R. イメージ濃度	*うすく	中間	こく	-	-
T. 漢字フォント	*明朝	ゴシック	-	-	-
U. ANK サイズ	*1200 センチポイント (600~2100 の範囲で、10 センチポイント単位で設定できます。)				
V. 漢字サイズ	*960 センチポイント (600~1800 の範囲で、10 センチポイント単位で設定できます。)				
W. グラフィックユニット	1/400 インチ	*1/240 インチ	1/600 インチ	-	-
Y. 文字ストリング	する	*しない	-	-	-
Z. 外字文字数	*256 文字	512 文字	768 文字	1034 文字	-
A02. 印字モード	トナーセーブモード 2	*スムージングオン	トナーセーブモード 1	スムージングオフ	-
A03. 両面と同じ方向 *2	上と同じ	*左と同じ	右と同じ	-	-
A04. エンジン解像度	(600dpi)	(600dpi)	*600dpi	-	-
A06. 両面印刷 *2	*しない	する	-	-	-

*1 オプションのトレイが装着されているときはオプショントレイを、装着されていないときは手差しトレイを選択します。

*2 両面印刷ユニットが装着されているときに表示されます。

RPDL の印刷条件の設定項目

印刷条件のそれぞれの設定項目について説明します。

◆ 給紙トレイ

使用する給紙トレイを選択します。

「システムデフォルト」に設定すると、現在の給紙トレイを選択します。

給紙トレイが「システムデフォルト」に設定されているプログラムやエミュレーションに切り替わった場合、用紙設定の「優先給紙トレイ」またはシステム初期設定「給紙トレイ優先設定：プリンター」で設定されている給紙トレイが選択されます。

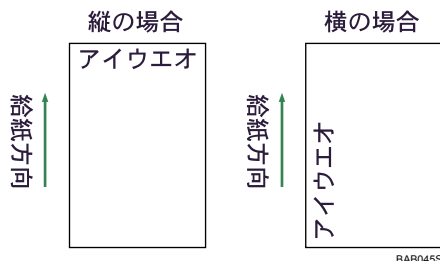
◆ 印刷方向

印刷方向（縦または横）と、印刷する用紙（単票または帳票）を設定します。

- ・ 単票・縦（工場出荷時の設定）
- ・ 単票・横
- ・ 帳票・縦
- ・ 帳票・横

「縦」に設定すると、給紙方向に対して垂直に文字が印刷されます。

「横」に設定すると、給紙方向に対して平行に文字が印刷されます。



↓ 補足

- ・ 実際に印刷できる用紙は単票だけです。「帳票」に設定すると、複数分のデータを1枚の用紙に印刷することができます。

◆ CR、LF、FF 機能

CR（復帰）、LF（改行）、FF（改ページ）コードを受信したときの本機の動作を設定します。

- ・ CR,LF,FF
- ・ CR+LF,LF,FF
- ・ CR,LF・FF+CR（工場出荷時の設定）
- ・ CR+LF,LF・FF+CR

「CR,LF・FF+CR」は「CR,LF+CR,FF+CR」を表します。

「CR+LF,LF・FF+CR」は「CR+LF,LF+CR,FF+CR」を表します。

CR、LF、FF に対してそれぞれ「CR」、「LF」、「FF」を設定した場合は、コードの意味のままの動作となります。その他の動作は次のとおりです。組み合わせを考えて設定してください。

CR+LF に設定したときは、復帰の後に改行が行われます。

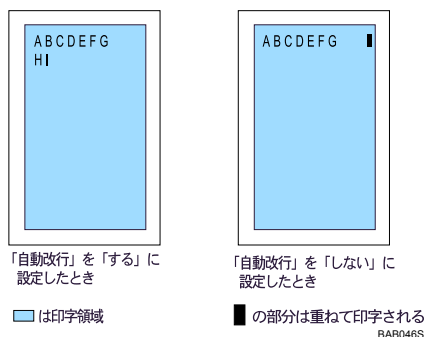
LF+CR に設定したときは、改行の後に復帰が行われます。

FF+CR に設定したときは、改ページの後に復帰が行われます。

◆ 自動改行

データが用紙の幅を超える場合に、自動的に改行するかどうかを選択します。

- する
印刷領域の幅で自動的に改行されます。
- しない (工場出荷時の設定)
印刷領域から超えたデータは、右端に重なって印刷されます。



↓ 補足

- 実際に印刷した場合、「ページ幅」での設定値と実際の用紙サイズによって印刷結果が異なります。

◆ 行ピッチ

1 インチ (約 25.4mm) あたりに印刷する行数を選択します。

- 6LPI (工場出荷時の設定)
- 3LPI
- 8LPI
- フォントサイズ

↓ 補足

- 「LPI」は Line Per Inch の略で、1 インチあたりの行数を表します。たとえば、「8LPI」に設定すると、1 インチ (約 25.4mm) あたり 8 行印刷することになります。

◆ 文字ピッチ

1 インチ (約 25.4mm) あたりに印刷する ANK フォント (英数カナ文字) の文字数を選択します。

- 10CPI (工場出荷時の設定)
- 12CPI
- 15CPI
- フォントサイズ

↓ 補足

- 「CPI」は Character Per Inch の略で、1 インチあたりの文字数を表します。たとえば、「10CPI」に設定すると、1 インチ (約 25.4mm) あたり 10 文字になります。
- 「フォントサイズ」に設定すると、文字ピッチはフォントの文字幅になります。アプリケーションで文字幅を設定できる場合は、アプリケーションの設定が優先されます。

◆ ANK フォント

ANK フォントを設定します。

- ・ クーリエ 10 (工場出荷時の設定)
- ・ プレステージエリート 12
- ・ レターゴシック 15
- ・ ボールドフェイス PS
- ・ ラインプリンタ
- ・ 明朝半角

↓ 補足

- ・ 「明朝半角」は、全角文字の中の半角文字を使って ANK 文字（アルファベット、数字、カナ）を印刷します。書体は、「明朝」と同じです。

◆ 国別指定

ANK フォントの一部は、国によって異なります。どの国のフォントにするかを選択します。

- ・ アメリカ
- ・ イギリス
- ・ ドイツ 1
- ・ ドイツ 2
- ・ フランス
- ・ スウェーデン
- ・ フィンランド
- ・ スイス
- ・ 日本 1 (工場出荷時の設定)
- ・ 日本 2
- ・ 日本 3

↓ 補足

- ・ ANK フォントで「明朝半角」を設定すると「日本 1」固定となります。

◆ キャンセルコード

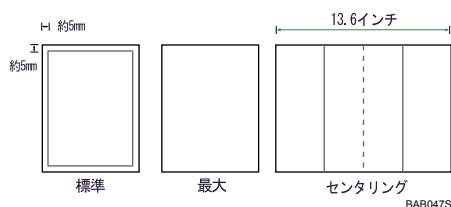
キャンセルコード (CAN 18h) を受信したときの動作を選択します。

- ・ CR (工場出荷時の設定)
「CR 機能」「CR,LF,FF 機能」で設定した動作になります。
- ・ クリア
データがクリアされ、印刷位置がホームポジションに戻ります。

◆ 印刷領域

用紙上の印刷領域を選択します。

- 標準 (工場出荷時の設定)
印刷領域の上下左右に約 5mm ずつの余白ができます。
- 最大
用紙サイズいっぱい印刷できますが、上下左右 5mm の領域は正常に印刷できない場合があります。
- センタリング
用紙の中央に印刷領域を配置します。



◆ リミットレス給紙

印刷中に給紙トレイの用紙がなくなった場合、他の給紙トレイに自動的に切り替えて印刷するかどうかを設定します。

- しない
トレイは切り替わりません。用紙がなくなったら停止しますので、トレイに用紙を補給してください。
- する (工場出荷時の設定)
自動的に同じ条件のトレイに切り替わり、印刷を継続します。ただし、手差しへは切り替わりません。

↓ 補足

- 切り替え対象の給紙トレイは、用紙のなくなった給紙トレイと同サイズ、同紙種、同方向の用紙がセットされている場合に有効です。
- リミットレス給紙の対象となるトレイは、普通紙または再生紙が設定されているトレイです。

◆ スペーシングユニット

1 ドットの仮想の大きさを選択します。

- H=1/120,V=1/48 (工場出荷時の設定)
- H=1/180,V=1/120
- H=1/160,V=1/120
- H=1/160,V=1/160
- H=1/240,V=1/120
- H=1/240,V=1/240
- H=1/400,V=1/400
- H=1/600,V=1/600

↓ 補足

- 「H」は横方向、「V」は縦方向です。単位は dpi です。たとえば、「H=1/180,V=1/120」に設定した場合は、横方向が 180dpi、縦方向が 120dpi になります。
- 実際の印刷では、「エンジン解像度」の設定値に合った値に換算されて印刷されます。

◆ 漢字コード

漢字コード「新 JIS」「旧 JIS」「JIS X0213」と「JIS コード」「シフト JIS コード」の組み合わせを設定します。

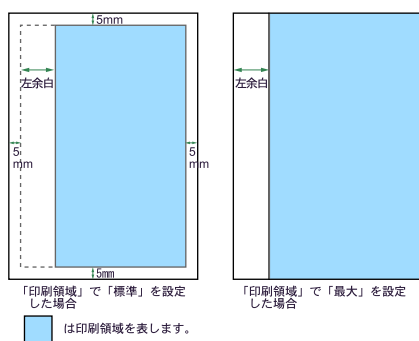
- ・ 新 JIS/JIS コード（工場出荷時の設定）
- ・ 旧 JIS/JIS コード
- ・ 新 JIS/シフト JIS コード
- ・ 旧 JIS/シフト JIS コード
- ・ JIS X0213/JIS コード
- ・ JIS X0213/シフト JIS コード

◆ 左余白

用紙の左余白を 0~50mm の範囲で、1mm 単位で設定できます（工場出荷時は 00mm）。

↓ 補足

- ・ 余白は、「印刷領域」で設定されている印字領域の内側に設定されます。したがって、設定した余白の分だけ印字開始位置が右にずれます。ただし、実際の印刷では多少の誤差が生じることがあります。



BAB048S

◆ 上余白

用紙の上余白を 0~50mm の範囲で、1mm 単位で設定できます（工場出荷時は 00mm）。

↓ 補足

- ・ 余白は、「印刷領域」で設定されている印字領域の内側に設定されます。したがって、設定した余白の分だけ印字開始位置が下がります。ただし、実際の印刷では多少の誤差が生じることがあります。

◆ 変倍率

変倍率を設定して、拡大または縮小して印刷できます。

- 100% (等倍) (工場出荷時の設定)
- 88% (11×14→B4)
- 80% (B4→A4)
- 75% (B4→A4')
- 70% (11×14→A4)
- 67% (A3→A4)
- 115% (B4→A3)
- 122% (A4→B4)
- 141% (A4→A3)
- 200% (A5→A3)
- 50% (A3→A5)

設定した変倍率により、文字ピッチと行ピッチが変更されます。このとき、文字は変倍率に応じた適当なサイズが選択されます。イメージデータは変倍率に応じて変倍されます。したがって、イメージデータと文字データが混在する場合、変倍率を設定するとイメージが多少ずれることがあります。このときに使用されるフォントは、エンジン解像度、フォントサイズ、変倍率によって異なります。

↓ 補足

- アプリケーションで縮小印刷を指定できる場合、この設定が無効になることがあります。
- アプリケーションで縮小が行われている場合、この変倍率の設定によりさらに拡大、縮小されることがあります。アプリケーションで縮小が行われている場合は、本機は等倍で印刷して、印刷結果を確認してください。

◆ 半角ピッチ

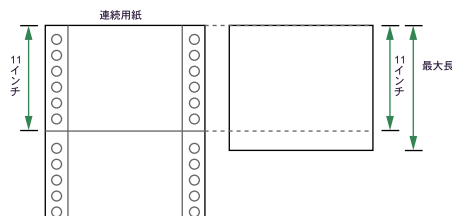
全角文字に対する半角文字のピッチを設定します。半角文字ピッチの初期値が変わるだけで、全角文字のピッチは変わりません。

- 1/2 (工場出荷時の設定)
全角 1 文字分が半角 2 文字分になります。
- 2/3
全角 2 文字分が半角 3 文字分になります。

◆ ページ長

ページの長さを設定します。ページ長は、実際の用紙の 1 ページの長さではなく、用紙の印刷可能領域に印刷するデータの長さです。設定したページ長まで印刷されると、排紙されます。

- 11 インチ (工場出荷時の設定)
連続用紙 (帳票) に印刷する場合と同じ形式で印刷できます。
- 最大長
印刷可能領域とページ長が同じになります。



BAB049S

↓ 補足

- ・「11 インチ」の設定は、次の用紙サイズ、印刷方向、変倍率の場合だけに有効です。この条件に合わない場合は、「最大長」に設定したときと同じ動作をします。

用紙サイズ	印刷方向	変倍率
A3	ヨコ	100%
A4	タテ	100%
B4	ヨコ	88%
B5	タテ	88%
A4	ヨコ	70%
A5	タテ	70%

◆ イメージ濃度

イメージデータの印刷濃度を設定します。変倍して印刷したときに、ここでの設定が有効になります。

- ・ うすく (工場出荷時の設定)
- ・ 中間
- ・ こく

↓ 補足

- ・ 中間に設定した場合は、イメージデータの横方向が濃いめに、縦方向が薄めに印刷されます。
- ・ 簡易グラフィックスの1ドットラインは、「こく」「中間」に設定すると太めに印刷されます。

◆ 漢字フォント

漢字の書体が設定できます。

- ・ 明朝 (工場出荷時の設定)
- ・ ゴシック

◆ ANK サイズ

ANK フォントの縦方向のサイズを 600~2100 センチポイントの範囲で、10 センチポイント単位で設定できます (工場出荷時は 1200 センチポイント)。

◆ 漢字サイズ

漢字フォントの縦方向のサイズを 600~1800 センチポイントの範囲で、10 センチポイント単位で設定できます (工場出荷時は 960 センチポイント)。

↓ 補足

- ・ 1 センチポイントは 1/7,200 インチです。

◆ グラフィックスユニット

イメージ印刷のドットの単位、および簡易グラフィックスの単位を設定します。たとえば、「1/240 インチ」に設定すると、簡易グラフィックスの1ドットは 1/240 インチ (1 インチ=約 25.4mm) になります。

- ・ 1/400 インチ
- ・ 1/240 インチ (工場出荷時の設定)
- ・ 1/600 インチ

◆ 文字ストリング

文字ストリングコマンドを受信した後に受信する文字コードを16進コードとして解釈するかどうかを設定します。16進コードを送信できないときに有効な手段となります。

- する
文字形式の制御コマンドが有効になります。
- しない (工場出荷時の設定)
通常の文字列として扱われます。

◆ 外字文字数

本機に登録できる外字フォントの文字数を設定します。外字は、外字フォントの登録コマンドで登録可能です。

- 256 文字 (工場出荷時の設定)
- 512 文字
- 768 文字
- 1,034 文字

◆ 印字モード

印字モードでは、スムージング機能を使用するかどうか、また、トナーをセーブして印刷するかどうかの設定を行います。

スムージング機能とは、文字や図形の輪郭のギザギザを自動的になめらかにして印刷する機能です。本機にはスムージング機能が内蔵されていますので、本機の解像度を越えた高品質な印刷ができます。

- トナーセービングモード2
トナーを節約するときに選択します。薄めに印刷されます。
- スムージング オン (工場出荷時の設定)
文字や図形の輪郭のギザギザが自動的になめらかになって印刷されます。
- トナーセービングモード1
トナーを節約するときに選択します。薄めに印刷されます。
- スムージング オフ
写真やハーフトーンデータを印刷するときに選択します。

↓ 補足

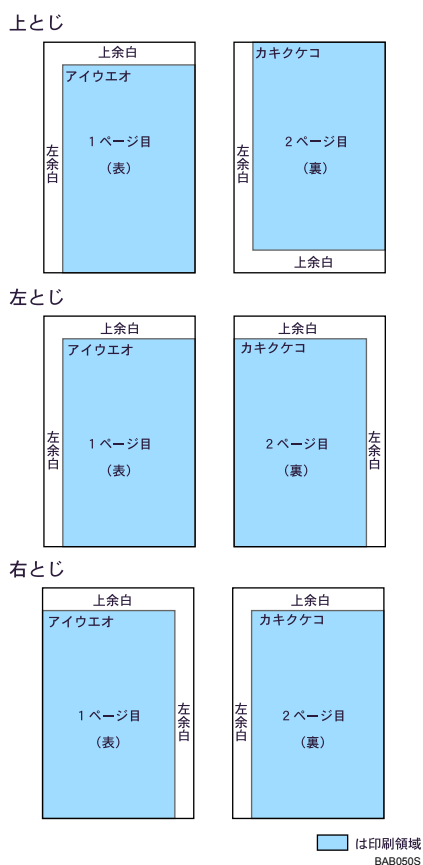
- トナーセーブモード1とトナーセーブモード2は、どちらを選択しても同じ動作になります。
- トナーセーブモード1またはトナーセーブモード2を選択した場合、細い線が消える、網掛けパターンが出ない、網掛けパターンの濃淡の差がはっきりしなくなるなどの現象が起こることがあります。

◆ 両面とじ方向

オプションの両面ユニットが装着されているときのメニュー項目です。

両面印刷時のとじ代の位置を選択します。「上とじ」は「上余白」、「左とじ」と「右とじ」は「左余白」で設定した値が、とじ代の幅になります。

- ・ 上とじ
- ・ 左とじ (工場出荷時の設定)
- ・ 右とじ



◆ エンジン解像度

本機内部での実際の解像度を設定します。

↓ 補足

- ・ 「dpi」は Dot Per Inch の略で、1 インチあたりの描画ドット数を表します。たとえば、「600dpi」の設定では、1 インチ (約 25.4mm) あたり 600 個の点で描画することになります。

◆ 両面印刷

オプションの両面ユニットが装着されているときのメニュー項目です。

両面印刷するかどうかを設定します。

- ・ しない (工場出荷時の設定)
- ・ する

印刷条件リストを印刷する

現在設定されている印刷条件の一覧を印刷して確認できます。
エミュレーションが RPD L になっていることを確認してから、操作してください。

1 [メニュー] キーを押します。

2 [▲] または [▼] キーを押して「テストインサツ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー> テストインサツ

3 [▲] または [▼] キーを押して「5. インサツジョウケンリスト」を表示させ、[OK] キーを押します。

<テストインサツ> 5. インサツジョウケン リスト

印刷条件リストが印刷されます。

4 [メニュー] キーを押します。
通常の画面に戻ります。

↓ 補足

- ・印刷条件リストを印刷するときは、A4 サイズの用紙を選択することをお勧めします。

印刷条件リストの見方

RPDL の印刷条件リストの印刷例を示します。
ご使用のプリンターの設定や状態により、ここに示す例と異なる結果が出る場合があります。

RPDL印刷条件一覧								
システム構成								
1	バージョン	RPDLIV	7.31d	システム	RPDLIV 7.31d 0.15			
	メモリ	トータル	393216KB	フリー	63040KB 受信バッファ 128KB			
	特殊印刷	しない						
	紙サイズ	トレイ 1	FREE	トレイ 2	A4R			
		手差し	A4	トレイ 3	A4R			
印刷条件								
2	1. 給紙トレイ	★トレイ 2	M. 変倍率	100%				
	2. 印刷方向	単票 縦	O. 半角ピッチ	1/2				
	3. CR, LF, FF機能	CR,LF+FF+CR	Q. ページ長	11インチ				
	4. 自動改行	しない	R. イメージ濃度	うすく				
	5. 行ピッチ	6LPI	T. 漢字フォント	明朝				
	6. 文字ピッチ	10CPI	U. ANKサイズ	1200 センチポイント				
	7. ANKフォント	クーリエ 10	V. 漢字サイズ	960 センチポイント				
	89. 国別指定	日本1	W. グリフマップ	1/240インチ				
	A. キャンセルコード	CR	Y. 文字ストリング	しない				
	B. 印刷領域	標準	Z. 外字文字数	256文字				
	D. リミットレス給紙	する	A02. 印字モード	スムージング オン				
	I. スペーシングユニット	1/120, 1/48	A03. 両面とじ方向	両面左とじ				
	J. 漢字コード	新JIS/JISコード	A04. エンジン解像度	400dpi				
	K. 左余白	0 mm	A06. 両面印刷	しない				
	L. 上余白	0 mm						
★マークは設定値が初期値と異なる項目です。								
プログラムキー登録状況								
3	NO. 1	未登録	NO. 5	未登録	NO. 9	未登録	NO. 13	未登録
	NO. 2	未登録	NO. 6	未登録	NO. 10	未登録	NO. 14	未登録
	NO. 3	未登録	NO. 7	未登録	NO. 11	未登録	NO. 15	未登録
	NO. 4	未登録	NO. 8	未登録	NO. 12	未登録	NO. 16	未登録
アサイン フォント								
4	(0)	COURIER 10	ABCDEFGHIJKLMNQRST					
	(1)	COURIER 10	ABCDEFGHIJKLMNQRST					
	(2)	PRESTIGE ELITE 12	ABCDEFGHIJKLMNQRST					
	(3)	LETTER GOTHIC 15	ABCDEFGHIJKLMNQRST					
	(4)	BOLD FACE PS	ABCDEFGHIJKLMNQRST					
	(5)	CHUMINGYO	ABCDEFGHIJKLMNQRST					
エラー履歴								
5	エラーなし。							

1 システム構成

プリンター内部の情報です。バージョン、メモリー、システム、受信バッファ、特殊印刷、給紙トレイにセットされている用紙サイズが印刷されます。

2 印刷条件

印刷条件の各設定項目に設定されている値が印刷されます。

3 プログラムキー登録状況

プログラムの登録状況が印刷されます。

4 アサインフォント

使用できるフォントの一覧です。

5 エラー履歴

エラーの有無が表示されます。

よく使う印刷条件を登録する

プログラムを登録する

設定した印刷条件は、プログラムとしてプリンターに登録できます。プリンターで設定したエミュレーションモードや印刷条件は、電源を切ったり、エミュレーションを切り替えるとすべて工場出荷時の設定に戻ります。毎回設定し直さなくてもよいように、印刷条件をプログラムとしてプリンターに記憶させることができます。これをプログラム登録といいます。プログラムは 16 個まで登録でき、電源を切っても保存されます。

1 必要な印刷条件を設定します。

4

2 [メニュー] キーを押します。

3 [▲] または [▼] キーを押して「プログラム トウロク」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<メニュー>
プログラム トウロク
```

4 「1. トウロク」と表示されているのを確認し、[OK] キーを押します。

```
<プログラム トウロク>
1. トウロク
```

5 [▲] または [▼] キーを押して登録先のプログラム番号を表示させ、[OK] キーを押します。

登録済みのプログラム番号には、登録時のエミュレーションが表示されます。登録済みのプログラム番号を指定して [OK] キーを押すと、「ウワガキトウロクスルバアイハ OK キーヲオシテクダサイ」と表示されます。上書きするときには、[OK] キーを押します。新たな登録内容に書き換えられます。

```
<トウロク>
プログラム1
```

プログラムが登録されたことを示すメッセージが表示されます。

6 [メニュー] キーを押します。

通常の画面に戻ります。

補足

- ・すでに登録してあるプログラムを利用して、少し異なるプログラムを登録することもできます。元になるプログラムを呼び出し、印刷条件を設定し直してプログラムを登録します。プログラムを呼び出す方法については、「プログラムを呼び出す」を参照してください。
- ・印刷条件の設定方法については、「印刷条件を設定する」を参照してください。
- ・印刷条件の設定項目については、「印刷条件リストを印刷する」を参照してください。

 参照

- P.141 「印刷条件を設定する」
- P.154 「印刷条件リストを印刷する」
- P.157 「プログラムを呼び出す」

プログラムを呼び出す

あらかじめプログラムに登録しておいた印刷条件で印刷するために、プログラムを呼び出します。

- 1 [メニュー] キーを押します。
- 2 [▲] または [▼] キーを押して「エミュレーションヨビダシ」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<メニュー>
エミュレーションヨビダシ
```

- 3 [▲] または [▼] キーを押して目的のプログラムを選択し、[OK] キーを押します。

```
<エミュレーションヨビダシ>
*プログラム1 RPD L
```

プログラムが呼び出され、プログラム番号が画面に表示されます。

```
インサツデキマス   トレイ1
RPDL      1      A4タテ
```

選択したプログラム番号が画面に表示されていることを確認してください。

プログラムを削除する

登録されているプログラムを削除することができます。

- 1 [メニュー] キーを押します。
- 2 [▲] または [▼] キーを押して「プログラム トウロク」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<メニュー>
プログラム トウロク
```

- 3 [▲] または [▼] キーを押して「2. サクジョ」を表示させ、[OK] キーを押します。

```
<プログラム トウロク>
2. サクジョ
```

- 4** [▲] または [▼] キーを押して削除するプログラムを表示させ、[OK] キーを押します。

<サクジョ>
プログラム1 RPD L

確認のメッセージが表示されます。

- 5** [OK] キーを押します。

プログラム1
OKキーで サクジョサレマス

選択したプログラムが削除されます。

- 6** [メニュー] キーを押します。

通常の画面に戻ります。

4

プログラム内容を印刷する

プリンターに登録したプログラムの一覧を印刷できます。

- 1** [メニュー] キーを押します。

- 2** [▲] または [▼] キーを押して「プログラム トウロク」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー>
プログラム トウロク

- 3** [▲] または [▼] キーを押して「3. トウロクナイヨウ インサツ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<プログラム トウロク>
3. トウロクナイヨウ インサツ

登録されているプログラム内容が印刷されます。

- 4** [メニュー] キーを押します。

通常の画面に戻ります。

補足

- ・プログラムが1つも登録されていない場合は、印刷されません。

給紙トレイを選択する

操作部を使い、給紙トレイを選択することができます。

1 [メニュー] キーを押します。

2 [▲] または [▼] キーを押して「キュウシトレイ センタク」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー> キュウシトレイ センタク

3 [▲] または [▼] キーを押して選択するトレイを表示させ、[OK] キーを押します。

<キュウシトレイ センタク> トレイ2

給紙トレイが選択されます。

4 [メニュー] キーを押します。
通常の画面に戻ります。

調整 / 管理メニュー

調整管理メニューでは、階調や濃度などの印刷条件の調整や、ハードディスクのフォーマットなど本機の管理についての設定ができます。

調整 / 管理メニューの項目

調整管理メニューの設定項目です。

◆ 濃度調整 (1. ノウド チョウセイ)

印刷面にかすれや汚れが出たときなどに印刷濃度を調整します。

−6 から +3 の範囲で設定します。

↓ 補足

- ・できるだけ工場出荷時の設定でお使いください。
- ・濃度調整の手順については『ハードウェアガイド』「印刷濃度を調整する」を参照してください。

◆ 印刷位置調整 (2. インサツイチ チョウセイ)

トレイごとの印刷位置をあわせるために印刷位置を調整することができます。通常は特に設定する必要はありませんが、オプションの増設給紙トレイや、両面印刷ユニットを取り付けたときに調整します。

↓ 補足

- ・印刷位置調整の手順については『ハードウェアガイド』「印刷位置を調整する」を参照してください。

◆ カール低減 (3. カール テイゲン)

印刷後の用紙の反りを減らしたいときに設定します。

- ・する
- ・しない (工場出荷時の設定)

◆ 一時置き全消去 (4. イチジオキ ゼンショウキョ)

オプションのハードディスクが装着されているときのメニュー項目です。オプションのハードディスクに蓄積されている一時的な蓄積文書 (試し印刷 / 機密印刷 / 保留印刷の文書) をすべて消去します。

◆ 保存文書全消去 (5. ホゾン ゼンショウキョ)

オプションのハードディスクが装着されているときのメニュー項目です。オプションのハードディスクに蓄積されている保存文書をすべて消去します。

◆ HD フォーマット (6. HD フォーマット)

オプションのハードディスクが装着されているときのメニュー項目です。初期の設置以降にオプションのハードディスクのフォーマットが必要になったときに実行します。

◆ 日付 / 時刻設定 (7. ヒツケ / ジコク セッテイ)

日付および時刻を設定します。

◆ 電波状態 (8. デンパ ジョウタイ)

無線 LAN の電波状態を確認する必要があるときに実行します。

- ◆ **無線設定値初期化 (9. ムセンセッテイチ ショキカ)**
オプションの無線 LAN ボードが装着されているときに表示されます。
無線 LAN の設定値を初期化する必要があるときに実行します。
- ◆ **ブザー音 (11. ブザーオン)**
パネルのキーを押したときに、音を出すか出さないかを選択します。
 - ON (工場出荷時の設定)
 - OFF
- ◆ **ウォームアップ通知音 (12. ウォームアップツウチオン)**
ウォームアップを音で知らせるかどうかを選択します。
 - ON (工場出荷時の設定)
 - OFF

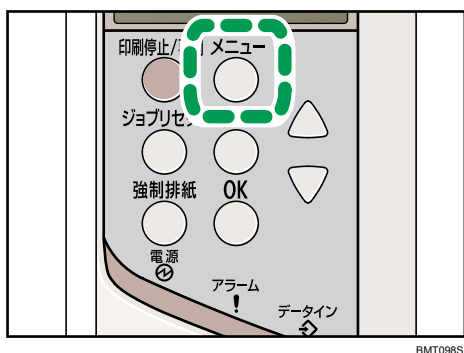
調整 / 管理メニューの設定を変更する

調整 / 管理メニューの変更方法を、例をあげて説明します。

オプションのハードディスクをフォーマットする（初期設置以降）

初期の設置以降にオプションのハードディスクのフォーマットが必要になったときのフォーマットの方法に関する説明です。

- 1 [メニュー] キーを押します。



BMT098S

- 2 [▲] [▼] キーを押して「チョウセイ/カンリ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー>
チョウセイ/カンリ

- 3 [▲] [▼] キーを押して「5. HD フォーマット」を表示させ、[OK] キーを押します。

<チョウセイ/カンリ>
6. HDフォーマット

- 4 確認のメッセージが表示されていることを確認し、[OK] キーを押します。

HDフォーマット
OKキーデ ジッコウシマス

オプションのハードディスクがフォーマットされ、再起動のメッセージが表示されます。

- 5 本機の電源を一度切り、再び電源を入れます。

オプションのハードディスクのフォーマットが終了し、使用できるようになります。

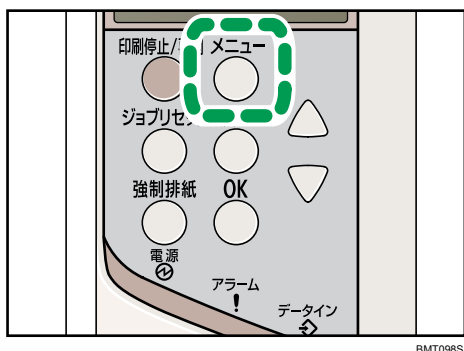
補足

- ・「HD フォーマット」が表示されない場合はオプションのハードディスクが正しく取り付けられていません。『ハードウェアガイド』「オプションを取り付ける」を参照して、オプションのハードディスクを取り付け直してください。それでも正しく取り付けられない場合は、保守会社に相談してください。

無線 LAN の電波状態を表示する

無線 LAN の電波状態を表示する方法の説明です。

- 1 【メニュー】 キーを押します。



BMT098S

4

- 2 【▲】 【▼】 キーを押して「チョウセイ/カンリ」を表示させ、【OK】 キーを押します。

<メニュー> チョウセイ/カンリ

- 3 【▲】 【▼】 キーを押して「8. デンパジヨウタイ」を表示させ、【OK】 キーを押します。

<チョウセイ/カンリ> 8. デンパジヨウタイ

現在の電波状態が表示されます。

デンパジヨウタイ サイリヨウ	100%
-------------------	------

デンパジヨウタイ リヨウ	70%
-----------------	-----

デンパジヨウタイ ファンテイ	35%
-------------------	-----

デンパジヨウタイ ツウシンフカ	10%
--------------------	-----

- 4 【メニュー】 キーを押します。
通常の画面が表示されます。

↓ 補足

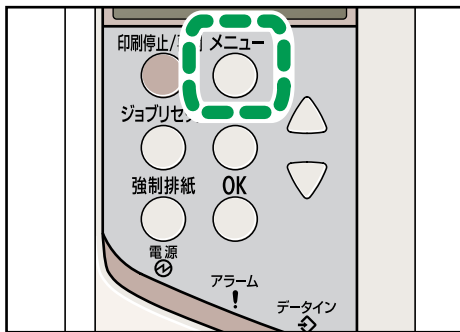
- ・ [デンパジョウタイ] が表示されない場合は「インターフェース設定」メニューの「ネットワーク設定」内「I/F 選択」で [ムセン LAN] が選択されていません。「I/F 選択」で [ムセン LAN] を選択してから、再度「調整 / 管理」メニューの [デンパジョウタイ] を選択してください。
- ・ 電波状態が測定できるのは、「インターフェース設定」メニューの「無線 LAN」内「通信モード」が [インフラストラクチャー] のときだけです。
- ・ [OK] キーを押すたびに電波状態が更新されます。
- ・ 電波状態は、76~100% で最良、41~75% で良、21~40% で不安定、0~20% で通信不可と表示されます。電波の状態が不安定または通信不可のときは、電波の通る場所へ移動するか障害物を取り除いてください。
- ・ 近くで電子レンジや無線機器等をお使いになると、電波の状態に影響を与えることがあります。

4

無線 LAN の設定値を初期化する

無線 LAN の設定値を初期化する方法の説明です。

1 [メニュー] キーを押します。



BMT098S

2 [▲] [▼] キーを押して「チョウセイ/カンリ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー>
チョウセイ/カンリ

3 [▲] [▼] キーを押して「9. ムセンセッテイチ ショキカ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<チョウセイ/カンリ>
9. ムセンセッテイチ ショキカ

確認のメッセージが表示されます。

4 [OK] キーを押します。

ムセンLANノ
セツチチヲ ショキカ シマスカ?

無線設定値が初期化されます。

ショキカ サレマシタ

[OK] キーを押すと設定を変更し、通常の画面が表示されます。

↓ 補足

- この実行により初期化される項目は、「インターフェース設定」メニューの「無線 LAN」内「通信モード」「アドホックチャンネル」「SSID」「セキュリティー方式」の4項目です。

システム設定メニュー

システム設定メニューでは、本機を使用する上で基本的な動作に関する設定を行うことができます。通常は工場出荷時の設定のままでご使用になれますが、お客様の環境に合わせて変更できます。変更したシステム設定の内容は電源を切っても保存されます。

システム設定メニューの設定項目

◆ エラーレポート印刷 (1. エラーレポート インサツ)

エミュレーションが RPCS、PS3 または PDF のとき、プリンター内部でのデータ処理中にエラーが発生した場合にエラーレポートを印刷するかしないかを設定します。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

◆ エラースキップ (2. エラースキップ)

プリンタードライバーから指示された紙サイズ・紙種が一致するトレイがなかった場合の本機の動作を設定します。

- ・ しない (工場出荷時の設定)
プリンタードライバーから指示された紙サイズ・紙種のトレイがセットまたは設定されるまで印刷されません。
- ・ 即時
用紙サイズ・用紙種類が一致しない場合でもすぐに印刷します。
- ・ 1分
用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 1 分間表示し、その後印刷を実行します。
- ・ 5分
用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 5 分間表示し、その後印刷を実行します。
- ・ 10分
用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 10 分間表示し、その後印刷を実行します。
- ・ 15分
用紙サイズ・用紙種類が一致しないことを示すメッセージを 15 分間表示し、その後印刷を実行します。

◆ 画像エラー処理 (3. ガゾウエラー ショリ)

送信されたデータサイズが大きく、プリンター内部で処理できない場合のプリンターの動作を設定します。

- ・ ジョブリセット (工場出荷時の設定)
エラーが発生したページでジョブをリセットします。リセットされたページ以降は印刷されません。
- ・ エラーシート印刷
エラーが発生したページはエラー発生直前の画像まで印刷します。エラーが発生したページ以降は印刷されますが、電子ソートの指示は解除されます。ジョブの終わりにエラーシートを印刷します。エラーコードと、エラーによって出力結果が不完全になったページを最大 16 ページ分印刷します。

◆ エラー表示設定 (4. エラーヒョウジ セッテイ)

プリンター内部でのデータ処理中に発生したエラーをディスプレイに表示するかしないかを設定します。

- ・ すべて表示 (工場出荷時の設定)
- ・ 簡易表示

◆ 印刷枚数設定 (5. インサツマイスウ セッテイ)

印刷する用紙の枚数を 1～999 (1 枚単位) で設定します。エミュレーションが RPCS、PS3、PDF のときに有効です。

工場出荷時の設定は「1 枚」に設定されています。

◆ 180 度回転 (6. 180 ドカイテン)

画像の 180 度回転印刷をするかしないかを選択します。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

◆ 省エネモード (7. ショウエネ モード)

省エネモードとは、本機の消費電力を節約する機能です。

- ・ 移行設定 (1. イコウセッテイ)

省エネモードに移行するかしないかを選択します。

- ・ 移行する (工場出荷時の設定)
- ・ 移行しない

- ・ 移行時間 (2. イコウジカン)

省エネモードに移行する場合は、移行するまでの時間を設定します。ここで設定した時間の間本機を使用しないと、省エネモードに切り替わります。省エネモード中は本機の起動が遅くなり、印刷が始まるまで多少時間がかかります。

1 分 (工場出荷時の設定)

- 5 分
- 15 分
- 30 分
- 45 分
- 60 分

◆ オートリセット設定 (8. オートリセット セッテイ)

一定時間操作を行わなかったとき、設定内容を電源投入直後の状態に戻すかどうかを設定します。また、戻すまでの時間を設定します。

- ・ リセット設定 (1. リセットセッテイ)

オートリセットするかしないかを選択します。

工場出荷時の設定は「する」に設定されています。

- ・ リセット時間 (2. リセットジカン)

オートリセットを設定した場合は、オートリセットするまでの時間を設定します。

10～999 秒 (1 秒単位) の範囲で設定します。

工場出荷時の設定は「60 秒」に設定されています。

◆ 一時置き文書自動消去設定 (9. イチジオキ ショウキョ)

試し印刷文書、機密印刷文書、保留文書などの一時置き文書を、蓄積後に自動で消去するかしないかを設定します。また、消去までの時間を設定します。

- ・ 自動消去 (1. ジドウショウキョ)

文書を自動で消去するかしないかを選択します。

工場出荷時の設定は「しない」に設定されています。

- ・ 消去までの時間 (2. ショウキョマデノジカン)

「自動消去」を「する」に設定した場合、文書を自動で消去するまでの時間を設定します。

工場出荷時の設定は「8 時間後」に設定されています。

↓ 補足

・ オプションのハードディスク装着時にのみ表示されます。

◆ 保存文書自動消去設定 (10. ホゾン ショウキョ)

保存文書を、蓄積後に自動で消去するかしないかを設定します。また、消去までの日数を設定します。

- ・ 自動消去 (1. ジドウショウキョ)

文書を自動で消去するかしないかを選択します。

工場出荷時の設定は「する」に設定されています。

- ・ 消去までの日数 (2. ショウキョマデノニッスウ)

「自動消去」を「する」に設定した場合、文書を自動で消去するまでの日数を設定します。

工場出荷時の設定は「3 日」に設定されています。

◆ エミュレーション検知 (11. エミュレーション ケンチ)

本機に送られたデータを自動的に判断して、エミュレーションを決定することができます。対象となるのは PostScript 3、PDF です。それ以外のエミュレーションは、優先エミュレーションで設定されているエミュレーションになります。

- ・ する

- ・ しない (工場出荷時の設定)

◆ 圧縮データ (12. アッシュクデータ)

圧縮されたデータを解凍して印刷するかどうかを設定します。

- ・ 解凍印刷する

- ・ 解凍印刷しない (工場出荷時の設定)

↓ 補足

・ 対応している圧縮形式は GZIP 形式です。

・ RHPP で送信された圧縮データは印刷できません。

◆ 優先エミュレーション (13. ユウセン エミュレーション)

電源を入れたときに自動的に呼び出されるエミュレーションまたは登録されているプログラムを設定します。

- ・ RPCS (工場出荷時の設定)
- ・ RPDL
- ・ R98
- ・ R16
- ・ R55
- ・ RTIFF
- ・ PS3
- ・ PDF
- ・ BMLinkS
- ・ プログラム 1~16

↓ 補足

- ・ 「プログラム 1」~「プログラム 16」に設定すると、その数字と同じ登録番号のプログラムが呼び出されて本機が起動します。RPCS、PS3、PDF 以外で有効です。

◆ 優先メモリー (14. ユウセンメモリー)

優先的に使用するメモリー内容を設定します。印刷する用紙サイズ、解像度、エミュレーションなどによって選択してください。

- ・ ユーザーメモリー
外字やフォントなどのデータを登録するためにメモリーが優先的に使用されます。
- ・ ページメモリー (工場出荷時の設定)
印刷の高速化のためにフレームメモリーとして使用されます。

◆ スムージング (15. スムージング)

RPCS が選択されているとき、または PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。文字や図形の輪郭のギザギザを自動的になめらかにして印刷するかどうかを設定します。

- ・ する (工場出荷時の設定)
- ・ しない

◆ トナーセーブ (16. トナーセーブ)

PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。薄めに印刷することで、トナーを節約するかどうかを設定します。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

◆ スプール印刷 (17. スプールインサツ)

スプール印刷をするかどうかを設定します。スプール印刷とは、パソコンから転送されるプリントジョブを一時的に本機に蓄積し、印刷する機能です。オプションのハードディスクを装着時にのみ表示されます。「スプールのスル」を選択すると、最初の印刷に時間がかかります。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

↓ 補足

- ・ オプションのハードディスク装着時にのみ表示されます。
- ・ [スル] を選択すると、最初の印刷に時間がかかります。

◆ 補助用紙サイズ (18. ホジヨヨウシ サイズ)

A4 と Letter (8¹/₂"×11") の切り替えをするかどうかを設定します。

- ・ 自動
- ・ しない (工場出荷時の設定)

↓ 補足

- ・ 切替を行った場合、A4 と Letter (8¹/₂"×11") では最大印字領域が異なるので、それぞれの領域を越えた描画は、端部が切れるなど、正常に印刷されない場合があります。

◆ レターヘッド紙設定 (19. レターヘッドシ セッテイ)

レターヘッド紙印刷を行うかどうかを設定します。

レターヘッド紙印刷を行うと、両面印刷のとき、奇数ページジョブの最終ページが両面印刷されます。

- ・ 使用しない
レターヘッド紙印刷を行いません。
- ・ 使用する (自動) (工場出荷時の設定)
レターヘッド紙が指定されたときに行います。
- ・ 使用する (常時)
常にレターヘッド紙印刷を行います。

↓ 補足

- ・ 両面印刷ができない紙サイズの場合、両面印刷は解除されます。
- ・ 印刷の途中で片面印刷から両面印刷になった場合、ソートの 2 部目以降は全て両面印刷となります。2 部目以降も片面で印刷したいときは、両面印刷ができない紙サイズを給紙してください。
- ・ レターヘッド紙を使用するときは用紙のセット方向に注意してください。

◆ 手差し設定選択 (20. テサシセッテイセンタク)

手差しの設定を機器側で行うか、プリンタードライバークコマンドで行うかを設定します。

- ・ 機器側
- ・ ドライバークコマンド (工場出荷時の設定)

◆ トレイ指定時動作切り替え (21. トレイドウサ キリカエ)

RPCS を選択しているとき、または PS3 カードが装着されているときのメニュー項目です。プリンタードライバークコマンドから給紙トレイを指定して用紙サイズ・用紙種類を指示した際に、指定した給紙トレイに指示した条件の用紙がなかった場合、自動用紙選択をするかどうかを設定します。

- ・ する
- ・ しない (工場出荷時の設定)

◆ 拡張リミットレス給紙 (22. リミットレス キュウシ)

印刷中に用紙がなくなった場合に、同じサイズの内紙を他のトレイから給紙するかしないかを選択します。

対象となるのは、PostScript 3 以外のエミュレーションです。「する」を選択した場合、プリンタードライバーや印刷条件の設定に関係なく、リミットレス給紙が有効になります。

- する
- しない (工場出荷時の設定)

◆ RAM ディスク (23. RAM ディスク)

PDF ダイレクトプリントをする場合は、2MB 以上の値を指定してください。オプションのハードディスクを装着していないときに表示されます。

- 0MB
- 2MB
- 4MB (工場出荷時の設定)
- 8MB
- 16MB

◆ 自動メール通知 (24. ジドウメール ツウチ)

本機でエラーが発生したときに、エラーの詳細情報を指定したメールアドレスに通知するかどうかをします。

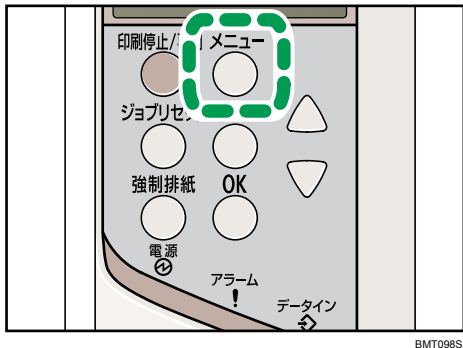
設定を変更したときは、いったん電源を OFF にし、あらためて電源を ON にしてください。

- する (工場出荷時の設定)
- しない

システム設定メニューの設定を変更する

システム設定メニュー「省エネモード」の変更方法を、例として説明します。

- 1** [メニュー] キーを押します。



BMT098S

- 2** [▲] [▼] キーを押して、「システムセッテイ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー>
システムセッテイ

- 3** [▲] [▼] キーを押して、「7. ショウエネモード」を表示させ、[OK] キーを押します。

<システムセッテイ>
7. ショウエネ モード

- 4** [▲] [▼] キーを押して設定を変更する項目を表示させ、[OK] キーを押します。

<ショウエネモード>
1. イコウ セッテイ

- 5** [▲] [▼] キーを押して変更する設定値を表示させ、[OK] キーを押します。

<イコウセッテイ>
* イコウスル

設定が確定し、省エネモードメニューに戻ります。

- 6** [メニュー] キーを押します。

通常の画面が表示されます。

システム設定 (EM) メニュー

システム設定 (EM) メニューでは、DOS/UNIX で使用する上での基本的な動作に関わる設定を行うことができます。対象となるエミュレーションは、RPDL です。通常は、工場出荷時の設定のままでご使用になれますが、お客様の環境に合わせて変更できます。変更したシステム設定 (EM) の内容は電源を切っても保存されます。

★重要

- ・エミュレーションが搭載されている場合に表示されます。

システム設定 (EM) メニューの設定項目

4

◆ 白紙排紙 (1. ハクシ ハイシ)

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定します。

- ・ する
排紙します。
- ・ スペース
排紙コマンドの前にスペースコード (20H、A0H、8140H) があるときは排紙します。
- ・ しない (工場出荷時の設定)
排紙しません。

◆ 用紙なしエラー通知 (2. ヨウシナシ エラー)

現在選択されているトレイに用紙がセットされていないときのデータ受信を停止するタイミングを設定します。「印刷時」に設定すると用紙がセットされていなくても、データ受信は可能です。「常時」に設定すると用紙がセットされていないときはデータ受信できません。

- ・ 印刷実行時 (工場出荷時の設定)
用紙がセットされていなくても、データ受信は可能です。
- ・ 用紙なし時
用紙がセットされていないときはデータ受信できません。

◆ 自動排紙時間 (3. ジドウハイシジカン)

一定時間パソコンからデータが送信されない場合に本機内にあるデータを強制的に印刷するかどうかを設定します。たとえば、改ページコードがなくて [強制排紙] キーを押さないと印刷できないようなデータでも自動的に印刷させることができます。「なし」に設定するとデータは自動的に印刷されません。自動的に印刷させる場合は、データが送信されなくなってから強制的に印刷するまでの時間を設定します。設定された時間が経過すると送信されてきたデータが 1 ページの途中までであっても強制的に印刷されるため、適切な時間を設定することが重要です。

- ・ 自動排紙しない (工場出荷時の設定)
 - ・ 10 秒
 - ・ 15 秒
 - ・ 20 秒
 - ・ 25 秒
 - ・ 60 秒

- ・ 300 秒

◆ マクロキャッシュ (4. マクロキャッシュ)

プリンター言語モジュールがマクロキャッシュとして使用するメモリの上限を設定します。RPDL のみ設定できます。

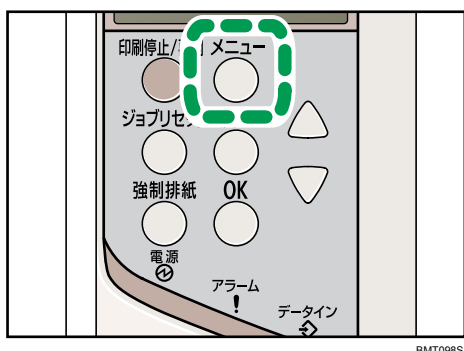
- ・ マクロなし (工場出荷時の設定)
- ・ マクロ 2.1MB
- ・ マクロ 4.3MB
- ・ マクロ 8.4MB

印刷設定メニューの設定を変更する

システム設定 (EM) メニューの変更方法を、例をあげて説明します。

4

1 [メニュー] キーを押します



2 [▲] [▼] キーを押して、「システムセッテイ (EM)」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー>
システムセッテイ (EM)

3 [▲] [▼] キーを押して、「1. ハクシ ハイシ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<システムセッテイ (EM) >
1. ハクシ ハイシ

4 [▲] [▼] キーを押して、「スル」を表示させ、[OK] キーを押します。

<ハクシ ハイシ>
*スル

設定が確定し、システム設定 (EM) メニューに戻ります。

5 [メニュー] キーを押します。

通常の画面が表示されます。

PS 設定メニュー

PS 設定メニューでは、PostScript 印刷を行うときの印刷条件を設定します。

★重要

- ・ オプションの PS3 カードが装着されているときに表示されます。

PS 設定メニューの設定項目

◆ ジョブタイムアウト (1. ジョブ タイムアウト)

現在のジョブを中止するまでの本機の待機時間を設定します (秒単位)。

「0」に設定した場合、ジョブタイムアウトは行われません。

- ・ ドライバ / コマンド優先 (工場出荷時の設定)
- ・ 機器側設定優先

[キキガワセッテイ ユウセン] を選択した場合、0~999 (1 ごと) の値を入力します。
工場出荷時は 0 に設定されています。

◆ ウェイトタイムアウト (2. ウェイトタイムアウト)

本機がジョブ終了を検知できない場合に、ジョブ受信を中止するまでの本機の待機時間を設定します。

「0」に設定した場合、ウェイトタイムアウトは行われません。

- ・ ドライバ / コマンド優先 (工場出荷時の設定)
- ・ 機器側設定優先

[キキガワセッテイ ユウセン] を選択した場合、0~999 (1 ごと) の値を入力します。
工場出荷時は 300 に設定されています。

◆ 両面印刷 (3. リョウメン インサツ)

両面印刷の実行の有無、または方向を設定します。

- ・ しない (工場出荷時の設定)
- ・ 長辺
- ・ 短辺

◆ 白紙排紙 (4. ハクシ ハイシ)

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定します。

- ・ する (工場出荷時の設定)
- ・ しない

◆ データ形式 (5. データ ケイシキ)

データ形式を設定します。

- ・ バイナリーデータ (工場出荷時の設定)
- ・ TBCP

◆ 解像度 (6. カイゾウド)

解像度を設定します。

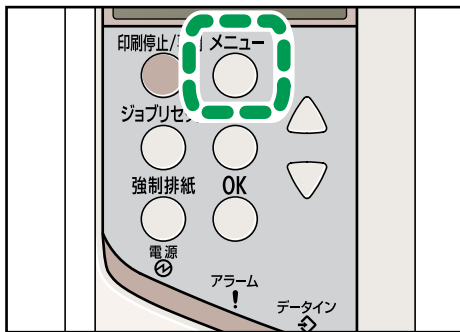
- ・ 300dpi
- ・ 600dpi (2 階調) (工場出荷時の設定)
- ・ 600dpi (標準)

- ◆ **最大領域印刷 (7. サイダイ リョウイキ)**
用紙サイズいっぱい印刷するかしないかを選択します。
 - ・最大で印刷する
 - ・通常で印刷する (工場出荷時の設定)
- ◆ **印刷方向自動検知 (8. ホウコウ ジドウケンチ)**
 - ・する (工場出荷時の設定)
 - ・しない

PS 設定メニューの設定を変更する

4

1 [メニュー] キーを押します。



BMT098S

2 [▲][▼] キーを押して、「PS セッテイ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー>
PSセッテイ

3 [▲][▼] キーを押して、「3. データ ケイシキ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<PSセッテイ>
5. データ ケイシキ

4 [▲][▼] キーを押して、「バイナリーデータ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<データ ケイシキ>
バイナリーデータ

設定が確定し、PS 設定メニューに戻ります。

5 [メニュー] キーを押します。

通常画面に戻ります。

PDF 設定メニュー

PDF 設定メニューでは、PDF ダイレクトプリントを行うときの印刷条件を設定します。

★重要

- ・オプションの PS3 カードが装着されているときに表示されます。

PDF 設定メニューの設定項目

◆パスワード変更 (パスワード ヘンコウ)

印刷する PDF ファイルに設定されたパスワードを本機に設定したり、変更したりします。

◆両面印刷 (リョウメン インサツ)

両面印刷をするかしないか、する場合はその方向を設定します。

- ・ しない (工場出荷時の設定)
- ・ 長辺
- ・ 短辺

◆白紙排紙 (ハクシ ハイシ)

白紙排紙コマンドを受信したときに印刷するデータがなく白紙の状態である場合に、排紙するかしないかを設定します。

- ・ する (工場出荷時の設定)
- ・ しない

◆解像度 (カイゾウド)

解像度を設定します。

- ・ 300dpi
- ・ 600dpi (2 階調) (工場出荷時の設定)
- ・ 600dpi (標準)

◆最大領域印刷 (サイダイ リョウイキ)

用紙サイズいっぱい印刷するかしないかを選択します。

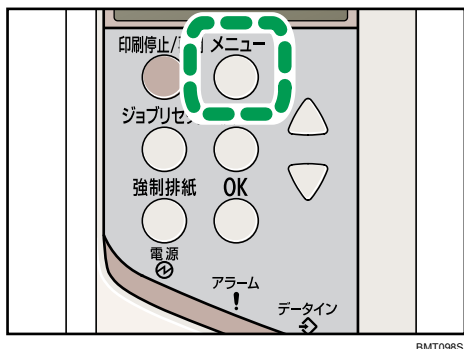
- ・ 最大で印刷する
- ・ 通常で印刷する (工場出荷時の設定)

◆印刷方向自動検知 (ホウコウ ジドウケンチ)

- ・ する (工場出荷時の設定)
- ・ しない

PDF 設定メニューの設定を変更する

- 1 [メニュー] キーを押します。



- 2 [▲][▼]キーを押して、「PDF セッテイ」を表示させ、[OK]キーを押します。

<メニュー>
PDFセッテイ

- 3 [▲][▼]キーを押して、「5. カイゾウド」を表示させ、[OK]キーを押します。

<PDFセッテイ>
5. カイゾウド

- 4 [▲] [▼] キーを押して設定を変更し、[OK] キーを押します。

<カイゾウド>
*600dpi 2カイチョウ

設定が確定し、PDF 設定メニューに戻ります。

- 5 [メニュー] キーを押します。

通常画面に戻ります。

インターフェース設定メニュー

インターフェース設定メニューでは、ネットワーク接続に関する設定とパソコンと本機を平行で接続している場合の通信に関する設定を行います。変更したインターフェース設定の内容は電源を切っても保持されます。

インターフェース設定メニューの設定項目

◆受信バッファ (1. ジュシン バッファ)

受信バッファのメモリーサイズを設定します。通常は変更する必要はありません。

- 128KB (工場出荷時の設定)
- 256KB

◆インターフェース切り替え時間 (2. I/F キリカエ ジカン)

現在のインターフェースからデータが送信されてこなくなってから、そのインターフェースを有効しておく時間を設定します。ここで設定した時間を超えるとほかのインターフェースからのデータの受信が可能になります。

設定時間が短すぎると 1 つのデータを受信中にタイムアウトになってしまうことがあります。その結果、ほかのインターフェースからのデータが割り込んで印刷されたり、データの途中からエミュレーション検知が働いて、違うエミュレーションに切り替わったり、印刷を中止したデータが途中から印刷されたりします。

- 10 秒
- 15 秒 (工場出荷時の設定)
- 20 秒
- 25 秒
- 60 秒

◆ネットワーク設定 (3. ネットワーク セッテイ)

ネットワーク環境に本機を接続して印刷するために設定をします。

インターフェース選択は、オプションの拡張無線 LAN ボードを装着しているときに表示されます。

- IPv4 設定 (1. IPv4 セッテイ)
 - DHCP
 - On
 - Off (工場出荷時の設定)
 - IPv4 アドレス
 - DHCP が「On」の場合はアドレスの表示のみ
 - DHCP が「Off」の場合はアドレスの設定
 - サブネットマスク
 - DHCP が「On」の場合はアドレスの表示のみ
 - DHCP が「Off」の場合はアドレスの設定
 - ゲートウェイアドレス
 - DHCP が「On」の場合はアドレスの表示のみ
 - DHCP が「Off」の場合はアドレスの設定

- IPv6 設定 (2. IPv6 セッテイ)
 - ステートレス設定 (1. ステートレスセッテイ)
有効 (工場出荷時の設定)
無効
- IPsec (3. IPsec)
 - 有効
 - 無効 (工場出荷時の設定)
- 有効プロトコル (5. ユウコウ プロトコル)
 - IPv4
有効 (工場出荷時の設定)
無効
 - IPv6
有効
無効 (工場出荷時の設定)
 - SMB
有効 (工場出荷時の設定)
無効
 - AppleTalk
有効 (工場出荷時の設定)
無効
- イーサネット速度 (6. イーサネット ソクド)
イーサネットボードを使ってネットワーク通信するときの通信速度を選択することができます。
 - 自動選択 (工場出荷時の設定)
 - 10M 半二重
 - 10M 全二重
 - 100M 半二重
 - 100M 全二重
- IEEE 802.1X (7. IEEE 802.1X)
イーサネット用の IEEE 802.1X 認証を設定します。
 - 認証有効
 - 認証無効 (工場出荷時の設定)IEEE 802.1X 認証については、『ハードウェアガイド』「インターフェース設定」を参照してください。
- 認証初期化 (8. ニンショウ ショキカ)
IEEE 802.1X 認証の設定値を初期化します。
- I/F 選択 (9. I/F センタク)
オプションの無線 LAN ボードが装着されているときに表示されます。
 - イーサネット (工場出荷時の設定)
 - 無線 LAN

◆ **パラレルインターフェース設定 (4. パラレル I/F セッテイ)**

パソコンと本機をパラレルで接続している場合の通信に関する設定を行います。拡張1284ボード装着時に表示されます。

- ・パラレルタイミング (1. パラレル タイミング)
パラレルインターフェースのタイミングを設定します。
 - ・ACK inside
 - ・ACK outside (工場出荷時の設定)
 - ・STB down
- ・パラレル通信速度 (2. パラレル ツウシンソクド)
パラレル通信で DMA 転送を使用して受信を行うかどうかを設定します。
 - ・高速 (工場出荷時の設定)
 - ・標準
- ・セレクト状態 (3. セレクト ジョウタイ)
パラレルインターフェースのセレクト信号のレベルを設定します。
 - ・High (工場出荷時の設定)
 - ・Low
- ・インプットプライム (4. インプット プライム)
インプットプライム信号が送られてきたとき、プライム信号を有効にするかどうかを設定します。通常は変更する必要はありません。
 - ・有効
 - ・無効 (工場出荷時の設定)
- ・双方向通信 (5. ソウホウコウ ツウシン)
パラレルインターフェースで使用しているとき、状態取得要求に対するプリンターの返答モードを設定します。市販のプリントボックスなどに接続して問題が発生したときは、「OFF」に設定します。
 - ・する (工場出荷時の設定)
 - ・しない

◆ **無線 LAN (5. ムセン LAN)**

無線 LAN を使用するときに必要な項目を設定します。オプションの無線 LAN ボードが装着されているときに表示されます。

◆ **通信モード (1. ツウシン モード)**

無線 LAN の通信モードを設定します。

通信モードは、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。

- ・802.11 アドホック (工場出荷時の設定)
- ・インフラストラクチャー

◆ **アドホックチャンネル (2. アドホックチャンネル)**

アドホックモード選択時に使用するチャンネルを 1~14、36、40、44、48 の間で設定します。

◆ **SSID (3. SSID)**

SSID を設定します。設定した SSID を確認することもできます。

SSID で使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号 < ASCII 0x20~0x7e > で 32 バイトまでです。大文字と小文字も区別されます。

SSID は、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。

- ・表示
- ・入力

◆ セキュリティー方式 (5. セキュリティーホウシキ)

無線 LAN の暗号化するかしらないか、する場合はその方式を選択し、WEP キーや PSK を設定します。

- ・ 選択しない (工場出荷時の設定)
- ・ WEP

変更する (HEX) : WEP キーを 16 進数で入力します。64bit WEP を使用する場合は 10 桁、128bit WEP を使用する場合は 26 桁を入力します。

変更する (ASCII) : WEP キーを ASCII 文字列で入力します。64bit WEP を使用する場合は 5 桁、128bit WEP を使用する場合は 13 桁を入力します。

WEP キーは、Web Image Monitor を使用して設定することもできます。

- ・ WPA

暗号方式 (1. アンゴウホウシキ) : TKIP/CCMP (AES)

認証方式 (2. ニンショウホウシキ) : WPA-PSK (ASCII 文字列で 8~63 桁の文字が使用できます。) / WPA (この方式を選択した場合は、別途 Web Image Monitor にて証明書を導入してください。) / WPA2-PSK (WPA-PSK と同様、ASCII 文字列で 8~63 桁の文字が使用できます。) / WPA2 (WPA の追加仕様で、IEEE802.11i に完全対応しています。)

PSK 入力 (3. PSK ニュウリョク) : 8~63 桁の間で入力します。

◆ USB ポート固定 (7. USB ポート コテイ)

- ・ レベル 1
- ・ レベル 2
- ・ しない (工場出荷時の設定)

↓ 補足

- ・ 本機能はサービスエンジニアが設定します。お客様は触れないでください。

↓ 補足

- ・ Web Image Monitor からの設定方法について詳しくは「Web ブラウザーを使う」、および Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

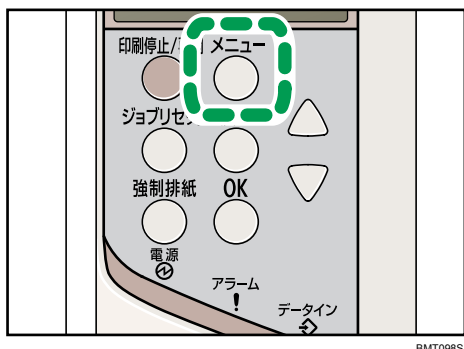
目 参照

- ・ P.185 「Web ブラウザーを使う」

インターフェース設定メニューの設定を変更する

インターフェース設定メニュー「受信バッファ」の変更方法を例として説明します。

- 1 【メニュー】 キーを押します。



BMT098S

4

- 2 【▲】 【▼】 キーを押して、「インターフェースセッテイ」を表示させ、【OK】 キーを押します。

<メニュー>
インターフェースセッテイ

- 3 【▲】 【▼】 キーを押して、「1. ジュシンバッファ」を表示させ、【OK】 キーを押します。

<インターフェースセッテイ>
1. ジュシンバッファ

- 4 【▲】 【▼】 キーを押して「256KB」を表示させ、【OK】 キーを押します。

<ジュシンバッファ>
*256KB

設定が確定し、2秒後にインターフェース設定メニューに戻ります。

- 5 【メニュー】 キーを押します。
通常の画面が表示されます。

表示言語メニュー

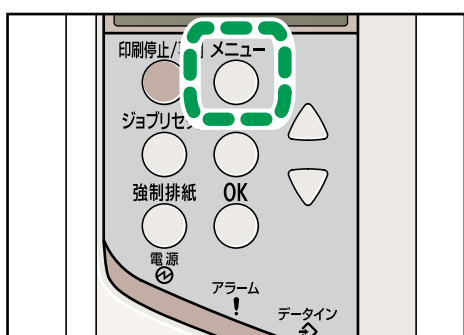
本機のパネル表示言語を選択します。

表示言語を変更する

★重要

・オプションのエミュレーションでは、英語表示はできません。

1 [メニュー] キーを押します。



BMT096S

2 [▲] [▼] キーを押して、「ヒョウジゲンゴ」を表示させ、[OK] キーを押します。

<メニュー>
ヒョウジゲンゴ

3 [▲] [▼] キーを押して、「English」を表示させ、[OK] キーを押します。

<ヒョウジゲンゴ>
*English

設定が確定し、2秒後に表示言語メニューに戻ります。

4 [メニュー] キーを押します。

通常の画面が表示されます。

5. 機器の監視

Web ブラウザーやソフトウェアを使った、機器の監視や設定についての説明です。

Web ブラウザーを使う

Web ブラウザーを使って、本機の状態を確認したり、本機のネットワークに関する設定を変更することができます。この機能を Web Image Monitor といいます。

★重要

- ・この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

◆どんなことができるのか？

Web Image Monitor は、離れた場所にある機器の状態確認や設定変更を、ネットワークを介したパソコンの Web ブラウザー上からできる機能です。

Web Image Monitor では以下の操作ができます。

- ・機器の状態／設定の表示
- ・ジョブの状態／履歴の確認
- ・印刷中ジョブの中止
- ・本機のリセット
- ・アドレス帳の管理
- ・本機の各種設定
- ・メール通知機能の設定
- ・ネットワークプロトコルに関する設定
- ・セキュリティーの設定

◆本機の環境設定

この機能は TCP/IP プロトコルを使って動作します。Web Image Monitor を使用する場合は、本機で TCP/IP プロトコルの設定を行ってください。TCP/IP の設定が正しく行われると、この機能は自動的に有効になります。

◆推奨ブラウザ

- ・Windows 環境：
Internet Explorer 5.5 SP2 以降
Firefox 1.0 以降

また、Web Image Monitor はスクリーンリーダに対応しています。推奨するアプリケーションと動作環境は次のとおりです。

- ・推奨するアプリケーション
95Reader Ver.6.0 (XPReader) 以降
- ・動作環境
Windows 環境：Microsoft Internet Explorer 5.5 SP2 以降

↓ 補足

- 使用するブラウザのバージョンが推奨ブラウザより低い場合や、使用するブラウザの設定で、「JavaScript」、「Cookie の使用許可」が有効になっていない場合は、表示や操作に不具合が生じる場合があります。
- プロキシサーバーをご使用の場合、本機との接続にプロキシサーバーを経由しない設定にしてください。詳しくは管理者に確認してください。
- ブラウザーの [戻る] で前のページに戻れないことがあります。そのときはブラウザの [更新] または [再読み込み] をクリックしてください。
- Web Image Monitor で取得できる情報は、自動的に更新されません。情報を更新する場合は、Web Image Monitor のワークエリアに表示された [最新の情報に更新] をクリックしてください。
- Firefox をご使用の場合、テーブルがくずれる、フォントや色が異なるなどの可能性があります。
- IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバーでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルをご使用になれません。
- IPv6 環境下で Internet Explorer 7.0 を使用する場合、ブラウザのアドレスバーには IP アドレスの代わりに本機のホスト名を入力してください。hosts ファイルに本機のホスト名を登録する方法については、「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」を参照してください。

目 参照

- P.307 「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」

トップページを表示する

Web Image Monitor の表示方法とトップページの説明です。

★重要

- IPv4 アドレスを入力する場合は、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。「192.168.001.010」と入力すると、本機に接続できません。

1 Web ブラウザーを起動します。

2 Web ブラウザーのアドレスバーに「http:// (本機のアドレスまたはホスト名) /」と入力し、本機にアクセスします。

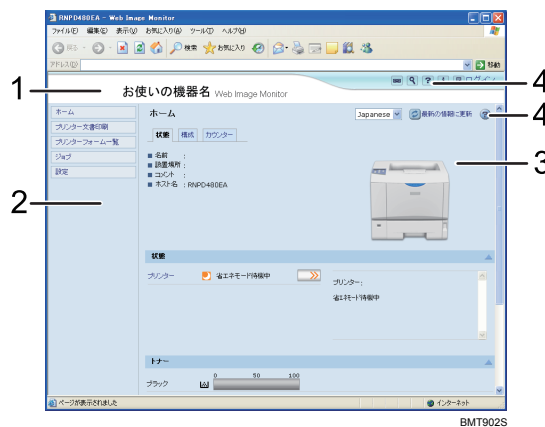
Web Image Monitor のトップページが表示されます。

DNS サーバー、WINS サーバーを使用し、本機のホスト名が設定されている場合、ホスト名を入力することができます。

サーバー証明を発行し、SSL (暗号化通信) の設定をしている場合は、「https:// (本機のアドレスまたはホスト名) /」と入力します。

Web Image Monitor は、フレーム機能によって次のエリアに分割表示されます。

5



1 ヘッダーエリア

ヘルプ、キーワード検索用のダイアログが表示されます。

2 メニューエリア

それぞれのモードのメニュー項目が表示されます。

メニュー項目を選択すると、その内容をワークエリアに表示、またはサブメニューを表示します。

3 ワークエリア

トップページでは、現在の機器の状態を表示します。

また、メニューエリアで選択された項目の内容を表示します。

ワークエリア内の情報は自動的に更新されません。情報を更新したい場合は、同エリア右上の「最新の情報に更新」をクリックしてください。なお、Web ブラウザー画面全体を更新したい場合は、ブラウザーの「更新」をクリックしてください。

4 ヘルプ

ヘルプファイルを閲覧することができます。

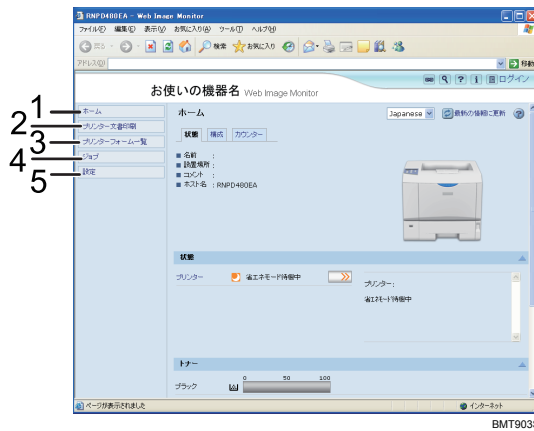
メニュー構成とモード

Web Image Monitor には、ゲストモードと管理者としてログインする管理者モードがあり、表示されるメニューが異なります。

また、お使いの機種により表示される項目が異なります。

◆ゲストモード

ゲストモードでは、機器の状態や設定、ジョブの状態などを表示できます。ただし、機器に関する設定を変更することはできません。



1 ホーム

給紙トレイ、排紙トレイとトナー残量の状態表示、本機の機能、システム情報とカウンターを表示、および搭載されているエミュレーションが表示されます。

2 プリンター文書印刷

試し印刷文書／機密印刷文書／保留印刷文書／保存文書の一覧が表示されます。

3 プリンターフォーム一覧

イメージオーバーレイフォームの一覧が表示されます。

4 ジョブ

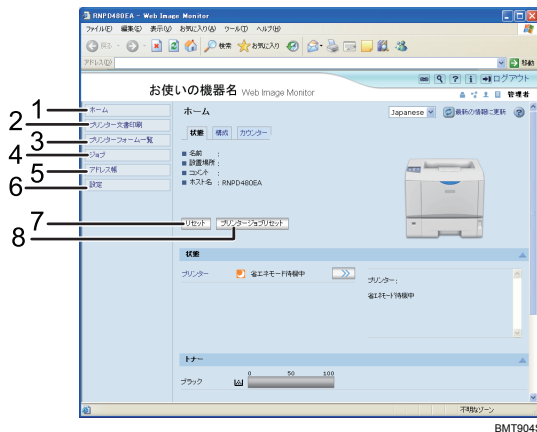
スプール印刷ジョブ、ジョブ履歴、エラー履歴の一覧表示、および試し印刷／機密印刷の一覧表示ができます。

5 設定

現在の本機の設定内容およびネットワーク設定の内容が表示されます。

◆ 管理者モード

管理者としてログインする管理者モードでは、機器に関する各種の設定ができます。



1 ホーム

[状態] タブ、[消耗品] タブ、[構成] タブ、[カウンター] タブが表示され、ワークエリアに各タブの詳細情報が表示されます。

2 プリンター文書印刷

試し印刷文書／機密印刷文書／保留印刷文書／保存文書の一覧が表示されます。

3 プリンターフォーム一覧

イメージオーバーレイフォームの一覧が表示されます。

4 ジョブ

各ジョブの一覧を表示することができます。

5 アドレス帳

本機を利用するユーザー情報の一覧が表示されます。

6 設定

本機のシステム設定やインターフェースの設定、ネットワーク設定、およびセキュリティの設定ができます。

7 リセット

トップページの [リセット] ボタンをクリックすると、実行中のジョブが終了次第、本機のプリンター機能をリセットします。

8 プリンタージョブリセット

トップページの [プリンタージョブリセット] ボタンをクリックすると、実行中のジョブ、または、実行中および待機中のすべてのジョブをリセットすることができます。

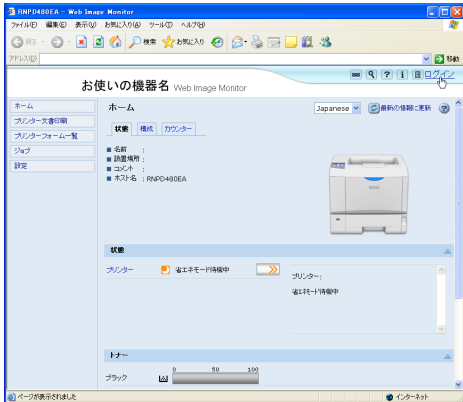
↓ 補足

- 表示や設定項目の詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

管理者モードでアクセスする

Web Image Monitor に管理者モードでアクセスする方法です。

- 1 Web Image Monitor のトップページで、[ログイン] をクリックします。



ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

- 2 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

Web Image Monitor のヘルプについて

Web Image Monitor のヘルプを表示する方法です。

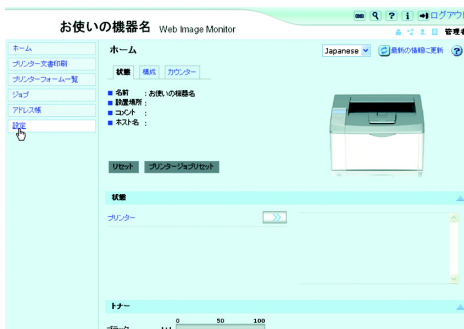
Web Image Monitor のヘルプは添付 CD-ROM に収録されています。

CD-ROM の「(CD-ROM のドライブ名) :¥HELP¥WIMHELP」の中の内容をすべて HDD の適当な場所にコピーの後、以降の設定を行ってください。

ヘルプへのアドレス (URL) リンク

パソコンまたは Web サーバーのヘルプファイルに、ヘッダーエリアに表示された [ヘルプ] のアドレス (URL) を次の手順でリンクすることができます。

- 1 管理者モードで Web Image Monitor にアクセスします
- 2 左フレーム内の [設定] をクリックします。



- 3 [Webpage] メニューの [Webpage 設定] をクリックします。



4 「ヘルプリンク先設定」の [URL] にヘルプファイルへのパスを入力します。

例えば、C:\HELP\JA にヘルプファイルをコピーしていた場合、「file:///C:/HELP/」と入力します。また、Web サーバー上にファイルをコピーして URL が http://a.b.c.d/HELP/JA/index.html の場合、「http://a.b.c.d/HELP/」と入力します。



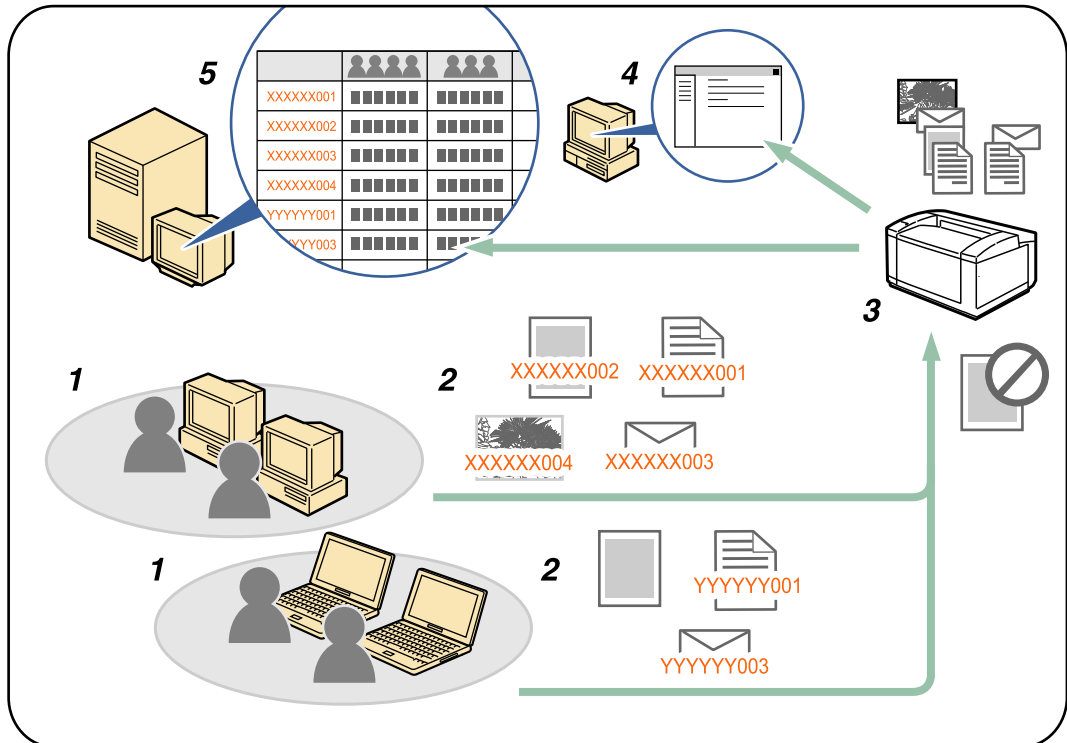
5

5 [OK] をクリックします。

分類コードを登録する

分類コードについて説明します。

分類コードを登録しておく、分類コードごとの印刷枚数がプリンターに記録されます。この機能を使い、たとえば利用目的や個人ごとに分類コードを設定しておく、印刷枚数を利用目的や個人ごとに集計して確認することができます。勘定科目ごとの集計やクライアントごとの課金管理などに適しています。



BFL908S

- 1 管理する部や課、プロジェクトチーム、ユーザーなど
- 2 利用目的に応じて、分類コードをプリントジョブに入力
- 3 印刷
- 4 Web Image Monitor で履歴を確認
- 5 外部ログ収集システムで分類コードを管理、集計

補足

- ・ 分類コードを入力する方法については、「プリントジョブに分類コードを入力する」を参照してください。
- ・ 分類コードが必須の環境では、分類コードが付与されていないプリントジョブは印刷されません。詳しくは、「分類コードの設定」を参照してください。

参照

- ・ P.79 「プリントジョブに分類コードを入力する」

分類コードの設定

プリントジョブに分類コードを必須とするか任意とするかを、Web Image Monitor で設定します。

★重要

- 分類コードを必須に設定した場合、分類コードが付与されていないプリントジョブは印刷できません。
- 分類コードに未対応のプリンタードライバー、PostScript 3 ドライバーからは印刷できません。
- 分類コードを必須に設定した場合でも、システム設定リストは印刷できます。
- 初期状態は任意に設定されています。

1 Web Image Monitor に管理者モードでログインします。
ログイン方法については、「Web ブラウザーを使う」を参照してください。

2 左フレームのメニューから [設定] をクリックします。

3 機器のカテゴリの中から [ログ] をクリックします。

4 [共通設定] カテゴリの中の [分類コード] をクリックし、[必須] か [任意] をクリックします。

5 [OK] をクリックします。

6 [ログアウト] をクリックします。

7 Web Image Monitor を終了します。

目参照

- P.185 「Web ブラウザーを使う」

Network Monitor for Admin を使う

Network Monitor for Admin は TCP/IP プロトコルを使ってネットワーク上の機器を監視するソフトウェアです。ネットワーク上の複数の機器の管理が可能です。管理者の方がお使いになることをお勧めします。

★重要

- ・この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

◆ Windows の対象 OS とプロトコルスタック

- ・ Windows 2000 日本語版
Windows 2000 に同梱の TCP/IP プロトコル
- ・ Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 日本語版
Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に同梱の TCP/IP プロトコル
- ・ Windows XP 日本語版
Windows XP に同梱の TCP/IP プロトコル
- ・ Windows Vista 日本語版
Windows Vista に同梱の TCP/IP プロトコル
- ・ Windows 7 日本語版
Windows 7 に同梱の TCP/IP プロトコル

◆ どんなことができるのか？

Network Monitor for Admin では以下の操作ができます。

- ・ 機器の操作部からの設定を制限し、一部の項目を変更できないようにします。
- ・ 機器にセットされている用紙の種類を設定できます。
- ・ 省エネモードへの切り替え、復帰などを設定できます。
- ・ 印刷中、用紙切れなどの情報をパソコン上で確認できます。
- ・ 同時に複数の機器を監視できます。機器の台数が多いときはグループを作り、管理しやすいように機器を分類できます。
- ・ 機器のネットワークに関する設定や、装備に関する詳しい情報を確認できます。
- ・ 機器のネットワークに関する設定を変更できます。
- ・ パソコンから行ったジョブの結果を確認できます。
- ・ ユーザーコードごとのカウンター情報を確認できます。
- ・ 登録されたユーザーコードごとに、印刷の利用可・不可を管理できます。
- ・ 機器の状態変化をグループごとに設定し、通知することができます。
- ・ メールを送信者名やフォルダの宛先を保護します。

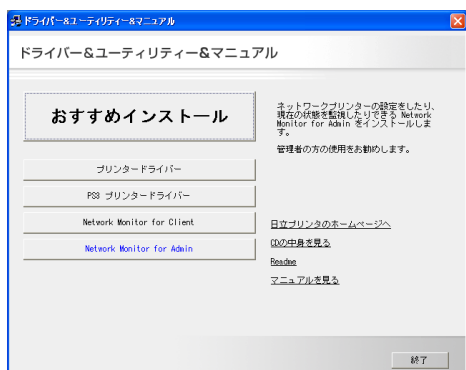
Network Monitor for Admin のインストール

Network Monitor for Admin のインストールについての説明です。

★重要

- ・起動しているすべてのアプリケーションを終了し、パソコンが印刷中でないか確認してください。

- 1 本機に同梱のCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。インストーラーが起動します。
- 2 セットアップ画面が表示されたら、[Network Monitor for Admin]をクリックします。



Network Monitor for Admin のセットアップ画面が表示されます。

- 3 [次へ] をクリックします。
- 4 [使用許諾契約] ダイアログにソフトウェア使用許諾契約書が表示されます。すべての項目をお読みください。同意する場合は、[はい] をクリックします。
- 5 表示されるメッセージに従って Network Monitor for Admin をインストールします。
インストールが完了するとメッセージが表示されます。
- 6 [完了] をクリックします。
「Windows の再起動」ダイアログが表示される場合は、Windows を再起動してください。

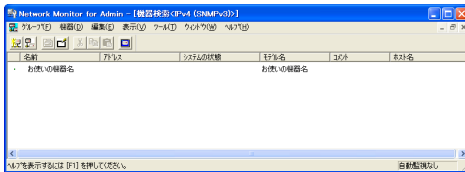
↓補足

- ・システムの設定によってはインストーラーが自動的に起動しないことがあります。その場合は、CD-ROM のルートディレクトリにある「SETUP.EXE」をダブルクリックして起動してください。

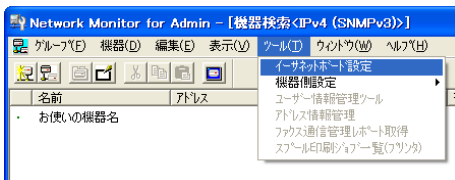
ネットワークインターフェースボードの設定を変更する

Network Monitor for Admin を使って、ネットワークインターフェースボードの設定を変更する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。



- 3 一覧からネットワークインターフェースボードの設定を変更する機器をクリックして反転表示させます。
- 4 [ツール] メニューの [イーサネットボード設定] を選択します。



イーサネットボード設定ツールが起動します。表示スタイルから [Web ブラウザ] をチェックして、[OK] をクリックします。
Web ブラウザーが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。
- 6 必要な項目を入力し、設定します。
- 7 [ログアウト] をクリックします。
- 8 Web Image Monitor を終了します。
- 9 Network Monitor for Admin を終了します。

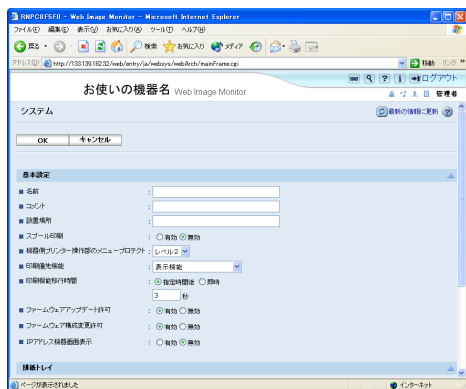
補足

- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問い合わせください。

機器側プリンター操作部のメニューをロックする

機器側プリンター操作部のメニューをロックする方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 一覧からプリンター操作部のメニューをロックしたい機器をクリックして反転表示させます。
- 4 [ツール] メニューの [機器側設定] をポイントし、[システム] をクリックします。
Web ブラウザーが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。
- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して [ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。
Web Image Monitor にシステムエリアが表示されますので、設定を変更します。



- 6 [機器側プリンター操作部のメニュープロテクト] で [レベル 1]、または [レベル 2] を選びます。
- 7 [OK] をクリックします。
- 8 [ログアウト] をクリックします。
- 9 Web Image Monitor を終了します。
- 10 Network Monitor for Admin を終了します。

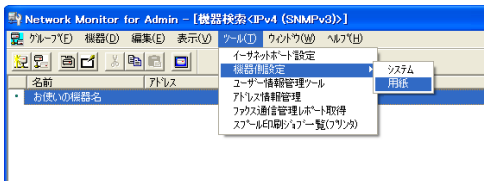
↓ 補足

- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問い合わせください。

用紙を設定する

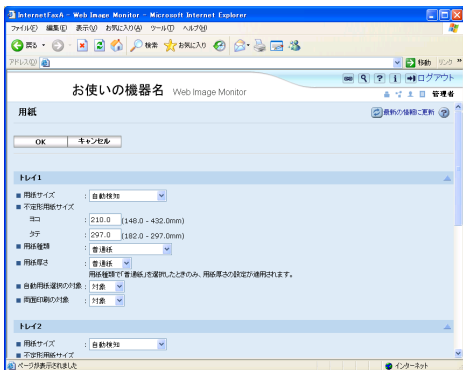
用紙種類を設定する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 一覧から用紙種類を設定したい機器をクリックして反転表示させます。
- 4 [ツール] メニューの [機器側設定] をポイントし、[用紙] をクリックします。



Web ブラウザーが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して [ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。
Web Image Monitor に用紙エリアが表示されますので、設定を変更します。



- 6 [ログアウト] をクリックします。
- 7 Web Image Monitor を終了します。
- 8 Network Monitor for Admin を終了します。

補足

- ・設定項目について詳しくは、機器設定エリア内のヘルプを参照してください。
- ・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問い合わせください。

ユーザー情報を管理する

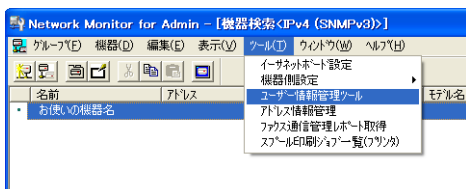
Network Monitor for Admin でユーザー情報を管理する方法の説明です。

ユーザー情報管理ツールを使用して、ユーザーコードごとの印刷枚数を管理したり、利用可能な機能を制限したりすることができます。

ユーザー情報管理ツールを起動する

ユーザー情報管理ツールを起動する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[TCP/IP] または [TCP/IP SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
TCP/IP SNMP v3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 一覧からユーザー情報を管理する機器をクリックして反転表示させます。
- 4 [ツール] メニューの [ユーザー情報管理ツール] を選択します。



ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力して [ログイン] をクリックします。

Web Image Monitor に管理者モードでアクセスするときと同じログインユーザー名とログインパスワードを入力してください。ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。
ユーザー情報管理ツールが起動します。



↓ 補足

- ユーザー情報管理ツールについて詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。

印刷枚数を表示する

ユーザー別の印刷枚数情報を表示する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。
- 2 [ユーザー別印刷カウント] タブをクリックします。



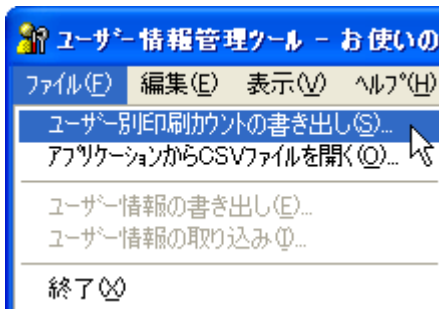
本機で印刷した枚数に関する情報が表示されます。

- 3 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

印刷枚数の情報を保存する

ユーザー別の印刷枚数情報を csv ファイルで保存する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。
- 2 ユーザー情報管理ツールの [ユーザー別印刷カウント] タブをクリックします。
- 3 [ファイル] メニューをクリックし、[ユーザー別印刷カウントの書き出し] をクリックします。



- 4 保存するフォルダとファイル名を指定し、[保存] をクリックします。
- 5 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

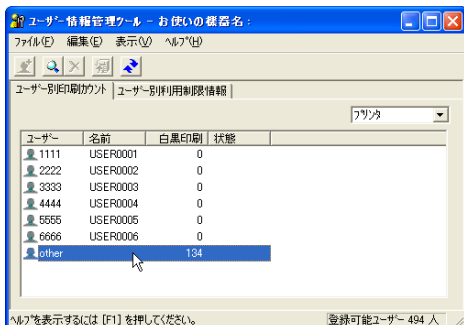
印刷枚数の情報をリセットする

ユーザーごとに、印刷枚数の情報をリセットし、表示を0に戻す方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。
- 2 ユーザー情報管理ツールの [ユーザー別印刷カウント] タブをクリックします。



- 3 リセットするユーザーをクリックします。



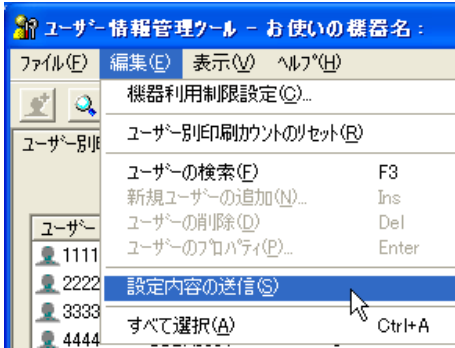
- 4 [編集] メニューをクリックし、[ユーザー別印刷カウントのリセット] をクリックします。



- 5 リセットする項目のチェックボックスにチェックを付け、[OK] をクリックします。
確認のメッセージが表示されます。

6 [OK] をクリックします。

7 [編集] メニューをクリックし、[設定内容の送信] をクリックします。



変更した情報が本機に反映されます。

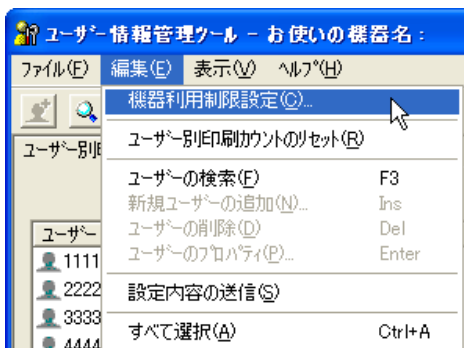
8 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

5

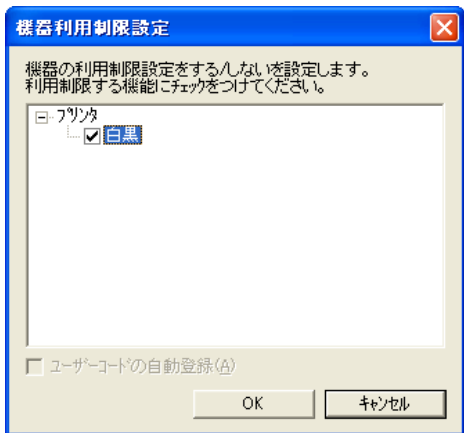
利用制限を設定する

本機の機能について、機能ごとに利用制限を設定する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。
- 2 ユーザー情報管理ツールの [編集] メニューをクリックし、[機器利用制限設定] をクリックします。



- 3 利用制限を設定する機能のチェックボックスにチェックを付けます。



- 4 [OK] をクリックします。
設定内容が本機に反映されます。
- 5 [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。

ユーザーごとに利用可能な機能を設定する

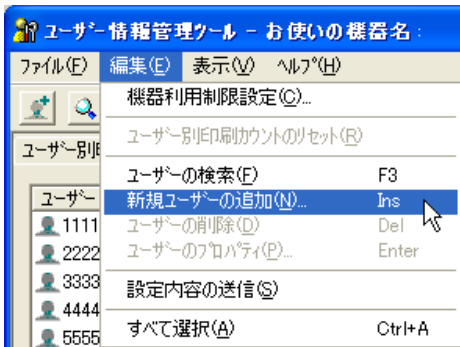
ユーザーごとに利用可能な機能を設定する方法の説明です。

ここでは、ユーザーを追加して利用可能な機能を設定する方法を説明します。

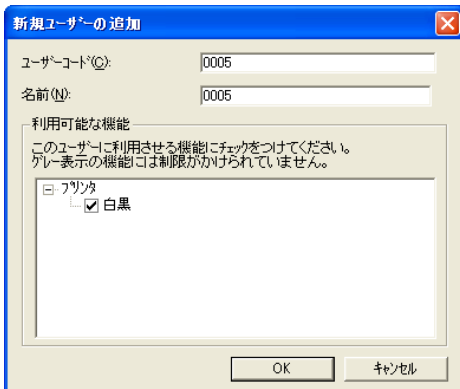
- 1 Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動します。
- 2 ユーザー情報管理ツールの [ユーザー別利用制限情報] タブをクリックします。



- 3 [編集] メニューをクリックし、[新規ユーザーの追加] をクリックします。



- 4 ユーザーコードと名前を入力します。
- 5 追加したユーザーに使用を許可する機能のチェックボックスにチェックを付けます。



チェックボックスがグレーになっている機能は利用制限が設定されていません。

6 [OK] をクリックします。

ユーザーが追加されます。

7 [編集] メニューをクリックし、[設定内容の送信] をクリックします。

設定内容が本機に反映されます。

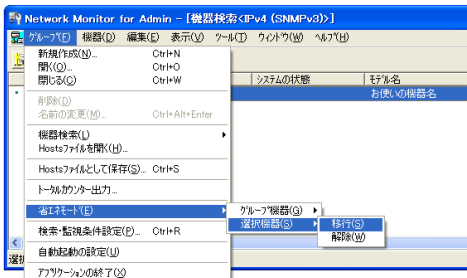
5**8** [ファイル] メニューの [終了] をクリックし、ユーザー情報管理ツールを終了します。**補足**

- ・利用制限の設定方法について詳しくは、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。

省エネモードを設定する

省エネモードを設定する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 一覧から省エネモードを設定する機器をクリックして反転表示させます。
グループ内の機器を全て設定したいときには選択する必要はありません。
- 4 [グループ] メニューをクリックし、[省エネモード] - [選択機器] ポイントし、[移行] をクリックします。



グループ内の機器を全て設定する場合は [グループ機器] を選択します。
省エネモードを解除する場合は、[解除] をクリックします。

- 5 Network Monitor for Admin を終了します。

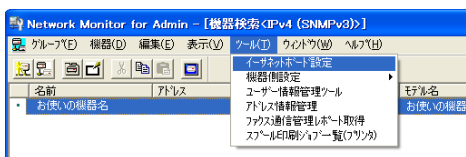
補足

- 省エネモードの設定については、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。

パスワードを設定する

パスワードを設定する方法の説明です。

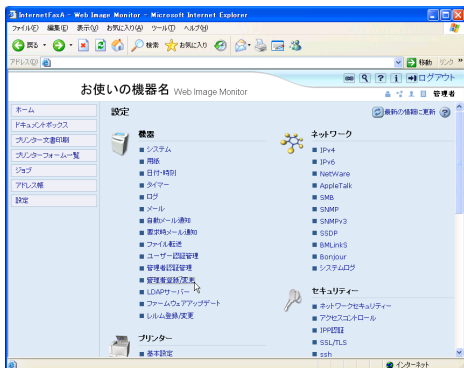
- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 一覧からネットワークインターフェースボードの設定を変更する機器をクリックして反転表示させます。
- 4 [ツール] メニューの [イーサネットボード設定] を選択します。



イーサネットボード設定ツールが起動します。表示スタイルから [Web ブラウザ] をチェックして、[OK] をクリックします。

Web ブラウザーが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

- 5 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。
- 6 [機器] エリアの [管理者登録 / 変更] をクリックし、設定を変更します。



- 7 [ログアウト] をクリックします。

- 8 Web Image Monitor を終了します。
- 9 Network Monitor for Admin を終了します。

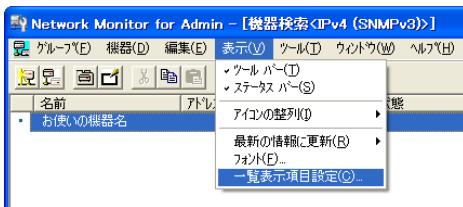
↓ 補足

・ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問い合わせください。

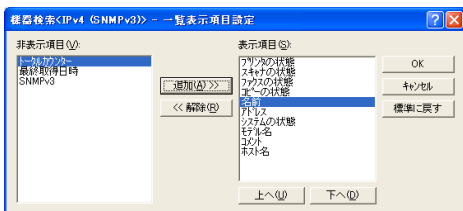
機器の状態を表示する

機器の状態を表示する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 [表示] メニューをクリックし、[一覧表示項目設定] をクリックします。

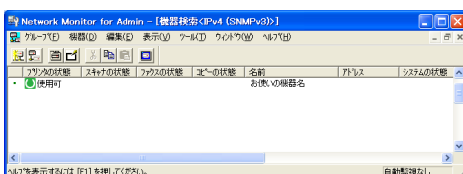


- 4 [一覧表示項目設定] 画面の [非表示項目] から表示させたい項目をクリックして反転表示させ、[追加] をクリックします。



選択した項目が [表示項目] に移動します。

- 5 表示させたい項目をすべて移動させ、[OK] をクリックします。
一覧に機器の状態がアイコンで表示されます。



- 6 より詳しい状態を知りたい場合は、一覧で状態を知りたい機器をクリックして反転表示させ、[機器] メニューの [開く] をクリックします。



選択した機器の情報ダイアログが表示されます。

- 7 状態を表示させたいアプリケーションをクリックします。
機器の状態が表示されます。

5

- 8 Network Monitor for Admin を終了します。

↓ 補足

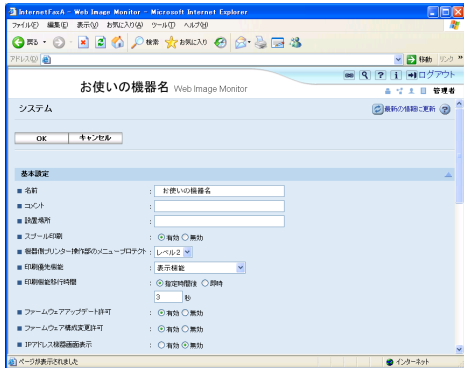
・ダイアログの各項目の詳細についてはヘルプを参照してください。

本体名とコメントを変更する

本体名とコメントを変更する方法の説明です。

- 1 Network Monitor for Admin を起動します。
- 2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[IPv4]、[IPX/SPX] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3 設定する機器をクリックして反転表示させ、[ツール] メニューの [イーサネットボード設定] をクリックします。
Web ブラウザーが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。
ネットワークインターフェースボードが初期設定の状態の場合、イーサネットボード設定ツールが起動します。表示スタイルから [Web ブラウザ] をチェックして、[OK] をクリックします。
- 4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

5 [機器] エリアの [システム] をクリックし、設定を変更します。



6 [ログアウト] をクリックします。

7 Web Image Monitor を終了します。

8 Network Monitor for Admin を終了します。

補足

- ・ [名前] には、本体名を半角英数 31 バイト以内で入力します。
- ・ [コメント] には、機器のコメントを半角英数 31 バイト以内で入力します。
- ・ ログインユーザー名とログインパスワードについては、管理者にお問い合わせください。

スプール印刷ジョブの一覧を確認する

スプール印刷ジョブの一覧を確認する方法の説明です。

1 Network Monitor for Admin を起動します。

2 [グループ] メニューをクリックし、[機器検索] をポイントし、[TCP/IP]、[IPX/SPX] または [TCP/IP SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。

機器の一覧が表示されます。

TCP/IP SNMP v3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。

3 スプール印刷ジョブの一覧を確認したい機器をクリックして反転表示させ、[ツール] メニューの [スプール印刷ジョブ一覧 (プリンタ)] をクリックします。

Web ブラウザーが起動して、ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

Web Image Monitor にスプール印刷ジョブ一覧が表示されます。表示されたスプール印刷ジョブを削除することができます。

↓ 補足

- スプール印刷ジョブ一覧を表示するためには、あらかじめ本機のスプール印刷を [有効] に設定する必要があります。
- 詳しくは、スプール印刷ジョブ一覧エリア内のヘルプを参照してください。

アドレス情報を管理する

アドレス情報を管理する方法の説明です。

- 1** Network Monitor for Admin を起動します。
- 2** [グループ] メニューをクリックし、[機器探索] をポイントし、[IPv4] または [IPv4 SNMPv3] をクリックします。設定を変更する機器が使用しているプロトコルを選択してください。
機器の一覧が表示されます。
IPv4 SNMPv3 のプロトコルをご使用の場合、認証情報の入力が必要となります。
- 3** アドレス情報を管理する機器をクリックして反転表示させ、[ツール] メニューの [アドレス情報管理] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。
- 4** ログインユーザー名とログインパスワードを入力して [ログイン] をクリックします。
Web Image Monitor に管理者モードでアクセスするときと同じログインユーザー名とログインパスワードを入力してください。ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。
アドレス情報管理ツールが起動します。

↓ 補足

- 詳しくは、アドレス情報管理ツールのヘルプを参照してください。

Network Monitor for Client を使う

Network Monitor for Client を使って機器を監視する方法の説明です。

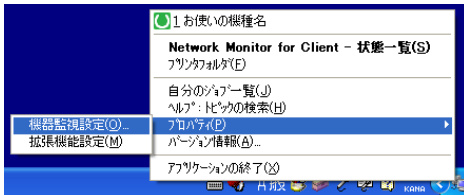
★重要

- ・この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

監視する機器を設定する

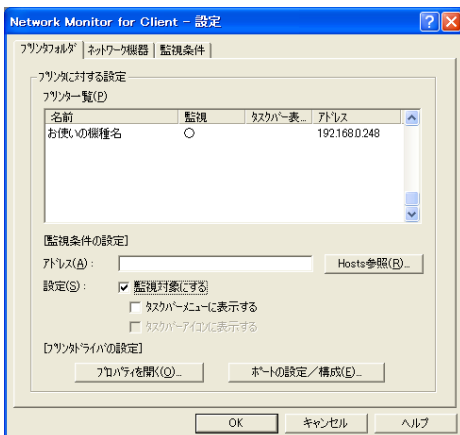
Network Monitor for Client で監視する機器を設定する方法の説明です。

- 1 タスクトレイの Network Monitor for Client アイコンを右クリックし、表示されたポップアップメニューの [プロパティ]-[機器監視設定] をクリックします。



- 2 [Network Monitor for Client- 設定] ダイアログが表示されます。

- 3 監視するプリンターをクリックして反転表示させ、[設定] の [監視対象にする] にチェックを付けます。



[タスクバーアイコンに表示する] にチェックを付けると、タスクトレイの Network Monitor for Client アイコンにプリンターの状態がアイコンで表示されるようになります。

- 4 [OK] をクリックします。

ダイアログが閉じ、設定したプリンターが監視の対象に含まれます。

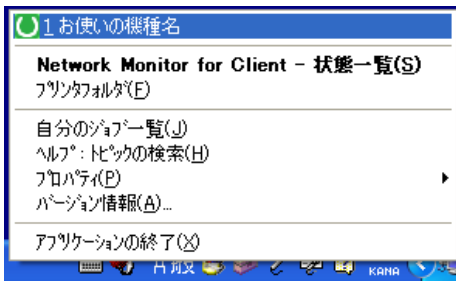
↓ 補足

- ・状態アイコンの詳細についてはヘルプを参照してください。

機器の状態を表示する

Network Monitor for Client で機器の状態を表示する方法の説明です。

- 1 タスクトレイの右端の Network Monitor for Client アイコンをマウスの右ボタンでクリックし、状態を知りたい機器をクリックします。



Web Image Monitor が起動し、機器の状態が表示されます。



↓ 補足

- ・Web Image Monitor の項目の詳細についてはWeb Image Monitor のヘルプを参照してください。

Network Monitor for Client で IPP を使用する場合

Network Monitor for Client で IPP を使用する際の注意事項です。

- 本機が受け付ける Network Monitor for Client からの印刷ジョブは、1 件のみです。本機が印刷中のとき、他のユーザーが Network Monitor for Client を使用して続けて接続しようとしても、先に行っている印刷が完了するまでは接続できません。この場合、後から接続しようとしたユーザーの Network Monitor for Client は、リトライ設定時間経過ごとに接続を試みます。
- Network Monitor for Client が本機に接続できずにタイムアウトになると、印刷ジョブが削除されます。この場合、印刷の操作をやり直す必要があります。
- 他のパソコンから出された印刷ジョブは、プロトコルにかかわらず、プリンターのアイコンをダブルクリックして開くウィンドウに表示されません。
- 複数のユーザーが Network Monitor for Client を使用して印刷しようとした場合、本機に接続しようとした順に印刷が始まらない場合があります。
- IPP の印刷ポート名に IP アドレスは使用できません。Network Monitor for Client がポート名として IP アドレスを使用するため、ポートの競合が発生します。
- SSL を使用する場合、本機にアクセスするときは、「https:// (本機のアドレスまたはホスト名) /printer」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。最新のバージョンをお使いください。Internet Explorer 6.0 以降を推奨します。
- 本機にアクセスするとき、[セキュリティの警告] が表示された場合、ご使用のパソコンに証明書をインストールする必要があります。この場合、[証明書のインポートウィザード] で証明書ストアの場所は、[証明書をすべて次のストアに配置する] を選択し、[信頼されたルート] の [ローカルコンピュータ] を選択します。

↓ 補足

- SSL (暗号化通信) について詳しくは、「通信経路の保護と暗号化通信」を参照してください。

目 参照

- P317 「通信経路の保護と暗号化通信」

機器の状態をメールで通知する

本機に用紙切れや紙詰まりなどのアラートが発生したときに、メール通知機能を使用して機器の状態を通知することができます。

機器の状態を通知するメールは、あらかじめ設定した送信先メールアドレスに送信されます。

★重要

- ・メールソフトによっては、メールを受信したときに、フィッシングの警告が出る可能性があります。回避方法については、メールソフトのヘルプを参照の上、送信者を警告対象外に設定してください。
- ・この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

本機のメール通知機能は次の2種類です。

◆自動メール通知

あらかじめ設定したメールアドレスに、機器の状態などをメールで自動通知する機能です。

◆要求時メール通知

管理者からの要求に応じて、機器の状態などをメールで通知する機能です。

アラートを通知するタイミングや状態なども設定することができます。

自動メール通知で設定できるものは、以下の通りです。

- ・サービスコールが発生した場合
- ・トナーがなくなった場合
- ・トナーの残りがわずかになった場合
- ・メンテナンスキットの交換時期が近づいた場合
- ・紙づまりがおきた場合
- ・ドアオープンが検知された場合
- ・紙がなくなった場合
- ・紙の残りがわずかになった場合
- ・給紙トレイでエラーが発生した場合
- ・排紙トレイが満杯になった場合
- ・ユニットの接続にエラーが発生した場合
- ・ハードディスクの文書保存領域が満杯に近づいた場合
- ・ログエラーになった場合

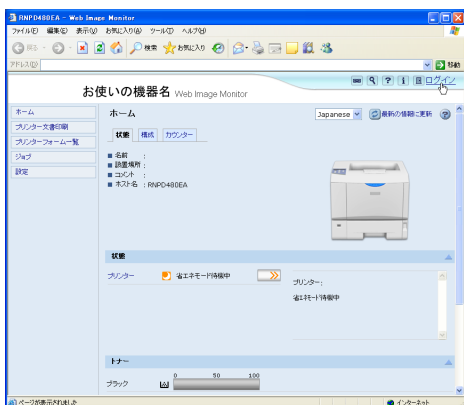
1 本機の操作部を使用して、[システム設定]メニューの[メール通知設定]を[する]に設定します（工場出荷時は[する]に設定されています）。

2 Web ブラウザーを起動し、アドレスバーに「http://（本機のアドレスまたはホスト名）」と入力し、本機にアクセスします。

SSL（暗号化通信）の設定を有効にしている場合、「https://（本機のアドレスまたはホスト名）」と入力します。

Web Image Monitor のトップページが表示されます。

3 Web Image Monitor のトップページで、[ログイン] をクリックします。



ログインユーザー名とログインパスワードを入力する画面が表示されます。

4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

ログインユーザー名とログインパスワードは管理者にお問い合わせください。

5 画面左のメニューから [設定] をクリックし、[機器] エリアの [メール] をクリックします。

6 設定画面に示された以下の項目のうち、必要なものを設定します。

- ・ 管理者メールアドレス：機器に問題が発生した場合や消耗品の交換が必要な場合に、メール通知をする宛先の設定を行います。
- ・ 受信欄の各項目：メール受信の際に必要なプロトコルの設定を行います。
- ・ SMTP 欄の各項目：SMTP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
SMTP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。「SMTP 認証の場合」を参照してください。
- ・ POP before SMTP 欄の各項目：POP サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
POP サーバーに対してメールの認証を行うこともできます。「POP before SMTP 認証の場合」を参照してください。
- ・ POP3/IMAP4 欄の各項目：POP3 サーバーまたは IMAP4 サーバーに関する設定を行います。お使いのメール環境をご確認の上、必要項目を設定してください。
- ・ メール受信ポート欄の各項目：メールサーバーにアクセスする際に使用するポートの設定を行います。
- ・ メール通知アカウント欄の各項目：要求時メール通知を使用する場合は設定を行います。

7 [OK] をクリックします。

メール通知用アカウントの設定

メール通知用アカウントの設定について説明します。

「自動メール通知」と「要求時メール通知」を使用するためには、あらかじめメール通知用アカウントを設定する必要があります。Web Image Monitor にて以下の設定をしてください。

1 [機器] メニューの [メール] をクリックします。

2 設定画面に示された以下の項目を設定します。

- メール通知用メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
- メール通知の受信：要求時メール通知機能を使用するかどうかを選択します。
- メール通知ユーザー名：メールの送信者として管理者のユーザー名を入力します。
- メール通知パスワード：メール通知ユーザーのパスワードを設定します。

3 [OK] をクリックします。

4 [ログアウト] をクリックします。

5 Web Image Monitor を終了します。

↓ 補足

- メール通知用アカウントでは、ファクスメールアカウントと同じユーザー名とメールアドレスが使えません。

メールの認証について

メールサーバーの不正利用を防止するために、メールの認証を設定できます。

◆ SMTP 認証の場合

SMTP サーバーへのメール送信時に、SMTP AUTH プロトコルを使用してユーザー名とパスワードを入力し、認証を行うことで SMTP サーバーの不正利用を防止します。

- 1) Web Image Monitor に管理者としてログインし、左フレーム内の [設定] をクリックし、[機器] メニューの [メール] をクリックします。
- 2) 設定画面に示された以下の項目を設定します。
 - SMTP サーバ名：SMTP サーバー名を半角の英数字で指定します。
 - SMTP ポート番号：ポート番号を指定します。通常、SMTP で用いられるポート番号は「25」です。
 - SMTP 認証：SMTP 認証のする/しないを指定します。
 - SMTP 認証メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
 - SMTP 認証ユーザー名：SMTP アカウント名を半角の英数字で入力します。realmID を指定する場合には、SMTP 認証ユーザー名の後に @ realmID の形式で追加してください。
 - SMTP 認証パスワード：使用する SMTP アカウントのパスワードを設定します。
 - SMTP 認証暗号化：SMTP 認証を有効にした場合に、パスワードの暗号化を行うかどうかを選択します。
[自動選択]：認証方式が PLAIN、LOGIN、CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。
[有効]：認証方式が CRAM-MD5、DIGEST-MD5 の場合に指定します。
[無効]：認証方式が PLAIN、LOGIN の場合に指定します。
- 3) [OK] をクリックします。
- 4) [ログアウト] をクリックします。
- 5) Web Image Monitor を終了します。

◆ POP before SMTP 認証の場合

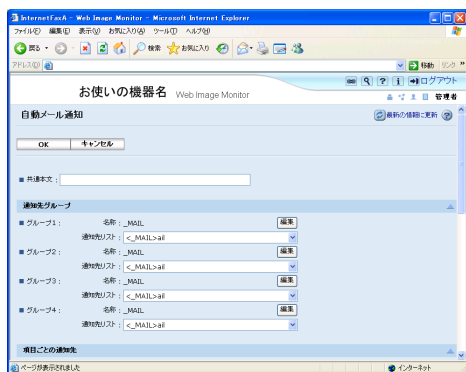
メールを送信するときに、あらかじめ POP3 サーバーに対してログインを行うかどうかを選択します。

- 1) 左フレーム内の [設定] をクリックし、[機器] メニューの [メール] をクリックします。
- 2) 設定画面に示された以下の項目を設定します。
 - POP before SMTP: POP before SMTP 認証のする/しないを設定します。
 - POP メールアドレス：使用するメールアドレスを、半角の英数字で入力します。
 - POP ユーザー名：POP アカウント名を半角の英数字で入力します。
 - POP パスワード：使用する POP アカウントのパスワードを設定します。
 - POP 認証後待機時間：POP before SMTP を有効に設定した場合に、POP サーバーにログインしてから SMTP サーバーに接続を開始するまでの時間を入力します。
- 3) [OK] をクリックします。
- 4) [ログアウト] をクリックします。
- 5) Web Image Monitor を終了します。

「自動メール通知」の設定

「自動メール通知」の設定について説明します。

- 1 Web Image Monitor に管理者としてログインします。
- 2 左フレーム内の [設定] をクリックし、[機器] メニューの [自動メール通知] をクリックします。
通知項目に関する設定画面が表示されます。



- 3 設定画面に示された以下の項目を設定します。
 - ・共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
 - ・通知先グループの各項目：通知先アドレスをグループ分けして設定できます。
 - ・項目ごとの通知先の各項目：機器の状態やエラーなど、各通知項目ごとに、メールを送信するグループを設定できます。
項目の詳細を設定する場合は、[各項目の詳細設定] の [編集] をクリックし、表示される設定画面で各項目を設定して [OK] をクリックします。

- 4 [OK] をクリックします。
- 5 [ログアウト] をクリックします。
- 6 Web Image Monitor を終了します。

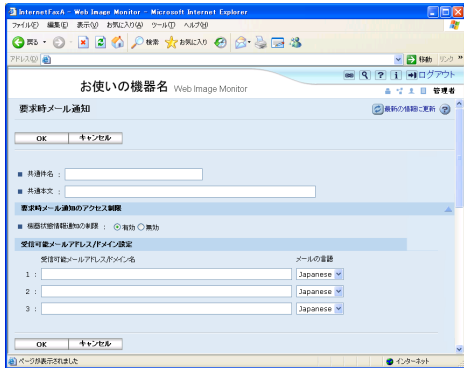
補足

- ・設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

「要求時メール通知」の設定

「要求時メール通知」の設定について説明します。

- 1 Web Image Monitor に管理者としてログインします。
- 2 左フレーム内の [設定] をクリックし、[機器] メニューの [要求時メール通知] をクリックします。
通知項目に関する設定画面が表示されます。



- 3 設定画面に示された項目を設定します。
 - ・ 共通件名：返信メールの件名に共通で付加する文字列を入力します。
 - ・ 共通本文：機器の設置場所や、サービスコールが発生したときの連絡先など、任意の文字列を設定できます。
 - ・ 機器状態情報通知の制限：機器の設定内容や状態などの情報へのアクセスを制限するかどうか選択します。
「有効」を選択すると、要求があっても返信メールを送信しません。
「無効」を選択すると、要求があれば返信メールを送信します。
 - ・ 受信可能メールアドレス/ドメイン設定の各項目：メールで情報を要求し、返信メールとして情報を受け取ることができるメールアドレスまたはドメイン名を入力します。

- 4 [OK] をクリックします。
- 5 [ログアウト] をクリックします。
- 6 Web Image Monitor を終了します。

↓ 補足

- ・ 設定項目については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

要求メールの書式について

要求メールの書式について説明します。

要求時メール通知機能を使用するためには、定められた書式の要求メールを本機に対して送信する必要があります。

要求メールは、お使いのメールソフトにて以下の書式で記述してください。

項目	記述内容
Subject (メールソフトでは「件名」などと表示される部分)	requeststatus
From (メールソフトでは「送信者」、「差出人」などと表示される部分)	有効なメールアドレスを指定してください。機器の情報はここで指定されたアドレスに送信されます。

↓ 補足

5

- Subject の記述では、アルファベットの大文字・小文字を区別しません。
- 要求メールの本文には意味がありません。記述した内容はすべて無視されます。
- 要求メールの大きさは最大 1MB です。

telnet を使う

telnet を使ってプリンターの状態や設定内容を確認や、各種の設定を行うことができます。

★重要

- ・リモートメンテナンス (mshell) はセキュリティーを確保するため、パスワードを設定して運用してください。
- ・パスワードは Web ブラウザーによる設定 (Web Image Monitor) で使用するパスワードと共通です。mshell 上でパスワードを変更すると、他のパスワードも変更されます。

操作の流れ

telnet を起動してから終了するまでの手順についての説明です。

★重要

- ・リモートメンテナンスを同時に複数のユーザが使用することはできません。
- ・Windows Vista をご使用の場合は、telnet クライアントおよび telnet サーバーを有効にしてからお使いください。

5

1 本機の IP アドレス (またはホスト名) を引数にして telnet を起動します。
% telnet 本機の IP アドレス (またはホスト名)

2 ログイン名とパスワードを入力します。

ユーザー名とパスワードは管理者にお問い合わせください。

ユーザー認証が設定されているときは、ログイン名にはログインユーザー名を、パスワードにはログインパスワードを入力してログインします。

3 コマンドを入力します。

4 telnet を終了します。

```
msh> logout
```

設定が変更されていると変更内容を保存するかどうかを確認するメッセージが表示されます。

5 変更内容を保存するときは「yes」と入力し、[Enter] キーを押します。

変更内容を保存しないときは「no」と入力し、[Enter] キーを押します。コマンド入力を続けるときは「return」と入力し、[Enter] キーを押します。

↓補足

- ・「Can not write NVRAM information」とメッセージが表示されたとき、変更内容は保存されていません。もう一度操作し直してください。
- ・変更内容を保存すると自動的にネットワークインターフェイスボードがリセットされます。
- ・リセットしても Active 状態である印刷中、または印刷処理待ちの印刷ジョブは印刷されますが、Waiting 状態であるプリンターへのファイル転送待ちのジョブは破棄されます。

8021x

IEEE 802.1X 関連パラメータの表示、設定は 8021x コマンドを使用します。

◆ 関連パラメーターの設定一覧（カレント値）の表示

```
msh> 8021x
```

◆ EAP タイプ及びフェイズ 2 メソッドの指定

```
msh> 8021x eap {tls|ttls|leap|peap} {chap|mschap|mschapv2|pap|md5|tls}
```

- 最後の引数は、その前の引数で [ttls] を指定した場合には [chap][mschap][mschapv2][pap][md5] が、[peap] を指定した場合には [mschapv2][tls] が指定できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ ユーザー名の指定

```
msh> 8021x username ユーザー名
```

- ユーザー名は、半角英数と表示可能な半角記号で最大 31 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ フェイズ 2 ユーザー名の指定

```
msh> 8021x username2 ユーザー名
```

- ユーザー名は、半角英数と表示可能な半角記号で最大 31 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ ドメイン名の指定

```
msh> 8021x domain ドメイン名
```

- ドメイン名は、[@] と [¥] をのぞいた半角英数と表示可能な半角記号で最大 64 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ パスワードの指定

```
msh> 8021x password パスワード
```

- パスワードは、半角英数と表示可能な半角記号で最大 128 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ サーバー証明書の認証を設定

```
msh> 8021x srvcert {on|off}
```

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ サーバー認証時に中間認証局を介在した場合の証明書の許可を指定

```
msh> 8021x imca {on|off}
```

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ サーバー ID の指定

```
msh> 8021x srvid サーバー ID
```

- サーバー ID は、半角英数と表示可能な半角記号で最大 128 文字入力できます。
- wiconfig コマンドと同じ項目です。

◆ サブドメイン許可の指定

```
msh> 8021x subdomain {on|off}
```

- wiconfig コマンドと同じ項目です。

- ◆ ユーザー名の消去
msh> 8021x clear username
- ◆ フェイズ 2 ユーザー名の消去
msh> 8021x clear username2
- ◆ ドメイン名の消去
msh> 8021x clear domain
- ◆ パスワードの消去
msh> 8021x clear password
- ◆ サーバー ID の消去
msh> 8021x clear srvid
- ◆ IEEE 802.1X 関連パラメーターの初期化
msh> 8021x clear all
 - ・初期化しても IEEE 802.1X 認証有効化設定（イーサネット、無線 LAN 共に）は消去されません。

access

アクセスコントロールの表示と設定は、access コマンドを使用します。また、アクセスレンジを複数設定することもできます。

- ◆ 現在の設定の表示
msh> access
- ◆ IPv4 アクセスレンジの表示（エントリ番号指定）
msh> access 対象 ID range
- ◆ IPv6 アクセスレンジの表示（エントリ番号指定）
msh> access 対象 ID range6
- ◆ IPv6 アクセスマスクの表示（エントリ番号指定）
msh> access 対象 ID mask6
- ◆ IPv4 のアクセスレンジの設定
msh> access 対象 ID range 開始アドレス 終了アドレス
(例) アクセス可能な IPv4 のアドレスを 192.168.0.10 から 192.168.0.20 に設定する
msh> access 対象 ID range 192.168.0.10 192.168.0.20
- ◆ IPv6 のアクセスレンジの設定
msh> access 対象 ID range6 開始アドレス 終了アドレス
(例) アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::100 から 2001:DB8::200 に設定する
msh> access 対象 ID range6 2001:DB8::100 2001:DB8::200
- ◆ IPv6 のアクセスマスクの設定
msh> access 対象 ID mask6 基準アドレス マスク長
(例) アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::/32 に設定する
msh> access 1 mask6 2001:DB8:: 32
- ◆ アクセスコントロールの初期化
msh> access flush
 - ・アクセスコントロールの初期化は、全てのアクセスレンジを工場出荷時の設定に戻し、IPv4 環境では「0.0.0.0」に、IPv6 環境では「::」となります。

↓ 補足

- IPv6 の各エントリは、レンジ方式かマスク方式のいずれかで設定でき、レンジ指定方式の場合は、" 始点アドレス - 終点アドレス "、マスク指定方式の場合は、" 基準アドレス / マスク長 " という形式で表示されます。
- アクセスレンジは、印刷できるワークステーションを IP アドレスを使って制限するためのものです。印刷を制限する必要がない場合は、IPv4 環境では「0.0.0.0」を、IPv6 環境では「::」を設定してください。
- アクセスレンジの設定で、開始アドレスが終了アドレスよりも大きい場合、設定は無効となります。
- IPv4 と IPv6 の対象 ID は、それぞれ 1~5 の 5 件が設定できます。
- IPv6 は 1 件ごとにレンジとマスクが選択できます。
- IPv6 のマスク長は 1~128 の範囲で指定できます。
- 制限された IP アドレスからは、印刷の送信、および Web Image Monitor にアクセスすることはできません。

5

appletalk

AppleTalk 関連パラメータの表示や設定は、appletalk コマンドを使用します。本コマンドは、PostScript モジュールまたは PDF モジュールが搭載されている場合のみ実行できます。

◆ 性能改善機能の現在値の表示

```
msh> appletalk
```

- 「2 (有効)」または「0 (無効)」が表示されます。
- 工場出荷時は「2 (有効)」が設定されています。

◆ PAP の再送タイムアウト値変更の設定

```
msh> appletalk ptimeout 正の数 [1~]
```

- 印刷性能改善設定を有効にします。
- ```
msh> appletalk ptimeout = 0
```
- 印刷性能改善設定を無効にします。

## authfree

認証限定制御の情報表示、設定は authfree コマンドを使用します。

◆ 現在の認証限定情報を表示

```
msh> authfree
```

◆ IPv4 / IPv6 の認証限定情報を表示

```
msh> authfree 対象 ID
```

◆ IPv4 のアクセスレンジの認証限定情報を表示

```
msh> authfree 対象 ID range
```

◆ IPv6 のアクセスレンジの認証限定情報を表示

```
msh> authfree 対象 ID range6
```

◆ IPv6 のアクセスマスクの認証限定情報を表示

```
msh> authfree 対象 ID mask6
```

◆ 認証限定となる IPv4 アドレスの範囲を設定

```
msh> authfree 対象 ID range 開始アドレス 終了アドレス
```

(例) アクセス可能な IPv4 アドレスを 192.168.0.10 から 192.168.0.20 に設定する

```
msh> authfree 対象 ID range 192.168.0.10 192.168.0.20
```

◆ 認証限定となる IPv6 アドレスをアクセスレンジで設定

```
msh> authfree 対象 ID range6 開始アドレス 終了アドレス
```

(例) アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::100 から 2001:DB8::200 に設定する

```
msh> authfree 対象 ID range6 2001:DB8::100 2001:DB8::200
```

◆ 認証限定となる IPv6 アドレスをマスクレンジで設定

```
msh> authfree 対象 ID mask6 基準アドレス マスク長
```

(例) アクセス可能な IPv6 のアドレスを 2001:DB8::/32 に設定する

```
msh> authfree 対象 ID mask6 基準アドレス 2001:DB8:: 32
```

◆ セントロ / USB の認証限定を設定

```
msh> authfree {parallel|usb} {on|off}
```

- ・ 認証しない場合は「on」を、する場合は「off」を指定します。
- ・ 工場出荷時の設定は「off」です。

◆ 認証限定の初期化

```
msh> authfree flush
```

- ・ 認証限定の初期化は、認証限定に関するすべての設定値を工場出荷時に戻します。

↓ 補足

- ・ authfree コマンドはプリンタージョブ認証が「認証限定」に設定されている時のみ実行可能です。

## autonet

AutoNet 機能を使用するには、autonet コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定値の表示

```
msh> autonet
```

### ◆ AutoNet 機能の設定

```
msh> autonet {on|off}
```

- AutoNet 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。

### ◆ 現在のインターフェース優先順位の表示

```
msh> autonet priority
```

### ◆ インターフェースの優先設定

```
msh> autonet priority インターフェース
```

- AutoNet パラメーターを取得するインターフェースの優先順位を設定することができます。
- 優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。
- 工場出荷時の初期値は ether です。

| インターフェース | 設定されるインターフェース   |
|----------|-----------------|
| ether    | イーサネットインターフェース  |
| wlan     | 無線 LAN インターフェース |

### ↓ 補足

- 現在のインターフェース優先順位の表示は、複数のインターフェース装着の有無に関わらず、現在の優先順位が表示されます。

## bmlinks

BMLinkS の表示や設定は、bmlinks コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定値の表示

```
msh> bmlinks
```

### ◆ BMLinkS の設定

```
msh> bmlinks パラメーター
```

| パラメーター                          | 設定される項目                                                               |
|---------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| plainonly {on off}              | 平文通信強制の設定<br>デフォルトは off に設定されています。 <sup>*1</sup>                      |
| paused {always selectable none} | Paused Print(機密印刷)の動作方式<br>デフォルトは selectable に設定されています。 <sup>*2</sup> |
| timeout [30~65535]              | 印刷データ受信タイムアウト時間(秒)を設定<br>デフォルトは 900 に設定されています。                        |
| devicename                      | ネットワーク共通名を設定、定めます。                                                    |
| country 文字列                     | 国名情報を設定します。<br>デフォルトは JP です。                                          |
| orgnz 文字列                       | 会社/組織名情報を設定します。<br>デフォルトでは何も設定されていません。                                |
| branch 文字列                      | 支店名情報を設定します。<br>デフォルトでは off に設定されています。                                |
| building 文字列                    | ビル名情報を設定します。<br>デフォルトでは何も設定されていません。                                   |
| floor 文字列                       | 階数情報を設定します。<br>デフォルトでは何も設定されていません。                                    |
| block 文字列                       | ブロック名情報を設定します。<br>デフォルトでは何も設定されていません。                                 |
| clear country                   | 国名をクリアします。                                                            |
| clear orgnz                     | 会社/組織名をクリアします。                                                        |
| clear branch                    | 部門名をクリアします。                                                           |
| clear building                  | ビル名をクリアします。                                                           |
| clear floor                     | 階数をクリアします。                                                            |
| clear block                     | ブロック名をクリアします。                                                         |

<sup>\*1</sup> 機器共通設定の「SSL/TLS」が有効で、「暗号化通信モード」が暗号化優先あるいは暗号化/平文の場合のみこの設定が機能します。

<sup>\*2</sup> 動作方式は「always:機密印刷のみ可能」、「none:通常印刷のみ可能」、「selectable:機密印刷と通常印刷の両方が可能」です。

## bonjour

Bonjour 関連の表示と設定は、bonjour コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定値の表示

```
msh> bonjour
```

### ◆ サービス名の設定

```
msh> bonjour cname 文字列
```

- ・文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

### ◆ 設置場所情報の設定

```
msh> bonjour location 文字列
```

- ・文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

### ◆ プロトコルごとの優先順位の設定

```
msh> bonjour diprint [0~99]
```

```
msh> bonjour lpr [0~99]
```

```
msh> bonjour ipp [0~99]
```

- ・diprint、lpr、ipp それぞれの優先度を設定します。数字が小さいほど優先度が高くなります。初期値は diprint 10、lpr 20、ipp 30 です。

### ◆ IP TTL 値の設定

```
msh> bonjour ipttl [1~255]
```

- ・IP TTL 値 (越えられるルーターの数) を設定します。初期値は 255 です。

### ◆ サービス名と設置場所情報のリセット

```
msh> bonjour clear {cname|location}
```

- ・cname を指定するとコンピューター名をリセットします。本機を再起動すると、コンピューター名の表示は初期値になります。
- ・location を指定すると設置場所情報をリセットします。設置場所情報の表示は空欄になります。

### ◆ インターフェースの設定

```
msh> bonjour linklocal インターフェース名
```

- ・インターフェース名を省略した場合は、現在の設定値を表示します。
- ・複数のインターフェースが装着されている場合に、linklocal アドレスとの通信を行うインターフェースを設定します。
- ・この設定をしない場合は、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。
- ・wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

| インターフェース | 設定されるインターフェース   |
|----------|-----------------|
| ether    | イーサネットインターフェース  |
| wlan     | 無線 LAN インターフェース |

### ◆ IPP Advertising Port 番号の選択

```
msh> bonjour ippport {ipp|ssl}
```

- ・ssl の場合は、\_ipp\_tcp のポート番号を 443 として広告します。
- ・ipp の場合は、\_ipp\_tcp のポート番号を 631 として広告します。

## devicename

本体名の表示や設定は、devicename コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定の表示

```
msh> devicename
```

### ◆ 本体名の設定

```
msh> devicename name 文字列
```

- ・本体名は 31 バイト以下で指定します。
- ・1 台の機器に複数の本体名を設定することはできません。

### ◆ 本体名の初期化

```
msh> devicename clear name
```

- ・本体名を工場出荷時の設定に戻します。

## dhcp

DHCP の設定は、dhcp コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定値の表示

```
msh> dhcp
```

### ◆ DHCP 機能の設定

```
msh> dhcp インターフェース {on|off}
```

- ・DHCP 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- ・DNS サーバーアドレスやドメイン名を DHCP から取得する場合、必ず「on」に設定してください。
- ・wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

| インターフェース | 設定されるインターフェース   |
|----------|-----------------|
| ether    | イーサネットインターフェース  |
| wlan     | 無線 LAN インターフェース |

### ◆ 現在のインターフェース優先順位の表示

```
msh> dhcp priority
```

### ◆ インターフェースの優先設定

```
msh> dhcp priority インターフェース
```

- ・DNS サーバーアドレスやゲートウェイアドレスが、どのインターフェースの DHCP サーバーのものを優先して利用するかを設定します。
- ・優先順位の設定は、複数のインターフェース装着時に有効です。

### ◆ DNS サーバーアドレスの選択

```
msh> dhcp dnsaddr {dhcp|static}
```

- ・DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
- ・DNS サーバーのアドレスを DHCP サーバーから取得する場合は「dhcp」、ユーザー設定値の場合は「static」を指定します。

## ◆ ドメイン名の選択

```
msh> dhcp domainname {dhcp|static}
```

- ドメイン名を DHCP サーバーから取得するか、ユーザーの設定値にするかを選択します。
- ドメイン名を DHCP サーバーから取得する場合は「dhcp」、ユーザー設定値の場合は「static」を指定します。

## 目 参照

- P.233 「dns」
- P.235 「domainname」
- P.311 「DHCP を使用する」

---

## dhcp6

---

dhcp6 関連パラメーターの表示、設定は、dhcp6 コマンドを使用します。

## 5

## ◆ dhcp6 情報の表示

```
msh> dhcp6
```

## ◆ dhcp6-lite の有効・無効の設定と表示

```
msh> dhcp6 インターフェース名 lite {on|off}
```

## ◆ DNSサーバアドレスの選択(dhcp6サーバーからの取得値・ユーザー設定値)の設定と表示

```
msh> dhcp6 dnsaddr {dhcp|static}
```

## ◆ DUID(dhcp ユニーク ID) の削除と表示

```
msh> dhcp6 duid clear
```

## ◆ dhcp6 で取得したパラメーターを再度取得するまでの時間の設定と表示

```
msh> dhcp6 option lifetime [0~65535]
```

- 設定範囲は 0 から 65535 分です。
- 初期値は 60 分です。
- 0 をセットすると再取得することができません。

---

## diprint

---

コンピュータから直接印刷を行うことができるダイレクトプリントポートの表示と設定は、diprint コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定の表示

```
msh> diprint
```

次の設定値が表示されます。

```
port 9100
timeout = 300(sec)
bidirect on
conn multi
apl async
```

- ・「port」使用するポート番号が表示されます。
- ・「bidirect」ダイレクトプリントポートが双方向通信に対応しているか表示されます。

### ◆ タイムアウトの設定

```
msh> diprint timeout [30~65535]
```

- ・ネットワークからデータを受信する際のタイムアウト時間を設定できます。
- ・工場出荷時の設定値は 300（秒）です。
- ・lpr コマンドにおいても、ここで設定した時間が使用されます。

### ◆ 同時接続数の設定

```
msh> diprint conn [multi|single]
```

- ・diprint の同時接続数を multi（複数）か single（1）か設定します。
- ・工場出荷時の設定値は multi です。

---

## dns

---

DNS（Domain Name System）の表示や設定は、dns コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定値の表示

```
msh> dns
```

### ◆ IPv4 による DNS サーバーの設定

```
msh> dns 対象 ID server アドレス
```

- ・IPv4 による DNS サーバーアドレスを設定します。
- ・対象 ID は 1~3 までです。3 件まで登録できます。
- ・「255.255.255.255」は設定できません。

### ◆ IPv6 による DNS サーバーの設定

```
msh> dns 対象 ID server6 アドレス
```

- ・IPv6 による DNS サーバーアドレスを設定します。
- ・対象 ID は 1~3 までです。3 件まで登録できます。



## ◆ ダイナミック DNS 機能の設定

```
msh> dns インターフェース ddns {on|off}
```

- ・ダイナミック DNS 機能の有効/無効を指定します。
- ・ダイナミック DNS 機能を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- ・wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

| インターフェース | 設定されるインターフェース   |
|----------|-----------------|
| ether    | イーサネットインターフェース  |
| wlan     | 無線 LAN インターフェース |

## ◆ レコード重複時の動作指定

```
msh> dns overlap {update|add}
```

- ・レコードが重複したときの動作を指定します。
- ・update は古いレコードを削除し、新しくレコードを登録するときに指定します。
- ・add は古いレコードを残し、新しいレコードを追加登録するときに指定します。
- ・CNAME の重複の場合は、設定にかかわらず更新を行います。

## ◆ CNAME の登録

```
msh> dns cname {on|off}
```

- ・CNAME を登録するかどうかを指定します。
- ・CNAME の登録を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。
- ・登録される CNAME は RNP からはじまるデフォルトの名前です。CNAME は変更できません。

## ◆ A レコードの登録

```
msh> dns arecord {dhcp|own}
```

- ・dhcp は本機を代行して、DHCP サーバが DNS クライアントとして A レコードの登録を行う場合に指定します。
- ・own は本機が DNS クライアントとして A レコードの登録を行う場合に指定します。登録には、「DHCP」で指定した「DNS サーバアドレスの選択」および「ドメイン名の選択」の値が使用されます。

## ◆ レコードの更新間隔の設定

```
msh> dns interval 更新間隔時間
```

- ・ダイナミック DNS 機能を使用しているときに、レコードを更新する間隔を指定します。
- ・更新間隔を 1 時間単位で指定します。1~255 の間で指定します。
- ・初期値は「24」です。

## ◆ resolv.conf の表示

```
msh> dns resolv
```

- ・resolv.conf の表示を行います。

## ◆ デュアルスタック時に名前解決の問い合わせに利用するプロトコルの設定

```
msh> dns resolv protocol {ipv4|ipv6}
```

- ・デュアルスタック時のみ表示されます。

## domainname

ドメイン名の表示や設定は、domainname コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定の表示

```
msh> domainname
```

### ◆ 現在の各インターフェースのドメイン名表示

```
msh> domainname インターフェース
```

### ◆ 各インターフェースのドメイン名設定

```
msh> domainname インターフェース name ドメイン名
```

- ドメイン名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
- イーサネットインターフェースと無線 LAN インターフェースは同じドメイン名になります。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

| インターフェース | 設定されるインターフェース   |
|----------|-----------------|
| ether    | イーサネットインターフェース  |
| wlan     | 無線 LAN インターフェース |

### ◆ 各インターフェースのドメイン名削除

```
msh> domainname インターフェース clear name
```

## etherauth

Ethernet での認証関連パラメータの表示は、etherauth コマンドを使用します。

### ◆ 認証関連パラメータの表示

```
msh> etherauth 8021x {on|off}
```

## etherconfig

イーサネットインターフェース速度の表示と設定の変更は etherconfig コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定値の表示

```
msh> etherconfig
```

### ◆ イーサネットインターフェース速度の設定

```
msh> etherconfig speed {auto|10f|10h|100f|100h}
```

- auto = 自動
- 10f = 10 Mbps 全二重
- 10h = 10 Mbps 半二重
- 100f = 100 Mbps 全二重
- 100h = 100 Mbps 半二重

初期値は auto です。

---

## help

---

使用できるコマンドの一覧および使用方法の表示は、help コマンドを使用します。

◆ コマンド一覧の表示

```
msh> help
```

◆ コマンド使用方法の表示

```
msh> help コマンド名
```

---

## hostname

---

ホスト名を表示、変更するには、hostname コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> hostname
```

5

◆ 現在の各インターフェースのホスト名表示

```
msh> hostname インターフェース
```

◆ 各インターフェースのホスト名の設定

```
msh> hostname インターフェース name ホスト名
```

- ・ホスト名は半角英数字 63 文字以下で指定します。
- ・RNP ではじまる名前は、大文字、小文字が混ざった場合でも設定できません。
- ・イーサネットインターフェースと無線LANインターフェースは同じホスト名になります。
- ・wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。
- ・インターフェース名を省略した場合、イーサネットのインターフェース名が設定されます。

| インターフェース | 設定されるインターフェース   |
|----------|-----------------|
| ether    | イーサネットインターフェース  |
| wlan     | 無線 LAN インターフェース |

◆ 各インターフェースのホスト名の初期化

```
msh> hostname インターフェース clear name
```

## ifconfig

TCP/IP の、IP アドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレスの表示と設定、およびデフォルトゲートウェイアドレスの表示は、ifconfig コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定値の表示

```
msh> ifconfig
```

### ◆ IPv4 アドレスの設定

```
msh> ifconfig インターフェース アドレス
```

- この設定をしない場合は、自動的にイーサネットインターフェースが設定されます。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

| インターフェース | 設定されるインターフェース   |
|----------|-----------------|
| ether    | イーサネットインターフェース  |
| wlan     | 無線 LAN インターフェース |

(例) イーサネットインターフェースの IP アドレスを 192.168.15.16 に設定する

```
msh> ifconfig ether 192.168.15.16
```

### ◆ IPv6 アドレスの設定

```
msh> ifconfig インターフェース名 inet6 アドレス プレフィックス長
```

(例) イーサネットインターフェースの IPv6 アドレスを 2001:DB8::100、プレフィックス長を 64 に設定する

```
msh> ifconfig ether inet6 2001:DB8::100 64
```

### ◆ ネットマスクの設定

```
msh> ifconfig インターフェース名 netmask アドレス
```

(例) イーサネットインターフェースのサブネットマスクを 255.255.255.0 に設定する

```
msh> ifconfig ether netmask 255.255.255.0
```

### ◆ ブロードキャストアドレスの設定

```
msh> ifconfig インターフェース名 broadcast アドレス
```

### ◆ インターフェース切り替え

```
msh> ifconfig インターフェース名 up
```

(例) 接続時にイーサネットを使用する

```
msh> ifconfig ether up
```

- 拡張無線 LAN ボード (オプション) 接続時に、イーサネットと無線 LAN のどちらを使用するか指定することができます。

### ↓ 補足

- 設定するアドレスは管理者に確認してください。
- 設定するアドレスがわからないときは、工場出荷時の設定のままご使用ください。
- IPアドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレスはイーサネットインターフェース、無線 LAN インターフェース共通です。
- TCP/IP の設定はイーサネットインターフェースと無線 LAN インターフェースで共通です。インターフェースの切り替えを行った場合、設定は切り替えたインターフェースが引き継ぎます。
- IPv4 アドレスを 16 進形式で設定する場合は先頭に「0x」を付けてください。

---

## info

---

給紙トレイ、排紙トレイ、およびエミュレーションなどの機器情報の表示は、info コマンドを使用します。

### ◆ 機器情報の表示

```
msh> info
```

#### 📖 参照

- ・P.260 「ネットワーク経由で確認できる情報」

---

## ipp

---

IPP の使用環境の表示、設定は、IPP コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定値の表示

```
msh> ipp
```

### ◆ タイムアウトの設定

```
msh> ipp timeout [30~65535]
```

- ・印刷データが途切れた場合に、印刷ジョブを取り消すまでの時間を指定します。設定範囲は 30~65535 秒です。

### ◆ IPP ユーザー認証方式の設定

```
msh> ipp auth {basic|digest|off}
```

- ・IPP ユーザー認証を行って、IPP を使って印刷できるユーザーを制限することができます。工場出荷時はユーザー設定を行わない設定になっています。
- ・basic または digest で、認証を行います。
- ・ユーザー認証を行うように指定した場合、ユーザー名の登録を行ってください。ユーザーは 10 組まで登録できます。

### ◆ IPP ユーザー名の登録

```
msh> ipp user
```

メッセージにしたがって設定します。

```
msh> Input user number (1 to 10):
```

設定するユーザー番号を入力し、ユーザー名とパスワードを指定します。

```
msh> IPP user name:user1
```

```
msh> IPP password:*****
```

ユーザー名とパスワードが設定されると次のメッセージが表示されます。

```
User configuration changed
```

---

## ipsec

---

IPsec 関連パラメーターの表示と設定は、ipsec コマンドを使用します。

- ◆ 関連パラメーターの表示  
msh> ipsec
- ◆ 手動 SA モードの表示/設定  
msh> ipsec manual\_mode
- ◆ IPsec の対象から除外するプロトコルの表示/設定  
msh> ipsec exclude
- ◆ 手動 SA のパラメーターの表示/設定  
msh> ipsec manual
- ◆ IKE パラメーターの表示/設定  
msh> ipsec ike
- ◆ IPsec 関連のすべてのパラメーターの初期化  
msh> ipsec clear\_init

5

---

## ipv6

---

IPv6 の使用環境の表示、設定は、ipv6 コマンドを使用します。

- ◆ 現在の設定の表示  
msh> ipv6
- ◆ ステートレスアドレスの有効/無効設定  
msh> ipv6 stateless {on|off}

---

## logout

---

telnet を終了します。

- ◆ telnet の終了  
msh> logout  
確認メッセージが表示されます。  
{yes|no|return}  
[yes][no][return] のいずれかをフルスペルで入力してください。
  - [yes] と入力すると、telnet が終了します。
  - [no] と入力すると、telnet が続行します。
  - [return] と入力すると、logout の再設定になります。

---

## lpr

---

LPR の使用環境の表示、設定は、lpr コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定の表示

```
msh> lpr
```

### ◆ ジョブ削除時におけるホストの同一性チェックの有効/無効設定

```
msh> lpr chkhost {on|off}
```

- on に設定すると、ジョブを送信した IP アドレスと、ジョブの削除を要求している IP アドレスが一致するかどうかを判定します。一致しなかった場合はジョブの削除要求を受け付けません。
- 工場出荷時の設定値は on です。

### ◆ プリンターエラー検知機能対応の有効 / 無効設定

```
msh> lpr prnerrchk {on|off}
```

- プリンターエラーなどで本機が印刷できない状態のとき、バイトカウントが有効になっていると、TCP ウィンドウサイズより小さなデータサイズのジョブや、host からの転送待ちデータサイズが TCP ウィンドウサイズ以下のジョブを重複して受信してしまうことがあります。on に設定すると、本機が印刷できる状態になるまでジョブを受信しません (PCFAX の送信も行えなくなります)。
- 工場出荷時の設定値は off です。

5

---

## passwd

---

リモートメンテナンスのパスワードの変更は、passwd コマンドを使用します。

### ◆ パスワードの変更

```
msh> passwd
```

- [Old password:] が表示されるので、現在のパスワードを入力します。
- [New password:] が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- [Retype new password:] が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

### ◆ スーパーバイザーによる各管理者のパスワード変更

```
msh> passwd 管理者 ID
```

- [New password:] が表示されるので、新しいパスワードを入力します。
- [Retype new password:] が表示されるので、もう一度新しいパスワードを入力します。

### ↓ 補足

- パスワードは控えを取るなどして忘れないようにしてください。
- 入力できるのは半角英数字と表示可能な半角記号で 32 文字までです。大文字と小文字も区別されます。

---

## pathmtu

---

PathMTU Discovery サービス機能の表示、設定は、pathmtu コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> pathmtu
```

◆ PathMTU Discovery サービス有効 / 無効の切替設定

```
msh> pathmtu {on|off}
```

- ・工場出荷時は「ON」になっています。
- ・送信データの MTU サイズが、ルーターの MTU より大きいと、ルーターから通過不可と通知され、送信に失敗することがあります。「ON」に設定をしていると、MTU サイズを最適化してデータ送信の失敗を避けることができます。
- ・環境によってはルーターからの通知が得られず、データ送信に失敗することがあります。その場合は設定を「OFF」にして、PathMTU Discovery サービスを無効にしてください。

5

---

## prnlog

---

プリントログ情報の表示は、prnlog コマンドを使用します。

◆ プリントログ情報の表示

```
msh> prnlog
```

- ・これまでに印刷したプリントログ情報が表示されます。

```
msh> prnlog ID 番号
```

- ・表示されたプリントログ情報の ID 番号を指定すると、印刷ジョブのさらに詳しい情報が表示されます。

**E** 参照

- ・P260 「ネットワーク経由で確認できる情報」

---

## rhpp

---

rhpp プロトコル情報の表示、設定は rhpp コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> rhpp
```

◆ 使用するポート番号の変更

```
msh> rhpp [1024~65535]
```

デフォルト値は 59100 です。

◆ タイムアウトの設定 (秒)

```
msh> rhpp timeout [30~65535]
```

デフォルト値は 300 (秒) です。

**↓** 補足

- ・rhpp は RICOH Host Printing Protocol の略で、独自のプロトコルです。



## route

TCP/IP ルーティングテーブルの表示と設定は、route コマンドを使用します。

### ◆ IPv4 の該当 route 情報の表示

```
msh> route get {destination}
```

- destination は IPv4 のアドレスを指定します。  
destination が 0.0.0.0 のアドレスは指定できません。

### ◆ 指定された IPv4 の destination の有効/無効の切り替え設定

```
msh> route active {host|net} destination {on|off}
```

- {host|net} 省略時は host 設定となります。

### ◆ IPv4 のルーティングテーブルへの追加設定

```
msh> route add {host|net} destination gateway
```

- destination で表される host(または network)ルートおよび gateway で表される gateway アドレスをテーブルに追加します。
- destination および gateway は IPv4 のアドレスを指定します。
- {host|net} 省略時は host 設定となります。
- destination が 0.0.0.0 のレコードは登録できません。

### ◆ IPv4 のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

```
msh> route add default gateway
```

### ◆ IPv4 のルーティングテーブルからの削除設定

```
msh> route delete {host|net} destination
```

- {host|net} 省略時は host 設定となります。
- destination は IPv4 のアドレスを指定します。

### ◆ IPv6 のデフォルトゲートウェイアドレスの設定

```
msh> route add6 default gateway
```

### ◆ 指定された IPv6 の destination のルーティングテーブルへの追加設定

```
msh> route add6 destination prefixlen [1~128] gateway
```

- destination および gateway は IPv6 のアドレスを指定します。
- 宛先は prefixlen が 1~127 の場合はネットワーク指定、128 の場合はホスト指定となります。
- destination と prefixlen の両方が登録済みレコードと一致する場合は登録できません。
- destination が ::(0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000:0000) のレコードは登録できません。

### ◆ 指定された IPv6 の destination のルーティングテーブルからの削除設定

```
msh> route delete6 {destination} prefixlen
```

- destination および gateway は IPv6 のアドレスを指定します。

### ◆ IPv6 の該当 route 情報の表示

```
msh> route get6 {destination}
```

- destination は IPv6 のアドレスを指定します。

### ◆ 指定された IPv6 の destination の有効/無効の切り替え設定

```
msh> route active6 destination prefixlen {on|off}
```

### ◆ 全 route 情報の削除設定

```
msh> route flush
```

**↓ 補足**

- IPv4 のルーティングテーブルの最大値は 16 です。
- IPv6 のルーティングテーブルの最大値は 2 です。
- ルーターを越えて別のネットワークのネットワーク機器とやりとりするときは、ゲートウェイアドレスを設定してください。
- ゲートウェイアドレスはすべてのインターフェース共通になります。
- Prefixlen は 1~128 の 10 進数です。

---

## set

---

プロトコルの情報の表示、有効/無効の設定は、set コマンドを使用します。

**◆ デバイスの情報（有効/無効）の表示**

```
msh> set parallel
msh> set usb
```

**◆ プロトコルの情報（有効/無効）の表示**

```
msh> set ipv4
msh> set ipv6
msh> set ipsec
msh> set appletalk
msh> set smb
msh> set protocol
```

- protocol を指定すると、ipv4、ipv6、appletalk、smb、ipsec の情報を表示します。

```
msh> set lpr
msh> set lpr6
msh> set ftp
msh> set ftp6
msh> set rsh
msh> set rsh6
msh> set diprint
msh> set diprint6
msh> set web
msh> set snmp
msh> set ssl
msh> set ssl6
msh> set nrs
msh> set rfu
msh> set rfu6
msh> set ipp
msh> set ipp6
msh> set http
msh> set http6
msh> set bonjour
msh> set bonjour6
```

```
msh> set nbt
msh> set ssdp
msh> set bmlinks
msh> set ssh
msh> set sftp
msh> set sftp6
msh> set wsdev
msh> set wsdev6
msh> set wsprn
msh> set rhpp
msh> set rhpp6
```

#### ◆ プロトコルの有効/無効の設定

- ・プロトコルを有効にするには up を、無効にするには down を指定します。

```
msh> set ipv4 {up|down}
```

- ・IPv4 を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できなくなります。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使って設定し直してください。
- ・IPv4 を無効にすると lpr、ftp、sftp、rsh、diprint、web、snmp、ssl、ipp、http、bonjour、wsdev も使用できなくなります。

```
msh> set ipv6 {up|down}
```

- ・IPv6 を無効に設定してログアウトすると、このリモートメンテナンスそのものが使用できなくなります。誤って「無効」に設定したときは、機器の操作部を使って設定し直してください。
- ・IPv6 を無効にした場合、lpr6、ftp6、rsh6、diprint6、ssl6、rfu6、ipp6、http6、sftp6、bonjour6、wsdev6 も使用できなくなります。

```
msh> set ipsec {up|down}
msh> set appletalk {up|down}
msh> set netware {up|down}
msh> set smb {up|down}
msh> set lpr {up|down}
msh> set lpr6 {up|down}
msh> set ftp {up|down}
msh> set ftp6 {up|down}
msh> set rsh {up|down}
msh> set rsh6 {up|down}
msh> set diprint {up|down}
msh> set diprint6 {up|down}
msh> set web {up|down}
msh> set snmp {up|down}
msh> set ssl {up|down}
msh> set ssl6 {up|down}
```

- ・本機に SSL (暗号化通信) の機能が無い場合は、有効に設定しても SSL (暗号化通信) を使用することはできません。

```
msh> set nrs {up|down}
msh> set rfu {up|down}
```

```
msh> set rfu6 {up|down}
msh> set ipp {up|down}
msh> set ipp6 {up|down}
msh> set http {up|down}
msh> set http6 {up|down}
msh> set bonjour {up|down}
msh> set bonjour6 {up|down}
msh> set ssh {up|down}
msh> set ssdp {up|down}
msh> set bmlinks {up|down}
msh> set nbt {up|down}
msh> set sftp {up|down}
msh> set sftp6 {up|down}
msh> set wsdev {up|down}
msh> set wsdev6 {up|down}
```

- wsdev と wsdev6 が共に有効の場合、プロトコル情報の表示では共に「up」と表示されますが、WSD (Device) と WSD (Printer) は IPv4 で動作します。

```
msh> set wsprn {up|down}
msh> set rhpp {up|down}
msh> set rhpp6 {up|down}
```

#### ↓ 補足

- WSD (Printer) と WSD (Device) を IPv6 で動作させたい場合は、"wsdev down""wsdev6 up" と設定します。

## show

ネットワークインターフェースボードの設定状況の表示は、show コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定値の表示

```
msh> show
```

- -p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。
- SMB プロトコルでコンピュータ名、ワークグループ、コメントを日本語で入力したデータを正しく表示するためには、シフト JIS が表示できる環境で使用してください。

#### 📖 参照

- P266 「ネットワークインターフェースボードの情報」

---

## slp

---

SLP の設定を表示、変更するには、slp コマンドを使用します

```
msh> slp ttl ttl_val
```

- NetWare 5/5.1 の PureIP 環境でご使用の場合、SLP を用いて NetWare サーバーを検索します。slp コマンドを使うと、SLP マルチキャストパケットが使用する TTL 値 (通過できるルーターの数+1) を指定できます。
- 工場出荷時の設定は 1 です。ローカルセグメント内のみで検索します。ただしこの TTL 値を増やした場合でもネットワーク環境で使用のルーター装置がマルチキャスト対応していなければ有効ではありません。
- 設定できる SLP パケットの TTL 値は 1~255 です。

---

## smb

---

### 5

コンピュータ名やワークグループ名など SMB 関連の項目の設定、削除は、smb コマンドを使用します。

#### ◆ コンピュータ名の設定

```
msh> smb comp コンピュータ名
```

- 半角英数 15 文字以下で設定します。
- RNP または rnp ではじまる名前は、大文字小文字が混ざった場合でも設定できません。

#### ◆ ワークグループ名の設定

```
msh> smb group ワークグループ名
```

- 半角英数 15 文字以下で設定します。

#### ◆ コメントの設定

```
msh> smb comment コメント
```

- 半角英数 31 文字以下で設定します。

#### ◆ 印刷完了通知の設定

```
msh> smb notif {on|off}
```

- 印刷完了通知をする場合は on、通知をしない場合は off を指定します。

#### ◆ コンピュータ名の削除

```
msh> smb clear comp
```

#### ◆ グループ名の削除

```
msh> smb clear group
```

#### ◆ コメントの削除

```
msh> smb clear comment
```

#### ◆ プロトコルの表示

```
msh> smb protocol
```

## snmp

コミュニティ名など SNMP に関する表示、設定は、snmp コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定の表示

```
msh> snmp
```

- 登録番号 1 の工場出荷時の設定は次のとおりです。
  - コミュニティ名：public
  - IPv4 アドレス：0.0.0.0
  - IPv6 アドレス：::
  - IPX アドレス：00000000:000000000000
  - アクセスタイプ：read-only
  - 有効プロトコル：IPv4/IPv6/IPX
- 登録番号 2 の工場出荷時の設定は次のとおりです。
  - コミュニティ名：hitachi
  - IPv4 アドレス：0.0.0.0
  - IPv6 アドレス：::
  - IPX アドレス：00000000:000000000000
  - アクセスタイプ：read-write
  - 有効プロトコル：IPv4/IPv6/IPX
- p オプションを付けると 1 画面ずつ表示されます。
- 登録番号を指定すると、その番号の現在のコミュニティ設定内容を表示します。

### ◆ SNMP 情報と使用可能なプロトコルの表示

```
msh> snmp ?
```

### ◆ コミュニティ名の設定

```
msh> snmp 登録番号 name コミュニティ名
```

- 設定できる登録番号は 1~10 です。
- 登録番号の 1~10 に public が存在しない場合、Network Monitor for Admin や Network Monitor for Client から機器を参照することはできません。コミュニティ名を変更した場合、Network Monitor for Admin とともにインストールされる「SNMP コミュニティ名設定ツール」で、機器側の設定に合わせてパソコンのコミュニティ名を変更してください。
- コミュニティ名は英数半角 15 文字以下で設定します。

### ◆ コミュニティ名の削除

```
msh> snmp 登録番号 clear name
```

### ◆ アクセスタイプの設定

```
msh> snmp 登録番号 type アクセスタイプ
```

| アクセスタイプ | 設定される内容                      |
|---------|------------------------------|
| no      | アクセスできません (not accessible)   |
| read    | 情報の読み出しのみ可能 (read-only)      |
| write   | 情報の読み出しと書き込みが可能 (read-write) |
| trap    | エラー情報を通知 (trap)              |

## ◆ プロトコルの設定

```
msh> snmp {ipv4|ipv6|ipx} {on|off}
```

- ・使用可能なプロトコルを選択します。
- ・プロトコルを有効にするには on を、無効にするには off を指定します。
- ・すべてのプロトコルを同時に Off にすることはできません

## ◆ 登録番号ごとのプロトコルの設定

```
msh> snmp 登録番号 active {ipv4|ipv6|ipx} {on|off}
```

- ・登録番号ごとにプロトコルの設定を変更します。ただし、プロトコル設定で無効にしたプロトコルは、このコマンドで有効にしても使用できません。

## ◆ アクセス設定

```
msh> snmp 登録番号 {ipv4|ipv6|ipx} アドレス
```

- ・使用するプロトコルに応じたホストのアドレスを設定します。
- ・「アクセスタイプ」を「read-only」または「read-write」に設定したときは、IPv4、IPv6、IPX の場合、ここに入力したアドレスのホストからの要求だけを受け付けます。どのホストからの要求でも受け付けるようにするには、「0」を入力します。
- ・「アクセスタイプ」を「trap」に設定したときは、IPv4、IPv6、IPX の場合、情報を通知するホストのアドレスを入力します。
- ・IPv4 を使用するときはアドレスとして IPv4 アドレスを、IPv6 を使用するときは IPv6 アドレスを、IPX/SPX を使用するときは IPX アドレスを入力します。
- ・IPX アドレスはホストが接続されているネットワークの番号とホストに取り付けられているネットワークインターフェースボードの MAC アドレス（物理アドレス）をコロン（:）で区切って入力します。

## ◆ sysLocation の設定

```
msh> snmp location 文字列
```

## ◆ sysLocation の削除

```
msh> snmp clear location
```

## ◆ sysContact の設定

```
msh> snmp contact 文字列
```

## ◆ sysContact の削除

```
msh> snmp clear contact
```

## ◆ SNMP v1v2 機能の設定

```
msh> snmp v1v2 {on|off}
```

- ・有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

## ◆ SNMP v3 機能の設定

```
msh> snmp v3 {on|off}
```

- ・有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

## ◆ SNMP TRAP の設定

```
msh> snmp trap {v1|v2|v3} {on|off}
```

- ・有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

## ◆ リモート設定許可の設定

```
msh> snmp remote {on|off}
```

- ・SNMP v1, v2 での設定を有効にする場合は on、無効にする場合は off を指定します。

**◆ SNMP v3 TRAP の設定値の表示**

```
msh> snmp v3trap
```

```
msh> snmp v3trap [1~5]
```

- ・ 1~5 までの数字を設定すると、その番号の設定値のみ表示します。

**◆ SNMP v3 TRAP 送信先アドレスの設定**

```
msh> snmp v3trap [1~5] {ipv4|ipv6|ipx} アドレス
```

**◆ SNMP v3 TRAP 送信プロトコルの設定**

```
msh> snmp v3trap [1~5] active {ipv4|ipv6|ipx} {on|off}
```

**◆ SNMP v3 TRAP ユーザーアカウントの設定**

```
msh> snmp v3trap [1~5] account アカウント名
```

- ・ アカウント名は英数半角 32 文字以下で設定します。

**◆ SNMP v3 TRAP ユーザーアカウントの削除**

```
msh> snmp v3trap [1~5] clear account
```

**◆ SNMP v3 暗号アルゴリズムの設定**

```
msh> snmp v3auth {md5|sha1}
```

**◆ SNMP v3 暗号化の設定**

```
msh> snmp v3priv {auto|on}
```

- ・ auto を設定すると、暗号化可能な場合に暗号化されます。
- ・ on を設定すると、平文通信は不可能となり、暗号化可能な場合のみ通信ができます。

**↓ 補足**

- ・ 暗号化可能な場合とは、本機に暗号パスワードが設定されている状態を指します。

---

## sntp

---

SNTP の表示、設定は、sntp コマンドを使用します。

**◆ 現在の設定の表示**

```
msh> sntp
```

**◆ NTP サーバーの IPv4 アドレスの設定**

```
msh> sntp server アドレス
```

**◆ NTP サーバーのホスト名の設定**

```
msh> sntp server ホスト名
```

**◆ NTP サーバーの設定のクリア**

```
msh> sntp server clear
```

**◆ インターバルの設定**

```
msh> sntp interval インターバル値
```

- ・ 設定した NTP サーバーと同期を取る間隔を指定します。工場出荷時の設定値は 60 (分) です。
- ・ 設定できる値は 0、15~10080 (分) です。
- ・ 0 を設定した場合には、本機の電源を入れたときに一度だけ NTP サーバーと同期を取ります。そのあとは同期を取りません。



**◆ タイムゾーンの設定**

```
msh> snntp timezone +/-時間
```

- ・ NTP サーバーから取得した時刻情報との時間差を設定します。設定値は-12:00~+13:00 です。

**↓ 補足**

- ・ ntp サーバーには IPv4 アドレスまたはホスト名のどちらか一方のみ設定できます。

---

## spoolsw

---

スプール印刷の表示、設定は、spoolsw コマンドを使用します。スプール印刷設定は diprint、lpr、ipp、SMB (TCP/IP(IPv4))、BMLinkS、WSD (Printer)、ftp、および sftp プロトコルに対応しています。

**◆ 現在の設定の表示**

```
msh> spoolsw
```

**◆ スプール印刷機能の設定**

```
msh> spoolsw spool {on|off}
```

- ・ スプール印刷機能を有効にするには on を、無効にするには off を指定します。工場出荷時の設定は off です。

**◆ ジョブの初期化の設定**

```
msh> spoolsw clearjob {on|off}
```

- ・ スプールされたジョブの印刷中に本機の電源が切られた場合、本機の電源を再投入したときに、それまでスプールしていたジョブを初期化するかどうか指定します。off の場合はジョブを初期化せずに印刷を再開します。
- ・ 工場出荷時の設定値は off です。

**◆ プロトコルの設定**

```
msh> spoolsw diprint {on|off}
```

```
msh> spoolsw lpr {on|off}
```

```
msh> spoolsw ipp {on|off}
```

```
msh> spoolsw smb {on|off}
```

```
msh> spoolsw bmlinks {on|off}
```

```
msh> spoolsw ftp {on|off}
```

```
msh> spoolsw sftp {on|off}
```

```
msh> spoolsw wsprn {on|off}
```

- ・ プロトコルごとにスプール印刷機能の有効、無効を設定します。
- ・ 工場出荷時の設定値は全て on です。

---

## ssdp

---

SSDP 関連パラメータの表示、設定は、ssdp コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> ssdp
```

◆ 有効時間の設定

```
msh> ssdp profile [1801~86400]
```

- ・工場出荷時の設定値は 10800 (秒) です。

◆ Advertise パケットの TTL の設定

```
msh> ssdp ttl [1~255]
```

- ・工場出荷時の設定値は 4 です。

---

## ssh

---

SSH および SFTP 関連パラメータの表示と設定は、ssh コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の一覧表示

```
msh> ssh
```

◆ データ圧縮通信の設定

```
msh> ssh compression {on|off}
```

- ・工場出荷時の設定値は on です。

◆ ssh / sftp で通信するポートの設定

```
msh> ssh port [22,1024~65535]
```

- ・工場出荷時の設定値は 22 です。

◆ ssh / sftp で通信する際のタイムアウト確認 (生存確認) の時間設定

```
msh> ssh timeout [0~65535]
```

- ・工場出荷時の設定値は 300 です。

◆ ssh / sftp で通信する際のログインタイムアウトの時間設定

```
msh> ssh logintimeout [0~65535]
```

- ・工場出荷時の設定値は 300 です。

◆ ssh / sftp で通信する際の公開鍵、公開鍵鍵長 (Keylength) の作成

```
msh> ssh genkey {512|768|1024} 複雑化文字列 (Salt)
```

- ・工場出荷時の設定値は公開鍵鍵長 (Keylength) が 1024、複雑化文字列は NULL (無) です。
- ・使用できる文字列は、ASCII (0x20~0x7e) 文字列です。
- ・パラメータ省略時は初期値で公開鍵を生成作成します。

◆ ssh / sftp で通信する際の公開鍵の削除

```
msh> ssh delkey
```

↓ 補足

- ・設定値を省略した場合は、現在の設定を表示します。
- ・ssh を使用できるのは sftp のみです。

---

## status

---

本機の状態（ステータス）と印刷ジョブの情報（プリントジョブ情報）の表示は、status コマンドを使用します。

◆ 表示

```
msh> status
```

📖 参照

- ・ P.260 「ネットワーク経由で確認できる情報」

---

## syslog

---

本機のシステムログ情報として記録されたメッセージの表示は、syslog コマンドを使用します。

◆ メッセージの表示

```
msh> syslog
```

📖 参照

- ・ P.273 「システムログ情報」

---

## upnp

---

ユニバーサル プラグ アンド プレイに関する表示、設定は、upnp コマンドを使用します。

◆ 公開 URL の表示

```
msh> upnp
```

◆ 公開 URL の設定

```
msh> upnp url URL
```

- ・ 「URL」にはリンク先の URL を入力します。

---

## web

---

Web Image Monitor 関連の表示、設定は、web コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> web
```

◆ リンク先として登録する URL の設定

```
msh> web x url URL
```

- ・ x は対象 ID の 1~2 を指定します。2 件まで登録できます。
- ・ 「URL」 にはリンク先の URL を入力します。

◆ リンク先として登録されている URL を削除する

```
msh> web x clear url
```

- ・ x は対象 ID の 1~2 を指定します。

◆ リンク先として登録する URL のリンク名の設定

```
msh> web x name リンク名
```

- ・ x は対象番号の 1~2 を指定します。

◆ リンク先として登録されている URL のリンク名を削除する

```
msh> web x clear リンク名
```

- ・ x は対象 ID の 1~2 を指定します。

◆ ヘルプの参照先 URL の設定

```
msh> web help URL
```

- ・ 「URL」 にはリンク先の URL を入力します。

◆ ヘルプの参照先 URL を削除する

```
msh> web clear help
```

## wiconfig

無線 LAN の表示、設定は、wiconfig コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定の表示

```
msh> wiconfig
```

### ◆ 無線 LAN カードの情報の表示

```
msh> wiconfig cardinfo
```

- 無線 LAN インターフェースが有効になっていない場合、拡張無線 LAN カードの情報は表示できません。

### ◆ 設定

```
msh> wiconfig パラメーター
```

| パラメーター                         | 設定される項目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| connectinfo                    | コネクト情報を取得します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| clear { 各コマンド 1 つ   all }      | 指定されたコマンドの設定値を初期化します。<br>all を指定するとすべての設定値を初期化します。                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| mode {ap 802.11ad 802.11adhoc} | インフラストラクチャーモード (ap) または 802.11 アドホックモード (802.11 adhoc) の設定ができます。デフォルトはインフラストラクチャーモードです。                                                                                                                                                                                                                                                        |
| ssid 文字列                       | インフラストラクチャーモード時の SSID を設定できます。SSID で使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20~0x7e) で 32 文字までです。大文字と小文字も区別されません。空白の場合には自動で近くのアクセスポイントに接続します。デフォルトは空白です。                                                                                                                                                                                              |
| channel frequency チャンネル番号      | 802.11 ad hoc モードで使用するチャンネルは、1 ~ 14、36、40、44、48 の間で設定できます。使用する機器間で同じチャンネルを使用してください。デフォルトは 11 です。                                                                                                                                                                                                                                               |
| key 文字列 val {1 2 3 4}          | WEPキーを16進数で入力する場合に指定します。64-bit WEP を使用する場合は、16 進数 10 桁の文字列が使用できます。128-bit WEP を使用する場合には、16 進数 26 桁の文字列が使用できます。WEP キーは 4 つまで登録できます。val で登録する番号を指定します。<br>key で WEP キーを指定すると、keyphrase で指定した WEP キーは上書きされます。この機能を使用する場合、互いに通信を行う端末すべてに同じ key 番号と WEP キーを設定してください。なお、入力する WEP キーの先頭に 0x をつけます。val 以降の指定は省略可能です。省略した場合、key 番号は 1 になります。デフォルトは空白です。 |

| パラメーター                            | 設定される項目                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-----------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| keyphrase 文字列 val {1 2 3 4}       | WEP キーを ACSII 入力する場合に指定します。<br>64-bit WEP を使用する場合は、5 文字までの半角英数字、128-bit WEP を使用する場合には、13 文字までの半角英数字が使用できます。<br>WEP キーは 4 つまで登録できます。val で登録する番号を指定します。<br>keyphrase で WEP キーを指定すると、key で指定した WEP キーは上書きされます。この機能を使用する場合、互いに通信を行う端末すべてに同じ key 番号と WEP キーを設定してください。val 以降の指定は省略可能です。省略した場合、key 番号は 1 になります。デフォルトは空白です。 |
| encval {1 2 3 4}                  | 4 つの WEP キーのどれを使用してパケットを暗号化するかを指定します。<br>番号を指定しない場合は 1 が設定されます。                                                                                                                                                                                                                                                     |
| wepauth {open shared}             | WEP 使用時の認証モードを設定できます。指定値と認証モードは次のとおりです。<br>open : オープンシステム認証 (デフォルト)<br>shared : シェアードキー認証                                                                                                                                                                                                                          |
| security {none wep wpa}           | セキュリティー方式を設定できます。<br>設定値と認証方式は次のとおりです。<br>none: 暗号化なし (デフォルト)<br>wep: WEP 暗号化方式<br>wpa: WPA 暗号化方式                                                                                                                                                                                                                   |
| wpaenc {tkip ccmp}                | WPA 使用時の WPA 暗号を選択できます。<br>設定値は次のとおりです。<br>tkip: TKIP<br>ccmp: CCMP(AES) (デフォルト)                                                                                                                                                                                                                                    |
| wpaauth {wpapsk wpa wpa2psk wpa2} | WPA 使用時の認証モードを設定できます。<br>設定値は次のとおりです。<br>wpapsk : WPA-PSK 認証 (デフォルト)<br>wpa : WPA 認証<br>wpapsk2 : WPA2-PSK 認証<br>wpa2 : WPA2 認証                                                                                                                                                                                     |
| psk 文字列                           | Pre-Shared key を設定できます。<br>Pre-Shared key での入力できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20~0x7e) で 8 文字から 63 文字までです。デフォルトは空白です。                                                                                                                                                                                                |

| パラメーター                                                         | 設定される項目                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| eap {tls ttls leap peap}<br>{chap mschap mschapv2 pap md5 tls} | EAP 認証タイプを設定できます。<br>tls :EAP-TLS ( デフォルト )<br>ttls : EAP-TTLS<br>leap : LEAP<br>peap : PEAP<br>{chap、mschap、mschapv2、pap、md5、tls} はフェイズ 2 メソッドの設定となっており、EAP-TTLS、PEAP を選択する時に同時に指定する必要があります。また、その他の EAP 認証タイプでは省略する必要があります。「EAP-TTLS」を選択した場合は、chap、mschap、mschapv2、pap、および md5 が指定できます。「PEAP」を選択した場合は、mschapv2、および tls が指定できます。 |
| username 文字列                                                   | Radius サーバへのログインユーザ名を設定できます。<br>使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20~0x7e) で 31 文字までです。デフォルトは空白となります。                                                                                                                                                                                                                             |
| username2 文字列                                                  | EAP-TTLS/PEAP のフェイズ 2 認証で使用するフェイズ 2 ユーザ名を設定できます。<br>使用できる文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20~0x7e) で 31 文字までです。デフォルトは空白です。                                                                                                                                                                                                            |
| domain 文字列                                                     | Radius サーバへのログインドメインを設定できます。<br>使用できる文字は半角英数字と "@" と "%" (0x5C: バックスラッシュ) 以外の表示可能な半角記号 (ASCII 0x20~0x7e) で 31 文字までです。デフォルトは空白です。                                                                                                                                                                                                 |
| password 文字列                                                   | Radius サーバへのログインパスワードを設定できます。<br>文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20~0x7e) で 128 文字までです。デフォルトは空白です。                                                                                                                                                                                                                                   |
| srvcert {on off}                                               | サーバ証明書の認証を設定します。<br>デフォルトは off です。                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| imca {on off}                                                  | サーバ認証時に中間認証局を介在した場合の証明書の許可の設定ができます。<br>デフォルトは off です。                                                                                                                                                                                                                                                                            |

| パラメーター               | 設定される項目                                                                                        |
|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| srvld 文字列            | 認証サーバをサーバ ID 及びサブドメインで設定できます。<br>文字は半角英数字と表示可能な半角記号 (ASCII 0x20~0x7e) で 128 文字までです。デフォルトは空白です。 |
| miccheck [on off] *1 | MIC チェックを有効にするかどうかを設定します。<br>デフォルトは on です。<br>off に設定すると改ざん検出が一切できなくなります。on の設定で使用することをお勧めします。 |

\*1 無線 LAN ボードの装着されている場合にのみ、使用可能です。

## wins

WINS サーバーの設定は、wins コマンドを使用します。

### ◆ 現在の設定の表示

```
msh> wins
```

- DHCP から取得した IPv4 アドレスと WINS の IPv4 アドレスが異なった場合、DHCP から取得した IPv4 アドレスが有効です。

### ◆ WINS 機能の設定

```
msh> wins インターフェース {on|off}
```

- WINS 機能を有効するには on を、無効にするときは off を指定します。
- インターフェースを必ず指定してください。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

| インターフェース | 設定されるインターフェース   |
|----------|-----------------|
| ether    | イーサネットインターフェース  |
| wlan     | 無線 LAN インターフェース |

### ◆ WINS サーバーのアドレス設定

```
msh> wins インターフェース名 {primary|secondary} IPv4 アドレス
```

- primary でプライマリー WINS サーバーのアドレスを設定できます。
- secondary でセカンダリー WINS サーバのアドレスを設定できます。
- IP アドレスに、255.255.255.255 は指定できません。

### ◆ NBT (NetBIOS over TCP/IP) スコープ ID の設定

```
msh> wins インターフェース scope スコープ ID
```

- スコープ ID は半角英数字 31 文字以内で指定します。
- インターフェースを必ず指定してください。
- wlan は、無線 LAN インターフェース装着時に指定できます。

| インターフェース | 設定されるインターフェース   |
|----------|-----------------|
| ether    | イーサネットインターフェース  |
| wlan     | 無線 LAN インターフェース |



---

## wsmfp

---

WSD (Device)、WSD (Printer) の設定と表示は、wsmfp コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> wsmfp
```

◆ コメントの設定

```
msh> wsmfp comments 文字列
```

- ・文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

◆ ロケーションの設定

```
msh> wsmfp location 文字列
```

- ・文字列を省略した場合は、現在の設定値を表示します。

◆ プレゼンテーション URL の設定

```
msh> wsmfp url URL
```

- ・「URL」にはリンク先の URL を入力します。

◆ WSD (Device) の TCP ポートの設定

```
msh> wsmfp devport ポート番号
```

- ・初期値は 53000 です。

◆ WSD (Printer) の TCP ポートの設定

```
msh> wsmfp prnport ポート番号
```

- ・初期値は 53001 です。

◆ WSD (Printer) の受信タイムアウト (秒) の設定

```
msh> wsmfp prntimeout タイムアウト値 [30~65535]
```

- ・工場出荷時の設定値は 900 (秒) です。

◆ コメントを初期化する

```
msh> wsmfp clear comments
```

◆ ロケーションを初期化する

```
msh> wsmfp clear location
```

◆ プレゼンテーション URL を初期化する

```
msh> wsmfp clear url
```

# SNMP

SNMP を使って本機の情報を取得する方法の説明です。

本機内蔵のイーサネットインターフェース、およびオプションの無線 LAN インターフェースでは UDP と IPX 上で動作する SNMP (Simple Network Management Protocol) エージェントが組み込まれています。

また、本機はユーザー認証、データの暗号化、アクセス制御のセキュリティー面が強化されている SNMPv3 にも対応しています。

SNMPv3 の暗号化通信を使用するためには、本機に暗号パスワードが設定されていることが必要です。

## ★重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。
- 本機のコミュニティ名を工場出荷時から変更した場合、Network Monitor for Admin に同梱されている SNMP コミュニティ名設定ツールを使用して接続するパソコンの設定を変更してください。詳しくは SNMP コミュニティ名設定ツールのヘルプを参照してください。

工場出荷時のコミュニティ名には「public」と「hitachi」が設定されています。このコミュニティ名で MIB 情報を取得することができます。

### ◆ SNMP コミュニティ名設定ツールの起動

- Windows 2000 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし [プログラム] から [Network Monitor for Admin] をポイントして [SNMP コミュニティ名設定ツール] を起動します。
- Windows XP/Vista/7, Windows Server 2000/2003/2003 R2/2008/2008 R2 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし [すべてのプログラム] から [Network Monitor for Admin] をポイントして [SNMP コミュニティ名設定ツール] を起動します。

# ネットワーク経由で確認できる情報

機器の状態や情報を表示したときの各項目の詳細です。

## ★重要

- ・この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

## 機器の状態

機器のステータスの確認方法と、表示される項目の説明です。お使いの機種によっては、表示されないステータスがあります。

- ・UNIX の場合  
lpq コマンド、rsh、rcp、ftp の stat パラメータを使います。  
Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 では、rsh/rcp が使用できません。
- ・mshell の場合  
status コマンドを使います。

| ステータス                           | 意味                             |
|---------------------------------|--------------------------------|
| Call Service Center             | エンジン部、またはコントローラー部に以上が発生しました。   |
| Canceling Job...                | ジョブリセット中です。                    |
| Configuring...                  | 設定変更中です。                       |
| Cover Open: Duplex Unit         | 両面ユニットのカバーが開いています。             |
| Cover Open: Exit/Rear Cover     | 本体排紙口または背面部のカバーが開いています。        |
| Empty: Black Toner              | ブラックトナーがなくなりました。               |
| Energy Saver Mode               | 省エネモード中です。                     |
| Error: Ethernet Board           | イーサネットボードに異常が発生しました。           |
| Error: HDD Board                | ハードディスクエラーが発生しました。             |
| Error: Optional Font            | プリンターのフォントファイルにエラーが発生しました。     |
| Error: Optional RAM             | オプションの SDRAM モジュールにエラーが発生しました。 |
| Error: Parallel I/F Board       | パラレルインターフェースにエラーが発生しました。       |
| Error: PDL                      | ページ記述言語にエラーが発生しました。            |
| Error: Rem. Certificate Renewal | 証明書の自動更新中にエラーが発生しました。          |
| Error: USB Interface            | USBインターフェースにエラーが発生しました。        |
| Error: Wireless Board           | 拡張無線 LAN ボードにエラーが発生しました。       |
| Full: Standard Tray             | 本体排紙トレイが満杯です。                  |
| Full: Waste Toner               | 廃トナーが満杯です。                     |

| ステータス                          | 意味                                                                             |
|--------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| Hex Dump Mode                  | ヘキサダンプモード中です。                                                                  |
| Independent-supplier Toner     | 純正でないトナーがセットされています。                                                            |
| In Use: Input Tray             | 給紙トレイが使用中です。                                                                   |
| Job Suspended                  | 一時停止中です。                                                                       |
| Low: Toner                     | 黒トナーが残り少なくなりました。                                                               |
| Mismatch: Paper Size           | 選択された給紙トレイのサイズが、指定されたものと異なります。                                                 |
| Mismatch: Paper Size and Type  | 選択された給紙トレイの用紙種類とサイズが、指定されたものと異なります。<br>または、自動トレイ選択を指定しているとき、指定の用紙種類とサイズがありません。 |
| Mismatch: Paper Type           | 選択された給紙トレイの用紙種類が、指定されたものと異なります。                                                |
| Nearly Full: Waste Toner       | 廃トナーがもうすぐ満杯です。                                                                 |
| No Paper: Selected Tray        | 指定されたトレイに用紙がありません。                                                             |
| No Paper: Tray 1               | トレイ 1 に用紙がありません。                                                               |
| No Paper: Tray 2               | トレイ 2 に用紙がありません。                                                               |
| No Paper: Tray 3               | トレイ 3 に用紙がありません。                                                               |
| Not Detected: Fusing Unit      | 定着ユニットが正しくセットされていません。                                                          |
| Not Detected: Input Tray       | 給紙トレイが正しくセットされていません。                                                           |
| Not Detected: PCU (K)          | 感光体ユニット（ブラック）が正しくセットされていません。                                                   |
| Not Detected: Tray 1           | トレイ 1 が正しくセットされていません。                                                          |
| Not Detected: Tray 2           | トレイ 2 が正しくセットされていません。                                                          |
| Not Detected: Tray 3           | トレイ 3 が正しくセットされていません。                                                          |
| Offline                        | プリンターがオフライン状態です。                                                               |
| Paper Misfeed: Duplex Unit     | 両面ユニットで紙づまりが発生しました。                                                            |
| Paper Misfeed: Input Tray      | 給紙トレイで紙づまりが発生しました。                                                             |
| Paper Misfeed: Internal/Output | 本体内部で紙づまりが発生しました。                                                              |
| Paper Misfeed: Output Tray     | 本体排紙部で紙づまりが発生しました。                                                             |
| Printing...                    | 印刷中またはデータ受信中です。                                                                |
| Processing                     | データ処理中です。                                                                      |
| Proxy User/Password Incorrect  | プロキシユーザー名またはパスワードが不正です。                                                        |
| Proxy Address/Port Incorrect   | プロキシアドレス、またはポート番号が不正です。                                                        |
| Ready                          | 使用可能です。                                                                        |
| Renewing Remote Certificate    | リモートピス証明書を更新中です。                                                               |
| Replace Maintenance Kit        | メンテナンスキットの交換時期です。                                                              |

| ステータス                         | 意味                                       |
|-------------------------------|------------------------------------------|
| SD Card Authentication failed | SD カードからの認証に失敗しました。                      |
| SD Card not inserted          | SD カードがセットされていません。                       |
| Tray Error: Duplex Printing   | 両面禁止トレイに両面印刷を指定したため、両面印刷設定トレイエラーが発生しました。 |
| Warming Up...                 | 準備中です。                                   |

**↓ 補足**

- エラーの内容は、システム設定リストや印刷条件一覧に印刷される場合があります。あわせてご確認ください。印刷方法については、「テスト印刷メニュー」を参照してください。

**📖 参照**

- P.136 「テスト印刷メニュー」
- P.238 「info」
- P.299 「本機の状態表示」

## 機器情報

機器の給紙トレイ、排紙トレイ、搭載しているエミュレーション、および登録しているプログラムの情報の確認方法と、項目の説明です。

- UNIX の場合  
rsh、rcp、ftp、sftp の info パラメータを使います。
- mshell の場合  
info コマンドを使います。

### Input Tray

| 項目名      | 内容                                                                                                                                   |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| No.      | ご使用の機器に装着されている給紙トレイ番号が表示されます。                                                                                                        |
| Name     | ご使用の機器に装着されている給紙トレイ名称が表示されます。                                                                                                        |
| PageSize | ご使用の機器に装着されている給紙トレイに設定されている用紙サイズが表示されます。                                                                                             |
| Status   | 給紙トレイの状態が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Normal：正常</li> <li>• NoInputTray：トレイなし</li> <li>• PaperEnd：用紙なし</li> </ul> |

### Output Tray

| 項目名    | 内容                                                                                                                                                          |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| No.    | ご使用の機器に装着されている排紙トレイ番号が表示されます。                                                                                                                               |
| Name   | ご使用の機器に装着されている排紙トレイ名称が表示されます。                                                                                                                               |
| Status | 排紙トレイの状態が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Normal：正常</li> <li>• PaperExist：用紙あり</li> <li>• OverFlow：用紙が満杯</li> <li>• Error：その他エラー</li> </ul> |

### Emulation

| 項目名     | 内容                                     |
|---------|----------------------------------------|
| No.     | ご使用の機器に装備されているエミュレーション番号が表示されます。       |
| Name    | ご使用の機器に装備されているエミュレーション名が表示されます。        |
| Version | ご使用の機器に装備されている、各エミュレーションのバージョンが表示されます。 |

#### 参照

- P.238 「info」
- P.299 「本機の状態表示」

## 取得情報の内容

ネットワークインターフェースボードから取得することができる情報の詳細です。

### ★重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

## プリントジョブ情報

印刷待ちジョブの情報の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合  
lpq コマンド、rsh、rcp、ftp、sftp の stat パラメーターを使います。
- mshell の場合  
status コマンドを使います。

### 5

| 項目名        | 意味                                                                                                                                                     |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Rank       | 印刷ジョブの状態が表示されます。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>• Active<br/>印刷中、または印刷処理待ち状態</li> <li>• 1st、2nd、3rd、4th...<br/>プリンターへのファイル転送待ち状態</li> </ul> |
| Owner      | 印刷要求元のログインユーザー名が表示されます。                                                                                                                                |
| Job        | 印刷要求番号が表示されます。                                                                                                                                         |
| Files      | ファイル名が表示されます。                                                                                                                                          |
| Total Size | 印刷ジョブのデータサイズが表示されます。 <sup>*1</sup>                                                                                                                     |

<sup>\*1</sup> 複数のファイルを 1 ジョブとして投入した場合は、先頭ファイルのサイズが表示されます。

### 📖参照

- P.252 「status」
- P.299 「本機の状態表示」

## プリントログ情報

これまでに印刷した過去20件分のジョブの記録の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合  
rsh、rcp、ftp、sftp の prnlog パラメーターを使います。
- mshell の場合  
prnlog コマンドを使います。

| 項目名    | 意味                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ID     | 印刷要求番号が表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| User   | 印刷要求元のユーザー名、ワークステーション名、またはアドレスが表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                       |
| Page   | 印刷したページ数が表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| Result | <p>通信結果が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Finished<br/>通信上、印刷要求は正常に終了しました。ただしプリンター側の問題で印刷が正常に終了していない場合があります。</li> <li>• Failed<br/>印刷が正常に終了しませんでした。</li> <li>• Canceled<br/>rcp、rsh、lpr コマンドの印刷要求が中止されました。印刷アプリケーションにより発生する場合があります。ftp、sftp、rprinter では発生しません。</li> </ul> |
| Time   | 印刷要求受け付け時間が表示されます。                                                                                                                                                                                                                                                                           |

### 目 参照

- P.241 「prnlog」
- P.299 「本機の状態表示」



## ネットワークインターフェースボードの情報

ネットワークインターフェースボードの設定内容の確認方法と、表示される項目の説明です。お使いの機種によっては、表示されない項目があります。

- mshell の場合  
show コマンドを使います。

| 項目名                | 意味                   |
|--------------------|----------------------|
| Common             |                      |
| Mode               |                      |
| Protocol Up/Down   | プロトコル利用設定            |
| AppleTalk          |                      |
| IPv4               |                      |
| IPv6               |                      |
| IPsec              |                      |
| NetWare            |                      |
| SMB                |                      |
| PictBridge         |                      |
| Device Up/Down     | デバイス利用設定             |
| Parallel           |                      |
| USB                |                      |
| Bluetooth          |                      |
| Ethernet interface |                      |
| Syslog priority    |                      |
| NVRAM version      |                      |
| Device name        |                      |
| Comment            |                      |
| Location           |                      |
| Contact            |                      |
| Soft switch        |                      |
| AppleTalk          | AppleTalk 関連設定       |
| Mode               |                      |
| Net                |                      |
| Object             |                      |
| Type               |                      |
| Zone               |                      |
| TCP/IP             | TCP/IP のポートアドレスなどの設定 |

| 項目名           | 意味 |
|---------------|----|
| Mode(IPv4)    |    |
| Mode(IPv6)    |    |
| ftp           |    |
| lpr           |    |
| rsh           |    |
| telnet        |    |
| diprint       |    |
| web           |    |
| http          |    |
| ftpc          |    |
| snmp          |    |
| ipp           |    |
| autonet       |    |
| Bonjour       |    |
| ssl           |    |
| nrs           |    |
| rfu           |    |
| nbt           |    |
| ssdp          |    |
| bmlinks       |    |
| ssh           |    |
| sftp          |    |
| WSD (Device)  |    |
| WSD (Printer) |    |
| rhpp          |    |
| IPv4          |    |
| DHCP          |    |
| Address       |    |
| Netmask       |    |
| Broadcast     |    |
| Gateway       |    |
| IPv6          |    |
| Stateless     |    |
| Manual        |    |

| 項目名                      | 意味                |
|--------------------------|-------------------|
| Gateway                  |                   |
| DHCPv6-lite              |                   |
| DUID                     |                   |
| DHCPv6 option lifetime   |                   |
| IPsec                    |                   |
| Manual Mode              |                   |
| Excluded Protocol        |                   |
| https                    |                   |
| dns                      |                   |
| dhcp                     |                   |
| wins                     |                   |
| EncapType                |                   |
| Host name                |                   |
| DNS Domain               |                   |
| Access Control           | アクセス制限設定          |
| IPv4                     |                   |
| AccessEntry [X]          | X は 1~5 まで設定できます。 |
| IPv6                     |                   |
| AccessEntry [X]          | X は 1~5 まで設定できます。 |
| SNTP Server              | 時刻関連設定            |
| Time Zone                |                   |
| SNTP Server polling time |                   |
| SYSLOG server            | Websys 関連の設定      |
| Home page URL1           |                   |
| Home page link name1     |                   |
| Home page URL2           |                   |
| Home page link name2     |                   |
| Help page URL            |                   |
| RHPP Port                |                   |
| RHPP timeout             |                   |
| SMB                      | SMB 動作/設定         |
| Switch                   |                   |
| Mode                     |                   |
| Direct print             |                   |

| 項目名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 意味                                                         |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| Notification<br>Workgroup name<br>Computer name<br>Comment<br>Share name[1]<br>Protocol                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                            |
| Wireless LAN<br>Host Name<br>Communication Mode<br>SSID<br>Channel<br>Security<br>WEP Authentication<br>WEP Encryption key number<br>WEP Encryption keys [X]<br>WPA Encryption<br>WPA Authentication<br>Pre-Shared Key<br>User name<br>Domain name<br>EAP Type<br>Password<br>Phase 2 user name<br>Phase 2 Method TTLS<br>Phase 2 Method PEAP<br>Server cert.<br>Intermediate CA<br>Server ID<br>Sub domain<br>MIC check | IEEE 802.11 インターフェース動作/設定<br><br><br><br>X は 1~4 まで設定できます。 |
| DNS<br>IPv4<br>Server[X]<br>Selected IPv4 DNS Server                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | DNS 動作/設定<br><br><br>X は 1~3 まで設定できます。                     |

| 項目名                                                                                                                                                              | 意味                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| IPv6<br>Server[X]<br>Selected IPv6 Dns Server<br>Resolver Protocol<br>Domain Name<br>ether<br>wlan<br>DDNS<br>ether<br>wlan<br>Ethernet<br>802.1X Authentication | X は 1~3 まで設定できます。 |
| WINS<br>ether<br>Primary WINS<br>Secondary WINS<br>wlan<br>Primary WINS<br>Secondary WINS                                                                        | WINS 動作／設定        |
| SSDP<br>UUID<br>Profile<br>TTL                                                                                                                                   | SSDP 動作／設定        |
| BMLinkS<br>Plain Only<br>Paused Print<br>Timeout<br>Device Name<br>Country<br>Organization<br>Branch<br>Building<br>Floor<br>Block                               | BMLinkS 動作／設定     |

| 項目名                                                                                                                                                                                                             | 意味                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------|
| UPnP<br>URL                                                                                                                                                                                                     | UPnP 動作／設定                                                  |
| Bonjour<br>Computer Name(cname)<br>Local Hostname (ether)<br>Local Hostname (wlan)<br>Location<br>Priority (diprint)<br>Priority (lpr)<br>Priority (ipp)<br>IP TTL<br>LinkLocal Route for Multi I/F<br>IPP Port | Bonjour (Rendezvous) 動作／設定                                  |
| SNMP<br>SNMPv1v2<br>SNMPv3<br>protocol<br>v1Trap<br>v2Trap<br>v3Trap<br>SNMPv1v2 Remote Setting<br>SNMPv3 Privacy                                                                                               | SNMP 動作／設定                                                  |
| ssh<br>Compression<br>Port<br>TimeOut<br>LoginTimeOut                                                                                                                                                           | ssh 動作／設定                                                   |
| AuthFree<br>IPv4<br>AuthFree Entry[X]<br>IPv6<br>AuthFree Entry[X]<br>Parallel<br>USB                                                                                                                           | 認証除外動作／設定<br><br>X は 1～5 まで設定できます。<br><br>X は 1～5 まで設定できます。 |

| 項目名                                                                                                                                                                                             | 意味                |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| LPR<br>lprm check host<br>lpr prnerrchk                                                                                                                                                         |                   |
| Certificate<br>Verification                                                                                                                                                                     |                   |
| WS-MFP<br>Network Device Name<br>Comments<br>Location<br>Presentation URL<br>WSD (Device) TCP Port<br>WSD (Printer) TCP Port<br>WSD (Printer) Job Timeout<br>MetadataVersion<br>UUID            |                   |
| IEEE 802.1X<br>User Name<br>Domain name<br>EAP Type<br>Password<br>Phase 2 user name<br>Phase 2 Method TTLS<br>Phase 2 Method PEAP<br>Server cert<br>Intermediate CA<br>Server ID<br>Sub domain | IEEE 802.1X 関連の設定 |
| Shell mode                                                                                                                                                                                      | リモートメンテナンスツールのモード |

# メッセージ一覧

プリンターのシステムログ情報として記録されるメッセージと、ユーティリティやコマンドの使用時に表示されるメッセージの一覧です。

## ★重要

- この機能はネットワーク接続をしているときに使用できます。

## システムログ情報

システムログ情報の確認方法と、表示される項目の説明です。

- UNIX の場合  
rsh、rcp、ftp、sftp の syslog パラメーターを使います。
- mshell の場合  
syslog コマンドを使います。

account is unavailable: encryption is impossible.

暗号化できないため、アカウントが無効になりました。

account is unavailable: same account name be used.

一般ユーザーアカウント名と管理者アカウント名が重複しているため、一般ユーザーアカウント名が無効になりました。どちらかのアカウント名を別のものにしてください

account is unavailable: The authentication password is not set up.

認証パスワードが設定されてなく、暗号パスワードのみ設定されているため、アカウントが無効になりました。暗号パスワードを削除するか、認証パスワードを入力してください。

add\_sess\_IPv4:bad trap addr:<IPv4 アドレス >, community:<コミュニティ名 >

コミュニティのアクセスタイプが Trap の場合、IPv4 のアドレス 0.0.0.0 は無効です。Trap 送信先ホストの IPv4 アドレスを指定して下さい。

add\_sess\_IPv6:bad trap addr:<IPv6 アドレス >, community:<コミュニティ名 >

コミュニティのアクセスタイプが Trap の場合、IPv6 のアドレス [::] は無効です。Trap 送信先ホストの IPv6 アドレスを指定して下さい。

add\_sess\_IPv4: community <コミュニティ名 > already defined.

コミュニティ名が重複しています。他のコミュニティ名と重複しない名前を設定して下さい。

add\_sess\_IPv6: community <コミュニティ名 > already defined.

コミュニティ名が重複しています。他のコミュニティ名と重複しない名前を設定して下さい。

adjust time server <NTP サーバー > offset:XX sec.

ncsdがNTPサーバーとの時刻同時期に、システム時刻の修正結果を知らせます。  
NTPサーバー：NTPサーバー名  
offset：遅らせた秒数（マイナスの場合は進めた秒数）



**child process exec error! (プロセス名)**

ネットワーク関連の起動に失敗しました。電源再投入しても回復しない場合は、保守会社に連絡してください。

**Connected DHCP Server (<DHCP サーバーアドレス>)**

DHCP サーバーからの IPv4 アドレス取得に成功しました。

**Connected DHCPv6 Server**

DHCP サーバーからの IPv6 アドレス取得に成功しました。

**Current Interface Speed : < Ethernet I/F 速度 >**

現在の Ethernet I/F の速度です。(10Mbps、100Mbps、または 1Gbps)。

**Duplicate IP=<IP アドレス> (from<MAC アドレス>)**

本機に設定された IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスが重複しています。IP アドレスはそれぞれ固有でなければなりません。表示された MAC アドレスの機器をチェックしてください。

**IEEE 802.11 < 通信モード > mode**

無線 LAN の通信モードを表示します。

**IEEE 802.11 Card does NOT support WPA.**

装着されている無線 LAN カードは、WPA をサポートしていません。WPA 対応の無線 LAN カードを装着してください。

**IEEE 802.11 Card Firmware REV.<バージョン>**

無線 LAN カードファームウェアのバージョンです。

**IEEE 802.11 current channel<チャンネル番号>**

無線 LAN 使用時 (アドホックおよびインフラストラクチャモードの場合) に動作中のチャンネル番号です。

**IEEE 802.11 MAC Address=<MAC アドレス>**

無線 LAN インターフェースの MAC アドレスです。

**IEEE 802.11 SSID<ssid> (AP MAC Address <MAC アドレス>)**

インフラストラクチャモード時の接続したアクセスポイントの SSID およびアクセスポイントの MAC アドレスです。

**(IKE phase-1) mismatched authentication type : local= 相手認証方式 1 remote= 相手認証方式 2**

IKE フェーズ 1 における本機の相手認証方式 1 と通信相手の認証方式 2 が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP 相手認証方式を一致させてください。

**(IKE phase-1)mismatched DH group:local=DHグループ番号 1 remote=DHグループ番号 2**

IKE フェーズ 1 における本機の ISAKMP SA Oakley グループ (DH グループ番号 1) と通信相手の ISAKMP SA Oakley グループ (DH グループ番号 2) が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA Oakley グループを一致させてください。

**(IKE phase-1) mismatched encryption type : local= 暗号アルゴリズム 1 remote= 暗号アルゴリズム 2**

IKE フェーズ 1 における本機の暗号アルゴリズム 1 と通信相手の暗号アルゴリズム 2 が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA 暗号アルゴリズムを一致させてください。

(IKE phase-1) mismatched hash type : local= ハッシュアルゴリズム 1 remote= ハッシュアルゴリズム 2

IKE フェーズ 1 における本機の ISAKMP SA ハッシュアルゴリズム 1 と通信相手の ISAKMP SA ハッシュアルゴリズム 2 が一致しません。本機と通信相手の ISAKMP SA ハッシュアルゴリズムを一致させてください。

IKE[%s] is disable, set PSK text.

PSK 文字列が設定されていないため、対象の IKE エントリを無効としました。

<Interface>started with IP: <IP アドレス >

インターフェースに IPv4 または IPv6 アドレスが設定されて、動作を開始しました。

job canceled.jobid=< ジョブ ID>

エラーまたはユーザ要求により、スプールされたジョブがキャンセルされました。

LeaseTime=< リース時間 >(sec), RenewTime=< 更新間隔 >(sec).

DHCP サーバーから取得した IPv4 アドレスのリース時間は < リース時間 > 秒、更新時間は < 更新間隔 > 秒で表示されます。

Manual[%s] is disable, set authentication key.

認証鍵がされていないため、対象の手動 SA エントリを無効としました。

Manual[%s] is disable, set encryption key.

暗号鍵が設定されていないため、対象の手動 SA エントリを無効としました。

Name registration success. WINS Server = < WINS サーバーアドレス > NetBIOS Name = < NetBIOS 名 >

WINS サーバーアドレスへの NetBIOS 名の登録が成功しました。

Name registration success in Broadcast name= < NetBIOS 名 >

ブロードキャストによる NetBIOS 名の登録が成功しました。

Name registration failed. name= < NetBIOS 名 >

NetBIOS 名の登録に失敗しました。NetBIOS 名を別の名前に変更してください。

print sessions full

印刷要求が最大セッション数に達しています。しばらくしてから再接続してください。

session\_IPv4 < コミュニティ名 > not defined.

認証不可のコミュニティ名で、設定要求を受けました。

session\_IPv6 < コミュニティ名 > not defined.

認証不可のコミュニティ名で、設定要求を受けました。

Shu t down signal received. network service rebooting ...

ネットワークのリブート処理を行います。

SMTPC: failed to get smtp server ip-address.

SMTP サーバーの IP アドレスを取得できません。DNS サーバーを探せないか、DNS サーバーに指定した SMTP サーバーの IP アドレスがありません。DNS サーバーの IP アドレスを確認してください。または SMTP サーバーの IP アドレスを確認してください。

**SMTPC: failed to connect smtp server. timeout.**

応答待ちでタイムアウトしたため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバー名が間違っている、ネットワークに接続されていない、またはネットワークの設定が間違っており、SMTP サーバーからの応答を取得できません。SMTP サーバー名を確認してください。またはネットワークの接続と設定を確認してください。

**SMTPC: refused connect by smtp server.**

SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバー名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバーの SMTP ポート番号を確認してください。

**SMTPC: no smtp server. connection close.**

SMTP プロトコルの応答が返ってこないため、SMTP サーバーに接続できません。SMTP サーバーではないサーバーを指定したか、SMTP サーバーのポート番号が間違っています。SMTP サーバー名、SMTP ポート番号、または SMTP サーバーの SMTP ポート番号を確認してください。

5

**SMTPC: failed to connect smtp server.**

SMTP サーバーに接続できません。ネットワークに接続されていない、ネットワークの設定が間違っている、SMTP サーバーからの応答を取得できない、SMTP サーバー名が間違っている、DNS サーバーの指定が間違っている、DNS サーバーに指定された SMTP サーバーの IP アドレスがない、SMTP サーバーではないサーバーを指定した、または SMTP サーバーのポート番号が間違っています。DNS サーバーの IP アドレスと SMTP サーバーの IP アドレス、SMTP サーバー名と SMTP ポート番号、SMTP サーバーの SMTP ポート番号、ネットワークの接続と設定を確認してください。

**SMTPC: username or password wasn't correct. [応答コード] (インフォメーション)**

SMTP サーバーに認証接続できません。SMTP ユーザー名の指定が間違っているか、SMTP パスワードの指定が間違っています。SMTP ユーザー名、SMTP パスワードを確認してください。

**Snmp over IPv4 is ready.**

IPv4 上での SNMP 通信が可能です。

**Snmp over IPv6 is ready.**

IPv6 上での SNMP 通信が可能です。

**trap account is unavailable.**

Trap 送信先アカウント名が、機器が管理するアカウント名とは別のものが指定されているため、そのアカウントでは v3Trap は送信されません。送信先アカウント名を機器が管理するアカウント名に変更してください。

**snmpd start.**

Snmpd を開始しました (電源 ON / OFF のみ表示します)。

**Updated (オプション名) (値) via DHCPv6 Server**

DHCP v6 サーバーから取得したパラメータが更新されました。パラメータを新規で取得したとき、および以前取得したものに対して変更があったときに表示されるメッセージです。

**WINS name registration: No response to server(WINS サーバーアドレス)**

登録処理に対する応答がサーバーからありません。WINS サーバーアドレスを確認してください。または、WINS サーバーが正常に作動しているか確認してください。

**WINS wrong scopelD=< スコープ ID>**

不正なスコープ ID が使用されています。正常なスコープ ID を設定して下さい。

**参照**

- P.299 「本機の状態表示」



# 6. プリントサーバーの準備

ネットワークプリンターの設定についての説明です。

## Windows ネットワークプリンターを設定する

Windows でネットワークプリンターを設定する方法の説明です。

クライアントからネットワークプリンターを使用するために共有設定をします。ネットワークプリンターを Network Monitor for Client 経由で接続している場合、印刷通知設定をすることができ、印刷結果をクライアントに通知することができます。

### ★重要

- ・ [プリンタ] フォルダでプリンタープロパティを変更するには「プリンタの管理」、Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

### 1 Windows XP、Windows Server 2003 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[プリンタと FAX] をクリックします。

Windows 2000 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントし、[プリンタ] をクリックします。

Windows Vista、Windows Server 2008 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。[ハードウェアとサウンド] のカテゴリの中から、[プリンタ] をクリックします。Windows 7、Windows Server 2008 R2 の場合は、[デバイスとプリンター] を開きます。

### 2 追加したプリンターのアイコンをクリックして反転表示させ、[ファイル] メニューの [プロパティ] をクリックします。

プリンターのプロパティが表示されます。

### 3 [共有] タブをクリックし、[共有する] にチェックを付けます。

### 4 プリンターをほかのバージョンの Windows を使っているユーザーと共有する場合は、[追加ドライバ] をクリックします。

プリンタードライバをインストールしたときに、「共有」にチェックを付けて代替ドライバをインストールした場合、この操作は必要ありません。

### 5 [OK] をクリックし、プリンターのプロパティを閉じます。

## Network Monitor for Client 経由で印刷通知をする

Network Monitor for Client の印刷通知機能を設定する方法の説明です。

### プリントサーバーの設定をする

#### ★重要

- プリントサーバーの設定を変更するには、Windows 2000、Windows XP Professional、Windows Server 2003 をご使用の場合は「プリンタの管理」、Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 をご使用の場合は「フルコントロール」のアクセス権が必要です。Administrators または PowerUsers グループのメンバーとしてログオンしてください。

**1** [スタート] ボタンから、[プログラム] (Windows Vista、Windows Server 2008)では[すべてのプログラム]-[Network Monitor for Client]-[Network Monitor for Client] の順にポイントして、[プリントサーバー設定] をクリックします。

プリントサーバー設定ダイアログが表示されます。

**2** 「クライアントに印刷通知をする」をチェックして、[OK] をクリックします。

プリントサーバーの設定によって、ダイアログが表示されます。記載内容を確認して [OK] をクリックします。

[キャンセル] をクリックすると、処理を中断します。

**3** 各クライアントへの設定についてダイアログが表示されます。[OK] をクリックします。

これでプリントサーバーの設定は終了です。各クライアントで、印刷通知の設定が必要です。

#### ↓補足

- 印刷中のジョブはスプーラー一時停止後に最初から再印刷されます。
- 拡張機能を使用していない場合、自動的に拡張機能を有効に設定します。
- Administrators アカウント以外でログインした場合、クライアントに通知できない場合があります。

## クライアントの設定をする

**1** [スタート] ボタンから、[プログラム] (Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 では [すべてのプログラム]) - [Network Monitor for Client] - [Network Monitor for Client] の順にポイントして、[拡張機能設定] をクリックします。

拡張機能設定ダイアログが表示されます。

**2** 「拡張機能設定を使用する」にチェックを付けます。

**3** 「印刷通知」の「プリントサーバーを利用する場合に通知します。」にチェックを付けます。

**4** [OK] をクリックします。

印刷通知設定ダイアログが閉じます。

### ↓ 補足

- ・ プリンタードライバーでも印刷通知の設定をしてください。印刷通知の詳しい設定方法については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。





# 7. UNIX で使う

UNIX はサポート対象外です。  
UNIX の使用についての説明です。

## セットアップ

UNIX でネットワークプリンターとして使用する場合の、セットアップ方法の説明です。セットアップの作業を簡単に行えるようにインストールシェルが用意されています。インストールシェルは通常のリモートプリンターのセットアップ作業 (/etc/hosts の設定、/etc/printcap の設定、スプールディレクトリの作成) をシェルスクリプトにより自動化して行います。

### ◆ セットアップの流れ

- ・インストールシェルに対応したワークステーションの場合、本機への IP アドレスを設定してからインストールシェルを実行します。
- ・インストールシェルに対応しないワークステーションの場合、本機への IP アドレスを設定してから /etc/hosts を設定します。
- ・lpr コマンドを使うインストールシェルに対応しないワークステーションの場合、本機の IP アドレスを設定し /etc/hosts および /etc/printcap の設定をしてからスプールディレクトリを作成します。

### ◆ 対応ワークステーション

インストールシェルは次の 6 種類のワークステーションに対応しています。これ以外のワークステーションの場合はインストールシェルを使わないでセットアップしてください。

- ・ SunOS 4.x.x
- ・ Solaris 2.x (SunOS 5.x)、Solaris7、Solaris8
- ・ HP-UX
- ・ RedHat Linux
- ・ UnixWare
- ・ OpenServer

#### ↓ 補足

- ・インストールシェルは、CUPS をサポートしていません。CUPS の設定については、各ワークステーションおよび CUPS のマニュアルを参照してください。
- ・RedHat7.1 以降では、インストール時のセキュリティ設定により rsh/telnet が使用できないことがあります。セキュリティレベルを rsh/telnet で使用できるレベルに変更しておいてください。変更方法については RedHat の使用説明書を参照してください。
- ・Solaris および HP-UX をご使用の場合、付属の admintool でも設定することができます。設定方法については admintool のマニュアルを参照してください。
- ・NIS(Network Information Service) や DNS を使用している場合は、あらかじめサーバ側の設定をしてからインストールシェルを実行してください。

## IP アドレスの設定

あらかじめ本機のネットワーク環境を設定しておきます。

IP アドレスを設定したら正しく設定されたかどうかワークステーション側から確認してください。

- TCP/IP プロトコルを有効にする（工場出荷時は有効です）。
- IP アドレスなど TCP/IP に関する項目を設定する。

### 1 次のように入力して確認します。（IP アドレスが 192.168.15.16 の場合）

```
ping 192.168.15.16
```

正しく設定されていると次のように表示されます。

```
192.168.15.16 is alive
```

間違っ設定されていると次のように表示されます。

```
no answer from 192.168.15.16
```

#### 補足

- NIS を使用している場合はマスターサーバー上の /etc/hosts に、DNS を使用している場合はネームサーバー上のデータファイルに IP アドレスとホスト名を追加します。追加後、ホスト名を使って正しく設定されたか確認してください。サーバーに登録したホスト名は IP アドレスの代わりに使用できます。

```
ping ホスト名
```

#### 参照

- IP アドレスの設定方法については、本機に同梱の使用説明書を参照してください。

## 7

## インストールシエルの実行

プリンターに IP アドレスを設定したら、インストールシエルを使ってワークステーションの印刷環境をセットアップします。

インストールシエルは ftp を使ってプリンターから取り出します。

**1** プリンターを使用するワークステーションに root でログインします。

**2** インストールシエルをプリンターから取り出します。

**3** インストールシエルをコピーするディレクトリに移動します。

**4** ftp コマンドで、設定した IP アドレスに接続します。

```
ftp 192.168.15.16
```

```
Connected to 192.168.15.16
```

```
220 printer FTP server ready.
```

```
Name (192.168.15.16:root:)
```

- 5** ユーザー名の入力待ち画面では何も入力しないで [Return] キーを押します。

```
331 Password required for root.
Password:
```

- 6** パスワードの入力待ち画面では何も入力しないで [Return] キーを押します。

```
230 User root logged in.
ftp>
```

- 7** インストールシェルを取り出します。

```
ftp> get install
```

- 8** ftp を終了します。

```
ftp> bye
221 Goodbye.
#
```

- 9** インストールシェルを起動します。

```
sh ./install
カレントディレクトリであることを示すピリオド (.) を付けてください。
```

- 10** 使用しているワークステーションを数字で指定します。

```
Network printer install shell
Select your workstation OS type.
1. SunOS 4.x.x
2. Solaris 2.x, Solaris 7-9(SunOS5.x)
3. HP-UX
4. UnixWare
5. Linux
6. OpenServer
7. Quit
```

```
Enter <1-7>:
```

```
1
```

「7」を指定するとインストールシェルは終了します。

- 11** プリンターの IP アドレスを入力します。

```
Enter Printer host IP address <xxx.xxx.xxx.xxx> [return=skip]:
192.168.15.16
```

ここで入力した IP アドレスが /etc/hosts に設定されます。

すでにプリンターのホスト名が登録されているときは、何も入力しないで [Return] キーを押します。このとき /etc/hosts には何も追加されません。

**12** プリンターのホスト名を入力します。

Enter Printer host name :

rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁)

ここで入力した名前が /etc/hosts と /etc/printcap に設定されます。ただし、前の手順で IP アドレスを入力しなかったとき、/etc/hosts には何も追加されません。

**13** プリンターの名前を設定します。

Enter logical printer name [default rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) \_prn]:

そのまま [Return] キーを押すと「default」に表示されている名前に設定されます。

この名前を変更したいときは新しい名前を入力します。

ここで入力した名前が /etc/printcap に設定されます。

「default」には前の手順で入力したホスト名に \_prn を付けた名前が表示されます。前の手順でホスト名を入力しなかったときは rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) \_prn と表示されます。

**14** 印刷時のオプションを指定します。

オプションを指定しないときはそのまま [Return] キーを押します。

Enter remote printer name [default lp]:

filetype=RPS

hosts file is modified

#

インストールシェルによるセットアップが終了します。

ここでオプションを指定すると、入力した文字列が /etc/printcap の rp ケーパビリティに設定されます。lpr で印刷すると、このオプションを使って印刷されます。

同じプリンターに対して異なるオプションを指定して印刷するときは、インストールシェルをもう一度実行し、オプションごとにエントリーを作成してください。

**15** テスト印刷します。

# lpr -Prnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) \_prn ファイル名

 参照

- /etc/printcap について詳しくは、P.287 「/etc/printcap へのエントリーの追加」を参照してください。
- /etc/hosts について詳しくは、P.287 「/etc/hosts への IP アドレスとホスト名の追加」を参照してください。
- 指定できるオプションについて詳しくは、P.290 「オプション指定 (UNIX)」を参照してください。

## インストールシェルの実行結果

インストールシェルを実行すると印刷環境が自動的にセットアップされます。

ここでは、SunOS 4.x でインストールシェルを実行した場合にセットアップされる内容について説明します。

インストールシェルを使わないでセットアップする場合は、ここでの説明を参考に各ワークステーションのマニュアルを参照してください。

### /etc/hosts への IP アドレスとホスト名の追加

/etc/hosts に次の行が追加されます。

```
192.168.15.16 rnp xxxxxx(xx は MAC アドレスの下 6 桁) # Network Printer
192.168.15.16 は IP アドレス、rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) はプリンターの
ホスト名、# から行末まではコメントです。
```

#### ↓ 補足

- /etc/hosts はネットワーク内で通信するすべてのホストの IP アドレスとホスト名を登録するファイルです。それぞれの項目はスペースかタブで区切られ、1 行で入力されます。
- NIS や DNS を使用していない場合は、ネットワークプリンターを使用するすべてのワークステーション上の /etc/hosts に追加が必要です。

### /etc/printcap へのエントリーの追加

/etc/printcap に次のエントリーが追加されます。

これは lpr コマンドを使って印刷するための設定です。lpr コマンドを使って印刷するには、/etc/hosts ファイルの設定に加え、/etc/printcap にネットワークプリンターのためのエントリーを追加し、スプールディレクトリを作成する必要があります。

```
rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prn|HITACHI Network Printer:/
:rm=hitachi:/
:rp=filetype=RPS:/
:sd=/usr/spool/rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd:/
:lf=/usr/adm/rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd-errs:/
:mx#0:
```

#### ↓ 補足

- /etc/printcap はプリンターの名前や属性を登録するファイルです。ネットワークプリンターを使用するすべてのワークステーションの /etc/printcap に、ネットワークプリンターのためのエントリーが必要です。
- 同じプリンターに対し異なるオプションを指定して印刷するときは、オプションごとにエントリーを作成してください。
- 1 つのエントリーはコロン (:) で複数のフィールドに区切られています。読みやすくするために途中に改行を入れることができ、その場合は改行の前にバックスラッシュ (\) を入力します。
- 1 行目のフィールドはプリンターの名前です。ワークステーションからネットワークプリンターを指定するときに、この名前を使います。名前を「|」で区切ることで複数の名前を定義できます。

- 2 行目以降のフィールドはプリンターの属性です。プリンターの属性はケーパビリティと呼ばれる 2 文字の名前で表されます。ケーパビリティについて詳しくは次の表を参照してください。

| ケーパビリティ | 説明                                                                                               |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| lp      | 本機のデバイス名です。<br>通常何も指定しません。                                                                       |
| rm      | /etc/hosts に登録した本機のホスト名です。                                                                       |
| rp      | 印刷時のオプションを指定します。                                                                                 |
| sd      | 作成するスプールディレクトリのパス名です。                                                                            |
| lf      | ログを格納するファイルのパス名を設定します。<br>たとえば /usr/adm/lpd-errs                                                 |
| mx      | スプールディレクトリにコピー可能なファイルの最大サイズを設定します。通常何も指定しないか、適当な値を設定します。<br>0 を指定すると無制限、指定しないと 1024k バイトに設定されます。 |

## スプールディレクトリの作成

/usr/spool/ ディレクトリにスプールディレクトリが作成されます。名前はプリンターの名前の最後に d を付けた名前です。

### 7

#### 補足

- スプールディレクトリは、印刷を行うデータファイルの一時的なコピーが作成されるなど、印刷ジョブを制御するために使われます。ネットワークプリンターを使用するすべてのワークステーション上に、ネットワークプリンターのためのスプールディレクトリが必要です。
- スプールディレクトリは /etc/printcap に書き込まれたネットワークプリンターのエントリーごとに作成します。
- スプールディレクトリは通常 /usr/spool の下に作成します。スプールディレクトリは、/etc/printcap 中の sd ケーパビリティで指定したパス名と一致させ、オーナーとグループを daemon、許可モードを 775 に設定します。以下はスプールディレクトリとして /usr/spool/rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) \_prnd を作成するときのコマンド入力例です。

```
cd /usr/spool
mkdir rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd
chown daemon rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd
chgrp daemon rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd
chmod 775 rnp xxxxxx (xx は MAC アドレスの下 6 桁) _prnd
```

---

## ログファイルの作成

---

/usr/adm ディレクトリにエラーのログファイルが作成されます。名前はプリンターの名前の最後に d-errs を付けた名前です。



## オプション指定 (UNIX)

オプションを使うことにより、本機固有のプリンター機能を使った印刷ができます。指定可能なオプションの種類と動作は、エミュレーションにより異なります。

### ◆ Solaris 2.6 以上でオプションを指定する場合

- Solaris 2.6 以上で複数のオプションを指定するときは、セミコロン (;) で区切ります。また、オプションにイコール (=) やカンマ (,) を含めることはできません。filetype をオプションに指定するときは、イコールの代わりにアンダーライン (\_) を使ってください。filetype\_RPS 省略形は fil\_RPS のように入力してください。
- Solaris 2.6 以上でオプションを指定するときは、各コマンドで指定できるオプション数が異なります。
  - rsh/rcp 1
  - lpr/ftp 文字列制限の範囲内で複数指定可能

### ◆ オプションに入力できる文字列について

- 本機が認識できるオプション文字列は最大 512 バイトです。
- PostScript 3 をご使用の場合、本機が認識できるオプション文字列は最大 256 バイトです。
- OS によってはオプションとして入力できる文字数に制限があります。オプションの省略形を使っても文字数の制限を超えてしまう場合は、本機のプログラム登録を使ってください。

### ◆ オプションを指定するコマンドを入力する場合

- 複数のオプションを指定するときはカンマ (,) で区切って入力します。
- 印刷するファイルの中にオプション指定を制御するコマンドが含まれている場合は、その内容が優先します。
- イコール (=) を含まないオプションを単独で指定するときは、オプションの先頭にカンマ (,) を追加します。

## エミュレーションとプログラム

印刷時に使用するエミュレーションまたはプログラムを指定します。

### ◆ filetype (または fil) = エミュレーションの指定値 (またはプログラム登録番号の指定値)

- エミュレーション：指定値
  - RPCS : RCS
  - RPDL : R00
  - R98 : R98
  - R16 : R16
  - R55 : R55
  - PostScript 3 : RPS, または POSTSCRIPT
  - RTIFF : RTF
  - PDF : PDF
  - BMLinkS : BMLINKS

- プログラム登録番号：指定値  
プログラム 1：P01  
プログラム 2：P02  
プログラム 3：P03  
プログラム 4：P04  
プログラム 5：P05  
プログラム 6：P06  
プログラム 7：P07  
プログラム 8：P08  
プログラム 9：P09  
プログラム 10：P10  
プログラム 11：P11  
プログラム 12：P12  
プログラム 13：P13  
プログラム 14：P14  
プログラム 15：P15  
プログラム 16：P16

◆ PostScript 3 で印刷場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname ファイル名 file1)

- <rsh> % rsh hostname print filetype=RPS < file1
- <rcp> % rcp file1 hostname:filetype=RPS
- <ftp> ftp> put file1 filetype=RPS

◆ ftp の cd コマンドの利用

ftp で印刷する場合は、cd コマンドでオプションを指定しておけば、put または mput コマンド使用時にそのオプションが有効になります。

ftp> cd オプション

↓ 補足

- 搭載していないエミュレーションは指定しても無効です。
- 現在設定されているオプションを表示するには pwd コマンドを使います。  
ftp> pwd

## 漢字フィルター

漢字フィルターを使用すると、作成したテキストファイルと同じ漢字コードで印刷できます。

### ★重要

- ・エミュレーションが RPD L のときに有効です。漢字フィルターを指定するときはエミュレーションとして RPD L (filetype=R00) を指定します。
- ◆ filter (または flt) = 漢字コード指定値
  - ・漢字コード：指定値 (省略値)
    - EUC : EUC(E)
    - JIS : JIS(J)
    - シフト JIS : SJIS(S)
- ◆ EUC 漢字コードのテキストファイルを印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)
 

```
<rsh> % rsh hostname print filetype=R00,filter=EUC < file1
<rcp> % rcp file1hostname:filetype=R00,filter=EUC
<ftp> ftp> put file1 filetype=R00,filter=EUC
```

## 給紙トレイ

給紙トレイを指定します。

### ★重要

- ・エミュレーションが PostScript 3、または PDF のときに有効です。
- ・増設していないトレイを指定しても無効です。
- ◆ RPD L
  - ・tray= 給紙トレイの指定値 (給紙トレイ：指定値)
    - 給紙トレイ 1 : 1
    - 給紙トレイ 2 : 2
    - 給紙トレイ 3 : 3
    - 手差しトレイ : T
  - ・給紙トレイの指定値は機器情報で得られる給紙トレイ番号に対応しています。
  - ・給紙トレイ 2 の用紙に印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)
 

```
<rsh> % rsh hostname print tray=2 < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:tray=2
<ftp> ftp> put file1 tray=2
```
- ◆ PostScript 3
  - ・tray= 給紙トレイの指定値 (給紙トレイ：指定値)
    - 給紙トレイ 1 : tray1
    - 給紙トレイ 2 : tray2
    - 給紙トレイ 3 : tray3
    - 手差しトレイ : bypass
    - 自動トレイ選択 : all
  - ・トレイ 2 の用紙に印刷する場合のコマンド例 (プリンターのホスト名 hostname ファイル名 file1)
 

```
<rsh> % rsh hostname print tray=tray2 < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:tray=tray2
<ftp> ftp> put file1 tray=tray2
```

## 用紙サイズ

用紙サイズを指定します。

### ★重要

- ・エミュレーションが RPD、PostScript 3、または PDF のときに有効です。
- ・存在しない用紙サイズは指定しても無効です。

### ◆RPDL

- ・ paper= 用紙サイズの指定値 (指定値: 用紙サイズ)
  - A4: A4R (ヨコ)
  - B5: B5R (ヨコ)
  - A5X: A5 (タテ / ヨコ)
  - B6R: B6 (ヨコ)
  - A6R: A6 (ヨコ)
  - PCR: ハガキ (ヨコ)
  - LGR: 8<sup>1</sup>/<sub>2</sub>"×14" (ヨコ)
  - LTR: 8<sup>1</sup>/<sub>2</sub>"×11" (ヨコ)
  - HLX: 5<sup>1</sup>/<sub>2</sub>"×8<sup>1</sup>/<sub>2</sub>" (タテ / ヨコ)
  - WPC: 往復ハガキ (タテ)
  - WPCR: 往復ハガキ (ヨコ)

### ↓補足

- ・用紙サイズ (ヨコ) の指定値は、機器の給紙方向に対して用紙の短辺から給紙するときに指定します。
- ・用紙サイズ (タテ) の指定値は、機器の給紙方向に対して用紙の長辺から給紙するときに指定します。
- ・A4 の用紙に印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname ファイル名 file1)
 

```
<rsh> % rsh hostname print paper=A4R < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:paper=A4R
<ftp> ftp> put file1 paper=A4R
```

### ◆PostScript 3、PDF

- ・ paper= 用紙サイズの指定値
  - 指定値: a4 (A4), a5 (A5), a6 (A6), jjsb5 (B5), jjsb6 (B6), 長形 3 号封筒, 洋長 3 号封筒, letter (8<sup>1</sup>/<sub>2</sub>"×11"), halfletter (5<sup>1</sup>/<sub>2</sub>"×8<sup>1</sup>/<sub>2</sub>"), legal (8<sup>1</sup>/<sub>2</sub>"×14"), jpost (はがき), jpostd (往復はがき), custom (不定形サイズ)
- ・A4 の用紙に印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname ファイル名 file1)
 

```
<rsh> % rsh hostname print paper=a4 < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:paper=a4
<ftp> ftp> put file1 paper=a4
```

## 用紙種類

用紙の種類を指定します。

### ★重要

- エミュレーションが RPD L、PostScript 3 または PDF のときに有効です。
- 存在しない用紙種類は指定しても無効です。

### ◆ RPD L

- paper= “用紙サイズの指定値 ”+ “用紙種類の指定値 ”  
指定値 : plain (普通紙)、letterhead (レターヘッド付き用紙)、transparency (OHP フィルム)、recycled (再生紙)、special (特殊紙)、thick (厚紙)、color (色紙)、envelope (封筒)、labels (ラベル紙)、auto (自動選択)

### ◆ RPD L で A4 (ヨコ) の再生紙に印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)

```
<rsh> %rsh hostname print paper=A4R.recycled < file1
<rcp> %rcp file1 hostname;paper=A4R.recycled
<ftp> ftp>put file1 paper=A4R.recycled
```

### ◆ PostScript 3、PDF

- mediatype= 用紙種類の指定値  
plain (普通紙)、letterhead (レターヘッド付き用紙)、transparency (OHP フィルム)、recycled (再生紙)、special (特殊紙)、thick (厚紙)、color (色紙)、envelope (封筒)、labels (ラベル紙)、auto (自動選択)

### ◆ PostScript 3、PDF で再生紙に印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)

```
<rsh> % rsh hostname print mediatype=recycled < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:mediatype=recycled
<ftp> ftp> put file1 mediatype=recycled
```

---

## 排紙トレイ

---

排紙トレイを指定します。

★重要

- ・エミュレーションが RPD L、PostScript 3 または PDF のときに有効です。
- ・増設していないトレイを指定しても無効です。

◆RPDL

- ・bin= 排紙トレイの指定値  
排紙トレイの指定値は機器情報で得られる排紙トレイ番号に対応しています。  
本体排紙トレイ：ST
- ・排紙トレイ番号 2 のトレイに排紙する場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1）  
<rsh> % rsh hostname print bin=2 < file1  
<rcp> % rcp file1 hostname:bin=2  
<ftp> ftp> put file1 bin=2

◆PostScript 3、PDF

- ・outbin= 排紙トレイの指定値（排紙トレイ：指定値）  
本体排紙トレイ：upper、manual

---

## 印刷部数

---

印刷部数を指定します。

★重要

- ・エミュレーションが RPD L、PostScript 3、または PDF のときに有効です。
- ・漢字フィルターを指定すると、印刷部数の指定は無効になります。
- ・PostScript 3 の場合、「qty」と同時に指定しないでください。

◆copies= 印刷部数（1～999）

- 10 部印刷する場合のコマンド例（本機のホスト名 hostname ファイル名 file1）
- ```
<rsh> % rsh hostname print copies=10 < file1
<rcp> % rcp file1 hostname:copies=10
<ftp> ftp> put file1 copies=10
```

ソート部数

ソートする印刷部数を指定します。

★重要

- ・エミュレーションが PostScript 3 または PDF のときに有効です。
- ・「copies」と同時に指定しないでください。

◆ qty= ソート部数 (1~999)

10部ソートして印刷する場合のコマンド例(本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)

```
<rsh> % rsh hostname print qty=10 < file1
```

```
<rcp> % rcp file1 hostname:qty=10
```

```
<ftp> ftp> put file1 qty=10
```

両面印刷

用紙の両面に印刷できます。

★重要

- ・エミュレーションが RPD、PostScript 3、または PDF のときに有効です。
- ・プリンター側に両面印刷ユニットが必要です。

◆ RPD

- ・ bothside または bothleft (左とじ)

bothright (右とじ)

flip (上とじ)

singleside (両面印刷の解除：片面印刷)

- ・ 左とじで両面印刷する場合のコマンド例(本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)

```
<rsh> % rsh hostname print bothside < file1
```

```
<rcp> % rcp file1 hostname:bothside
```

```
<ftp> ftp> put file1 bothside
```

◆ PostScript 3、PDF

duplex=on (両面印刷する)

duplex=off (両面印刷しない)

- ・ 両面印刷で綴じ位置を長辺にする場合のコマンド例(本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)

```
<rsh> % rsh hostname print duplex on < file1
```

```
<rcp> % rcp file1 hostname:duplex on
```

```
<ftp> ftp> put file1 duplex on
```

↓補足

- ・印刷データによって印刷したあと両面印刷が解除されないことがあります。次の印刷時にも両面印刷される場合は singleside を指定してください。

解像度

印刷する解像度を指定します。お使いの機種によっては、設定できる解像度の指定値が異なります。

★重要

- ・エミュレーションが PostScript 3 または PDF のときに有効です。

◆ resolution= 解像度 (300,600) , bitsperdot=1 ドットあたりのビット数 (2)

600dpi で印刷する場合のコマンド例 (本機のホスト名 hostname、ファイル名 file1)

```
<rsh> % rsh hostname print resolution=600, bitsperdot=2 < file1
```

```
<rcp> % rcp file1 hostname:resolution=600, bitsperdot=2
```

```
<ftp> ftp> put file1 resolution=600, bitsperdot=2
```

↓補足

- ・300dpi で印刷する場合は、bitsperdot=2 の指定を省略することができます。

usercode

ユーザーコードを指定できます。

◆書式

```
usercode = "ユーザーコード"
```

◆説明

- ・ユーザーコードには半角数字 8 文字を指定できます。
- ・ユーザーコードの前後に "" を指定する必要があります。
- ・Windows の FTP クライアントの場合、usercode は指定できません。

↓補足

- ・OS によってはダブルクォーテーションは送信されないため、バックslash「¥」(0x5c) などのエスケープ記号が必要となる場合があります。たとえば rsh の場合、次のような書式となります。

```
・ rsh hostname print usercode=¥"12345¥" < 印刷ファイル
```

- ・ftp で出力する場合は次のように大文字で指定する必要があります。

```
・ ftp> put filename USERCODE=¥"12345¥"
```


オプション指定の変更方法

lpr で印刷するときにはインストールシェル実行時に指定したオプションが使われます。一度設定したオプションを変更したい場合は、使用しているワークステーションに応じて次のように操作します。

◆ BSD 系 UNIX ワークステーション

/etc/printcap から変更するプリンターのエントリーを削除し、インストールシェルを使ってもう一度セットアップします。セットアップの際に、新しいオプションを指定します。または、/etc/printcap から変更するプリンターのエントリーを探し、その rp ケーパビリティを新しいオプション指定に変更します。

◆ Solaris、HP-UX

変更するプリンターのエントリーを削除し、インストールシェルを使ってもう一度セットアップします。セットアップの際に、新しいオプションを指定します。プリンターのエントリーを削除するには、以下のように操作します。(例 プリンター名：printer)

- 1) スケジューラを停止します。
/usr/sbin/lpshut
- 2) プリンターを削除します。
/usr/sbin/lpadmin -x printer
- 3) スケジューラを再起動します。
/usr/lib/lp/lpsched

☰ 参照

- P.287 「/etc/printcap へのエントリーの追加」

本機の状態表示

BSD 系 UNIX ワークステーションの場合、以下のコマンドを使ってプリンターの状態や情報を表示したりファイルにコピーすることができます。

表示する場合

本機の状態を表示するためのコマンドの説明です。(例 プリンター名: printer、ホスト名: hostname)

- lpq コマンドを使って本機の状態 (ステータス) と印刷ジョブ情報を表示できます。
% lpq -P printer
- rsh、ftp または sftp コマンドを使って、指定したパラメーターに応じた内容を表示できます。
% rsh hostname パラメーター
% ftp hostname
User: ユーザー名
password: パスワード
ftp> get パラメーター
- rsh、rcp、ftp で指定できるパラメーターには次の種類があります。
stat: 機器の状態 (ステータス)
stat: 印刷ジョブの情報 (印刷ジョブ情報)
info: 給紙トレイ、排紙トレイ、搭載しているエミュレーション (機器情報)
prnlog: これまでに印刷した記録 (プリントログ情報)
syslog: ネットワークインターフェースボードに関して発生したメッセージの記録 (システムログ情報)

ファイルにコピーする場合

rcp、ftp コマンドまたは sftp を使って、指定したパラメータに応じた内容をファイルにコピーできます。(例 ホスト名: hostname、ファイル名: file1)

```
% rcp hostname:パラメータ file1
% ftp hostname
User: ユーザー名
password:
ftp> get パラメータ file1
```

↓ 補足

- パラメータの種類は、表示する場合と同じです。

8. 付録

同梱の CD-ROM や、その他の注意事項等についての説明です。

CD-ROM 収録ソフトウェア

ここでは、本機に同梱されている CD-ROM 「ドライバー&ユーティリティ/使用説明書」について説明しています。

ファイル一覧

CD-ROM 「ドライバー&ユーティリティ/使用説明書」に入っているファイルの一覧です。

ファイル名	参照
SETUPEXE	P.19 「おすすめインストール」
Windows 2000/XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 用 RPCS プリンタードライバー	P.302 「RPCS プリンタードライバー」
Windows 2000/XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 用 PS3 プリンタードライバー	P.302 「PS3 プリンタードライバー」
Network Monitor for Admin	P.303 「Network Monitor for Admin」
Network Monitor for Client	P.304 「Network Monitor for Client」
各種マニュアル	P.305 「マニュアル」

ドライバー (RPCS)

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。

RPCS プリンタードライバー

RPCS プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境についての説明です。

◆ **ファイル格納場所**

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

64bit : 「D¥DRIVERS¥x64¥RPCS¥XP_VISTA¥DISK1」

32bit : 「D¥DRIVERS¥x86¥RPCS¥WIN2K_XP¥DISK1」

◆ **プリンタードライバーの動作環境**

・ **パソコン**

対象 OS が問題なく動作する、PC/AT 互換機、NEC PC-9821 シリーズ

・ **対象 OS**

Windows 2000/XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 日本語版

・ **ディスプレイ解像度**

800×600 ドット以上

↓ **補足**

・ 詳しい使い方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

ドライバー (PS3)

Windows から印刷するために必要なソフトウェアです。PS3 が入っています。

8

PS3 プリンタードライバー

PS3 プリンタードライバーのファイル格納場所と動作環境についての説明です。

★ **重要**

・ PS3 ドライバーを使用して印刷するには、オプションの PS3 カードが必要です。

◆ **ファイル格納場所**

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

64bit : 「D¥DRIVERS¥x64¥PS¥XP_VISTA¥DISK1」

32bit : 「D¥DRIVERS¥x86¥PS¥WIN2K_XP¥DISK1」

◆ **プリンタードライバーの動作環境**

動作環境についての詳細は、『PostScript 3 ガイド』使用説明書を参照してください。

↓ **補足**

・ 詳しい使い方については、プリンタードライバーのヘルプを参照してください。

Network Monitor for Admin

Network Monitor for Admin の機能とファイル格納場所の説明です。

Network Monitor for Admin は TCP/IP プロトコルを使ってネットワーク上のプリンターを監視するソフトウェアです。IP アドレスを持つ複数のネットワークプリンターの管理が可能です。管理者の方がお使いになることをお勧めします。

◆ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

64bit : 「D:\NETWORK\x64\NETMON\ADMIN\DISK1」

32bit : 「D:\NETWORK\x86\NETMON\ADMIN\DISK1」

目 参照

- P.195 「Network Monitor for Admin を使う」

↓ 補足

- 本製品では、旧バージョンの Network Monitor for Admin はご利用いただけません。以前からご利用いただいている Network Monitor for Admin がインストールされている場合は、本製品に同梱されている CD から最新の Network Monitor for Admin にアップデートしてください。

本製品で使用可能なバージョンは以下になります。

V7.1.1.1 以上

- 最新の Network Monitor for Admin は旧バージョンで対応していた機種にもご利用いただけます。

Network Monitor for Client

◆ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

64bit : 「D:\NETWORK\x64\NETMON\CLIENT\DISK1」

32bit : 「D:\NETWORK\x86\NETMON\CLIENT\DISK1」

◆ Network Monitor for Client の動作環境

- ・ パソコン
 - 対象 OS が問題なく動作する PC/AT 互換機
- ・ 対象 OS
 - Windows 2000/XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 日本語版
- ・ ディスプレイ解像度
 - 800×600 ドット以上

↓ 補足

- ・ NEC PC-9800 シリーズ、PC-9821 シリーズ、PC98-NX シリーズでは動作しません。
- ・ 本製品では、旧バージョンの Network Monitor for Client はご利用いただけません。以前からご利用いただいている Network Monitor for Client がインストールされている場合は、本製品に同梱されている CD から最新の Network Monitor for Client にアップデートしてください。
本製品で使用可能なバージョンは以下になります。
V8.7.5.1 以上
- ・ 最新の Network Monitor for Client は旧バージョンで対応していた機種にもご利用いただけます。

Network Monitor for Client

8

Network Monitor for Client は以下のような機能を備えたソフトウェアです。

- ・ Windows から TCP/IP プロトコル、IPP を使用して、Peer-to-Peer ネットワークで印刷する機能を提供します。
- ・ TCP/IP プロトコル、IPX/SPX プロトコルを使用してネットワークにある機器の状態を常に監視できる機能を提供します。

◆ どのようなことができるのか？

Network Monitor for Client では以下の操作ができます。

- ・ Peer-to-Peer プリント機能
 - ・ プリントサーバーが無くても、直接ネットワークプリンターに印刷できます。
 - ・ 指定したプリンターにジョブがたまっていたり、エラーが発生して印刷できないとき、代替りのプリンターに印刷できます（代行印刷）。
 - ・ 複数部数の印刷を複数のプリンターに割り振って印刷できます（並行印刷）。
 - ・ 並行 / 代行印刷に指定するプリンターをあらかじめグループ登録できます。
- ・ プリンター本体のネットワークに関する設定や、装備に関する詳しい情報を確認できます。
- ・ 印刷データを転送中または印刷中に指定したプリンターにエラーが発生した場合、エラーメッセージを通知させることができます。

- ・ 機器監視機能
 - ・ 印刷中、用紙切れなど機器の情報をパソコン上で確認できます。
 - ・ 複数台の機器を使い分けられているときは、それらを同時に監視できます。
 - ・ 機器のネットワークに関する設定や、装備に関する詳しい情報を確認できます。
 - ・ ユーザー ID を使ったジョブの履歴を確認できます。
- ・ 印刷が完了したときに、[印刷通知] ウィンドウを表示して、印刷の完了を通知することができます。また代行印刷したときだけ表示させるなど、印刷条件により通知するかどうかを設定することができます。
- ・ 自分が印刷した文書の履歴、印刷中のジョブ状態を一覧で確認できます。
- ・ 印刷ページを、「プレビュー表示」と「ページ一覧表示」の2種類の方法で表示することができます。

↓ 補足

- ・ 代行印刷 / 並行印刷するプリンターと印刷指示をするプリンターのオプション構成を一致させてください。印刷に必要なオプション（例えばオプションの給紙テーブルなど）が代行プリンターに装着されていない場合、オプションを使用する機能は無効になります。
- ・ 代行印刷 / 並行印刷するプリンターと印刷指示をするプリンターに同じサイズ of 用紙をセットしてください。特定の給紙トレイを指定して印刷するときは、同じトレイに同じサイズの用紙をセットしてください。
- ・ 代行印刷 / 並行印刷するプリンターと印刷指示をするプリンターの機種や装備が違う場合、印刷結果が同じにならないことがあります。
- ・ 試し印刷や機密印刷をする場合、代行印刷 / 並行印刷はできません。
- ・ Network Monitor for Client の使いかたについては、同梱のマニュアルとヘルプを参照してください。

マニュアル

同梱の CD-ROM には、PDF 形式の使用説明書が収録されています。
マニュアルのファイル格納場所についての説明です。

◆ ファイル格納場所

同梱の CD-ROM 内の次のフォルダに格納されています。

D¥MANUAL¥PL3240

Windows からのファイル直接印刷

Windows でコマンドを使用したファイル直接印刷の方法についての説明です。

★重要

- この方法で印刷できるファイルは、本機が搭載しているエミュレーション用に作られたファイルです。エミュレーション用に作られたファイルとは、たとえば PostScript 3 用のポストスクリプトファイルなどです。
- 搭載していないエミュレーションのファイルは印刷できません。

◆ Windows 2000/XP、Windows Server 2003/2003 R2

lpr、rcp、ftp、sftp コマンドを使って印刷できます。

◆ Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2

lpr、ftp、sftp コマンドを使って印刷できます。

セットアップ

Windows からファイル直接印刷するための、環境設定の方法の説明です。

1 本機の操作部でTCP/IPプロトコルを有効にし、IPアドレスなどTCP/IPに関するネットワーク環境を設定します。

本機のTCP/IPプロトコルは、工場出荷時は有効に設定されています。

2 WindowsにTCP/IPプロトコルを組み込み、ネットワーク環境を設定します。

ネットワークに関する設定内容は管理者の方に確認してください。

3 Windows 2000/XP、Windows Server 2003/2003 R2 で lpr を使って印刷する場合は、ネットワークソフトウェアとして「UNIX用印刷サービス」を組み込みます。

Windows Vista/7、Windows Server 2008/2008 R2 の場合は、「LPD 印刷サービス」「LPR ポートモニター」を組み込みます。

↓補足

- IP アドレスの設定方法については、「ネットワーク」を参照してください。

📖参照

- P311 「DHCP を使用する」
- P307 「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」

IP アドレスの代わりにホスト名を使用する

ホスト名が定義されていると、IP アドレスの代わりにホスト名を使ってプリンターを指定することができます。使用するホスト名はネットワーク環境により異なります。

DNS を使用している場合

DNS サーバー上のデータファイルに設定したホスト名を使用します。

DHCP を使用してプリンターの IPv4 アドレスを設定している場合

システム設定リストの「プリンター名」に印刷された名前をホスト名として使用します。

↓ 補足

- ・システム設定リストの印刷方法については、「テスト印刷メニュー」を参照してください。

📖 参照

- ・P.136 「テスト印刷メニュー」

その他の場合

印刷を行うコンピュータの hosts ファイルに、ネットワークプリンターの IP アドレスとホスト名を追加します。追加のしかたは OS により異なります。

1 メモ帳などで hosts ファイルを開きます。

hosts ファイルは以下の場所にあります。

¥WINNT¥SYSTEM32¥DRIVERS¥ETC¥HOSTS

2 hosts ファイルに IPv4 と IPv6 のアドレスとホスト名を以下の形式で追加します。

IPv4 の場合

192.168.15.16 host # NP

192.168.15.16 は IPv4 アドレスの例、host はプリンターのホスト名、# から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1 行で入力します。

IPv6 の場合

2001:DB:::100 host # NP

2001:DB:::100 は IPv6 アドレスの例、host はプリンターのホスト名、# から行末まではコメントです。それぞれの項目をスペースかタブで区切り、1 行で入力します。

3 ファイルを上書き保存します。

↓ 補足

- ・IPv6 環境下の Windows Server 2003/2003 R2/2008 でホスト名をご使用の場合は、外部の DNS サーバでホスト名の解決を行ってください。hosts ファイルはご使用になれません。
- ・IPv6 対応の OS は、Windows XP SP2 と Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2、および Windows Vista/7 です。

印刷方法

lpr、rcp、ftp、sftp コマンドを使った印刷方法の説明です。

コマンドはコマンドプロンプト ウィンドウで入力します。各 Windows でのコマンドプロンプトの場所は次のとおりです。

◆ Windows 2000 の場合：

[スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト]

◆ Windows XP/Vista/7、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 の場合：

[スタート] - [すべてのプログラム] - [アクセサリ] - [コマンドプロンプト]

↓ 補足

- ・印刷するファイルのデータ形式とプリンターのエミュレーションモードを合わせてください。
- ・「print requests full」のメッセージが表示されたときは、印刷要求がフルの状態です。印刷要求が少なくなってから印刷し直してください。各コマンドを使用したときの最大セッション数は次の通りです。
 - ・ lpr : 10
 - ・ rcp : 5
 - ・ ftp : 3
 - ・ sftp : 3
- ・ファイル名はコマンドを実行するディレクトリからのパスを含めた形で入力してください。
- ・コマンドの中で指定する「オプション」はプリンター固有のオプションで、内容は UNIX から印刷する場合と同様です。UNIX を使ってオプションを指定する方法は、「オプション指定 (UNIX)」を参照してください。
- ・エミュレーションによってはエミュレーション固有のオプションも用意されています。それらのオプションについては各エミュレーションの使用説明書を参照してください。

☰ 参照

- ・ P290 「オプション指定 (UNIX)」

lpr

◆ IP アドレスを使ってプリンターを指定する場合

c:> lpr -S プリンターの IP アドレス [-P オプション] [-o1] ¥パス名 ¥ファイル名

◆ IP アドレスの代わりにホスト名を使用する場合

c:> lpr -S プリンターのホスト名 [-P オプション] [-o1] ¥パス名 ¥ファイル名
 バイナリーファイルを印刷する場合は -o1 (小文字の O と、小文字の L) オプションを付けてください。

ホスト名が host のプリンターに、C:¥PRINT ディレクトリにある、名前が file1 の PostScript ファイルを印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。

c:> lpr -Shost -Pfiletype=RPS -o 1 C:¥PRINT¥file1

◆ 仮想プリンターから印刷する場合

c:> lpr -S プリンターの IP アドレス (またはホスト名) [-P 仮想プリンター名] [-o1] ¥パス名 ¥ファイル名

↓ 補足

- ・仮想プリンターの設定については、「仮想プリンターを使用する」を参照してください。

目 参照

- ・P80 「仮想プリンターを使用する」

rcp

あらかじめ hosts ファイルにプリンターのホスト名を登録しておきます。

c:> rcp [-b] ¥パス名 ¥ファイル名 [¥パス名 ¥ファイル名 ...] プリンターのホスト名: [オプション]

- ・ファイル名には「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- ・バイナリーファイルを印刷する場合は -b オプションを付けてください。

ホスト名が host のプリンターに、C:¥PRINT ディレクトリにある、名前が file1 と file2 の PostScript ファイルを印刷する場合のコマンド例は次のとおりです。

c:> rcp -b C:¥PRINT¥file1 C:¥PRINT¥file2 host:filetype=RPS

◆ 仮想プリンターから印刷する場合

c:> rcp [-b] ¥パス名 ¥ファイル名 [¥パス名 ¥ファイル名 ...] プリンターのホスト名: [仮想プリンター名]

↓ 補足

- ・hosts ファイルに本機のホスト名を登録する方法について詳しくは、「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」を参照してください。
- ・仮想プリンターの設定については、「仮想プリンターを使用する」を参照してください。

目 参照

- ・P80 「仮想プリンターを使用する」
- ・P307 「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」

ftp/sftp

印刷するファイル数に応じて put または mput コマンドを使います。

◆ 印刷するファイルが1つの場合

ftp> put ¥パス名 ¥ファイル名 [オプション]

◆ 仮想プリンターから印刷する場合

ftp> put ¥パス名 ¥ファイル名 [仮想プリンター名]

◆ 印刷するファイルが複数の場合

ftp> mput ¥パス名 ¥ファイル名 [¥パス名 ¥ファイル名 ...]

ftp を起動してから印刷するまでの手順は次のようになります。ここでは ftp で説明します。

! 本機の IP アドレス(または hosts ファイルに設定した本機のホスト名)を引数にして ftp コマンドを起動します。

% ftp 本機の IP アドレス (またはホスト名)

2 ユーザー名とパスワードを入力し、[Enter] キーを押します。

User:

Password:

ユーザー名とパスワードは管理者にお問い合わせください。

ユーザー認証が設定されているときは、ユーザー名にログインユーザー名を、パスワードにログインパスワードを入力します。

3 バイナリーファイルを印刷するときは、ファイルのモードをバイナリーモードにします。

```
ftp> bin
```

バイナリーファイルをアスキーモードで印刷すると、印刷データが変更され正しく印刷されないことがあります。

4 印刷するファイルを指定します。

以下は C:¥PRINT ディレクトリにある、file1 という名前の PostScript ファイルを印刷する例と、file1 と file2 を印刷する例です。

```
ftp> put C:¥PRINT¥file1 filetype=RPS
```

```
ftp> mput C:¥PRINT¥file1 file2
```

5 ftp を終了します。

```
ftp> bye
```

補足

- ファイル名に「=」、「,」、「_」および「;」は使用できません。ファイル名をオプション文字列と判断してしまいます。
- mput コマンドではオプションを指定できません。
- ftp をご使用の場合は、pwd コマンドではオプションを指定できません。
- sftp をご使用の場合は、cd コマンドではオプションを指定できません。
- sftp をご使用の場合は、pwd コマンドではオプションを指定できません。
- sftp をご使用の場合は、ssh 設定の公開鍵を作成しておく必要があります。公開鍵の作成方法については、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。
- mput コマンドではファイル名に「*」や「?」のワイルドカードを使用できます。
- バイナリーファイルをアスキーモードで印刷すると、印刷データが変更され正しく印刷されないことがあります。
- 「hosts ファイルに本機のホスト名を登録する方法について詳しくは、「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」を参照してください。
- 仮想プリンターの設定については、「仮想プリンターを使用する」を参照してください。

参照

- P.80 「仮想プリンターを使用する」
- P.307 「IP アドレスの代わりにホスト名を使用する」

DHCP を使用する

本機を DHCP 環境で使用することができます。WINS サーバーが稼働している環境では、同時にプリンター名を WINS サーバーに登録することができます。

- 動作対象の DHCP サーバーは、Windows Vista、Windows Server 2003/2003 R2、Windows 2000 Server および UNIX に標準添付されている DHCP サーバーです。
- 本機が DHCP から取得した IP アドレスは、システム設定リストで確認できます。
- WINS サーバーを使用する場合は、「WINS サーバーを使用する場合」を参照して WINS サーバーを設定してください。
- WINS サーバーを使用することで、リモートネットワークのプリンターポートでホスト名を使用できます。
- WINS サーバーを使用しない場合は、毎回同じ IP アドレスが割り当てられるように、本機に割り当てる IP アドレスを DHCP サーバーで予約してください。
- 複数の DHCP サーバーが存在する場合は、すべての DHCP サーバーに同じ予約をしてください。本機は最初に応答した DHCP サーバーからの情報で動作します。
- ネットワークに ISDN 回線を接続している環境で DHCP リレーエージェントを使用した場合、本機からパケットが送出されるたびに ISDN 回線が接続され、多大な通信料がかかることがあります。

目 参照

- P.138 「システム設定リストを印刷する」
- P.312 「WINS サーバーを使用する場合」

AutoNet 機能を使用する

DHCP サーバーから IPv4 アドレスが割り当てられなかった場合、本機は、臨時に 169.254.xxx.xxx ではじまるネットワーク上で使用されていない IPv4 アドレスを自動選択して使用できます。

AutoNet 機能を使用するために、telnet で AutoNet の設定を「on」にしてください。

↓ 補足

- AutoNet 機能で自動選択された IPv4 アドレスは、DHCP サーバーが IP アドレスの割り当てを再開すると、DHCP サーバーから割り当てられた IPv4 アドレスを優先的に使用します。このとき、本機が再起動するため、一時的に印刷ができなくなります。
- 本機が使用している IPv4 アドレスはシステム設定リストで確認できます。システム設定リストの印刷方法は、「システム設定リストを印刷する」を参照してください。
- AutoNet モードで動作中の場合、WINS サーバーへのプリンター名の登録は行われません。
- AutoNet 機能で起動している機器以外とは通信できません。

目 参照

- P.138 「システム設定リストを印刷する」
- P.228 「autonet」

WINS サーバーを使用する場合

プリンターの起動時に、プリンターのプリンター名を WINS (Windows Internet Name Service) サーバーに登録することができます。WINS サーバーにプリンター名を登録すると、DHCP 環境で使用している場合、Network Monitor for Client のポート名にプリンターのプリンター名を使用して印刷できます。

ここでは、プリンターが WINS サーバーを使用できるようにする設定について説明します。サポートする WINS サーバーは、Windows 2000 Server の WINS マネージャーです。

WINS サーバーの設定については、Windows のヘルプを参照してください。

WINS サーバーが応答しない場合、ブロードキャストによるプリンター名の登録が行われます。登録できるプリンター名は、半角英数字で 15 バイト以内です。

Web ブラウザーを使用する方法

- 1 Web ブラウザーを起動します。
- 2 Web ブラウザーのアドレスバーに「http:// (本機のアドレスまたはホスト名) /」と入力し、本機にアクセスします。
Web Image Monitor のトップページが表示されます。
- 3 [ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードを入力するダイアログが表示されます。
- 4 ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。
ログインユーザー名とログインパスワードについては管理者にお尋ねください。
- 5 メニューエリアの [設定] をクリックし、[ネットワーク] エリアの [IPv4] をクリックします。
- 6 [Ethernet+IEEE802.11b] 欄の [WINS] が「有効」になっていることを確認し、[プライマリ WINS サーバー] と [セカンダリ WINS サーバー] にそれぞれ WINS サーバーの IP アドレスを入力します。
- 7 [OK] をクリックします。
- 8 Web ブラウザーを終了します。

telnet を使用する方法

telnet でも WINS の設定ができます。

参照

- P.223 「telnet を使う」

ダイナミック DNS 機能を使用する

ダイナミック DNS とは、DNS サーバーが管理しているレコード（A レコード、AAAA レコード、CNAME レコードおよび PTR レコード）を動的に更新（登録・削除）する機能です。本機が接続されているネットワーク環境に DNS サーバーがあり、本機が DNS クライアントである場合、ダイナミック DNS 機能によって動的にレコードを更新することができます。

更新処理について

本機の IP アドレスが静的か DHCP から取得しているかによって、更新処理の動作が異なります。

ダイナミック DNS 機能を使用しない場合、本機の IP アドレスが変更されると、DNS サーバーで管理しているレコードを手動で更新する必要があります。

本機でレコードの更新を実行する場合、DNS サーバーの設定が次のどちらかになっている必要があります。

- ・セキュリティ設定がされていない
- ・セキュリティ設定で、更新を許可するクライアント（本機）を IP で指定している

◆ 静的 IPv4 設定の場合

IPv4 アドレス、ホスト名が変更された場合、本機が A レコード、および PTR レコードを更新します。

また、A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

- ・イーサネット、無線 LAN の場合
PRNXXXXXX（PRNXXXXXX は MAC アドレスの下位 3 バイトの 16 進数）
ただし、ホスト名が CNAME と同じ（PRNXXXXXX）場合は、CNAME は登録されません。

◆ DHCPv4 設定の場合

DHCPv4 サーバーが本機の代理でレコードを更新します。次のどちらかになります。

- ・本機が DHCPv4 サーバーから IPv4 アドレスを取得する際、DHCPv4 サーバーが A レコードと PTR レコードを更新
- ・本機が DHCPv4 サーバーから IPv4 アドレスを取得する際、本機が A レコードを更新し、DHCPv4 サーバーが PTR レコードを更新

A レコードを登録する際に、CNAME も登録します。登録できる CNAME は次のとおりです。

- ・イーサネット、無線 LAN の場合
PRNXXXXXX（PRNXXXXXX は MAC アドレスの下位 3 バイトの 16 進数）

◆ IPv6 設定

本機が AAAA レコードおよび PTR レコードを更新します。

また、AAAA レコードを更新する際に、CNAME も登録します。

ステートレスアドレスが新たに設定された場合は、DNS サーバーに追加登録されます。

↓ 補足

- ・メッセージ認証を用いた動的更新（TSIG、SIG(0)）はサポートしていません。

動作対象の DNS サーバー

◆ 静的 IPv4 設定の場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

◆ DHCPv4 設定の場合で本機が A レコードを更新する場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降

◆ DHCPv4 設定の場合で、DHCP サーバーがレコードを更新する場合

- Windows 2000 Server、Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND8.2.3 以降
- NetWare 5J 以降に標準添付の DNS サーバー

◆ IPv6 設定の場合

- Windows Server 2003/2003 R2/2008/2008 R2 に標準添付の Microsoft DNS サーバー
- BIND9.2.3 以降

動作対象の DHCP サーバー

本機の代理で A レコード、および PTR レコードを更新することができる DHCPv4 サーバーは次のとおりです。

- Windows 2000 Server (Service Pack 3 以降) に標準添付の Microsoft DHCPv4 サーバー
- ISC DHCP 3.0 以降

ダイナミック DNS 機能の設定方法

telnet で dns コマンドを使用して設定します。

☰ 参照

- P.233 「dns」

使用上の注意

ネットワークインターフェースボードを使用する場合は、次の事項に注意してください。設定が必要な場合は、正しく設定してからお使いください。

ネットワークに ISDN 回線を接続している場合

弊社製のネットワークユーティリティーには周期的に装置と通信を行うものがあり、設定したアドレスの値によっては ISDN 回線が接続されたままの状態になり、多大な通信料がかかることがあります。装置のネットワークアドレスを設定するとき、及びネットワークユーティリティーの通信先のアドレスを指定するときは、回線の接続が発生しない値に設定してください。

拡張無線 LAN ボードを取り付けているとき

設定を行う場合

設定を行う場合は以下の項目に注意してください。

ご利用の環境に応じた設定をしないと拡張無線 LAN ボードが正しく動作しない場合があります。

- ・ネットワークの設定・・・ご利用の環境に応じた正しい設定にしてください。
- ・SSID の設定・・・ご利用のアクセスポイントと同じ設定にしてください。
- ・無線 LAN のセキュリティ設定・・・ご利用のアクセスポイントと同じ設定にしてください。

◆ アクセスポイントの設定

- ・MAC アドレスフィルタ・・・本体側の拡張無線 LAN ボードの MAC アドレスを登録し、通信が許可されているか
- ・IP アドレスフィルタ・・・本体側の IP アドレスを登録し、通信が許可されているか確認してください。
- ・IEEE802.1x の設定・・・ご利用の環境に応じた正しい設定にしてください。

上記の設定が正しいことを確認したら、本体側でインターフェースの選択を無線 LAN に切り替えてご使用ください。

正しく動作しなかった場合は以下の（１）～（３）の対応をお試しく下さい。

- （１） インターフェースの選択を無線 LAN からイーサネットに切り替え、上記＜無線 LAN 設定を行う場合の注意点＞を確認して設定し直してください。
- （２） （１）の手順を実行できない場合は、アクセスポイントの電源を一旦切って、再度（１）の手順を行ってください。
- （３） （１）（２）の手順を実行しても設定ができない場合は保守会社へお問い合わせください。

ネットワーク接続している場合

ネットワークに接続しているときは、次のことに注意してください。

◆ ネットワークの電波状態が悪いとき

電波状態が悪いと、接続が途切れたり、接続できなくなったりします。本機の「電波状態」とアクセスポイントの電波状態を確認し、電波状態が悪いときは、次の点に注意して対処してください。

- ・ 本機とアクセスポイントを近づける。
- ・ アクセスポイントと本機の間の見通しをよくする。
- ・ アクセスポイントや本機の近くから電子レンジなど電波の発する機器を遠ざける。

↓ 補足

- ・ アクセスポイントの電波状態は、使用しているアクセスポイントの使用説明書を参照して確認してください。

通信経路の保護と暗号化通信

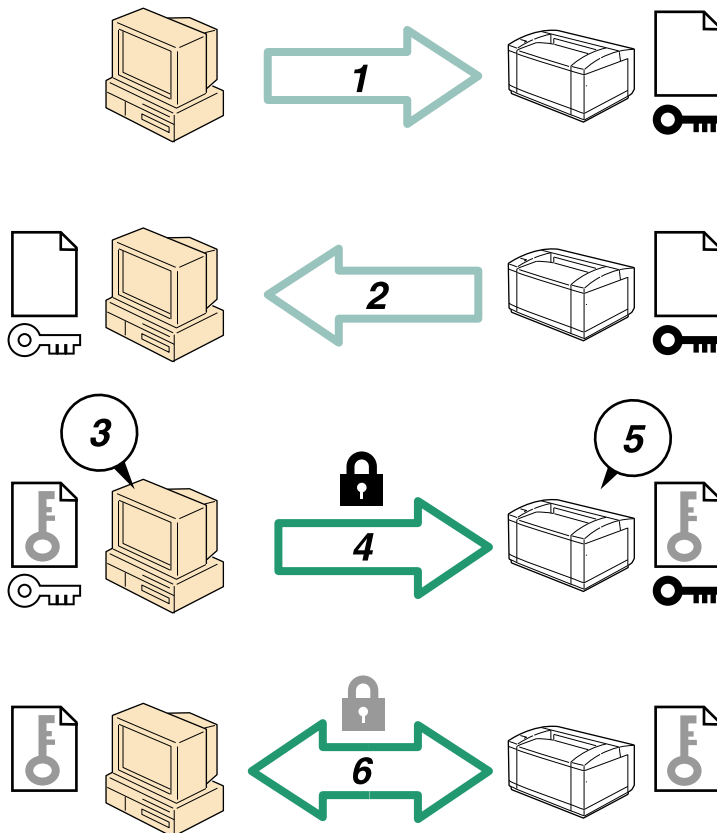
本機では SSL、SNMPv3、IPsec を使用して暗号化通信を確立することができます。通信経路の保護や通信データの暗号化を行うことで、通信途中でのデータの盗聴、内容の解析、改ざんを防止することができます。

SSL（暗号化通信）の設定

管理者が設定します。

通信経路の保護と暗号化通信ができるように、機器証明書を作成、導入します。機器証明書は、機器自身で作成、導入する自己証明書と、任意の認証局に証明書を申請し機器に導入する 2 つの運用形態があります。

◆ SSL（暗号化通信）について



BMT912S

- 1) ユーザーの PC から本機へアクセスするとき、SSL の機器証明書と公開鍵を要求します。
- 2) 本機からユーザーの PC へ機器証明書と公開鍵が送られます。
- 3) PC で共通鍵を生成し、公開鍵を使用して暗号化します。
- 4) 暗号化された共通鍵が本機に送られます。

- 5) 本機で秘密鍵を使用し、暗号化された共通鍵が復号されます。
- 6) 共通鍵を使用してデータを暗号化し、相手側で復号する安全な通信を実現します。

◆ 設定の流れ（自己証明書）

- 1) 機器証明書の作成と導入
Web Image Monitor を使用して機器証明書を作成、導入します。
- 2) SSL を有効にする
Web Image Monitor を使用し、[SSL/TLS] の設定を有効にします。

◆ 設定の流れ（認証局証明書）

- 1) 機器証明書の作成
Web Image Monitor を使用し、機器証明書を作成します。
証明書の作成後の申請や内容は認証局によって異なるため、認証局の要求する申請方法にしたがって手続きします。
- 2) 機器証明書の導入
Web Image Monitor を使用し、機器証明書を導入します。
- 3) SSL を有効にする
Web Image Monitor を使用し、[SSL/TLS] の設定を有効にします。

↓ 補足

- SSLの設定が有効になっているかどうかを確認するには、Webブラウザのアドレスバーに「https://（本機の IP アドレス、またはホスト名）/」と入力し本機へのアクセスを行ってください。「ページを表示できません」と表示された場合は、SSL の設定が無効となっていますので、設定の内容を確認してください。

機器証明書を作成と導入（自己証明書）

Web Image Monitor を使用し、機器証明書を作成、導入します。
機器証明書に、自己証明書を利用する場合の説明です。

- 1** Web ブラウザーを起動します。
- 2** Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機の IP アドレス、またはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。
IPv4 アドレスを入力する場合、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。
「192.168.001.010」と入力すると、本機に接続できません。
- 3** [ログイン] をクリックします。
管理者がログインします。ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、ログインしてください。
- 4** [設定] をクリックし、「セキュリティ」の [機器証明書] をクリックします。
「機器証明書」エリアが表示されます。
- 5** 作成する証明書番号を選択します。
- 6** [作成] をクリックします。
- 7** 必要な設定項目を入力します。
表示項目や設定項目の詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。
- 8** [OK] をクリックします。
設定が書き換えられます。
- 9** [OK] をクリックします。
セキュリティの警告に関するダイアログが表示されます。
- 10** 内容を確認して [はい] をクリックします。
「証明書状態」に「導入済」が表示され、本機に機器証明書が導入されます。
- 11** [ログアウト] をクリックします。

↓ 補足

- ・本機から機器証明書を削除する場合は、[削除] をクリックします。

機器証明書を作成（認証局証明書）

Web Image Monitor を使用し、機器証明書を作成します。
機器証明書に、認証局証明書を利用する場合の説明です。

- 1** Web ブラウザーを起動します。
- 2** Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機の IP アドレス、またはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。
IPv4 アドレスを入力する場合、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。
「192.168.001.010」と入力すると、本機に接続できません。
- 3** [ログイン] をクリックします。
管理者がログインします。ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、ログインしてください。
- 4** [設定] をクリックし、「セキュリティ」の [機器証明書] をクリックします。
「機器証明書」エリアが表示されます。
- 5** 作成する証明書番号を選択します。
- 6** [要求] をクリックします。
- 7** 必要な設定項目を入力します。
表示項目や設定項目の詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。
- 8** [OK] をクリックします。
「機器証明書」エリアの「証明書状態」に「要求中」が表示されます。
- 9** [ログアウト] をクリックします。
- 10** 機器証明書を認証局に申請します。
申請方法は、認証局により異なります。申請先の認証局に確認してください。
また、申請に必要な情報は、Web Image Monitor の詳細アイコンをクリックして表示される「証明書詳細」の内容を利用してください。

↓ 補足

- 2つの証明書の申請を同時に行うと証明書の発行先が表示されないときがあります。導入する際に証明書の目的と導入順について確認してください。
- Web Image Monitor を使用して機器証明書を作成することができますが、申請できるものではありません。
- 機器証明書の要求を取りやめる場合は、[取りやめ要求] をクリックします。

機器証明書の導入（認証局証明書）

Web Image Monitor を使用し、機器証明書を導入します。
機器証明書に、認証局証明書を利用する場合の説明です。認証局から送られてきた機器証明書の内容を導入します。

- 1** Web ブラウザーを起動します。
- 2** Web ブラウザーのアドレスバーに「http://（本機の IP アドレス、またはホスト名）/」と入力し、本機にアクセスします。
IPv4 アドレスを入力する場合、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。
「192.168.001.010」と入力すると、本機に接続できません。
- 3** [ログイン] をクリックします。
管理者がログインします。ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、ログインしてください。
- 4** [設定] をクリックし、「セキュリティ」の [機器証明書] をクリックします。
「機器証明書」エリアが表示されます。
- 5** 導入する証明書番号を選択します。
- 6** [導入] をクリックします。
- 7** 機器証明書の内容を入力します。
「証明書要求」の入力ボックスに認証局から送られてきた機器証明書の内容を入力します。
表示項目や設定項目の詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。
- 8** [OK] をクリックします。
「証明書状態」に「導入済み」が表示され、本機に機器証明書が導入されます。
- 9** [ログアウト] をクリックします。

SSL を有効にする

本機に機器証明書を導入後、SSL の設定を有効にします。

この設定は、機器証明書が自己証明書を利用する場合、または認証局証明書を利用する場合のどちらにも共通の設定方法です。Web Image Monitor を使用し、管理者モードで設定します。

- 1** Web ブラウザーを起動します。
- 2** Web ブラウザーのアドレスバーに「http:// (本機の IP アドレス、またはホスト名) /」と入力し、本機にアクセスします。
IPv4 アドレスを入力する場合、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。
「192.168.001.010」と入力すると、本機に接続できません。
- 3** [ログイン] をクリックします。
管理者がログインします。ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、ログインしてください。
- 4** [設定] をクリックし、「セキュリティー」の [SSL/TLS] をクリックします。
「SSL/TLS」エリアが表示されます。
- 5** 「SSL/TLS」でご使用になるインターネットプロトコルのバージョンを [有効] に設定します。
- 6** 「SSL/TLS 通信許可設定」から暗号化通信モードを選択します。
- 7** [OK] をクリックします。
SSL の設定が有効になります。
- 8** [OK] をクリックします。
- 9** [ログアウト] をクリックします。

↓ 補足

- ・「SSL/TLS 通信許可設定」を [暗号化のみ] に設定した場合、本機にアクセスするときは、「https:// (本機の IP アドレス、またはホスト名) /」と入力します。

SSL（暗号化通信）のユーザーの設定

本機に機器証明書を導入し、SSL（暗号化通信）の設定を有効にしている場合、ユーザーのPCに証明書をインストールする必要があります。管理者から証明書のインストールについて、各ユーザーに伝えてください。

Web Image Monitor や IPP で本機にアクセスするとき、セキュリティーに関する警告ダイアログが表示された場合、各ブラウザの操作にしたがって、証明書をインストールしてください。

補足

- 証明書の有効期限が切れているなどの問題でユーザーから問い合わせがある場合は、適切な対応をしてください。
- 本機に導入している機器証明書が認証局証明書の場合は、認証局に証明書ストアの場所を確認してください。
- IPP で本機にアクセスするときの証明書ストアの場所は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

SSL/TLS 通信許可設定

SSL/TLS の暗号化通信モードを設定し、セキュリティーの強度を変更することができます。

◆ 暗号化通信モードについて

暗号化通信モードによって暗号化通信を設定することができます。

暗号文のみ	暗号化通信のみを許可します。 暗号化できない場合は、通信できません。
暗号文優先	暗号化できる場合は、暗号化通信します。 暗号化できない場合は、平文で通信します。
暗号文／平文	暗号化、または平文の指定された方法で通信します。

暗号化通信モードの設定

機器証明書を導入後、SSL/TLS の暗号化通信モードを設定します。

この設定により、セキュリティーの強度を変更することができます。

- 1 Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。
- 2 [設定] をクリックします。
- 3 「セキュリティー」の [SSL/TLS] をクリックします。
- 4 「SSL/TLS 通信許可設定」のドロップダウンメニューから暗号化通信モードを選択し、[OK] をクリックします。
暗号化通信モードは、[暗号文のみ]、[暗号文優先]、[暗号文 / 平文] のいずれかを選択します。
- 5 管理者モードからログアウトします。
- 6 Web Image Monitor を終了します。

SNMPv3 暗号化通信の設定

Network Monitor for Admin などを使用し、各種の設定を行うときの通信データを暗号化通信することができます。

この設定により、通信データの改ざんを防止することができます。

- 1** Web Image Monitor を起動し、管理者モードにログインします。
- 2** [設定] をクリックします。
- 3** 「ネットワーク」の [SNMPv3] をクリックします。
- 4** 「SNMPv3 設定」の [SNMPv3 通信許可設定] から [暗号化のみ] を選択し、[OK] をクリックします。
- 5** 管理者モードからログアウトします。
- 6** Web Image Monitor を終了します。

↓ 補足

- Network Monitor for Admin を使用し、各種の設定を行うときの通信データを暗号化するためには、本機の「SNMPv3 通信許可設定」の設定以外に管理者の暗号パスワードの設定と Network Monitor for Admin の「SNMPv3 認証情報の入力」の暗号鍵の設定が必要です。
- Network Monitor for Admin の暗号鍵の設定は、Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。

IPsec を使用して通信する

本機には IPsec 機能が搭載されています。IPsec は IP プロトコルのレベルで、セキュアなパケット単位の通信を行います。暗号化には送信者、受信者が同じ鍵を保有する共通鍵暗号方式を使用します。本機は通信者双方に共通鍵を設定する方法として、手動鍵設定方式と自動鍵設定方式を搭載しています。自動鍵設定を使用すると、IPsec の共有鍵を設定した時間で更新し、よりセキュリティー強度の高い通信を行うことができます。

★重要

- ・「HTTPS 通信の除外」で [無効] を選択しているとき、誤った鍵設定を行うと、Web Image Monitor にアクセスすることができなくなります。アクセス不能となることを防ぐために HTTPS 通信を IPsec の除外対象に設定することができます。HTTPS 通信も IPsec の対象とする場合は、IPsec 機能が正しく設定されたことを確認したあとに、「HTTPS 通信の除外」で [無効] を選択することをお勧めします。「HTTPS 通信の除外」で [有効] を選択し、HTTPS 通信を IPsec の対象から外していても、PC 側で TCP が IPsec の対象となっているときは Web Image Monitor を使用できません。Web Image Monitor にアクセスできないときは、本体操作部の初期設定で IPsec 設定を無効に設定してからアクセスしてください。本体操作部による IPsec 無効設定の切り替え方法については、「操作部から IPsec を無効に設定する」を参照してください。
- ・DHCP、DNS、WINS で取得する情報、およびパケットについては、IPsec の対象にならないものがあります。
- ・IPsec に対応している OS は Windows XP SP2、Windows Vista、RedHat Linux Enterprise WS 4.0、Solaris 10 です。ただし、OS によって対応していない設定項目があります。IPsec の設定を行うときは、かならず OS 側の IPsec 設定内容を確認し、同一の設定を行ってください。

目 参照

- ・P344 「操作部から IPsec を無効に設定する」

IPsec が実現する通信データの暗号化と認証

IPsec には、データの機密性を確保する「暗号化」機能と、データ送信者が正しいこと、またデータが改ざんされていないことを証明する「認証」機能の 2 つの機能が存在します。本機の IPsec 機能は、2 つの機能を同時に有効にする ESP プロトコルと認証のみの機能を有効にする AH プロトコルの 2 つのセキュリティープロトコルに対応しています。

◆ ESP プロトコル

データの暗号化と認証の両方に対応したセキュリティー通信を行います。

- 暗号化を行うためには送信側、受信側ともに同一の暗号化アルゴリズムと暗号鍵を設定する必要があります。自動鍵設定のとき、暗号化アルゴリズムと暗号鍵は自動的に設定されます。
- 認証を行うためには送信側、受信側ともに同一の認証アルゴリズムと認証鍵を設定する必要があります。自動鍵設定のとき、認証アルゴリズムと認証鍵は自動的に設定されます。

◆ AH プロトコル

認証のみに対応したセキュリティー通信を行います。

- 認証を行うためには送信側、受信側ともに同一の認証アルゴリズムと認証鍵を設定する必要があります。自動鍵設定のとき、認証アルゴリズムと認証鍵は自動的に設定されます。

↓ 補足

- お使いの OS によっては、「認証」は「整合性」という名称を使用していることがあります。

自動鍵設定と手動鍵設定

本機は鍵の設定方式として、自動鍵設定、手動鍵設定の 2 種類に対応しています。鍵設定によって、IPsec 通信に使用するアルゴリズムや鍵などの約束事を送信者、受信者双方に設定します。この約束事を SA(Security Association) と呼びます。送信者、受信者で SA 設定内容が一致していないと IPsec 通信を行うことができません。

自動鍵設定方式では、SA の設定が自動的に行われますが、最初に ISAKMP SA が自動設定（フェーズ 1）され、続いて IPsec 通信のための IPsec SA が自動設定（フェーズ 2）されます。また、より高いセキュリティーを確保した通信を行うために、設定の有効期間を定めることで SA の定期的な自動更新を可能にします。本機の自動鍵設定方式は IKEv1 のみ対応しています。

手動鍵設定方式では、事前に送信者、受信者で IPsec 通信のための IPsec SA 情報を共有しそれぞれに設定します。この場合、鍵情報の漏洩を防ぐために、情報の交換はネットワークを使用せずに行うことをお勧めします。

自動鍵設定、手動鍵設定ともに、SA の設定を複数設定することができます。

◆ 個別設定とデフォルト設定

自動鍵設定、手動鍵設定ともに、IPsec で使用するアルゴリズムや鍵などの SA 設定を個別に 4 種類設定することができます。また個別設定に含まれない通信相手を対象としたデフォルト設定を別途設定することも可能です。個別設定の優先度は 1 が最も高く 4 が最も低くなります。優先度の低い個別設定で設定対象となる IP アドレス範囲を指定し、その範囲内の特定の通信者のみを対象とした個別設定を行いたいときは、上位の個別設定でその通信者のみを指定して設定を行うと上位の設定が有効になります。

IPsec 設定の設定項目

本機での IPsec 設定は Web Image Monitor を使用して行います。ここでは設定項目について説明します。

◆ 自動鍵設定 / 手動鍵設定共通設定項目

設定項目	設定内容	設定値
IPsec	IPsec 機能を有効にするか無効にするか設定します。	・有効 ・無効
HTTPS 通信の除外	HTTPS 通信を IPsec から除外するかしないかを設定します。	・有効 ・無効 HTTPS 通信を IPsec の対象から外す場合は有効を選択します。
手動鍵設定	手動鍵設定を有効にするか無効にするか設定します。	・有効 ・無効 手動鍵設定を使用する場合は有効を選択します。

◆ 自動鍵設定のセキュリティーレベル

自動鍵設定では、セキュリティーレベルの項目を選択すると、セキュリティー詳細項目はレベルに応じて自動設定されます。

各セキュリティーレベルの特徴は以下のとおりです。

セキュリティーレベル	セキュリティーレベルの特徴
認証のみ	パケットデータの暗号化は行わず、通信相手の認証とデータの改ざん防止のみを行うときに選択します。パケット単位のデータは平文のままネットワークを流れるため、盗聴される危険性があります。
認証と暗号化（低）	通信相手の認証と改ざん防止に加え、パケットデータの暗号化を行うときに選択します。「認証と暗号化（高）」よりもセキュリティーの強度は低い設定になります。
認証と暗号化（高）	通信相手の認証と改ざん防止に加え、パケットデータの暗号化を行うときに選択します。「認証と暗号化（低）」よりもセキュリティー強度の高い設定になります。

セキュリティーレベル選択時の自動設定値は以下のとおりです。

設定項目	各セキュリティーレベル選択時の設定値		
	認証のみ	認証と暗号化（低）	認証と暗号化（高）
処理方法	apply	apply	apply
カプセル化モード	トランスポートモード	トランスポートモード	トランスポートモード
IPsec 要求レベル	可能な場合に使用する	可能な場合に使用する	必須
認証方式	PSK	PSK	PSK
フェーズ 1 ハッシュアルゴリズム	MD5	SHA1	SHA1

設定項目	各セキュリティーレベル選択時の設定値		
	認証のみ	認証と暗号化（低）	認証と暗号化（高）
フェーズ 1 暗号化アルゴリズム	DES	3DES	3DES
フェーズ 1 Diffie-Hellman グループ	2	2	2
フェーズ 2 セキュリティープロトコル	AH	ESP	ESP
フェーズ 2 認証アルゴリズム	HMAC-MD5-96 / HMAC-SHA1-96	HMAC-MD5-96 / HMAC-SHA1-96	HMAC-SHA1-96
フェーズ 2 暗号化アルゴリズム	平文 (NULL 暗号)	DES / 3DES / AES-128 / AES-192 / AES-256	3DES / AES-128 / AES-192 / AES-256
フェーズ 2 PFS	無効	無効	2

◆ 自動鍵設定の設定項目

セキュリティーレベルの項目を選択することで、セキュリティー詳細項目は自動設定されますが、アドレスタイプや、ローカルアドレス、リモートアドレスの入力は必須です。認証にまたセキュリティーレベルの項目を選択することで自動設定される設定内容を部分的に手動で変更することも可能です。自動設定された内容を変更した場合、セキュリティーレベルは自動的に「ユーザー設定」の表示に切り替わります。

設定項目	設定内容	設定値
アドレスタイプ	IPsecの対象とするIPアドレスのタイプを選択します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無効 ・ IPv4 ・ IPv6
ローカルアドレス	機器のアドレスを設定します。IPv6 で複数のアドレスを使用しているときには、範囲指定することもできます。	機器の IPv4、または IPv6 のアドレス 範囲指定設定しない場合、IPv4 アドレスはアドレスの後に 32 を入力し、IPv6 アドレスはアドレスの後に 128 を入力します。
リモートアドレス	IPsec 通信対象となる相手先のアドレスを指定します。範囲を指定することもできます。	通信相手の IPv4、または IPv6 のアドレス 範囲指定設定しない場合、IPv4 アドレスはアドレスの後に 32 を入力し、IPv6 アドレスはアドレスの後に 128 を入力します。

設定項目	設定内容	設定値
カプセル化モード	カプセル化モードを選択します。 (自動設定対象項目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ トランスポート ・ トンネル (トンネル始点 IP アドレス、トンネル終点 IP アドレス) セキュリティレベルに関係なく、トランスポートモードが選択されます。 トンネルモードを選択したときは、トンネルエンドポイントで始点 IP アドレスと終点 IP アドレスを指定します。 トンネルエンドポイントの始点 IP アドレスとローカルアドレスは同一の値を設定します。
IPsec 要求レベル	通信相手と IPsec による通信のみを行うか、IPsec が確立できない場合、平文による通信を行うかを選択します。 (自動設定対象項目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 可能な場合に使用する ・ 必須
認証方式	通信相手の認証を行う方式を選択します。 (自動設定対象項目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ PSK ・ 証明書 セキュリティレベルに関係なく「PSK」方式が選択されます。「PSK」を使用する場合は PSK の文字列 (アスキー文字列で 32 文字以内) を設定します。「証明書」を選択する場合は、事前に機器証明書を導入し、IPsec 用の証明書を割り当てておく必要があります。
フェーズ 1 ハッシュアルゴリズム	フェーズ 1 で使用するハッシュアルゴリズムを選択します。 (自動設定対象項目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ MD5 ・ SHA1
フェーズ 1 暗号化アルゴリズム	フェーズ 1 で使用する暗号化アルゴリズムを選択します。 (自動設定対象項目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ DES ・ 3DES
フェーズ 1 Diffie-Hellman グループ	Diffie-Hellman グループ番号を選択します。 (自動設定対象項目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1 ・ 2
フェーズ 1 有効期間	フェーズ 1 で使用する SA の有効期間を設定します。	300 秒 (5 分) ~ 172800 秒 (48 時間) の間で秒単位で設定します。

設定項目	設定内容	設定値
フェーズ2 セキュリティプロトコル	フェーズ2で使用するセキュリティプロトコルを選択します。 (自動設定対象項目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ AH ・ ESP ・ AH + ESP
フェーズ2 認証アルゴリズム	フェーズ2で使用する認証アルゴリズムを選択します。 (自動設定対象項目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ HMAC-MD5-96 ・ HMAC-SHA1-96
フェーズ2 暗号化アルゴリズム	フェーズ2で使用する暗号化アルゴリズムを選択します。 (自動設定対象項目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平文 (NULL 暗号) ・ DES ・ 3DES ・ AES-128 ・ AES-192 ・ AES-256
フェーズ2 PFS	PFSの有効 / 無効と有効時のDiffieHellman グループ番号を選択します。 (自動設定対象項目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無効 ・ 1 ・ 2 ・ 14
フェーズ2 有効期間	フェーズ2で使用するSAの有効期間を設定します。	300秒(5分)～172800秒(48時間)の間で秒単位で設定します。

◆ 手動鍵設定の設定項目

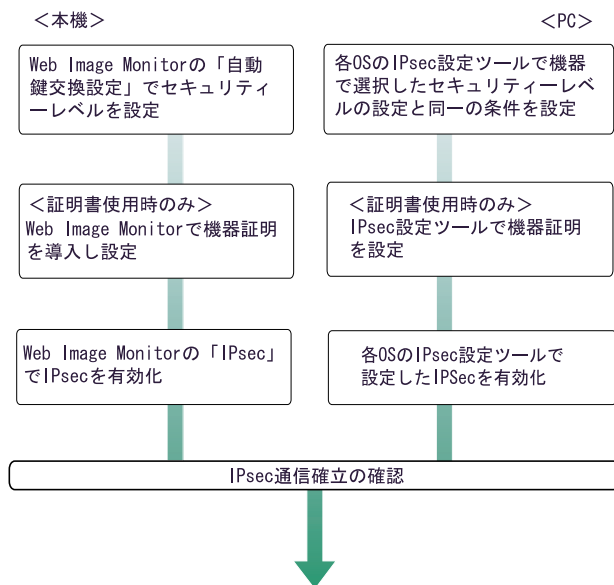
設定項目	設定内容	設定値
アドレスタイプ	IPsecの対象とするIPアドレスのタイプを選択します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 無効 ・ IPv4 ・ IPv6
ローカルアドレス	機器のアドレスを設定します。IPv6で複数のアドレスを使用しているとき、範囲指定することもできます。	機器のIPv4、またはIPv6のアドレス範囲指定設定しない場合、IPv4アドレスはアドレスの後に32を入力し、IPv6アドレスはアドレスの後に128を入力します。
リモートアドレス	IPsec通信対象となる相手先のアドレスを指定します。範囲を指定することもできます。	通信相手のIPv4、またはIPv6のアドレス範囲指定設定しない場合、IPv4アドレスはアドレスの後に32を入力し、IPv6アドレスはアドレスの後に128を入力します。

設定項目	設定内容	設定値
カプセル化モード	カプセル化モードを選択します。	<ul style="list-style-type: none"> ・トランスポート ・トンネル (トンネル始点 IP アドレス-トンネル終点 IP アドレス) トンネルモードを選択したときは、トンネルエンドポイントで始点 IP アドレスと終点 IP アドレスを指定します。トンネルエンドポイントの始点 IP アドレスとローカルアドレスは同一の値を設定します。
SPI 値 (出力)	通信相手先の入力の SPI 値と同一の値を設定します。	256 ~ 4095 の間の任意の整数値
SPI 値 (入力)	通信相手先の出力の SPI 値と同一の値を設定します。	256 ~ 4095 の間の任意の整数値
セキュリティープロトコル	暗号化と認証を同時に行う場合は ESP を、認証のみを行う場合は AH を選択します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ESP ・ AH
認証アルゴリズム	認証に使用するアルゴリズムを選択します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ HMAC-MD5-96 ・ HMAC-SHA1-96
認証鍵	認証アルゴリズムの鍵を設定します。	認証アルゴリズムによって以下の長さの任意の値を設定します。 < 16 進数の場合 > 半角の 0 ~ 9、a ~ f、A ~ F <ul style="list-style-type: none"> ・ HMAC-MD5-96 選択時 32 桁 ・ HMAC-SHA1-96 選択時 40 桁 < アスキー文字列の場合 > <ul style="list-style-type: none"> ・ HMAC-MD5-96 選択時 16 文字 ・ HMAC-SHA1-96 選択時 20 文字
暗号化アルゴリズム	暗号化に使用するアルゴリズムを選択します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平文 (NULL 暗号) ・ DES ・ 3DES ・ AES-128 ・ AES-192 ・ AES-256

設定項目	設定内容	設定値
暗号鍵	暗号化アルゴリズムの鍵を指定します。	認証アルゴリズムによって以下の長さの任意の値を設定します。 < 16 進数の場合 > 半角の 0～9、a～f、A～F ・ DES 選択時 16 桁 ・ 3DES 選択時 48 桁 ・ AES-128 選択時 32 桁 ・ AES-192 選択時 48 桁 ・ AES-256 選択時 64 桁 < アスキー文字列の場合 > ・ DES 選択時 8 文字 ・ 3DES 選択時 24 文字 ・ AES-128 選択時 16 文字 ・ AES-192 選択時 24 文字 ・ AES-256 選択時 32 文字

自動鍵設定のながれ

自動鍵設定の設定手順を説明します。管理者が設定します。



BE.J025S

★重要

- ・ 自動鍵設定で通信相手の認証方法に証明書を使用する場合は、機器証明書の導入が必要です。
- ・ IPsec 設定後、正しく通信が確立されているかどうかの確認は Ping コマンドを使用して確認することができます。ただし、ICMP が IPsec の除外対象になっているときは Ping コマンドを使用できません。また、鍵交換設定中は応答がないため、通信確立の確認に時間がかかることがあります。

■ 自動鍵設定の設定手順

Web Image Monitor を使用して設定します。

- 1 Web ブラウザーを起動します。
- 2 Web ブラウザーのアドレスバーに「http:// (本機の IP アドレス、またはホスト名) /」と入力し、本機にアクセスします。
IPv4 アドレスを入力する場合、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。「192.168.001.010」と入力すると、本機に接続できません。
- 3 [ログイン] をクリックします。
管理者がログインします。ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、ログインしてください。
- 4 [設定] をクリックし、「セキュリティ」の [IPsec] をクリックします。
「IPsec」エリアが表示されます。
- 5 「自動鍵設定」の [編集] をクリックします。
- 6 「個別設定 1」で自動鍵設定の条件を設定します。
複数の個別設定条件を設定する場合は、個別設定番号を切り替えて追加設定します。
- 7 [OK] をクリックします。
- 8 「IPsec」の「IPsec:」で [有効] を選択します。
- 9 「HTTPS通信の除外:」でHTTPS通信をIPsecの除外対象とするときは [有効] を選択します。
- 10 [OK] をクリックします。
- 11 [ログアウト] をクリックします。

↓ 補足

- ・自動鍵設定の条件設定で送信相手の認証方式を「証明書」に変更する場合、事前に証明書の導入と割り当てを行ってください。証明書の作成・導入については、「SSL (暗号化通信) の設定」の機器証明書の作成方法、導入方法を参照してください。導入した証明書を IPsec に割り当てる方法については、「証明書を選択する」を参照してください。

📖 参照

- ・P.334 「証明書を選択する」

■ 証明書を選択する

Web Image Monitor を使用し、IPsec で使用する証明書を設定します。

- 1 Web ブラウザーを起動します。
- 2 Web ブラウザーのアドレスバーに「http:// (本機の IP アドレス、またはホスト名) /」と入力し、本機にアクセスします。
IPv4 アドレスを入力する場合、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。「192.168.001.010」と入力すると、本機に接続できません。
- 3 [ログイン] をクリックします。
管理者がログインします。ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、ログインしてください。
- 4 [設定] をクリックし、「セキュリティ」の [機器証明書] をクリックします。
「機器証明書」エリアが表示されます。
- 5 「利用する証明書」の「IPsec」の欄で、使用する証明書を選択します。
- 6 [OK] を 2 回クリックします。
- 7 [ログアウト] をクリックします。

■ PC で IPsec の条件を設定する

機器で選択したセキュリティレベルの IPsec SA 設定と同一の条件を PC 側で設定します。設定方法は OS によって異なります。ここではセキュリティレベルで「認証と暗号化 (低)」を選択したときの Windows XP 側の設定を例に説明します。

- 1 [スタート] メニューから [コントロールパネル] - [パフォーマンスとメンテナンス] - [管理ツール] をクリックします。
- 2 [ローカルセキュリティポリシー] をダブルクリックします。
- 3 [ローカルコンピュータの IP セキュリティポリシー] をクリックします。
- 4 [操作] メニューから [IP セキュリティポリシーの作成] をクリックします。
「IP セキュリティポリシーウィザード」が表示されます。
- 5 [次へ] をクリックします。
- 6 任意の IP セキュリティポリシー名を入力し、[次へ] をクリックします。
- 7 「既定の応答規則をアクティブにする」のチェックを外し、[次へ] をクリックします。
- 8 「プロパティを編集する」にチェックを入れ、[完了] をクリックします。

- 9 [全般] タブを選択し、[詳細設定] をクリックします。
- 10 「新しいキーを認証して生成する間隔」に機器の自動鍵設定のフェーズ 1 で設定した有効期間を分単位で入力し、[メソッド] をクリックします。
- 11 機器の自動鍵設定のフェーズ 1 で選択されているハッシュアルゴリズム (Windows XP では整合性)、暗号化アルゴリズム (Windows XP では暗号化)、Diffie-Hellman グループの組み合わせが「キー交換のセキュリティメソッド」に存在しているか確認します。
存在しない場合は [追加] をクリックし作成します。
- 12 [OK] を 2 回クリックします。
- 13 [規則] タブを選択し、[追加] をクリックします。
「セキュリティの規則ウィザード」が表示されます。
- 14 [次へ] をクリックします。
- 15 「この規則ではトンネルを使用しない」にチェックを入れ、[次へ] をクリックします。
- 16 IPsec を適用するネットワークの種類を選択し、[次へ] をクリックします。
- 17 認証方法を選択して [次へ] をクリックします。
機器の自動鍵設定の認証方法で証明書を選択している場合は、機器証明書を設定します。PSK を選択している場合は、事前共有キーとして機器で設定した PSK と同じ文字列を入力します。
- 18 IP フィルター一覧で [追加] をクリックします。
- 19 「名前」に任意の IP フィルタ名を入力し、[追加] をクリックします。
「IP フィルタウィザード」が表示されます。
- 20 [次へ] をクリックします。
- 21 「発信元アドレス」で「このコンピュータの IP アドレス」を選択し、[次へ] をクリックします。
- 22 「宛先アドレス」で「特定の IP アドレス」を選択し、機器の IP アドレスを入力して [次へ] をクリックします。
- 23 IPsec の対象とするプロトコルを選択し、[次へ] をクリックします。
- 24 [完了] をクリックします。
- 25 [OK] をクリックします。
- 26 設定した IP フィルタを選択し、[次へ] をクリックします。

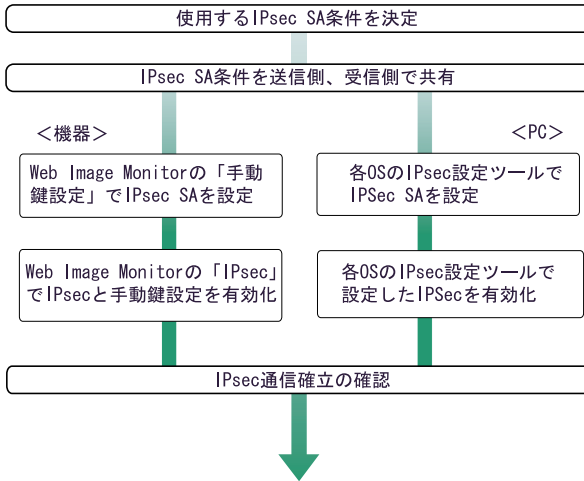
- 27** フィルタ操作の種類を選択し、[編集] をクリックします。
- 28** [追加] をクリックし、「カスタム」にチェックを入れて [設定] をクリックします。
- 29** 「整合性アルゴリズム」で機器の自動鍵設定のフェーズ 2 で選択されている認証アルゴリズムを選択します。
- 30** 「暗号化アルゴリズム」で機器の自動鍵設定のフェーズ 2 で選択されている暗号化アルゴリズムを選択します。
- 31** 「セッションのキーの設定」で「新しいキーの生成間隔 (R)」にチェックを入れ、機器の自動鍵設定のフェーズ 2 で設定した有効期間を秒単位で入力します。
- 32** [OK] を 3 回クリックします。
- 33** [次へ] をクリックします。
- 34** [完了] をクリックします。
- 35** [閉じる] をクリックします。
新しい IP セキュリティポリシー (IPsec 設定) が設定されます。
- 36** 設定したセキュリティポリシー名を選択し、右クリックして [割り当て] をクリックします。
PC の IPsec 設定が有効になります。

↓ 補足**8**

- PC の IPsec を無効にするときは、設定したセキュリティポリシー名を選択し、右クリックして [割り当ての解除] をクリックします。

手動鍵設定のながれ

手動鍵設定の設定手順を説明します。管理者が設定します。



BEJ024S

★重要

- ・事前に送信者、受信者で IPsec 通信のための IPsec SA 情報を共有しそれぞれに設定します。この場合、IPsec SA の漏洩を防ぐために、情報の交換はネットワークを使用せずに行うことをお勧めします。
- ・IPsec 設定後、正しく通信が確立されているかどうかの確認は Ping コマンドを使用して確認することができます。ただし、ICMP が IPsec の除外対象になっているときは Ping コマンドを使用できません。また、鍵交換設定中は応答がないため、通信確立の確認に時間がかかることがあります。

■手動鍵設定の設定手順

Web Image Monitor を使用して設定します。

1 Web ブラウザーを起動します。

2 Web ブラウザーのアドレスバーに「http:// (本機の IP アドレス、またはホスト名) /」と入力し、本機にアクセスします。

IPv4 アドレスを入力する場合、各セグメントの先頭につく「0」は入力しないでください。例えば「192.168.001.010」の場合は、「192.168.1.10」と入力します。

「192.168.001.010」と入力すると、本機に接続できません。

3 [ログイン] をクリックします。

管理者がログインします。ログインユーザー名とログインパスワードを入力し、ログインしてください。

4 [設定] をクリックし、「セキュリティ」の [IPsec] をクリックします。

「IPsec」エリアが表示されます。

5 「手動鍵設定 :」で [有効] を選択します。

- 6 「手動鍵設定」の【編集】をクリックします。
- 7 「個別設定 1」で手動鍵設定の条件を設定します。
複数の個別設定条件を設定する場合は、個別設定番号を切り替えて追加設定します。
- 8 [OK] をクリックします。
- 9 「IPsec」の「IPsec:」で【有効】を選択します。
- 10 「HTTPS通信の除外:」でHTTPS通信をIPsecの除外対象とするときは【有効】を選択します。
- 11 [OK] をクリックします。
- 12 [ログアウト] をクリックします。

telnet で IPsec を設定する

本機では、Web Image Monitor のほかに、telnet を使用して IPsec 設定の内容確認、設定変更を行うことができます。ここでは IPsec に関連するコマンドを説明します。telnet を使用するとき、管理者としてログインする場合のユーザー名の初期値は admin、パスワードは設定されていません。telnet のログイン方法、操作方法については、「機器の監視」を参照してください。

★重要

- ・自動鍵設定 (IKE) で認証方式に証明書を使用するときは、Web Image Monitor で証明書の導入設定を行ってください。telnet は証明書の導入に対応していません。

IPsec 関連の設定情報を表示するときは、「ipsec」コマンドを使用します。

8

◆現在の設定の表示

```
msh> ipsec
```

- ・以下の IPsec 関連の設定情報がすべて表示されます。
 - IPsec 共通設定の設定値
 - 手動鍵設定の個別 SA 設定値
 - 手動鍵設定のデフォルト SA 設定値
 - 自動鍵設定の個別 IKE 設定値
 - 自動鍵設定のデフォルト IKE 設定値

◆現在の設定の分割表示

```
msh> ipsec -p
```

- ・IPsec 関連の設定情報を分割して表示します。

手動鍵設定の表示・設定は、「ipsec manual_mode」コマンドを使用します。

◆現在の設定の表示

```
msh> ipsec manual_mode
```

- ・手動鍵設定の設定情報が表示されます。

◆ 手動鍵設定の設定

```
msh> ipsec manual_mode {on|off}
```

- ・手動鍵設定を有効にするには「on」を、無効にするには「off」を指定します。

IPsec 除外対象プロトコルの表示・設定は、「ipsec exclude」コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> ipsec exclude
```

- ・現在の除外対象プロトコルが表示されます。

◆ 除外対象プロトコルの設定

```
msh> ipsec exclude {https|dns|dhcp|wins|all} {on|off}
```

- ・設定するプロトコルを指定し、除外対象とするときは「on」を、除外対象にしないときは「off」を指定します。プロトコルで「all」を指定するとすべてのプロトコルの設定が一括で行えます。

手動鍵設定の SA 設定の表示・設定は、「ipsec manual」コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> ipsec manual {1|2|3|4|default}
```

- ・個別設定の設定内容を表示するときは個別設定番号「1～4」を指定します。
- ・デフォルト設定の設定内容を表示するときは「default」を指定します。
- ・設定値を省略した場合、個別設定 1～4 とデフォルト設定の設定情報がすべて表示されます。

◆ 設定の無効化

```
msh> ipsec manual {1|2|3|4|default} disable
```

- ・設定を無効化する個別設定番号「1～4」を指定します。
- ・デフォルト設定を無効に設定するときは「default」を指定します。

◆ 個別設定のローカル/リモートアドレスの設定

```
msh> ipsec manual {1|2|3|4} {ipv4|ipv6} ローカルアドレス リモートアドレス
```

- ・個別設定番号を指定し、使用するアドレスタイプを指定した上で、ローカルアドレスとリモートアドレスを指定します。
- ・ローカルアドレス、リモートアドレスの値は、アドレスタイプが IPv4 の場合、アドレスの後に「/」を入れて 0-32 の整数値で「masklen」を指定します。アドレスタイプが IPv6 の場合、アドレスの後に「/」を入れて 0-128 の整数値で「masklen」を指定します。
- ・アドレスの指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。

◆ デフォルト設定のアドレスタイプの設定

```
msh> ipsec manual default {ipv4|ipv6|any}
```

- ・デフォルト設定のアドレスタイプを指定します。
- ・IPv4 と IPv6 の両方のアドレスタイプを指定する場合は「any」を指定します。

◆ セキュリティープロトコルの設定

```
msh> ipsec manual {1|2|3|4|default} proto {ah|esp|dual}
```

- ・個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、使用するセキュリティープロトコルを指定します。
- ・AH を使用するときは「ah」、ESP を使用するときは「esp」、AH + ESP を使用するときは「dual」を指定します。
- ・セキュリティープロトコルの指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。

◆ SPI 値の設定

- ```
msh> ipsec manual {1|2|3|4|default} spi
```
- 出力方向の SPI 値 入力方向の SPI 値
- ・ 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、出力方向 / 入力方向の SPI 値を指定します。
  - ・ 出力方向、入力方向ともに、SPI 値は 256 ~ 4095 の間の 10 進数で指定します。
  - ・ SPI 値の指定を省略したときは、現在の設定が表示されます。

**◆ カプセル化モードの設定**

- ```
msh> ipsec manual {1|2|3|4|default} mode {transport|tunnel}
```
- ・ 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、カプセル化モードを設定します。
 - ・ トランスポートモードを使用するときは「transport」、トンネルモードを使用するときは「tunnel」を指定します。
 - ・ デフォルト設定のアドレスタイプで「any」を指定しているときは、カプセル化モードに「tunnel」を指定することはできません。

◆ トンネルモードの始点 / 終点 IP アドレスの設定

- ```
msh> ipsec manual {1|2|3|4|default} tunneladdr
```
- 始点 IP アドレス 終点 IP アドレス
- ・ 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、トンネルモードの始点 IP アドレスと終点 IP アドレスを指定します。
  - ・ 始点 / 終点 IP アドレスの両方の指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。

**◆ 認証アルゴリズムと認証鍵の設定**

- ```
msh> ipsec manual {1|2|3|4|default} auth {hmac-md5|hmac-sha1}
```
- 認証鍵
- ・ 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、認証アルゴリズムを指定した上で、認証鍵を指定します。
 - ・ 認証鍵を 16 進数で設定するときは、先頭に 0x を付加して指定します。
 - ・ 認証鍵をアスキー文字列で指定するときは、そのまま指定します。
 - ・ 認証アルゴリズムと認証鍵の両方の指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。(認証鍵は非表示)

8

◆ 暗号アルゴリズムと暗号鍵の設定

- ```
msh> ipsec manual {1|2|3|4|default} encrypt {null|des|3des|aes128|aes192|aes256}
```
- 暗号鍵
- ・ 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、暗号アルゴリズムを指定した上で、暗号鍵を指定します。
  - ・ 暗号鍵を 16 進数で設定するときは、先頭に 0x を付加して指定します。暗号アルゴリズムで「null」を選択した場合は、2 ~ 64 桁の任意の長さの暗号鍵を指定してください。
  - ・ 暗号鍵をアスキー文字列で指定するときは、そのまま指定します。暗号アルゴリズムで「null」を選択した場合は、1 ~ 32 文字の任意の長さの暗号鍵を指定してください。
  - ・ 暗号アルゴリズムと暗号鍵の両方の指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。(暗号鍵は非表示)

**◆ 手動鍵 (manual) 設定値の初期化**

- ```
msh> ipsec manual {1|2|3|4|default|all} clear
```
- ・ 設定値を初期化する個別設定番号、またはデフォルト設定を指定します。「all」を指定するとすべての個別設定とデフォルト設定を初期化します。

自動鍵設定の SA 設定の表示・設定は、ipsec ike コマンドを使用します。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4|default}
```

- 個別設定の設定内容を表示するときは個別設定番号「1～4」を指定します。
- デフォルト設定の設定内容を表示するときは「default」を指定します。
- 設定値を省略した場合、個別設定 1～4 とデフォルト設定の設定情報がすべて表示されます。

◆ 設定の無効化

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4|default} disable
```

- 設定を無効化する個別設定番号「1～4」を指定します。
- デフォルト設定を無効に設定するときは「default」を指定します。

◆ 個別設定のローカル/リモートアドレスの設定

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4} {ipv4|ipv6} ローカルアドレス リモートアドレス
```

- 個別設定番号を指定し、使用するアドレスタイプを指定した上で、ローカルアドレスとリモートアドレスを指定します。
- ローカルアドレス、リモートアドレスの値は、アドレスタイプが IPv4 の場合、アドレスの後に「/」を入れて 0-32 の整数値で「masklen」を指定します。アドレスタイプが IPv6 の場合、アドレスの後に「/」を入れて 0-128 の整数値で「masklen」を指定します。
- アドレスの指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。

◆ デフォルト設定のアドレスタイプの設定

```
msh> ipsec ike default {ipv4|ipv6|any}
```

- デフォルト設定のアドレスタイプを指定します。
- IPv4 と IPv6 の両方のアドレスタイプを指定する場合は「any」を指定します。

◆ 処理方法の設定

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4|default} proc {apply|bypass|discard}
```

- 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、指定したアドレスに該当するパケットの処理方法を指定します。
- 該当するパケットに対して IPsec を適用するときは、「apply」を指定し、IPsec を適用しないときは、「bypass」を指定します。
- 該当するパケットを破棄するときは、「discard」を指定します。
- 処理方法の指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。

◆ セキュリティープロトコルの指定

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4|default} proto {ah|esp|dual}
```

- 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、使用するセキュリティープロトコルを指定します。
- AH を使用するときは「ah」、ESP を使用するときは「esp」、AH + ESP を使用するときは「dual」を指定します。
- セキュリティープロトコルの指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。

◆ 要求レベルの設定

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4|default} level {require|use}
```

- 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、IPsec の要求レベルを指定します。
- 「require」を指定すると、IPsec が利用できないときには通信ができません。「use」を指定すると、IPsec が利用できないときには通常の通信を行い、IPsec が利用可能なときには IPsec 通信を行います。
- 要求レベルの指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。

◆ カプセル化モードの設定

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4|default} mode {transport|tunnel}
```

- 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、カプセル化モードを設定します。
- トランスポートモードを使用するときは「transport」、トンネルモードを使用するときは「tunnel」を指定します。
- デフォルト設定のアドレスタイプで「any」を指定しているときは、カプセル化モードに「tunnel」を指定することはできません。
- カプセル化モードの指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。

◆ トンネルモードの始点 / 終点 IP アドレスの設定

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4|default} tunneladdr 始点 IP アドレス 終点 IP アドレス
```

- 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、トンネルモードの始点 IP アドレスと終点 IP アドレスを指定します。
- 始点 / 終点 IP アドレスの指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。

◆ IKE の相手認証方式の設定

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4|default} auth {psk|rsasig}
```

- 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、相手認証方式を指定します。
- 事前共有鍵による認証方式を使用するときは「psk」を指定し、証明書による認証方式を使用するときは「rsasig」を指定します。
証明書による認証方式を使用するときは、事前に機器証明書を導入し、IPsec 用の証明書を割り当てておく必要があります。機器証明書の導入は Web Image Monitor を使用して設定します。
- 「psk」を指定したときは、PSK 文字列の設定が必要です。

◆ PSK 文字列の設定

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4|default} psk PSK 文字列
```

- 相手認証方式で PSK を選択しているとき、個別設定番号またはデフォルト設定を指定し、PSK 文字列を指定します。
- PSK 文字列はアスキー文字 (32 文字以内) で指定します。省略することはできません。

◆ ISAKMP SA (フェーズ 1) のハッシュアルゴリズムの設定

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4|default} ph1 hash {md5|sha1}
```

- 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、ISAKMP SA (フェーズ 1) で使用するハッシュアルゴリズムを指定します。
- MD5 を使用するときは「md5」を指定し、SHA1 を使用するときは「sha1」を指定します。
- ハッシュアルゴリズムの指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。

◆ ISAKMP SA (フェーズ 1) の暗号アルゴリズムの設定

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4|default} ph1 encrypt {des|3des}
```

- 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、ISAKMP SA (フェーズ 1) で使用する暗号アルゴリズムを指定します。
- DES を使用するときは「des」を指定し、3DES を使用するときは「3des」を指定します。
- 暗号アルゴリズムの指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。

◆ ISAKMP SA (フェーズ 1) の Diffie-Hellman グループ番号の設定

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4|default} ph1 dhgroup {1|2|14}
```

- 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、ISAKMP SA (フェーズ 1) で使用する Diffie-Hellman グループ番号を指定します。
- 使用するグループ番号を番号数値で指定します。
- グループ番号の指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。

◆ ISAKMP SA (フェーズ 1) の有効期間の設定

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4|default} ph1 lifetime 有効期間
```

- 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、ISAKMP SA (フェーズ 1) の有効期間を指定します。
- 有効期間は秒単位で 300 ~ 172800 の間の整数値で指定します。
- 有効期間の指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。

◆ IPsec SA (フェーズ 2) の認証アルゴリズムの設定

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4|default} ph2 auth {hmac-md5|hmac-sha1}
```

- 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、IPsec SA (フェーズ 2) で使用する認証アルゴリズムを指定します。
- 複数の認証アルゴリズムを指定するときは、(,) で区切って指定します。このとき、現在の設定値表示は優先順位の高いアルゴリズムから表示されます。
- 認証アルゴリズムの指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。

◆ IPsec SA (フェーズ 2) の暗号アルゴリズムの設定

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4|default} ph2 encrypt {null|des|3des|aes128|aes192|aes256}
```

- 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、IPsec SA (フェーズ 2) で使用する暗号アルゴリズムを指定します。
- 複数の暗号アルゴリズムを指定するときは、(,) で区切って指定します。このとき、現在の設定値表示は優先順位の高いアルゴリズムから表示されます。
- 暗号アルゴリズムの指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。

◆ IPsec SA (フェーズ 2) の PFS の設定

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4|default} ph2 pfs {none|1|2|14}
```

- 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、IPsec SA (フェーズ 2) の PFS で使用する Diffie-Hellman グループ番号を指定します。
- 使用するグループ番号を番号数値で指定します。
- グループ番号の指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。

◆ IPsec SA (フェーズ 2) の有効期間の設定

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4|default} ph2 lifetime 有効期間
```

- 個別設定番号、またはデフォルト設定を指定し、IPsec SA (フェーズ 2) の有効期間を指定します。
- 有効期間は秒単位で 300 ~ 172800 の間の整数値で指定します。
- 有効期間の指定値を省略したときは、現在の設定が表示されます。

◆ 自動鍵 (ike) 設定値の初期化

```
msh> ipsec ike {1|2|3|4|default|all} clear
```

- 設定値を初期化する個別設定番号、またはデフォルト設定を指定します。「all」を指定するとすべての個別設定とデフォルト設定を初期化します。

参照

- P.185 「機器の監視」

操作部から IPsec を無効に設定する

- 1** [メニュー] キーを押します。
- 2** [▲] [▼] キーを押して [インターフェースセット] を選択し、[OK] キーを押します。
- 3** [▲] [▼] キーを押して [3. ネットワークセット] を選択し、[OK] キーを押します。
- 4** [▲] [▼] キーを押して [IPsec] を選択し、[OK] キーを押します。
- 5** [▲] [▼] キーを押して [ムコウ] を選択し、[OK] キーを押します。

telnet 接続時の認証について

telnet を使用するとき、管理者としてログインする場合のユーザー名の初期値は admin、パスワードは設定されていません。telnet のログイン方法、操作方法については、「機器の監視」を参照してください。

☰ 参照

- ・ P.185 「機器の監視」

authfree コマンドについて

telnet で authfree コマンドを使用すると、プリンタージョブ認証時の認証を除外する IP アドレス範囲設定を行うことができます。認証除外制御の表示と設定方法は以下のとおりです。

◆ 現在の設定の表示

```
msh> authfree
```

- ・ プリンタージョブ認証が認証除外に設定されていない場合、認証除外制御の情報は表示できません。

◆ IPv4 アドレスの設定

```
msh> authfree 対象 ID range_addr1 range_addr2
```

◆ IPv6 アドレスのレンジでの設定

```
msh> authfree 対象 ID range6_addr1 range6_addr2
```

◆ IPv6 アドレスのマスクでの設定

```
msh> authfree 対象 ID mask6_addr1 masklen
```

◆ IEEE 1284/USB の設定

```
msh> authfree [parallel|usb] [on|off]
```

- ・ authfree 機能を有効するには「on」を、無効にするときは「off」を指定します。
- ・ インターフェースを必ず指定してください。

◆ 設定を工場出荷値に戻す

```
msh> authfree flush
```

↓ 補足

- ・ IPv4 と IPv6 の対象 ID は、それぞれ 1~5 の 5 件が設定できます。

ハードディスクのデータを上書き消去する

この機能を使用するためには、オプションのセキュリティーカードが必要です。セキュリティーカードは、拡張 SD カードとして提供されます。本機にオプションのハードディスクを取り付けた場合、搭載されたハードディスクには、蓄積された文書、ユーザーコード別カウンターを記録します。一時的に保存されたジョブのデータを自動で上書き消去（メモリー自動消去）したり、本機を廃棄するとき、ハードディスクに蓄積されているすべてのデータを上書き消去（メモリー全消去）することで、データ漏洩を防止することができます。

メモリー自動消去設定

本機にオプションのハードディスクを取り付けた場合、PC から本機に出力されたデータは、ハードディスクに一時的に保存されます。メモリー自動消去設定を使用すると、ハードディスク内に残っているデータを自動的に上書き消去することができます。上書き消去は、ジョブごとに自動的に行われます。印刷動作が優先され、上書き処理はこれらのジョブが終わったあとに開始されます。

消去方式

消去方式は次の中から選択できます。

◆ NSA ^{*1} 方式

データを乱数 2 回、ゼロ 1 回で上書きします。

◆ DoD ^{*2} 方式

データを固定値、固定値の補数、乱数で上書きし、検証処理を行います。

◆ 乱数方式

データを指定された回数の乱数で上書きします。乱数の書き込み回数は 1 ～ 9 回まで選択でき、工場出荷時は 3 回に設定されています。

^{*1} National Security Agency（米）国家安全保障局

^{*2} Department of Defense（米）国防総省

↓ 補足

・工場出荷時は「乱数」に設定されています。

メモリー自動消去設定を使用する

★重要

- ・セキュリティカード導入前やメモリー自動消去設定を「しない」に設定されていたときのハードディスク使用領域は、メモリー自動消去設定を「する」に設定後も残存データが上書きされないことがあります。

1 [メニュー] キーを押します。

2 [▲] [▼] キーを押して [チョウセイ/カンリ] を表示させ、[OK] キーを押します。

3 [▲] [▼] キーを押して [20. メモリーショウキョセツテイ] を表示させ、[OK] キーを押します。

4 [▲] [▼] キーを押して [スル] を表示させ、[OK] キーを押します。

5 [▲] [▼] キーを押して、[ショウキョホウシキ] を表示させ、[OK] キーを押します。

消去方式は、「NSA 方式」、「DoD 方式」、「乱数方式」のいずれかを選択します。

「NSA 方式」を選択した場合は、手順 **8** へ進んでください。

「DoD 方式」を選択した場合は手順 **9** へ進んでください。

「乱数方式」を設定する場合は手順 **6** へ進んでください。

6 [▲] [▼] キーを押して [ランスウ] を表示させ、[OK] キーを押します。

7 1~9 の間で [▲] [▼] キーを押して書き込みの回数を入力し、[OK] キーを押します。

メモリー自動消去が設定されます。

8 [NSA] を表示させ、[OK] キーを押します。

メモリー自動消去が設定されます。

9 [DoD] を表示させ、[OK] キーを押します。

メモリー自動消去が設定されます。

↓補足

- ・メモリー自動消去が完了する前に本機の電源スイッチを「Off」にすると、上書き消去は一時中断され、データはハードディスク内に残ったままとなります。途中で中止することはできません。また、ハードディスクが壊れることがありますので、上書き処理中に本機の電源を切られないように必ず確認してください。
- ・万一、メモリー自動消去が完了する前に本機の電源スイッチを「Off」にした場合は、本機の電源スイッチを再び「On」にしたときに、メモリー自動消去を続きから行います。
- ・上書き消去中にエラーが発生したときは、本機の電源スイッチを一度「Off」にしてください。再び本機の電源スイッチを「On」にし、手順をやり直してください。

メモリー自動消去設定を使用しない

- 1 「メモリー自動消去設定を使用する」の手順 1~3 と同様に操作します。
- 2 [▲] [▼] キーを押して [シナイ] を表示させ、[OK] キーを押します。
上書き消去は行われません。

補足

- ・メモリー自動消去設定を再度実行するときは、「メモリー自動消去設定を使用する」の手順をやり直してください。

上書き消去できるデータ／できないデータ

上書き消去できるデータと、上書き消去できないデータは以下のとおりです。

上書き消去できるデータ	<ul style="list-style-type: none"> ・印刷のデータ ・機密印刷 / 試し印刷 / 保留印刷 / 保存文書（プリンターに保存）のデータ^{*1} ・スプール印刷のデータ ・PDF ダイレクトプリントのデータ
上書き消去できないデータ	<ul style="list-style-type: none"> ユーザーコード別カウンター イメージオーバーレイデータ^{*2}

^{*1} 機密印刷 / 試し印刷 / 保留印刷のデータは、出力されてはじめて上書き消去の対象となります。保存文書は削除しない限り上書き消去はできません。

^{*2} イメージオーバーレイデータは削除されてはじめて上書き消去の対象となります。

メモリー全消去

8

本機を移設または廃棄するときに、ハードディスクに蓄積されているすべてのデータを一括上書き消去することができます。

★重要

- ・ユーザーコード、ユーザーコード別カウンター、アドレス帳、ユーザースタンプ、ユーザーがダウンロードしたプリンターフォント、Embedded Software Architecture を用いたアプリケーション、SSL 機器証明書、および本機のネットワーク設定もメモリー全消去の対象となっています。メモリー全消去後に使用する場合は保守会社に相談してください。
- ・メモリー全消去が完了する前に本機の電源スイッチを「Off」にすると、上書き消去は一時中断され、データはハードディスク内に残ったままとなります。途中で中止することはできません。また、ハードディスクが壊れることがありますので、上書き処理中に本機の電源を切られないように必ず確認してください。
- ・メモリー全消去を行う前に、Network Monitor for Admin を利用して、ユーザーコード、ユーザーコード別カウンターをバックアップすることをお勧めします。詳細については Network Monitor for Admin のヘルプを参照してください。
- ・メモリー全消去の実行時は本機の操作はできません。メモリー全消去の一時停止の操作のみできます。乱数方式を選択して書き込み回数を 3 回に設定した場合、約 1 時間半かかります。

メモリー全消去を使用する

- 1 本機に接続されている、電源ケーブル以外のケーブルを取り外します。
- 2 [メニュー] キーを押します。
- 3 [▲] [▼] キーを押して [チョウセイ/カンリ] を表示させ、[OK] キーを押します。
- 4 [▲] [▼] キーを押して [メモリーゼンショウキョ] を表示させ [OK] キーを押します。
- 5 [▲] [▼] キーを押して [1. ショウキョホウシキ] を表示させ、[OK] キーを押します。
- 6 消去方式を選択します。
消去方式は、「NSA 方式」、「DoD 方式」、「乱数方式」のいずれかを選択します。
「NSA 方式」を設定する場合は、手順 9 へ進んでください。
「DoD 方式」を設定する場合は手順 10 へ進んでください。
「乱数方式」を設定する場合は手順 7 へ進んでください。
- 7 [▲] [▼] キーを押して「ランスウ」を表示させ、[OK] キーを押します。
- 8 1~9 の間で [▲] [▼] キーを押して書き込みの回数を入力し、[OK] キーを押します。
- 9 [▲] [▼] キーを押して [NSA] を表示させ、[OK] キーを押します。
- 10 [DoD] を表示させ、[OK] キーを押します。
- 11 [▲] [▼] キーを押して [2. ショウキョ ジッコウ] を表示させ、[OK] キーを押します。
確認のメッセージが表示されます。
- 12 [OK] キーを押します。
本機が自動的に再起動し、メモリー全消去を開始します。
- 13 メモリー全消去が完了したら [OK] キーを押して電源を切ります。

補足

- ・万一、メモリー全消去が完了する前に本機の電源スイッチを「Off」にした場合は、本機の電源スイッチを再び「On」にしたときに、メモリー全消去を続きから行います。
- ・メモリー全消去中にエラーが発生したときは、本機の電源スイッチを一度「Off」にしてください。再び本機の電源スイッチを「On」にし、手順 2 から行ってください。
- ・メモリー全消去中は、メモリー全消去の一時停止以外の操作はできません。メモリー全消去機能で乱数方式を選択し書き込み回数を 3 回に設定した場合、完了するまでに約 1 時間半 かかります。

参照

- ・ P.346 「消去方式」

メモリー全消去を中止する

- 1** メモリー全消去処理中に [ジョブリセット] キーを押します。
- 2** [OK] キーを押します。
メモリー全消去が中止されます。
- 3** 本機の電源を切ります。

管理者の方へ

この度は、本機をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
この説明書は、本機のセキュリティー機能について、管理者の方への補足情報です。ハードウェアガイド (⑧)、またはソフトウェアガイド (⑨) とあわせてご覧ください。
この説明書は、管理者が閲覧および保管をしてください。

株式会社日立製作所

パスワードについて

本機にログインする場合に、アカウントとしてユーザー名とパスワードの入力を要求されます。情報の漏洩や、第三者による不正操作の防止の為にユーザー名とパスワードは工場出荷時よりすぐに変更することをお勧めします。

以下のログインの際に、パスワードが要求されます。

- Web Image Monitor の管理者モードへログインするとき
- Network Monitor for Admin のユーザー情報管理ツールを起動するとき
- Network Monitor for Admin のアドレス情報管理ツールを起動するとき
- telnet で本機へ接続するとき

工場出荷時の設定の場合、ユーザー名は「admin」、パスワードは空欄です。

パスワードの設定は Web Image Monitor または telnet で行います。

ここで設定されたパスワードは、全てのログイン時に共通です。

補足

- パスワードの設定方法について詳しくは、『ソフトウェアガイド』⑨「機器の監視」、または Web Image Monitor のヘルプを参照してください。
- パスワードを忘れた場合は、保守会社にご相談ください。
- パスワードを忘れたときや、管理者の交代時などは、Web Image Monitor からスーパーバイザーとしてログインし、管理者のパスワードを削除または新しく設定できます。
- スーパーバイザーについて詳しくは、「スーパーバイザーの操作」を参照してください。

参照

- P.357 「スーパーバイザーの操作」

[メニュー] キー機能の補足情報

管理者のための隠しメニュー

操作部では、本機を使用するために必要な各種の基本的な設定や調整を行うことができますが、不正アクセス、データの解析、改ざんの脅威から保護するため、通常は表示されない管理者のための「隠しメニュー」があります。

本機に搭載されている隠しメニューは次のとおりです。

◆「調整 / 管理 (チョウセイ / カンリ)」に含まれる隠しメニュー

- ・ネットワークセキュリティー解除 (NW セキュリティカイジョ)
- ・メニュープロテクト (メニュープロテクト)
- ・テスト印刷禁止 (テストインサツキンシ)
- ・用紙サイズエラー (ヨウシサイズエラー)
- ・領域フィルコマンド (リョウイキフィルコマンド)
- ・手差し給紙印刷 (テサシキュウシインサツ)
- ・文書ロック設定 (ブンショロックセッテイ)
- ・文書ロック解除 (ブンショロックカイジョ)
- ・メモリー自動消去 (メモリーショウキョ)
- ・メモリー全消去 (メモリーゼンショウキョ)
- ・ログ転送設定 (ログテンソウセッテイ)

↓ 補足

- ・「文書ロック設定」と「文書ロック解除」は、本機にオプションのハードディスクが装着されているときに表示されます。
- ・「メモリー自動消去」と「メモリー全消去」は、オプションのセキュリティーカードが装着されているときに表示されます。

◆「インターフェース設定 (インターフェースセッテイ)」に含まれる隠しメニュー

- ・USB 設定 (USB ソクド)

隠しメニューを表示する

隠しメニューは、操作部で特別なキー操作をすることによって表示させることができます。ここでは隠しメニューの表示方法の説明をします。

- 1** 本機がオンライン状態であることを確認します。
- 2** 操作部の [OK] キー、[戻る] キー、[メニュー] キーを順番に押します。メニュー画面が表示されます。
- 3** [▲] [▼] キーを押して、「チョウセイ / カンリ」を表示させ、[OK] キーを押します。
- 4** [▲] [▼] キーを押して、「NW セキュリティカイジョ」や「メニュープロテクト」などの隠しメニューが表示されることを確認します。これで隠しメニューを表示させ、設定の変更をすることができます。
- 5** 必要な設定が終了したら、[オンライン] キーを押します。通常のメニューが表示され、隠しメニューを表示させることはできなくなります。再度、隠しメニューを表示させる場合は、最初から操作してください。

◆ 調整 / 管理 (隠しメニュー) の項目

- ・ ネットワークセキュリティー解除 (NW セキュリティカイジョ)
ネットワークセキュリティー設定を解除します。
設定を工場出荷時の設定に戻します。
- ・ メニュープロテクト (メニュープロテクト)
特定のメニュー項目の操作を制限します。
 - ・ レベル 1
「調整 / 管理」、「インターフェース設定」、「システム表示 (EM)」、「PSD 設定」、「PDF 設定」の操作が制限されます。
 - ・ レベル 2
レベル 1 に加えて、「用紙設定」、「システム設定」、「プログラム登録」、「エラー表示設定」、「エラー履歴印刷」、「一括リスト印刷」の操作が制限されます。
 - ・ しない (工場出荷時の設定)
メニュー項目の操作を制限しません。
- ・ テスト印刷禁止 (テストインサツキンシ)
「テスト印刷」の操作を制限します。
 - ・ する
「する」に設定すると、通常は「テスト印刷」メニューが表示されなくなり、操作部から実行するすべてのテスト印刷をすることができなくなります。
 - ・ しない (工場出荷時の設定)
メニュー項目の操作を制限しません。
- ・ 用紙サイズエラー (ヨウシサイズエラー)
サイズ指定している用紙と長さの異なった用紙を給紙した場合は、用紙サイズエラーを検知します。
 - ・ 検知する (工場出荷時の設定)
 - ・ 検知しない

- ・領域フィルコマンド（リョウイキフィルコマンド）
工場出荷時の設定は「無効」になります。
この設定は変更しないでください。
- ・手差し給紙印刷（テサシキュウシインサツ）
工場出荷時の設定は「無効」になります。
この設定は変更しないでください。
- ・文書ロック設定（ブンショロックセツテイ）
蓄積したファイルに、間違ったパスワードで 10 回以上アクセスした場合に、そのファイルを自動的にロックします。
 - ・する
 - ・しない（工場出荷時の設定）
- ・文書ロック解除（ブンショロックカイジョ）
間違ったパスワードで 10 回以上アクセスしてロックしたファイルのロックを解除します。
- ・メモリー自動消去（メモリージドウショウキョ）
ハードディスクに一時的に保存されたデータを自動的に上書き消去します。
 - ・自動消去 する／しない（工場出荷時の設定）
 - ・消去方式 NSA（工場出荷時の設定） / DoD / 乱数
- ・メモリー全消去（メモリーゼンショウキョ）
ハードディスクに蓄積されたすべてのデータを一括で上書き消去します。
 - ・消去方式 NSA（工場出荷時の設定） / DoD / 乱数
 - ・消去実行
- ・ログ転送設定（ログテンソウセツテイ）
ログ転送しない設定にします。工場出荷時の設定は「ログ転送しない」です。
ログ転送する設定にする場合には、オプションのソフトウェアが必要です。

↓ 補足

- ・「文書ロック設定」と「文書ロック解除」は、本機にオプションのハードディスクが装着されているときに表示されます。
- ・「メモリー自動消去」と「メモリー全消去」は、オプションのセキュリティーカードが装着されているときに表示されます。

◆ インターフェース設定（隠しメニュー）の項目

- ・USB 設定（USB ソクド）
USB の通信速度を設定します。
 - ・フルスピード
USB の通信速度を USB1.1 に固定します。
 - ・自動設定（工場出荷時の設定）

↓ 補足

- ・拡張ギガビットイーサネットボードに付属の USB インターフェースは、ここでの設定が有効になります。

ネットワークセキュリティレベル設定

セキュリティの強度を変更できます。

Web Image Monitor からレベルの設定を行えます。また、Web Image Monitor より部分的な変更を行うと、どのレベルでもない状態となります。

この設定により不正なアクセスを制限できます。

セキュリティレベルは [レベル 0]、[レベル 1]、[レベル 2]、[ユーザー設定] から選択します。

[レベル 2] に設定すると、最高度のセキュリティ強度を持ちます。脅威から守るべき情報が極めて重要なときに設定します。

[レベル 1] に設定すると、適切なセキュリティ強度を持ちます。例えば社内 LAN に接続するときなどに設定します。

[レベル 0] に設定すると、全機能を最も容易に利用できます。脅威から守るべき情報がないときに設定します。

[ユーザー設定] に設定すると、レベル 0 から 2 までのどれにも属さない設定をすることができます。

補足

- ・ 設定項目の詳細は、Web Image Monitor のヘルプを参照してください。

各機能とセキュリティモードレベルの関係

以下の表は、各機能とセキュリティモードレベルの関係を IPv4 環境を例に説明しています。

○ = 使用可能です。

— = 使用不可です。

▲ = ポートが開いています。

■ = ポートが閉じています。

☆ = 自動

★ = 必ず暗号

× = 暗号化優先

	機能		セキュリティモードレベル		
			レベル0	レベル1	レベル2
TCP/IP	TCP/IP		○	○	—
	HTTP	ポート 80	▲	▲	▲
	IPP	ポート 80	▲	▲	▲
		ポート 631	▲	▲	■
	SSL	ポート 443	○	○	○
		SSL/TLS 通信 許可設定	×	×	★
	DIPRINT		○	○	—
	LPR		○	○	—
	FTP		▲	▲	▲
	sftp		▲	▲	▲
	ssh		▲	▲	▲
	RSH/RCP		○	○	—
	TELNET		○	—	—
	Bonjour		○	○	—
	BMLinkS *1		○	○	—
	SSDP		▲	▲	■
	SMB		○	○	—
	NetBIOS over TCP/IPv4		▲	▲	■
	WS-Device		○	○	—
	WS-Printer		○	○	—
AppleTalk *2	AppleTalk		○	○	—
SNMP	SNMP		○	○	○
	SNMP v1v2 による許可設定		○	—	—
	SNMP v1v2 機能		○	○	—
	SNMP v3 機能		○	○	○
	SNMP v3 通信許可設定		☆	☆	★

*1 「BMLinkS」を使用するには BMLinkS カードが必要です。

*2 「AppleTalk」を使用するには、オプションの PS3 カードが必要です。

スーパーバイザーの操作

スーパーバイザーは各管理者のパスワードを削除し、新しく設定することができます。たとえば、各管理者がパスワードを忘れたときや、管理者の交代時などに設定します。スーパーバイザーのユーザー名とパスワードでログインしたときは、各機能や初期設定を操作することはできません。管理者のパスワードを設定するときのみログインしてください。

★重要

- 工場出荷時は、ログインユーザー名は supervisor、ログインパスワードは設定されていません。ログインユーザー名とログインパスワードは変更することをお勧めします。
- ログインユーザー名、ログインパスワードに登録できる文字は、アルファベット、数字、記号です。登録できる文字数は、半角で最大 32 文字です。アルファベットは、大文字、小文字を区別して正しく登録してください。
- スーパーバイザーのログインユーザー名とログインパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。万一忘れてしまった場合は、保守会社に連絡し、工場出荷時の値に戻すことになります。本機のデータが失われますのでご了承ください。

↓補足

- スーパーバイザーと各管理者を同じログインユーザー名に設定することはできません。
- Web Image Monitor からスーパーバイザーとしてログインし、管理者のパスワードを削除または新しく設定することができます。

注意と制限

プリンターおよびシステムについて

最新情報の入手

- ・最新情報の入手については、(株) 日立製作所のホームページ <http://prinfinajp/> をご覧ください。

接続について

- ・インタフェースが複数あるプリンターの場合、プリンターの複数のインタフェースへ同時に印刷した場合、最初に受け付けられたジョブが印刷され、それ以外のジョブはデータ送信が保留され、そのため、保留されたデータについてメッセージやエラーが表示されたり、ジョブが混在する場合があります。また、同じインタフェースからのジョブが継続して送信されている間は、他のインタフェースからのジョブは保留される場合があります。
- ・ローカルポート接続時、大量のデータを印刷した場合、LPT1 エラーが発生することがあります。このような場合には、Windows のスタートメニューから、[設定] - [プリンター] を開き、プリンタプロパティの詳細タブにあるタイムアウトの設定時間を長くしてください。
- ・ネットワークの設定等によっては、プリンターの機能を十分にお使いいただけない場合があります。
- ・プリンターとパソコンの距離が離れている場合は、ネットワーク接続にてご使用願います。長いプリンタケーブルや長い USB ケーブル、中継器などを使用すると、ノイズなどによる文字化けやプリンター情報が取り込めないなどの問題が発生することがあります。中継器、切替器は使用しないでください。
- ・パラレル接続で印刷する場合、パソコンによっては、パラレルポートのモード (ECP / Bi-directional / Standard) によって正常に印刷が行えないことがあります。この場合はパソコンのパラレルポートのモードを Bi-directional もしくは Standard に変更してください。詳しくはパソコンのハードウェアマニュアルを参照してください。
- ・パラレル接続時、通常は上位装置の電源を入れてからプリンターの電源を入れてください。ただし、上位装置によっては、誤動作によりプリンターに対してゴミデータが送信され、用紙が排出されることがあります。このような場合は、プリンターの電源を入れてから上位装置の電源を入れてください。
- ・ネットワーク接続する場合は、CD-ROM から「Network Monitor for Client」をインストール願います。Network Monitor for Client ポート (TCP/IP ポート) が使用できます。
- ・本装置の USB ポートはすべての USB 機器との接続を保証するものではありません。
- ・パラレル接続をする場合、プリンタケーブルは PC-PC1025H をご使用願います。プリンターのパラレルポートのコネクタ形状は一般的なプリンタコネクタと異なるタイプ C (ハーフピッチ) です。

- ・本製品では USB ポート A は使用できません。接続すると故障や誤動作の原因となる場合があります。

- ・無線 LAN ご使用時の注意

無線 LAN では、LAN ケーブルの代わりに電波を利用して情報のやりとりを行います。無線 LAN の電波は、一定の範囲内であれば壁などの障害物も越えて到達するため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、次のような問題が発生する可能性があります。

- ・個人情報の漏洩
 - ・ID、パスワード、クレジットカードの番号やメールの内容などが、第三者に盗み見られる。
- ・ネットワークへの不正侵入
 - ・ウィルスなどによってデータやシステムを破壊・改ざんされる。
 - ・特定の人物になりすまして不正な情報を流される。
 - ・機密情報が持ち出される。

これらの問題が発生する可能性を少なくするためには、本機や無線 LAN アクセスポイントなどの無線 LAN 製品に搭載されている機能を確認し、セキュリティに関する設定を行うことをお勧めします。

下記の条件において通信状態が不安定になることがあります。

- ・本装置とパソコンの間に障害物がある場合
 - ・距離がある場合
 - ・他のエレクトロニクス機器に隣接して設置した場合
- また、ご使用の環境によっては、性能が出ないことがあります。

仕様（プリントタイム、本体・消耗品寿命）

- ・ウォームアップタイム（12 秒）、ファーストプリントタイム（6.9 秒）、印刷速度（A4 縦 36 ページ / 分）、製品寿命（60 万ページ）は仕様値であり最良値です。印刷データや用紙、環境、使用状況により低下する場合があります。印刷を開始するまでには、パソコンでの印刷データ生成、データ転送、プリンター内でのデータ処理の時間が必要なため、複雑な印刷データや大量の印刷データなどの場合は、ウォームアップタイムは 12 秒以上かかったり、ファーストプリントタイムが 6.9 秒以上かかったり、印刷速度が A4 縦 36 ページ / 分以下になったりする場合があります。また、1 ページごとの断続的な印刷や長時間の連続印刷などではプリンターに負荷がかかるため、製品寿命が 60 万ページ以下になる場合があります。
- ・本製品には、有寿命有償部品が使用されています。交換目安の印刷枚数は用紙サイズ A4 の縦送り連続印刷時の目安となります。ただし、お客様の使用条件、使用環境によって半分以下になる場合があります。また、寿命を超えた使用は、ジャムなどの印刷不良や用紙搬送不良につながります。定期的な保守による部品交換（定着ユニットや給紙ローラ、分離パッド等）が必要ですので、交換時期が近づきましたら、保守会社へ連絡をお願いします。

部品名	交換目安
フリクションパッド	印刷枚数 約 9 万 ページ
給紙コ口	印刷枚数 約 9 万 ページ
転写ローラー	印刷枚数 約 9 万 ページ
定着ユニット	印刷枚数 約 9 万 ページ

- ・本製品は、下記の使用条件下で、パソコンに接続して使用されることを想定して設計・評価した製品です。異なる条件下でご使用になる場合は、独自にその条件下での性能をご確認のうえ、本製品をご採用ください。

- ・設置環境：一般オフィス（動作環境：温度 10～32.5℃、湿度 20～80%RH）
- ・平均稼働時間：一日あたり平均 8 時間 / 1 ヶ月当り 20 日間
- ・月間平均印刷枚数：3,500 ページ（最大 10,000 ページ）
- ・装置寿命：使用期間あるいは総印刷ページ数のいずれか早い方
 - ・使用期間：5 年
 - ・通電時間：9,600 時間（8 時間 / 日 × 20 日 / 月 × 12 月 / 年 × 5 年）
 - ・総印刷ページ：60 万ページ（A4 縦）

月間印刷ページ数が：3,500 ページ（最大 10,000 ページ）を超えていたり、1 日に合計 8 時間以上電源が入っていたり、総印刷ページ数が 60 万ページ（A4 縦）を超えたりすると、想定された年数より使用年数が短くなる場合があります。

- ・省エネモードの移行設定を「移行しない」に選択して使用された場合、寿命が短くなる場合があります。
- ・本製品は A4 サイズ用紙を縦置きにセットした場合のマルチコピーモードで 1 分間に 36 ページを印刷する性能がありますが、印刷データや用紙、環境により性能が変わります。特に、幅が A4 縦以下の幅狭用紙や厚紙を印刷する場合は、用紙の通らない両端部分が異常に高温になり故障の原因となるので、定着器保護のため、印刷速度が遅くなる事があります。

用紙サイズ	：	印刷速度（印刷データや用紙、環境により変わります）
A4 縦	：	36 ページ / 分
B5 縦	：	53 ページ / 分
A5 縦	：	30 ページ / 分

PDL について

8

- ・本製品の印刷制御言語は RPCS、あるいは PostScript3（オプション）です。RPCS、あるいは PostScript3 以外の印刷データを生成するアプリケーションをご使用の場合、意味不明の文字が印刷されるなど正常に印刷されない場合があります。印刷制御言語を RPCS、あるいは PostScript3 に変更する必要があります。
- ・RPCS、あるいは PostScript3 以外の印刷データを生成するアプリケーションからの印刷には、ご使用頂けません。
- ・LIPS、ESC/P、ESC/Page データを生成するユーザプログラムはご使用いただけません。ユーザプログラムの変更やシステム構成の見直しをお願い致します。
- ・CommuniNet の 560 +（プラス）（パススルー印刷、ページモード印刷）は、ご使用いただけません。GDI モード（プリンタードライバ経由）にてご使用願います。
- ・3050RX や 3500 などの HI-UX/WE2 のプリンター API 印刷機能を使用する PP（OFIS-EX2 シリーズ、UIBT、XP/W、PANEL-EX2 など）はご使用いただけません。
- ・印刷データを PostScript 言語に変更することで HI-UX/WE2 のラインモード出力や HP-UX の lp 出力に対応可能な場合があります。事前に動作確認を行った上で導入願います。PostScript を印刷するためには PS3 カード（オプション）が必要になりますので、ご用願います。

電源について

- ・プリンターの電源をシステム装置のサービスコンセントから取ることはできません。必ず接地端子のある AC コンセント（AC100V、50/60Hz、15A）を 1 口準備し、プリンター専用で使用してください。プリンターのアースは必ず接地してください。アースが無いとノイズにより文字化けや動作不良を起こすことがあります。また、パソコンのアースも接地することを推奨致します。
- ・電源スイッチを Off にする際には、シャットダウンを行ってから電源スイッチを Off にしてください。先に電源スイッチを Off にすると、HDD やメモリーが破損し、誤作動を起こすおそれがあります。

使用環境

◆ メモリー増設のお願い

- ・標準メモリー容量で速度低下、エラー発生、印刷不良等の問題がある場合、メモリー増設で回避できることがあります。
- ・PostScript をご使用の場合はメモリーを増設してください。

使用上の注意と制限事項

- ・印刷に関するトラブルは Microsoft のサポート技術情報も併せてご確認ください。
- ・CD-ROM 内の「Readme」には、プリンタードライバーや印刷に関する注意事項、制限事項などが書かれています。必ずお読みください。
- ・用紙に「厚紙」を使うと、印刷物に連続（通紙方向側）した黒点が写る場合があります。
- ・印刷中は、本製品に衝撃を与えないでください。印刷不良の原因になります。
- ・日立カット紙プリンターシリーズにおきましては、ハードウェア、ソフトウェア共に新旧完全互換機種ではありません。ドライバー機能、パネル設定機能、ハードウェア構成、インタフェース構成、デフォルト動作設定、動作環境等において異なる場合があります。旧機種からの移行の場合は、事前に十分ご検証を実施頂きますようお願いいたします。
- ・幅の狭い用紙はプリンターに負荷がかかります。大量にまたは連続して印刷すると寿命が短くなる場合があります。また、印刷速度が遅くなる場合があります。
- ・不定形サイズの印刷は、定形サイズに比べ用紙送り性能や印刷品質が低下することがあります。事前に十分評価の上、ご使用ください。
- ・重要な印刷物は印刷結果の目視チェックを行って、ダメージのあるものは再印刷をお願い致します。
- ・本製品は前面を通して用紙搬送していますので、印刷中は給紙しているトレイ以外のトレイも引き抜かないようにしてください。紙づまりや故障の原因となります。
- ・用紙カセットに不定形サイズ用紙をセットするときは、カセットを伸ばす必要があります。カセットを伸ばした場合、プリンターの背面から 59mm 飛び出します。
- ・次の機能は、サポート対象外となっております。印刷および動作等の保証はしていません。また、質問などにもお答えできかねますのでよろしくご理解願います。この機能をご使用になる場合には、お客様ご自身で充分に動作確認をしていただき、お客様の責任においてご利用いただくようお願いいたします。
 1. 次の用紙サイズ以外への印刷：A4、B5、A5、A6、はがき
 2. UNIX・MAC 環境での印刷
 3. 提供しているプリンタードライバー以外を使用しての印刷

4. 日本語以外の OS からの印刷

ただし、個別にサポートしている機能・アプリケーションは除きます。

- ・コントローラーボードをセットする場所に手を入れないでください。故障やけがの原因になります。
- ・拡張無線 LAN または拡張ギガビットイーサネットボードのイーサネットインターフェースは、標準のイーサネットインターフェースと同時に使用することはできません。
- ・拡張ギガビットイーサネットボードはジャンボフレームに対応していません。
- ・アプリケーションで不定形サイズの設定ができない場合、不定形サイズの印刷はできません。
- ・両面印刷禁止に設定してあるトレイから給紙した場合、片面で印刷されます。

OS のサポートについて

- ・Windows 95/98/Me/NT4.0/2000、NEC 社製 PC-98 シリーズはサポートしていないため、印刷できません。
- ・DOSV 機上で動作する Windows XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 環境でご使用いただけます。ただし、OS に関するサポートは Microsoft の OS サポート期間内のみとなります。
- ・プリンター添付の CD-ROM にプリンタードライバーを格納していますので、プリンタードライバーをインストールしてからご使用願います。
- ・MS-DOS、Windows 上の DOS プロンプト及び DOS アプリケーション、Windows 95/98/Me/NT4.0/2000 については、Microsoft の OS サポートが終了しているためサポートいたしません。
- ・プリンタードライバーは従来機とは異なります。従来機のプリンタードライバーを使用して印刷すると誤印刷の原因になります。各プリンター専用のプリンタードライバーをインストールして印刷願います。
- ・Windows のネットワークポートについて
 - ・UNIX 互換 (LPR) ポートは、プリンターの準備ができていない場合、5 分でデータが再送される場合があります。
 - ・Standard TCP/IP ポートは、プリンターの準備ができていない場合 90 秒でデータが再送される場合があります。

ソフトウェアに関して

ドライバーインストール・アンインストール

- ・Windows 2000 以降の OS では、プラグアンドプレイの機能がサポートされているため、パラレルポート接続でプリンタードライバーをインストールすると、この機能が働き、OS にバンドルされているミニドライバーがインストールされる場合があります。本製品をインストールする際は、下記いずれかにより、プラグアンドプレイ機能が働かない状態で行ってください。
 - ・プリンターが起動していない状態。
 - ・プリンターケーブルを本体に接続していない状態。
 - ・プリンター追加ウィザード中の「プラグアンドプレイプリンターを自動的に検出してインストールする」のチェックを外す。

- ・インストール時のみプリンターポートとしてパラレルインターフェース以外のポートを選択し、インストール後に切り換える。
- ・インストールする際はすべてのアプリケーションを終了してからインストールを始めてください。インストール作業時、インストールが完了するまでは、CD-ROM を抜かないでください。システムエラーが発生することがあります。
- ・インストール作業終了後、プリンタードライバー設定画面が正常と思われない場合は、一度インストールされたドライバーを削除し、パソコンなどの上位装置を再起動した後、再度ドライバーのインストール作業を行ってください。
- ・プリンタードライバーのインストール中は、インターフェースケーブルを接続したり抜いたりしないでください。
- ・プリンタードライバーを共有設定で使用する場合には、プリンター同梱 CD-ROM のオートランプログラムまたは、SETUPEXE によるインストールは使用できません。その場合、プリンターフォルダの「プリンターの追加」を用いてプリンタードライバーをインストールしてください。
- ・本製品ドライバーをインストールする際、デジタル署名の確認画面が表示される場合がありますが機能上問題はありませぬ。インストールを継続してください。

ドライバーに関する注意と制限事項

- ・プリンター本体の設定項目の「白紙排紙（ハクシハイシ）」を、「しない」に設定すると、アプリケーションによっては、途中の白紙ページも排出しない場合があります。
- ・異なる Windows OS（クロスプラットフォーム）のプリンタードライバーを使用する場合は、クライアントマシンがプリンタードライバーをロードする前に、必ずサーバーに代替ドライバーをセットアップしてください。
- ・複数のプリンターまたはプリンタードライバーを使用する場合は、プリンターまたはプリンタードライバー毎にプリンターアイコンを作成して、それを切り換えてご使用ください。
- ・印刷に関する制限／注意事項
ご使用のパソコンで、Windows システム上における仮想メモリーの設定が小さいとメモリー不足が発生し、アプリケーションやプリンタードライバーでの描画処理を正常に行なうことができず、以下のような現象が発生し、正常に印刷されない場合があります。このような場合には Windows システム上の仮想メモリーの設定を大きくして印刷してください。仮想メモリーの設定を大きくしても効果がない場合には、パソコン上のメモリーを増設してください。
 - ・メモリー不足メッセージの表示
 - ・アプリケーションエラーの発生
 - ・警告なしの印刷中断
 - ・プリンター側の表示パネルにエラーメッセージの表示がなされ、印刷が途中で終了する。
- ・ご使用のパソコンの搭載しているメモリーの量によってはアプリケーションからの印刷処理に時間がかかる場合があります。また、メモリーの制限などで OS やアプリケーション側で印刷処理が継続できなくなった場合はアプリケーション側で印刷処理を中断してしまう場合があります。
- ・使用環境や印刷されるデータにより、一般保護違反エラーが発生する場合があります。
- ・使用するディスプレイドライバーにより、一部正常に印刷されない場合があります。
- ・アプリケーションによってはプリンタードライバーの縮小指定を行なうと一部正常に印

刷されない場合があります。

- ・アプリケーションによっては、画面上の網掛けパターンと印刷結果が異なる場合があります。
- ・アプリケーションによっては、画面上のイメージデータが一部印刷されない場合があります。
- ・アプリケーションからプリンタードライバーの設定画面を開いて印刷設定をおこなう場合、その設定内容（例：両面印刷の指定など）がアプリケーションによっては、印刷後に保持されない場合があります。これらの設定値を保持する・しないはアプリケーション側に依存しているため、繰り返し印刷をおこなう場合や、次のアプリケーション起動時に、前回の設定値が必ずしも正確に反映されない場合があります。アプリケーションから印刷をおこなう場合には、そのつど必ず印刷画面からプロパティを開き、印刷条件を再度設定したうえで印刷を実行するようにしてください。
- ・用紙方向が混在する文書の印刷において、[ファイル] - [印刷] のプロパティにて選択する " 原稿方向 " が、先頭ページの原稿方向と一致していない場合、各ページの用紙方向が適正に設定されているにもかかわらず正しい印刷結果が得られない場合があります。この場合、[ファイル] - [印刷] のプロパティにて設定する " 原稿方向 " を先頭ページの原稿方向と合わせてください。
- ・スタンプ文字を印字する際に、大きな文字を印字すると印刷が遅くなる場合があります。このような場合には、スタンプ文字のサイズを小さくして印刷してください。
- ・Windows XP Professional/Vista/7 および Windows Server 2003/2008 でご使用の場合、プリンターのプロパティの内容を変更するには「プリンターの管理」のアクセス権が必要です。内容を変更するときは、Administrators グループのメンバーとしてログオンしてください。プリンターのプロパティの設定をユーザーごとに変えることはできません。プリンターのプロパティで行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの設定になります。アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。
- ・[プリンターと FAX] ウィンドウから、印刷設定のプロパティを表示させる場合、印刷設定をユーザーごとに変えることはできません。印刷設定のプロパティで行った設定が、このプリンタードライバーを使って印刷するすべてのユーザーの初期値になります。アプリケーションによっては、ここで設定した初期値が反映されない場合があります。
- ・アプリケーションソフトによっては、印刷ダイアログを独自に拡張しているものがあります。アプリケーションソフト固有の印刷機能やオプション設定などについては、それぞれのアプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。
- ・Adobe Acrobat/Adobe Reader のバージョンまたは印刷データによっては、プリンタードライバー機能との組み合わせによりお客様が期待していない動作、印刷結果となる場合があります。
- ・アプリケーション（Excel 等）によっては、印刷の設定がファイル保存時に同時に保存される場合があります。それが原因で下記のような動作を起こすことがあります。印刷設定を確認のうえ、ご使用ください。

保存時の「通常使うプリンター」と使用時の「通常使うプリンター」が違う場合

- ・保存時の設定が引き継がれない

（例：両面印刷の設定をして保存し、保存したファイルを「通常使うプリンター」と違うプリンターに設定されている状態で印刷すると、片面で印刷されることがある（ツールバーの「印刷」でプリンターをファイル保存時と同じものに変更しても解除されている）、等）

保存時の「通常使うプリンター」と使用時の「通常使うプリンター」が同じ場合

- 保存時の設定が引き継がれる
(例：両面印刷の設定をして保存し、保存したファイルを「通常使うプリンター」と同じプリンターに設定されている状態で印刷すると、デフォルト設定が片面印刷になっていたとしても両面で印刷されることがある、等)
- インターネット回線などの外部回線を経由してプリンターとコンピューターが接続されている場合、LAN での接続に比べて、印刷速度が遅くなる場合があります。外部回線を経由した印刷が回線速度を考慮しても著しく遅い場合は、プリンタプロパティの [ポート] タブ → [ポートの構成] → [LPR バイトカウントを有効にする] のチェックを外して印刷速度が改善される場合があります。
- アプリケーションの「部単位で印刷」の設定は "OFF" にして印刷を行ってください。ソートの設定はドライバー上の「ソート」の項目で行ってください。
- 「不正コピー抑止」機能は、必ずしも情報漏洩を防止するものではありません。
 - 不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガード機能が、常時有効に機能することを保証するものではありません。使用する用紙ならびにコピー機の機種および設定条件等によっては、不正コピー抑止地紋による不正コピー抑止効果および不正コピーガード機能が有効に機能しない場合もあります。この点をご理解の上、ご使用ください。
 - 不正コピー抑止地紋および不正コピーガード機能を使用または使用できなかったことにより生じた損害については、一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承ください。
- Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 の Active Directory Service において、機能や属性（例：両面印刷、印刷速度、用紙サイズ）でプリンターを検索する手段が提供されていますが、本製品ドライバーはこの機能に未対応です。本ドライバーの導入時その他で、この検索機能を利用しないでください。
- Adobe Acrobat において、文字化けする場合があります。この場合は、印刷ダイアログのプリンタプロパティを開き、「印刷品質」タブの [ユーザー設定の変更] で、「イメージデータに変換して印刷する」に変更するか、「応用設定」タブの [TrueType フォントの置換編集] においてフォントの変更を行うと、解決できる場合があります。（機種によっては [TrueType フォントの置換編集] 機能はありません）
- 機密印刷機能により拡張 HDD (オプション) に蓄積された文書は、プリンターの電源を切っても消去されずに残ります。機密印刷を実行すると蓄積された機密印刷ジョブは自動的に削除されます。以下の場合、文書は拡張 HDD に蓄積されません。文書が蓄積されなかったことが分かるように通知させるには、「Network Monitor for Client」の印刷ポートを使用し、「印刷通知」の「印刷処理中にエラーが発生した場合に通知する」を有効 (チェックあり) にしてください。また、蓄積されなかった文書はエラー履歴で確認できませんが、古くなった履歴は削除されます。
 - 機密印刷と試し印刷の文書が、拡張 HDD に合計して 100 ジョブ蓄積されているときに送信された 101 番目の文書 (印刷データによっては、この文書数よりも少なくなることがあります)
 - 1 文書あたり 1,000 ページを超える文書を送信した場合
 - 送信した文書が、拡張 HDD に蓄積されている文書の総ページ数と合わせて、9,000 ページを超える場合 (印刷データに) よっては、この文書数よりも少なくなることがあります)

- SSL（暗号化通信）印刷のサポート OS は、Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7。プロトコルは IPP です。IPP ポートの接続ポート数は1つです。なお、IPP プロトコルでは、データの再送が考慮されていません。IPP ポートを使用する場合は、プリンタービジーやエラーなどによる再送を考慮した運用が必要です。IPP ポートの作成は Network Monitor for Client から行ってください。SSL（暗号化通信）は「Network Monitor for Client」の IPP ポートのご使用を推奨します。プリンターの URL は、「https://（本製品のアドレスまたはホスト名）」と入力します。この場合、ご使用のパソコンに Internet Explorer がインストールされている必要があります。最新のバージョンをお使いください。Internet Explorer6.0 以降を推奨します。
- 双方向通信がうまくいかない場合は印刷速度が遅くなることがあります。RPCS プリンタードライバの印刷処理の配分でコンピューター優先を選択してください。
- Windows Server 2003 ではログイン権限によって双方向通信できない場合がありますのでご注意ください。
- 高解像度モード（1200dpi 相当）では高精細な印刷が行えますが、印刷データのサイズが増加したり、モアレが強調される場合があります。また、極細線や極小網点は、印刷されない場合があります。

RPCS プリンタードライバーに関する注意と制限事項

◆ Windows Server 2003 動作時の制限事項

- Windows Server 2003 環境では一般ユーザー権限では以下の機能が使用できなくなります。使用できない機能は半輝度としています。印刷方法、合成の追加、設定内容の保存 / 呼び出しは、Administrator 権限でも使用することができません。
 - 印刷方法
 - 合成の追加
 - ワンクリックアイコンの登録
 - 印刷品質—ユーザー設定の登録
 - 不定形サイズの登録
 - 合成・スタンプの登録
 - 設定内容の保存 / 呼び出し

◆ 印刷に関する制限 / 注意事項

- Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 環境では、Windows ディレクトリがあるドライブの直下に、"_rpcs" ディレクトリが生成されます（例えば、Windows ディレクトリが C:\Windows の場合には、C:_rpcs が生成されます）。通常このディレクトリは、隠しフォルダで生成されます。
- 集約印刷・変倍機能を使用して印刷される場合、描画位置によって罫線の太さが違って印刷されることがあります。
- スタンプ印字にて文字スタンプの中抜き指定と太字指定を同時指定した場合、ご使用の OS により太字印字が効かない場合があります。
- Windows の区切りページを使用すると正常に印刷されない場合があります。
- Windows XP の Fast User Switching モードで複数ユーザーからご利用なる場合、以下の機能は、あるユーザーで設定した値が他のユーザーにも反映されるので注意してください。必ず、プリンタードライバの画面で正しい設定になっているかを確認してから印刷してください。
 - ワンクリック設定アイコン

- ・印刷品質ユーザー設定アイコン
- ・印刷方法
- ・スタンプ
- ・合成
- ・不定形サイズの登録
- ・章区切り
- ・複数部数をソート機能を使用しないで1→1→2→2のようにページ単位で印刷する場合には、[プリンター] ウィンドウからプリンタードライバーの設定画面を開き、仕上げタブの [ソート (一部ごと)] のチェックをはずしてください。
- ・封筒やパンチ済み紙のように方向を持つ用紙の場合、180 度回転した印刷結果になることがあります。この場合、[その他タブ] の [180 度回転] を指定してご使用ください。この場合には [初期設定画面] の [原稿方向混在設定] を指定してご使用ください。
- ・OS の言語と異なる言語のプリンタードライバーを使用すると、文字が正常に印刷されなかったり、プリンタードライバーの画面上の文字が正常に表示されなかったりすることがあります。
- ・プリンターフォント使用時半角アップバー (～) は上付き直線になります。
- ・Microsoft Office バインダーからの印刷はできません。
- ・プリンタードライバーのプリンター名、ポート名が 32 文字以上の場合、アプリケーションからそのプリンターを選択したり、印刷開始するとアプリケーションが強制終了する場合があります。このような場合は、プリンタードライバーのプリンター名やポート名を短くしてください。
- ・「不正コピー抑止」機能で [繰り返し印字] を指定すると、フォントの種類によっては印刷ができなくなることがあります。このような場合は、[行間] を広げてご使用ください。
- ・「不正コピー抑止」機能で [文字列のみ] を指定すると、マスクパターンは印刷されません。マスクパターンを印刷する場合はこのチェックをはずしてください。
- ・「不正コピー抑止」機能で [中抜き] を指定する場合は [文字列地紋・背景地紋入れ替え] も指定してご使用ください。
- ・大きなサイズや高解像度のイメージデータを印刷する場合、メモリーの不足により印刷されない場合があります。解像度を 1200dpi で印刷している場合は 600dpi に設定して、改善を試みてください。
- ・変倍機能で、独立変倍を指定した場合、文字データが正常に印刷されない場合があります。
- ・合紙指定をすると部数指定が無効となります。このとき、[ユーティリティー] タブの「印刷プレビュー画面を表示」をチェックして印刷を行った場合も印刷プレビュー画面の部数指定は無効になります。
- ・アプリケーションによっては、1 つの印刷ジョブを複数に分割してプリンタードライバーに送信して来るために、[印刷方法] が印刷ジョブの途中で解除されてしまうことがあります。このような場合は、[初期設定] - [印刷後の設定] で、通常印刷に戻す設定をオフに変更してください。
- ・プリンター名を変更すると、ワンクリックアイコンの登録情報は初期化されます。

◆ Windows Terminal Service 動作時の制限事項

- ・《ドライバー機能について》
 - ・ Windows Terminal Service 及び Citrix XenApp (旧 Citrix Presentation Server/Meta Frame) 環境では一部の機能が使用できなくなります。使用できない機能は半輝度としています。
- ・《印刷について》
 - ・ サイズの大きい画像データなどのデータを印刷した際に、データ抜けが発生する場合があります。
- ・《「自動作成されるクライアントプリンタ」について》
「自動作成されるクライアントプリンタ」とは、サーバー側にクライアントローカルプリンタの情報をコピーして作られる仮想クライアントローカルプリンタを使用して印刷する機能です。
 - ・ 正しくプリンタードライバーの情報が複製されない場合があります。
 - ・ クライアント側にて設定したオプション構成などの一部設定を引き継ぐことができません。
 - ・ サイズの大きい画像データなどのデータを印刷した際に、通信回線の帯域制限により印刷されない場合があります。
- ・《プリンタードライバーの複製機能について》(Citrix XenApp のみ)
 - ・ プリンタードライバーの複製機能は、プリンタードライバーの情報をサーバーファーム内の他のすべてのサーバーに複製する機能です。
 - ・ Citrix XenApp の仕様により正しくプリンタードライバーが複製されない場合があります。ご使用になる前にご確認の上、運用していただきますようお願いいたします。正しく複製がされない場合には、各サーバーにプリンタードライバーをインストールして運用していただくことを推奨いたします。

◆ EMF での印刷について

- ・《EMF モードで印刷する設定方法》
 - ① 「プリンタプロパティー 詳細設定 - 詳細な印刷機能を有効にする」(初期値はチェック ON です)
 - ② 「ドキュメントプロパティーその他 - EMF スプールする」
- ・《Point&Print 時の印刷について》
 - ・ 「スタンプ印字 / 合成」が正しく印刷されない場合があります。
 - ・ 「不定形」が正しく指定されない場合があります。
 - ・ 「章分け / 章区切り」機能が正しく動作しない場合があります。
 - ・ 「印刷後の設定」機能が正しく動作しない場合があります。

◆ 64bit 対応版について

- ・《ドライバー機能について》
 - ・ RPCS プリンタードライバー API は使用できません。
- ・《印刷について》
 - ・ 32bit アプリケーションから RAW スプールでの印刷を行うと、印刷結果が期待通りにならない場合があります。EMF モードで印刷してください。(設定方法は、「EMF での印刷について」を参照してください)
 - ・ 出力先指定でファイルは使用しないでください。
 - ・ プリンタフォント (ゴシック・明朝) は、アプリケーション上から指定できません。
 - ・ プリンタフォント (ゴシック・明朝) をアプリケーション上から指定していた文書 をフォントを変更せずに印刷すると、指定と異なるフォントで印刷されます。

- ・《バージョンアップを行う方へ》
 - ・ドライバー暗号鍵を設定されている場合、保存形式の変更のため、Ver7.5x 以下のバージョンからドライバーをバージョンアップした際は、ドライバー暗号鍵の再設定を行ってください。

◆ ヘルプについて

- ・ご使用の機種によっては、Windows 95/98/ME/NT4.0 でヘルプボタンをクリックしても何も表示されません。但し、ドライバーの DISK1 ディレクトリに HTML ヘルプファイルが存在する場合には、そのファイルを直接開くことによりヘルプを参照することができます。そのためには、少なくとも Internet Explorer のバージョン 4.01 以降がインストールされている必要があります。
- ・Windows Vista 以降では、Windows XP/Windows Server2003 で使用している、Winhelp 形式と呼ばれる古いヘルプ モデルが未サポートとなりました。機種によっては、Winhelp形式のヘルプファイルを使用しているためデフォルトでは表示できません。詳細は、マイクロソフト社ホームページをご覧ください。なお、該当機種においては Windows Vista/Server 2008/7 形式のヘルプファイルに対応する予定はございません。
- ・《不正コピー抑止について》
 - ・[繰り返し印字] を指定すると、フォントの種類によっては印刷ができなくなる場合があります。このような場合は、[行間] を広げてご使用ください。
 - ・[文字列のみ] を指定すると、マスクパターンは印刷されません。マスクパターンを印刷する場合はこのチェックボックスを OFF にしてください。
 - ・[中抜き] を指定する場合は [文字列地紋・背景地紋入れ替え] も指定してご使用ください。
 - ・不正コピー抑止文字列とフォントの組合せによっては、抑止文字列が印刷されない場合があります。
- ・《Windows の機能について》
 - ・ご使用のパソコンで、Windows システム上における仮想メモリの設定が小さいとメモリ不足が発生し、アプリケーションやプリンタードライバーでの描画処理を正常に行うことができず、以下のような現象が発生し、正常に印刷されない場合があります。
 - ・メモリ不足メッセージの表示
 - ・アプリケーションエラーの発生
 - ・警告なしの印刷中断
 - ・プリンター側の表示パネルに「P1 コマンドエラー」の表示がなされ、印刷が途中で終了する。このような場合は、Windows システム上の仮想メモリの設定を大きくして印刷してください。仮想メモリの設定を大きくしても効果がない場合には、パソコン上のメモリを増設してください。
- ・《印刷プレビューについて》
 - ・プリンターフォルダにてプリンターアイコン名を変更すると、印刷プレビュー時にプレビューされず、印刷されるなどの誤動作を起こす可能性があります。このような場合は、一度名称を変更したプリンターのプロパティを開き、OK ボタンを押下して閉じてください。
 - ・合紙指定をすると部数指定が無効となります。このとき、[ユーティリティー] タブの「印刷プレビュー画面を表示」チェックボックスを ON にして印刷を行った場合も印刷プレビュー画面の部数指定は無効になります。

- [印刷品質] タブのユーザー
- 《Network Monitor for Client 関連について》
 - Network Monitor for Client のポートを使用しているとき、以下の画面からは正しくヘルプの印刷が行えない場合があります。
[プリンター] ウィンドウ [プリンタプロパティ-ポート-ポートの構成] ダイアログで [ヘルプ] をクリック。
- 《フォント/文字について》
 - スタンプ文字を印字する際に、大きな文字を印字すると印刷が異常に遅くなる場合があります。このような場合は、スタンプ文字のサイズを小さくして印刷してください。
 - "Adobe Type Manager" がインストールされている環境では、フォントの種類によってはフォントが印刷されない場合があります。このような場合は、"Adobe Type Manager" で以下の設定を行ってください。
 - 1) "Adobe Type Manager" を起動
 - 2) [Settings] タブ
 - 3) [Advanced Settings] 画面の "Print Fonts as Graphics" チェックボックスを ON にする。
 - フォントによっては、[その他] タブの「スペースを印刷する」を選択しても、スペースが印刷されない場合があります。このような場合は、[印刷品質] タブのユーザー設定で「TrueType フォントの展開処理を変更する」チェックボックスを ON にすることにより改善される場合があります。
 - 機種によっては TrueType フォントをプリンタフォントに置換する機能がないため、次のような影響が出る場合があります。
 - ゴシックなどのデバイスフォントを使用したデータにおいて、正常に出力できない場合があります。
 - MS ゴシックなどの TrueType フォントにおいて、字形が異なって出力される場合があります。
 - 機種によってはビットマップ文字が太くなることがある問題を修正したため、ビットマップ文字が細くなります。
 - 機種によっては太字を太くする機能がないため、太字の印字結果が細くなります。
 - 機種によってはゴシックなどのデバイスフォントを使用する機能が無いため、アプリケーション上からデバイスフォントを指定できません。
 - 機種によっては置換テーブルにしたがって他のフォントに置換する機能はありません。
 - 文字列スタンプ、ヘッダー・フッター、地紋として指定する文字列に F040 以降の「外字」が含まれている場合、文字列が正常に印刷されません。
- 《双方向通信関連について》
 - IPP ポートおよび IPv6 ポートを使用時、または、Bluetooth 印刷環境において、オプション構成や給紙トレイ用紙の自動設定のための双方向通信に失敗する場合があります。このような場合は、印刷の多くに支障はありませんが、最適な環境での印刷を行うため、プリンタプロパティの [オプション構成の変更 / 給紙トレイ変更] を手動で設定してください。
 - 双方向通信に失敗した場合、印刷速度が遅くなる場合があります。このような場合は、[初期設定] タブの「印刷処理の配分設定」にて「コンピューターの処理を優先」を選択することにより改善される場合があります。

- 奇数ページで終わる印刷データで両面印刷を指定すると、余分な 1 ページが追加される場合があります。追加されたページは、1 ページとしてカウントされる場合があります。
- ご使用のパソコンの搭載しているメモリーの量によってはアプリケーションからの印刷処理に時間がかかる場合があります。また、メモリーの制限などで OS やアプリケーション側で印刷処理が継続できなくなった場合はアプリケーション側で印刷処理を中断してしまう場合があります。
- 使用環境や印刷されるデータにより、一般保護違反エラーが発生する場合があります。
- 使用するディスプレイドライバーにより、一部正常に印刷されない場合があります。
- アプリケーションによってはプリンタードライバーの縮小指定を行うと一部正常に印刷されない場合があります。
- アプリケーションによっては、画面上の網掛けパターンと印刷結果が異なる場合があります。
- アプリケーションによっては、画面上のイメージデータが一部印刷されない場合があります。
- アプリケーションからプリンタードライバーの設定画面を開いて印刷設定をおこなう場合、その設定内容（例：両面印刷の指定など）がアプリケーションによっては、印刷後に保持されない場合があります。これらの設定値を保持する・しないはアプリケーション側に依存しているため、繰り返し印刷をおこなう場合や、次のアプリケーション起動時に、前回の設定値が必ずしも正確に反映されない場合があります。アプリケーションから印刷をおこなう場合には、そのつど必ず印刷画面からプロパティを開き、印刷条件を再度設定したうえで印刷を実行するようにしてください。
- 用紙方向が混在する文書の印刷において、[ファイル] - [印刷] のプロパティにて選択する「原稿方向」が、先頭ページの原稿方向と一致していない場合、各ページの用紙方向が適正に設定されているにもかかわらず正しい印刷結果が得られない場合があります。このような場合は、[ファイル] - [印刷] のプロパティにて設定する「原稿方向」を先頭ページの原稿方向と合わせてください。
- Excel 以外のアプリケーションで、プリンタードライバーのプロパティの [応用設定] タブの「アプリケーションが継承する設定項目を増やす」のチェックボックスを ON にして印刷した場合、印刷設定が正常に反映されない場合があります。このような場合は、「アプリケーションが継承する設定項目を増やす」のチェックボックスを OFF にして印刷してください。
- 縦書き時の傾斜は横書き時と同じ方向になる場合があります。
- 集約印刷・変倍機能を使用して印刷される場合、描画位置によって罫線の太さが違って印刷される場合があります。
- クロスプラットフォームのプリンタードライバーを使用する場合は、クライアントマシンがプリンタードライバーをロードする前に、必ずサーバーに代替ドライバーをセットアップしてください。
- 封筒やパンチ済み紙のように方向を持つ用紙の場合、180 度回転した印刷結果になる場合があります。このような場合は、[その他] タブの「180 度回転」を指定してご使用ください。また、原稿の方向が縦横混在した文書でも、縦と横の相対的な回転方向が 180 度反対の結果になる場合があります。このような場合は、[初期設定画面] の「原稿方向混在設定」を指定してご使用ください。
- 複数部数をソート機能を使用しないで 1 → 1 → 2 → 2 のようにページ単位で印刷する場合には、[プリンター] ウィンドウからプリンタードライバーの設定画面を開き、[仕上げ] タブの「ソート（一部ごと）」のチェックボックスを OFF にしてください。

- 2 ページの文書を 3 部印刷する場合、アプリケーションでソートを指定するとパソコンからは 6 ページ分のデータがプリンターに送られて来ることがあります。印刷画面に「部単位で印刷」を持つアプリケーションについては、このチェックボックスを OFF にしてください。
- Microsoft Office バインダーからの印刷はできません。
- プリンタードライバーのプリンター名、ポート名が長い場合、アプリケーションからそのプリンターを選択したり、印刷開始するとアプリケーションが強制終了する場合があります。このような場合は、プリンタードライバーのプリンター名やポート名を短くしてください。
- 「写真・イメージ画像を補正する」機能で、露出オーバー、露出アンダー気味の画像データ以外に補正処理を適用させると補正が正しく行われな場合があります。
- 「写真・イメージ画像を補正する」機能を使用した場合、画像データによっては正常に補正が行われな場合があります。
- 大きなサイズや高解像度のイメージデータを印刷する場合、メモリーの不足により印刷されない場合があります。解像度を 1200dpi で印刷している場合は 600dpi に設定して、改善を試みてください。
- アプリケーションによっては、1 つの印刷ジョブを複数に分割してプリンタードライバーに送信して来るために、[印刷方法] が印刷ジョブの途中で解除されてしまう場合があります。このような場合は、[初期設定] - [印刷後の設定] で、通常印刷に戻す設定を OFF に変更してください。
- プリンター名を変更すると、ワンクリックアイコンの登録情報は初期化されます。
- トナーセーブ機能とスムージング機能が同時に指定できない / 機能しない場合があります。トナーセーブ機能を設定したい場合には、スムージング機能は設定しないでください。スムージング機能を設定した場合には、トナーセーブ機能は無効になります。
- 機能選択限定機能を持つ機種において、[応用設定] タブの機能選択限定機能で機能を制限すると、それ以前に作成した「ワンクリック設定アイコン」は、正常に呼び出せない場合があります。機能選択限定を設定する場合には、先に機能選択限定を設定してから、「ワンクリック設定アイコン」を作成してください。
- 「トンボ印字」機能を持つ機種において、トンボ印字の設定をしても、原稿サイズと用紙サイズが同じ場合や用紙サイズいっぱい面に面付けされる場合など、トンボが印刷されない場合があります。
- 表紙印刷と章区切りをサポートする機種において、1 ページ目に対して、表紙印刷と章区切りの同時指定ができますが、実際は表紙片面印刷がされます。
- 原稿方向とトレイの用紙方向が異なる場合に印刷に非常に時間が掛かる場合があります。このような場合は、[初期設定] タブの「印刷処理の配分設定」にて「コンピューターの処理を優先」を選択することにより改善される場合があります。
- 「Web Image Monitor」機能を持つ機種において、IPv6 をお使いの場合、IPv6 ポートの設定によっては、「Web Image Monitor」ボタンで Web Image Monitor 画面を開けない場合があります。

PostScript ドライバーについて

- (フル) 付きの用紙サイズを指定して印刷を行った場合、アプリケーションや OS によっては、画像が欠けてしまい正常に印刷できない場合があります。
- プリンタードライバー上ではプリンターの HDD の有無に関わらず、「試し印刷」「機密印刷」が常に設定可能ですが、HDD 未装着の状態ではプリンターが「試し印刷」「機密印刷」に非対応のため、自動的に「通常印刷」となります。
- Windows 95/98/Me/NT4.0/2000/XP/Server 2003 から PageMaker から「試し印刷」「機密印刷」「保留印刷」「プリンターに保存」「ユーザーコード」機能は使用できません。また印刷開始時刻の情報も印刷データに反映されません。
- 網掛けなど画像のパターンによっては色味が異なって印刷される場合があります。この場合、印刷品質のユーザー設定にて、ディザリングの設定を印刷する画像（色味）に合ったディザパターンに変更してください。
- OS またはアプリケーションによって、印刷部数に 1000 部以上の部数が設定できますが、1000 部以上の部数は全て 999 部に統一されます。
- カスタム用紙サイズを設定する際、ダイアログに表示している値の範囲内であっても「カスタムページサイズのパラメータに矛盾があります。」の警告ダイアログが表示される場合があります。
- カスタム用紙サイズ印刷時、用紙サイズの計算誤差により、サイズの不マッチが発生する場合があります。
- Windows の区切りページを使用すると正常に印刷されない場合があります。その場合には区切りページを使用しないでください。
- 白黒反転印刷の機能は、「画像モード」または「カラープロファイル」を「ユーザー設定」にしたときに有効になります。
- ドライバー上の給紙トレイ指定箇所で「自動選択トレイ」を指定している場合、全ての用紙の種類が選択できます。「手差しトレイ（マルチ）」からしか給紙できない用紙の種類（OHP、厚紙など）を使用する際は、給紙トレイを「手差しトレイ（マルチ）」に設定して印刷を行ってください。
- 奇数ページで終わる印刷データで両面印刷を指定した場合、PostScript ドライバーとアプリケーションとの組み合わせによっては、自動的に白紙ページが追加される場合があります。自動的に追加される白紙ページは、モノクロ 1 ページとしてカウントされます。自動的に追加される白紙ページをカウントさせない場合には、プリンター本体側の PS パネルメニューより「白紙排紙」の設定を「しない」に設定することにより白紙ページはカウントされなくなります。
- 詳細オプションダイアログ内で「部数」の項目を複数部数に選択すると「部単位」のチェックボックスが表示されますが、この箇所は OFF の設定にして印刷してください。ソート機能の設定は、詳細オプションダイアログの「ドキュメントのオプション」 - 「プリンターの機能」 - 「ソート」の箇所で行ってください。
- 印刷中に本体パネルに表示されるファイル名が文字化けする場合があります。例えば、表、能、貼の文字を含むファイル名の文書を印刷した場合、文字化けする場合があります。
- N-up 印刷時に（フル）付きの用紙サイズを指定して印刷を行った場合、アプリケーションや OS によっては、通常用の紙サイズで印刷を行った時に比べ若干大きく印刷される場合があります。
- バイナリデータを使用した EPS ファイルを含む文書を印刷する場合、文字化けしたデータが大量に印刷される恐れがあるため、以下のように設定してください。
プリンター本体の設定 (Windowsh) : 「データ形式」を「バイナリ」に設定してください。

ドライバーの設定 (Windows) : データ形式 (Windows 9x)、あるいは、出力プロトコル (Windows NT4.0/2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7) を、「ASCII」あるいは「バイナリ」に設定してください。

- ・カスタム用紙サイズを設定する際、ドライバー内部での計算上の丸め誤差の影響により次のような現象が発生する場合があります。
 - ・ドライバーUI上に表示される設定可能な範囲内にカスタム用紙サイズを設定しても警告ダイアログが表示される場合があります。
 - ・ドライバーUI上で設定できる最大サイズまたは最小サイズを入力しても印刷できない場合があります。
 - ・ドライバーUI上に表示されている設定可能な範囲外にカスタム用紙サイズを設定しても警告ダイアログが表示されない場合があります。
 - ・カスタム用紙サイズ印刷時、用紙サイズの計算誤差により、サイズの不マッチが発生する場合があります。
- ・PageMaker よりカスタム用紙サイズ印刷時、アプリケーションでトレイの指定を行っても正しくコマンドが出力されないため「自動選択トレイ」の動作となります。「手差しトレイ」などに設定したカスタム用紙サイズは給紙されません。その場合、プリンターの本体パネルより給紙するトレイを選択し強制印刷を行ってください。
- ・PageMaker からの印刷では「自動トレイ選択」の選択肢が表示されません。必ずトレイ指定の動作になります。(デフォルトは「トレイ1」)。
- ・「Microsoft Office XP」文書のオートシェイプの塗りつぶしでテキストを指定した場合、印刷結果に透過性は反映されません。
- ・データ形式 (Windows 9x)、出力プロトコル (Windows NT4.0/2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7) を「TCP」に設定した場合、PS エラーが発生したり、部数設定が不正になる場合があります。その場合、データ形式、出力プロトコルは「ASCII」の設定でご使用ください。
- ・「Microsoft Word」のカスタム用紙サイズの文書は正常に印刷されない場合があります。
- ・カスタム用紙サイズを設定する際、ダイアログに表示している値の範囲内であっても「カスタムページサイズのパラメータに矛盾があります。」の警告ダイアログが表示される場合があります。
- ・カスタム用紙サイズ印刷時、用紙サイズの計算誤差により、サイズの不マッチが発生する場合があります。
- ・網掛けなど画像のパターンによっては色味が異なって印刷される場合があります。この場合、印刷品質のユーザー設定にて、ディザリングの設定を印刷する画像 (色味) に合ったディザパターンに変更してください。
- ・アプリケーションによっては、用紙指定変倍が有効にならない場合があります。
- ・「不定形のサイズ登録」にて幅と高さの値が変更された後、mm/inch 切り替えを行うと値が変動する場合があります。
- ・両面印刷の「長辺とじ」と「短辺とじ」が使用可能な条件の場合、「シートごとのページ」に「小冊子」は表示されません。
- ・方向混在の文書を N-up 印刷時に、アプリケーションによって印刷の方向が正しく出力されない場合があります。
- ・N-up/ 小冊子印刷時、印刷データに特定種別の図形描画オブジェクト (PASSTHROUGH オブジェクト) が含まれていると正しい印刷結果を得ることができない場合があります。具体的には、図形描画オブジェクトの向きが正しくない、オブジェクトが表示されない、あるいは変倍が機能しないなどの症状が発生します。このような場合、ドライバーの「詳細設定」タブ「プリントプロセッサ」からプリントプロセッサ設定画面を表示し、

- 「WinPrint」を設定することで正しく印刷される可能性があります。
- 出力プロトコルを「TCP/IP」に設定した場合、PS エラーが発生したり、部数設定が不正になる場合があります。その場合、データ形式、出力プロトコルは「ASCII」の設定でご使用ください。
 - Windows 2000/XP/Server 2003 を使用して、「PageMaker 6.0J/6.5J」からの印刷時、「オプション」の「和文フォントダウンロード」の項目を「ビットマップ」に設定しないと正しく印刷されない場合があります。
 - Windows 2000/XP/Server 2003 を使用して、PageMaker から「オブジェクトの挿入」を使用して他のアプリケーションの文書を挿入した場合、その挿入した部分の TrueType フォントが正常に印刷できない場合があります。
 - Windows 2000/XP/Server 2003 を使用時、印刷設定画面の右上にある「？」ボタンを押下しても何も表示されません。ヘルプを表示させるためには、画面右下の「ヘルプ」ボタンを押してください。

Network Monitor for Admin に関する注意と制限事項

◆ インストール時の制限

- Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 でインストールする場合はユーザーに Administrator の権限が必要です。
- バージョンアップを行う場合は、起動している Network Monitor for Client を終了させてから行ってください。
- インストールしたユーザーと違うユーザーがバージョンアップすると、正しくバージョンアップされません。インストール時と同じユーザーでログオンして行うか、アンインストールしてからインストールを行ってください。
- インストール先のフォルダは Windows ディレクトリを指定しないでください。また、Network Monitor for Client がインストールされている場合は Network Monitor for Client と異なるフォルダを指定してください。
- インストール時にインストール完了画面が背面に表示されることがあります。この場合タスクバー上の該当部分を開いてください。
- ネットワークドライブからインストールするとき、クライアントとサーバーの双方がロングファイルネームをサポートしていない場合、インストールできないことがあります。ロングファイルネームをサポートしていない場合は、インストール元のネットワークドライブのディレクトリ名を DOS8.3 形式で作成してください。

Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 ファミリーでターミナルサービスを実行している環境で Network Monitor for Admin をインストールする場合は、必ずインストールモードでインストールを行ってください。インストールモードでインストールを行うには以下の 2 通りの方法があります。

- 1) [コントロール パネル] の [アプリケーションの追加と削除] を使用して Network Monitor for Admin をインストールします。
- 2) MS-DOS コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。
CHANGE USER /INSTALL
インストール モードを終了するには、MS-DOS コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。
CHANGE USER /EXECUTE
詳しくは Windows のヘルプをご覧ください。

- Microsoft Windows 95/98/Me のネットワークドライブから Windows 2000/XP/Server 2003/Vista /Server 2008/7 へのインストールは行う事が出来ません。インストールを行う際は、ローカルドライブにコピーし実行してください。

◆ アンインストール時の制限

- Network Monitor for Admin が起動している場合は、終了させてからアンインストールを行ってください。
- インストールしたユーザーと違うユーザーがアンインストールすると、データが完全に削除されず正しくアンインストールされません。インストール時と同じユーザーでログオンしてアンインストールを行ってください。
- Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 でアンインストールする場合はユーザーに Administrator の権限が必要です。

◆ 注意 / 制限事項

- ネットワークの負荷が高い場合、機器が応答しなかったり、一部の情報が取得できないことがあります。例えば複数のコンピューターから同じ機器を同時に監視した場合（コンピューターの台数は環境によって異なります）です。この現象が発生するときは、機器情報画面で [設定] をクリックし、[応答待ち時間] を長めに設定してください。
- TCP/IP の機器検索で指定サブネットを用いて機器検索を行った場合、ルータ機器におけるブロードキャストの設定、機器側のサブネットアドレスの設定によっては、機器検索ができないことがあります。
この場合、ネットワーク管理者にご相談ください。
- イーサネットボード設定ツールのイーサネットボードリスト画面においてTCP/IPプロトコルにてプリンターをブラウズした場合、一部の機種でMACアドレスが"未取得"と表示される場合があります。このような機種のMACアドレスを確認する場合は、機種を選択して"次へ"をクリックしてください。
- ネットワークにダイヤルアップ回線を接続しているお客様は、適切な対応を行わない場合、多大な通信料がかかることがあります。本ユーティリティーは周期的に機器と通信を行いますので、設定したアドレスの値によっては回線が接続されたままの状態になることがあります。アドレスを指定するときは回線の接続が発生しない値に設定してください。また、本ユーティリティーをインストールしたコンピューターを移設する場合など、登録済みの機器のアドレスによっては回線の接続が発生する場合がありますので、必ず利用しない機器は監視を止めるか、登録を削除してください。
- 次の環境に該当する場合、Network Monitor for Admin を一度削除し、アップグレード後に再インストールする必要があります。
 - OS を Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 にアップグレードした環境
 - Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 において、Network Monitor for Admin をインストールしたドライブのフォーマットを FAT から NTFS にコンバートした環境
- Windows XP Home Edition においては、IPX/SPX プロトコルによる機器検索はおこなえません。
- 同じパソコンにウィルス対策ソフトが導入されている場合、その設定によっては正しく機器検索を行えない場合があります。
詳しくは、ウィルス対策ソフトのマニュアルを参照してください。
- 次の条件に該当する場合、グループメニューの [機器検索] - [IPX/SPX] がグレーアウトし選択できないことがあります。

- Windows 2000/XP に Novell 社提供の Client をインストールされている環境で、Windows 2000/XP にログインする際に、NetWare へのログインを行っていない。Windows 2000/XP へログインする時は NetWare へのログインも同時に行うようにお願いします。
- 検索・監視条件設定の範囲指定で指定した範囲が広い場合、検索に時間がかかります。[グループ] メニューの [閉じる] をクリックするか、機器検索ウィンドウの右端の X をクリックして中止することが出来ます。
- TCP/IP の機器検索で指定サブネットを用いて機器検索を行った場合、ルータ機器におけるブロードキャストの設定、機器側のサブネットアドレスの設定によっては、機器検索ができないことがあります。この場合、ネットワーク管理者にご相談ください。
- SNMPv3 での情報取得時、入力した暗号パスワードと、機器に設定された暗号パスワードが一致しない場合、状態が「応答なし」と表示されます。
- 機器にサーバー証明書を実インストールし、暗号化通信 (SSL 通信) を行う場合、証明書を発行したサーバーにアクセスできない環境では暗号化通信が使用できないことがあります。このとき、機器の通信許可設定が「暗号化通信のみ」だと、アドレス情報管理ツール、ユーザー情報管理ツール、イーサネットボード設定ツール、機器の詳細画面でのリセット機能が使用できなくなります。暗号化通信を可能にするには、証明書を発行したサーバーにアクセスできるよう通信環境を整えるか、インターネットエクスプローラーのインターネットオプションで、サーバー証明書の取り出し確認を無効にしてください。

Network Monitor for Client に関する注意と制限事項

◆ インストール時の制限

- ネットワークドライブからインストールするとき、クライアントとサーバーの双方がロングファイルネームをサポートしていない場合、インストールできないことがあります。ロングファイルネームをサポートしていない場合は、インストール元のネットワークドライブのディレクトリ名を DOS 8.3 形式で作成してください。

< 例 > ○ F:\PRG\RMCLIENT\ DOS 8.3 形式
 × F:\PROGRAMFILES\RMCLIENT\ DOS 8.3 形式でない
 ディレクトリ名が長すぎる

* DOS 8.3 形式は、ファイル / ディレクトリ名の文字長が 8 文字以下 + ピリオド + 拡張子 3 文字以下の範囲。

- Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 でインストールする場合はユーザーに Administrator の権限が必要です。
- バージョンアップを行う場合は、起動している Network Monitor for Client を終了させてから行ってください。また、全ての印刷が終了していること、Network Monitor for Client のポートの追加、設定を行っていないことを確認してください。
- インストールしたユーザーと違うユーザーがバージョンアップすると、正しくバージョンアップされません。インストール時と同じユーザーでログオンして行うか、アンインストールしてからインストールを行ってください。
- インストール先のフォルダは Windows ディレクトリを指定しないでください。また、Network Monitor for Admin がインストールされている場合は Network Monitor for Admin と異なるフォルダを指定してください。
- インストール時にインストール完了画面が背面に表示されることがあります。この場合、タスクバー上の該当部分を選択し、前面に表示して下さい。

- 次の環境に該当する場合、Network Monitor for Client を再インストールする必要があります。
 - OS を Windows XP から Windows Vista/Server 2008/7 にアップグレードした環境
 - Windows 2000/XP/Server 2003 において、Network Monitor for Client をインストールしたドライブのフォーマットを FAT から NTFS にコンバートした環境
- Windows 2000/Server 2003/Server 2008 ファミリーでターミナルサービスを実行している環境で Network Monitor for Client をインストールする場合は、必ずインストールモードでインストールを行ってください。インストールモードでインストールを行うには、以下の2通りの方法があります。
 1. [コントロール パネル] の [アプリケーションの追加と削除] を使用して Network Monitor for Client をインストールします。
 2. MS-DOS コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。
CHANGE USER /INSTALL
インストール モードを終了するには、MS-DOS コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。
CHANGE USER /EXECUTE
詳しくは Windows のヘルプをご覧ください。
- インストール終了時に 再起動を推奨する画面が表示されたら、必ず再起動してください。再起動する際、Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 の環境では Administrator の権限があるユーザーでログインしてください。
- Microsoft Windows95/98/Me のネットワークドライブから Windows XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 のパソコンへのインストールは行う事が出来ません。インストールを行う際は、導入先のパソコンのローカルドライブにコピーし実行してください。

◆ アンインストール時の制限

- Network Monitor for Client が起動している場合は、終了させてからアンインストールを行ってください。
- アンインストールを行う場合、全ての印刷が終了していることを確認してください。Network Monitor for Client のポートを使用して印刷している場合はエラーメッセージが表示されます。印刷が終了してから再度アンインストールを行ってください。
- アンインストールを行う場合、Network Monitor for Client のポートの追加、設定を行っていないことを確認してください。Network Monitor for Client のポートの追加、設定を行っている場合はエラーメッセージが表示されます。ポートの追加、設定を終了してから再度アンインストールを行ってください。
- Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7で アンインストールする場合はユーザーに Administrator の権限が必要です。
- アンインストール終了時に 再起動を推奨する画面が表示されたら、必ず再起動してください。

◆ 印刷時の制限

- 代行印刷・並行印刷するプリンターと印刷指示をするプリンターのオプション構成を一致させてください。印刷に必要なオプション（たとえば両面ユニットやフィニッシャーなど）が代行プリンターに装着されていない場合、オプションを使用する機能は無効になります。

- ・代行印刷・並行印刷するプリンターと印刷指示をするプリンターに同じサイズ of 用紙をセットしてください。特定の給紙トレイを指定して印刷するときは、同じトレイに同じサイズ of 用紙をセットしてください。RPCS ドライバーを使用しての印刷時に、給紙トレイを指定すると、代行印刷・並行印刷は動作しません。
- ・並行印刷する場合、アプリケーションの印刷ダイアログに「部単位で印刷」という項目があるときは、そのチェックを外してください。
- ・代行印刷、並行印刷した場合、実際に印刷したプリンターがアプリケーションから選択したプリンターと異なる場合があります。このため、機器の詳細情報画面のジョブ履歴には、印刷したジョブが反映されないケースがあります。
- ・代行印刷、並行印刷の「プリンターの選択」画面で、機器検索に時間がかかる場合に、「プリンターの選択」画面で操作を行うと、プログラムの終了のメッセージが表示される場合があります。プログラムの終了のメッセージで [すぐに終了] ボタンを押下すると、プリンターの選択画面が終了してしまい、ジョブが印刷されません。
- ・Microsoft Windows 2000/XP/Server 2003/Vista/Server 2008/7 では、印刷通知のダイアログボックスがアプリケーション画面の背面に表示されます。(Windows の仕様) 印刷通知は、タスクバーの表示でご確認下さい。
- ・IntranetWare Client インストール時、ポート名最大長は 43 文字 (バイト) 以下となります。最大長を超えると NetWare の DLL でエラーが発生します。(NetWare の制限事項)
- ・IntranetWare Client インストール時、ポート名最大長は 43 文字 (バイト) 以下となります。最大長を超えると NetWare の DLL でエラーが発生します。(NetWare の制限事項)
- ・プリントサーバー経由で印刷したときの印刷通知をクライアント PC に行なう場合、プリントサーバーを起動した直後は通知されないことがあります。また、64bit OS の場合は印刷通知をクライアント PC に行うことは出来ません。
- ・以下の場合、プリントサーバー経由で印刷したときの印刷通知をクライアント PC に行うことができません。
 - ・クライアント PC において、プリントサーバー上にあるプリンターを追加する際、ログオンしたユーザー名と異なるユーザー名でプリントサーバー上のプリンターに接続した場合
 - ・プリントサーバーに、クライアント PC のログオンユーザーと同じアカウントがない場合
 - ・プリントサーバーの OS が Windows XP/Vista/Server 2008/7 である場合、サーバー PC の Guest アカウントが有効になっていて、かつ、ローカルユーザーとして印刷を行なった場合
 - ・プリントサーバーおよびクライアント PC にウィルス対策ソフトが導入されており、ウィルス対策ソフトのファイアウォール機能が有効になっている場合
- ・プリントサーバー経由での印刷時、プリントサーバー PC とクライアント PC の導入言語が異なる場合、印刷通知機能は動作保証外となります。
- ・Windows XP/Vista/Server 2008/7 において、2 人目以降にログインしたユーザーのデスクトップがアクティブである時、代行印刷・並行印刷の条件を満たした場合でも、代行印刷・並行印刷は行いません。また、エラー通知 / 印刷完了通知も行いません。
- ・Windows XP/Vista/Server 2008/7 において、1 人目にログインしたユーザーがログオフした場合、次にログインしたユーザーで印刷通知、代行印刷・並行印刷を行います。
- ・機器が省エネモード状態の時に印刷を行うと、認証情報のチェックが行なえず代行印刷機能が正しく機能しない場合があります。
- ・以下のような場合、機器からジョブ情報が取得できず、「自分のジョブ一覧」や「印刷完了通知」でジョブの状態が " データ転送完了 " と表示される場合があります。

- ・機器のジョブスプール機能が有効に設定されている場合
- ・PS での印刷など、機器で高負荷な印刷処理を行っている場合
- ・MetaFrame を含むターミナルサービス環境にてクライアントへ印刷通知を行いたい場合は、サーバー経由でクライアントに通知する際と同様の設定を、ターミナルサーバーとクライアントの双方で実施してください。
- ・並行印刷、代行印刷のプリンターの選択や印刷通知画面において機器情報を表示する際、確認画面が表示されることがあります。次回から確認画面を表示させたくない場合、該当する設定を実施してください。
 - ・Windows 2000 において、Internet Explorer 6 を使用している場合、インターネット接続ウィザード画面が表示されることがあります。キャンセルボタンを選択後、"今後、インターネット接続ウィザードを表示しない"にチェックをつけてウィザードを閉じてください
 - ・Windows XP/Server 2003 において、Internet Explorer 7 を使用している場合、フィッシング詐欺検出機能設定画面が表示されることがあります。"自動フィッシング詐欺検出機能を有効にする (推奨)"または"自動フィッシング詐欺検出機能を無効にする"を選択してください。
 - ・Windows 2000/XP/Server 2003 において、Internet Explorer 以外のブラウザを使用している場合、Internet Explorer の設定をインポートするかどうかの確認画面が表示されることがあります。"Internet Explorer"または"インポートしない"を選択してください。
 - ・Windows 2000/XP/Server 2003 において、Internet Explorer 以外のブラウザを使用している場合、Internet Explorer が起動されることがあります。また、既定のブラウザに設定するかどうかの確認画面が表示されることがあります。Internet Explorer を既定のブラウザにしないを選択してください。

◆ ポートの追加 / 設定時の注意事項

- ・プリンターのプロパティ画面における [ポートの構成] ボタンを押した際、機器の応答が無い場合 (電源断など)、ポートの構成ダイアログはしばらく待ち状態になる場合があります。そのままお待ちいただくか、機器の電源が入っていない場合は電源を入れてください。
- ・ポートの追加をするときに、機器のアドレスをホスト名で指定するには、該当する機器のホスト名が、hosts ファイルに記述されているか、DNS サーバーに登録されているか、WINS サーバーに登録されている必要があります。ホスト名の文字数には、それぞれ制限がありますので詳しくはネットワーク管理者にご相談ください。なお、ホスト名が正しく設定されていないと、ポートの追加や機器監視が行えません。
- ・同じパソコンにウィルス対策ソフトが導入されている場合、その設定によっては正しく機器検索を行えない場合があります。詳しくは、ウィルス対策ソフトのマニュアルを参照してください。
- ・Windows のインターネット接続ファイアウォール機能が有効になっている場合、機器検索 / 機器情報取得を行なえません。インターネット接続ファイアウォールについて、詳しくはマイクロソフト社の HP を参照してください。

◆ 監視時の注意 / 制限事項

- ・ネットワークの負荷が高い場合、機器が応答しなかったり、一部の情報が取得できないことがあります。例えば複数のコンピューターから同じ機器を同時に監視した場合 (コンピューターの台数は環境によって異なります) です。この現象が発生するときは、機器情報画面で [設定] を選択し、[応答待ち時間] を長めに設定してください。

- ・ネットワークにダイヤルアップ回線を接続している場合、適切な対応を行わなければ、多大な通信料がかかることがあります。本ユーティリティーは周期的に機器と通信を行いますので、設定したアドレスの値によっては回線が接続されたままの状態になることがあります。アドレスを指定するときは回線の接続が発生しない値に設定してください。また、本ユーティリティーをインストールしたコンピューターを移設する場合など、登録済みの機器のアドレスによっては回線の接続が発生する場合がありますので、必ず利用しない機器は監視を止めるか、登録を削除してください。

◆ ジョブ操作時の注意事項

- ・機器でユーザーコード認証モードに設定されている場合、ドライバーでユーザーコードが設定されていないと、ジョブ操作を行なえません。
- ・ジョブの一時停止 / 再開機能を使用するためには、プリンターにハードディスクが搭載されている必要があります。また、64bitOS ではジョブの一時停止 / 再開機能は行うことができません。
 - ・ジョブのキャンセル機能はデータ転送完了前のジョブのみジョブ操作を行えます。

◆ 64bit 対応 OS のプリンタードライバー連携機能に関する制限事項

プリンタードライバーが対応していない場合、以下の制限事項があります。

- ・プリンターのプロパティでオプション構成や給紙トレイ用紙の自動設定のための双方向通信が出来ません（RPCS ドライバー、PS ドライバー）
- ・印刷通知（完了通知 / エラー通知 / 自分のジョブ一覧）が使用できません（RPCS ドライバー）（データ転送完了までの状態を通知します）
- ・ジョブごとの印刷通知設定が出来ません。

印刷ポートについての注意と制限事項

- ・IPP ポートはプリンターの準備ができていない場合や、印刷中の場合、印刷されない場合があります。その場合は再度印刷を行ってください。

TCP/IP 使用時の注意と制限

◆ 印刷時

- ・印刷データの受信を始めた時点で、印刷データのサイズがハードディスクまたはメモリーの残り容量よりも大きい場合、その印刷データは受信することができません。印刷データが受信容量を超えた場合、クライアントによっては即時再送信をするものがあります。このとき、クライアントがハングアップしたように見えます。対処として、クライアント側でその印刷データの送信を中止する必要があります。
- ・コンピューター側で IP アドレスやコンピューター名を変更した場合、プリンター側での問い合わせ処理や取り消し処理が正常に行われなくなります。プリンター側でスプールに印刷データがない状態にして、電源を切 / 入してください。

◆ 設定時

- ・プリンター側の設定
 - ・IP アドレスの設定には十分注意してください。IP アドレスは、システム全体で管理されているアドレスです。ネットワーク管理者と十分相談のうえ、設定してください。

- ・使用するネットワーク環境においては、サブネットマスクやゲートウェイの設定が必要になります。ネットワーク管理者に相談のうえ、必要項目を設定してください。
- ・パソコン側の設定
 - ・IP アドレスの設定には十分注意してください。IP アドレスは、システム全体で管理されているアドレスです。ネットワーク管理者と十分相談のうえ、設定してください。
 - ・NIS (Network Information Service) の管理下で使用されている上位装置で、ネットワーク (IP アドレスなど) の設定をする場合は、NIS の管理者に相談してください。

◆電源切時

- ・本製品の電源を切るときは、以下の点に注意してください。
- ・印刷出力中の印刷データを含め、プリンターのメモリーにスプールされた印刷データは、すべて削除されます。再び電源を入れたときは、印刷指示された印刷データは存在しません。ただし、印刷指示をした直後に電源を切った場合、印刷データはコンピュータ上に保存されることがあります。この場合、再び電源を入れたときは、新しく印刷指示された場合でも、保存されている印刷データから順に出力されます。

ハードウェアに関して

使用上の条件

- ・用紙については、取扱説明書の「印刷用紙について」を参照してください。
- ・カード紙の印刷にはいろいろな制約があります。事前に十分な評価を行った上でご使用願います。
- ・給紙トレイに用紙を補給するときは、用紙なしになってからにしてください。用紙をつぎたすと、紙づまりや重送の原因になります。給紙トレイで異なる用紙を使用する場合は前の用紙を取り除いてご使用ください。異なる用紙をつぎたすと、紙づまりや重送の原因になります。
- ・使用する用紙によっては、給紙時に用紙をさばく音 (分離音) が発生する場合がありますが、異常ではありません。
- ・推奨紙をご使用の場合でもプリンターの設置環境や推奨紙の保管方法や取り扱い方法が悪い場合は、トラブルの原因となることがあります。また、用紙によっては (印刷済み用紙含む)、寿命・ジャム等の仕様を満足できないことがあります。
- ・推奨紙以外の紙をご使用の場合、以下のトラブルの原因になるおそれがあります。
 - ・用紙のカール、紙づまり、重送、紙シワ、斜行、印刷位置ズレ等
 - ・印刷品質の劣化等
 - ・プリンターの故障
- ・他のプリンターで使用できていた用紙が必ずしも使用できるとは限りません。プリンターをリプレースする場合は、実際に使用する用紙により事前に十分ご確認ください。
- ・両面印刷ユニットを装着している場合でも、普通紙、再生紙、およびレターヘッド付き用紙以外の用紙は両面印刷できません。

用紙の保管について

- ・本製品に適切な用紙でも、取り扱いや保管状態が悪いと用紙が変質し、紙づまりや故障の原因となります。用紙は以下のことに注意して取り扱い、保管してください。
 - ・給紙トレイに合ったサイズ of 用紙を用意してください。
 - ・バラバラになった用紙を寄せ集めて使用しないでください。
 - ・複数枚重なって排出された場合など、装置を一度通った用紙は再利用しないでください。
 - ・直射日光の当たらない、湿気の少ない場所に保管してください。
 - ・開封後用紙トレイにセットせずに残った用紙または、長時間使用しない用紙は、包装されていた紙に包み、湿気の少ない場所に保管してください。
 - ・用紙は立てかけず、平らな場所に保管してください。
 - ・シワ、折れ、カール等がつかないように保管してください。

再生紙について

- ・推奨紙以外の再生紙は、一般の普通紙に比べ以下のような不具合を発生させやすいので、使用できる用紙の注意事項に加えて以下の事項をご留意の上、使用してください。
 - ・吸湿しやすいため、紙カール量、シワ、折れが増大する場合があります。にじみ、重送、給紙ミスや紙づまりの原因となることがあります。
 - ・紙粉、抜きカスなどによる印字品質への影響、給紙ミスや各種センサ系の誤検出の原因となることがあります。
 - ・用紙強度、剛度が弱いため、スタック性、折りたたみ性が劣る場合があります。
 - ・普通紙に比べて長期保存性に劣るため、保存文書等へのご使用は避けてください。
 - ・比較的変色しやすいので、直射日光は避けてください。
 - ・紙厚が若干厚いため、用紙トレイや多重手差しトレイの用紙セット枚数は普通紙に比べて少なくなります。
 - ・紙粉が多いため、清掃、点検を確実に実施してください。
 - ・用紙を装置にセットしたまま長期間放置しないでください。印刷しない場合は、用紙を取り外し包装紙に包んで保管してください。

再生紙の購入、保管

- ・再生紙は、原料として使用される古紙によって品質が大きく変化します。このため、再生紙を大量に購入される場合は、事前に本装置で印刷の確認を行うことをお勧めします。
- ・再生紙は空調された室内に保管し、包装を開封した用紙は速やかに使用してください。

用紙がつまったとき

- ・プリンターの電源を入れたままで紙づまりの処置を行ってください。電源を切ると、プリンター内のメモリーに保持されているデータが消えてしまいます。
- ・つまった用紙にはトナーが付着しています。手や衣服などに触れると汚れますのでご注意ください。
- ・つまった用紙はプリンター内部に残らないようすべて取り除いてください。用紙は複数箇所、つまっていることがあります。用紙を取り除くときは、表示以外の箇所に用紙があるか確認しプリンター内でつまっている用紙全てを取り除いてください。

- つまった用紙を勢いよく引っばると用紙が破れ、機器の内部に紙片が残る可能性があります。
- つまっている用紙を取り除く前にカバーを閉じたり電源を入れなおさないでください。プリンター内に残っている用紙が移動して取り除くのが困難になることがあります。用紙が取り除けない場合は、プリンターの電源を切り、保守会社に相談してください。
- 紙づまり処置後に印刷された用紙は、表面や裏面に汚れが付着することがあります。数枚印刷すると汚れは消えます。特に定着ユニットに詰まった用紙を引き抜くと、汚れがひどくなりますのでご注意ください。

注意と制限事項

- 感光体カバーは、中の感光体（ドラム）に光が当たらないように保護しています。感光体カバーをむやみに開けないでください。
- トナーカートリッジ・定着ユニットは、連続印刷に対してドラムの回転数が増える間欠印刷を行うと、寿命が最大半分程度に低下することがあります。
- トナーが手や衣服についたときはすぐに冷水で洗ってください。
- トナーカートリッジの交換などを行う際は直射日光や強い光の当たる場所を避け、室内の明かりの下でも、速やかに作業してください。
- トナーカートリッジをプリンターから取り外した場合は、強い光に当てないように、厚い布などに包んでください。
- トナーカートリッジを立てて置いたり、振ったりする事は行なわないでください。トナー漏れや印刷不良の原因となります。
- 各消耗品の「印刷可能ページ数」は同梱品のトナーカートリッジも含め、A4 縦 5% のデータを連続印刷をした場合の目安です。実際の印刷可能ページ数は印刷する用紙の種類・サイズ、印刷内容、1 ジョブあたりの連続印刷ページ数、環境条件によって異なります。またトナーカートリッジは使用期間によっても劣化するため、上記目安より早く交換が必要になる場合があります。
- 寒い所から暖かい所に移動した場合は、1 時間以上室温に慣らしてから使用してください。
- トナーカートリッジは立てたり、逆さまにしないでください。
- 前カバーを開けたまま長時間放置しないでください。感光体は、長時間光に当てると性能が低下します。感光体の交換はすみやかに行ってください。
- ドラム表面には手を触れないでください。ドラムを汚したり、傷つけることがあります。
- トナーカートリッジ等の消耗品や部品は、弊社指定の製品により、プリント品質を評価しています。品質維持のため、弊社指定のトナーカートリッジ、消耗品または交換部品をご使用ください。
- PC-PL2660 用トナーカートリッジはご使用できません。
- 本製品のトナーカートリッジは、2 成分です。交換時にはトナーシールを 2 本引き抜いてください。
- トナーカートリッジ（消耗品）は保証対象外です。ただし、ご購入になった時点で不具合があった場合は購入された販売店にご連絡ください。
- トナーカートリッジは安定した印刷品質を維持するために、ご購入から 2 年以内でのご使用を推奨します。
- トナーシールを引き抜いた後でトナーカートリッジに振動を与えると、印刷面に汚れが出たり、トナーこぼれや故障の原因になります。誤ってトナーカートリッジを振ってしまったときは、印刷面に汚れが出なくなるまで（50 枚程度）印刷を繰り返してください。

トナー寿命について

- ・プリンター購入時に添付されているトナーカートリッジはスタータートナーカートリッジです。印刷可能ページ数は約 3,000 ページ（A4、黒比率 5%）です。お早めにトナーカートリッジのご購入をお勧めします。
- ・本製品には、消耗品が使用されています。寿命（枚数、時間）は A4 縦送り、5% のデータを連続印刷した場合の値です。用紙サイズや用紙方向、連続印刷ページ数、使用環境などによって異なります。また、連続印刷に対してドラムの回転数が増える間欠印刷では、寿命が最大半分程度に低下することがあります。寿命になった消耗品（トナーカートリッジ）は交換してください。

消耗品名	寿命目安
トナーカートリッジ	
スタータートナー：	約 3,000 ページ
PZ32401A：	約 6,000 ページ
PZ32401B：	約 12,000 ページ

保守・運用

運用上の注意事項

- ・本製品の故障による損害、登録した内容の消失による損害、その他本製品の使用により生じた損害について、当社は一切その責任を負えませんのであらかじめご了承ください。
- ・装置や部品の寿命値の算出は A4 換算で行っています。印刷用紙サイズや印刷デュティによっては印刷枚数より早く寿命となることがあります。

保守・運用について

- ・本製品に登録した内容は、必ず控えをとってください。お客様が操作を誤ったり本製品に異常が発生した場合、登録した内容が消失することがあります。
- ・オプションの拡張 HDD に記録されたデータについて
 - ・拡張 HDD が故障した場合、HDD に記録されていた印刷データ、PS ダウンロードフォントの内容は保証されませんのであらかじめご承知ください。
- ・本製品は日本国内向けに製造されており、電源仕様の異なる諸外国では使用できません。本製品を日本国外に移動させた場合は、保守サービスの責任は負いかねます。また、安全法規制（電波規制や材料規制など）は各国異なります。これらの規則に違反して、本製品および消耗品等を諸外国に持ち込むと罰せられることがあります。本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上、必要な手続きをお取りください。この装置に付属する周辺機器やソフトウェアも同じ扱いになります。なお、ご不明な場合は弊社担当営業にお問い合わせください。
- ・本製品またはリサイクル対象外の消耗品は不燃物として、または法令、条例に従って産業廃棄物として、お客さまにて処分、処理をお願いします。
- ・本製品を設置時、プリンターが入っていた箱は保管しておいてください。

- ・本製品には、有寿命有償部品が使用されています。寿命（枚数、時間）は A4 推奨紙を常温常湿環境にて連続印刷した場合の値です。再生紙や幅狭用紙、厚紙、穴あき用紙などの特殊紙を使用した場合は寿命が低下します。また、寿命を超えた使用は、ジャムなどの印刷不良や用紙搬送不良につながります。定期的な保守による部品交換（定着ユニットや給紙ローラ、フリクションパッド等）が必要です。

性能低下の条件

- ・下記条件において、印刷速度が低下することがあります。
 - ・画像が入ったデータを印刷する場合
 - ・画質優先設定実行時
 - ・大量印刷実行時
 - ・小サイズ用紙印刷時
 - ・用紙種類を「普通紙」以外にした場合
 - ・印刷位置変更時
 - ・トナーセーブ使用時
 - ・Adobe Acrobat Reader を使用しての印刷時
 - ・拡張インターフェースボードを使用しての印刷時
- ・C/S560 のシステム性能はプリンターの性能に比例しません。なお、用紙のサイズや種類、印刷条件によって、印刷速度は低下します。

その他

形名の読み替え

本製品の形名は PC-PL3240 となりますが、プリンタードライバー、PostScript ドライバーのインストール時の表示や Readme など、提供している資料やソフトウェア上で異なった形名で表示や説明している部分があります。下記に従い読み替えるようにお願い致します。

- ・IPSiO SP 4210 → PC-PL3240

USB について

- ・USB ポート接続していたプリンターをネットワーク接続する場合は、CD-ROM から「Network Monitor for Client」をインストール願います。Network Monitor for Client ポート（TCP/IP ポート）が使用できます。

C/S560 について

- ・オプションの C/S560 用 LAN アダプタ（PC-PB20211）を使用すると、日立 C/S560 プロトコルを用いたメインフレーム印刷がご使用できます。他の機種ではご使用できません。
- ・プリンターが標準装備している LAN ボードでは、日立 C/S560 プロトコルを用いたメインフレーム印刷は、ご使用いただけません。プリンターが標準装備している LAN ボードと、オプションの C/S560 用 LAN アダプタ（PC-PB20211）は IP アドレス設定などの操作画面や方法が異なります。詳細は LAN アダプタの取扱説明書をご覧ください

い。CommuniNet の 560 + (プラス) (パススルー印刷、ページ印刷) は、ご使用いただけません。

- ・ C/S560LAN アダプタはパラレルケーブルで接続できません。

印刷結果の相違について注意事項

- ・ ご使用の環境や用紙・プリンターの状態により色味が異なることがあります。
- ・ ご使用になるドライバーの種類や OS の種類によって、使用できる機能および印刷結果に相違がでることがあります。
- ・ 他のプリンターと印刷結果が必ずしも同じにはなりません。プリンターをリプレースする場合は実際にご使用になるデータにより事前に十分ご確認ください (線の太さ、網掛け、印刷領域等)。

印字品質について

- ・ 印刷結果は、同一機種内でのバラツキが存在します。厳密な印刷の必要がある場合は、バラツキを考慮した帳票設計と運用をお願いします。
- ・ バーコード・QR コードの印刷について
下記項目等により、読み取り可否が変動する場合がありますので、事前に十分ご確認いただくとともに、使用開始後にも確認してください。
 - ・ 帳票デザイン
 - ・ 印刷の向き
 - ・ 用紙のアプリケーション (コードのデザイン、補正有無等)
 - ・ 環境
 - ・ プリンターの状態・設定
 - ・ 純正トナーカートリッジの使用
 - ・ リーダーの読み取り性能
- ・ 料金代理収納用バーコード「GS1-128 コンビニバーコード」(以降 GS1-128 コンビニバーコード) の印刷が可能ですが、読み取りに関しては、帳票デザイン、バーコードの配置 (向き)、アプリケーション、用紙、プリンター、環境、印刷結果の取り扱い、バーコードリーダーなどの要因により影響され、読取れない場合があります。実環境で実際に印刷したバーコードの読み取りを事前に確認して頂く必要があります。バーコードは黒一色のみで作成してください。
- ・ GS1-128 コンビニバーコードの事前注意点
 - ・ 純正トナーカートリッジを使用する
 - ・ バーコードデザインの補正が可能なアプリケーションを使用する
 - ・ 紙送り方向とバーコードのバー方向が平行になるようにバーコードを配置する
 - ・ また、プリンターの設定やアプリケーションの設定は機種により異なり、印刷位置はプリンターごとに異なる場合がありますので、パソコンやプリンター毎の調整が必要な場合があります。なお、印刷は、用紙や環境、プリンターの状態により変化する場合がありますので、定期的なバーコードの読み取り確認を推奨いたします。それとともに、収納代行業者での事前評価をお願いいたします。

移行に関する注意事項

- ・ PC-PL2650 等の LIPS や、PC-PK4720 等の ESC/Page を PDL（プリンター制御言語）とするプリンターからのリプレース時の、PDL に関する問題点は下記になります。
 - 1) OS にインストールされたプリンタードライバーを使用していない場合。
 - 例. アプリケーションにて直接 LIPS コマンドを生成している
(Communitnet 560 + (プラス) ページモード等)
 - この場合、アプリケーションで本製品に対応した PDL を生成できるようにするか、アプリケーションの出力を OS にインストールされたプリンタードライバーにする必要があります。
 - 2) プリンタードライバーの DevMode 構造体を、アプリケーションが UI を用いないで直接制御している場合。
 - 例. アプリケーションが印刷を実行するとき、プリンタードライバーを使用しているが、UI (Word 等で "印刷" を実行すると出てくるプリンターの設定画面。通常給紙部や、両面印刷等の指定が出来る) を経由しないで直接 DevMode 構造体の値を取得している。(PC-PDE 等)
 - この場合、上記 PDL だけの問題では無く、プリンタードライバーが変更されると DevMode の値が変わることがあり、思った通りの印刷結果が得られない場合があります。
 - 但し、アプリケーションを作成したときのドライバーと変更後のドライバーで使用している DevMode の値が同じであれば問題は発生しません。
 - 3) 現在 LIPS、または ESC/Page をドライバー経由で通常の使用方法で使用しており、他 PDL での評価をしていない場合。
 - 通常のプリンタードライバー経由の印刷の場合、PDL が切り替わることによる問題はありません。
 - 但し、機種により固有値や機能がありますので、厳密な印刷を求める場合は確認が必要です。

8

清掃について

- ・ プリンターを良好な状態に保ち、きれいに印刷するために、以下の部分を定期的に清掃してください。(プリンター内部に、ほこりや汚れがあるときは、乾いた清潔な布で拭いてください。)
 - ・ フリクションパッド、給紙コロ
 - ・ レジストローラー周辺
- ・ 専用器具があるものは専用器具を使って清掃してください。専用器具を使用するよう指示があるものの場合、専用器具以外のもを使用して清掃すると、キズや故障が発生することがあります。
- ・ 電源プラグは年に 1 回以上コンセントから抜いて、プラグの刃と刃の周辺部分を乾いた布で、ほこりを取り除いてください。ほこりがたまると、火災の原因になります。
- ・ 本製品の清掃方法について
 - ・ クリーナーなどの薬品類、シンナーやベンジンなどの有機溶剤は使わないでください。すきまからしみこんだり、本体のプラスチックが溶けたりして、故障の原因になります。
 - ・ 機械内部など、本書で説明している部分以外の清掃は保守会社に依頼してください。

内蔵フォント

以下のフォントを使用できます。

搭載フォント

アウトライン：明朝 L、明朝 L プロポーションル、ゴシック B、ゴシック B プロポーションル、Courier10、Prestige Elite12、Letter Gothic15、BoldFace PS、Courier 4 書体、Arial 4 書体、TimesNewRoman 4 書体、Wingdings、Century 朝 L、ゴシック B、平成明朝、平成ゴシック
 ビットマップ：Courier10、Prestige Elite12、Letter Gothic15、BoldFace PS
 ポストスクリプト：平成 2 書体（平成明朝 W3、平成角ゴシック W5）、欧文 136 書体^{*1}
 PDF フォント：平成 2 書体（HG 平成明朝 W3、HG 平成角ゴシック）、欧文 136 書体^{*1}
 その他：OCR-B

^{*1} PS/PDF オプション装着時

有償定期交換部品と有償寿命部品について

以下の部品は有償定期交換部品です。

本機の性能を十分に発揮させるために、以下の期間で必ず交換してください。

交換に関しては、担当営業または保守会社までご連絡ください。

★重要

- ・定期交換部品を交換しないと、きちんと印刷できなくなるだけでなく、重送、紙づまりの原因となり故障が多くなることがあります。交換目安は操作パネルで確認したメーターの値か、スタートページプリントまたはプリンター設定リストに印刷されているプリント総ページ数を参考に担当営業または保守会社にご連絡ください。
- ・次の一覧表の数値はあくまで目安であり、故障しないことや無償修理をお約束するものではありません。長時間連続使用など、ご使用状態によっては、早期に部品交換が必要となる場合があります。

	項番	品名	交換目安 (A4 横 / 片面印刷時)	備考
有償定期交換部品	1	フリクションパッド	印刷枚数 約 90,000 枚 ^{*1}	本体トレイ用
	2	フリクションパッド	印刷枚数 約 90,000 枚 ^{*1}	増設トレイ用
	3	給紙コ口	印刷枚数 約 90,000 枚 ^{*1}	本体トレイ用
	4	給紙コ口	印刷枚数 約 90,000 枚 ^{*1}	増設トレイ用
	5	転写ローラー	印刷枚数 約 90,000 枚 ^{*1}	
	6	定着ユニット	印刷枚数 約 90,000 枚 ^{*1}	

	項番	品名	交換目安 (A4 横 / 片面印刷時)	備考
有償 寿命 部品	7	DC 電源 : 136W : DOM/NA	約 5 年 *2	プリンター本体用
	8	複合高圧電源 : BCT	約 5 年 *2	プリンター本体用
	9	操作パネル : DOM : 組立	約 5 年 *2	プリンター本体用
	10	PCB:EGB:SIN-P2:DOM 総組立	約 5 年 *2	プリンター本体用
	11	PCB:DPX 組立	約 5 年 *2	両面ユニット用
	12	PCB:BANK:250: 組立	約 5 年 *2	250 枚増設トレイユニット用
	13	PCB:BANK:500: 組立	約 5 年 *2	500 枚増設トレイユニット用
	14	ポリゴンスキャナ	約 5 年 *2	プリンター本体用
	15	ブラシレスモータ	約 5 年 *2	プリンター本体用
	16	コントローラボード	約 5 年 *2	プリンター本体用
	17	HDD オプション	5 年あるいは 20,000 時間稼動まで *2	オプション

*1 項番 1～6 の交換目安の印刷枚数は用紙サイズ A4 の横送り連続印刷時の目安となります。ただし、お客様の使用条件、使用環境によっては半分以下になる場合があります。

*2 項番 7～17 の部品には、アルミ電解コンデンサーが搭載されています。

⚠ 注意



- ・アルミ電解コンデンサーについて
このプリンターに使用されているアルミ電解コンデンサーは有寿命部品です。設計寿命は、週日 8 時間使用で約 5 年です。寿命になると、電解液の漏れや枯渇が生じます。特に電源ユニットでの電解液漏れは、発煙の原因になることがあります。これらの危険を避けるために、設計寿命を越えて使用する場合は、保守部品単位で交換してください。また、業務用など昼夜連続運転相当では 5 年より寿命は短くなります。

寿命および保守について

装置寿命

本機の装置寿命は通常の使用状態で 5 年または 600,000 ページ *1 のいずれか早いほうです。

*1 平均 8 時間 / 日、20 日 / 月稼働で 5 年間です。両面印刷は 2 ページ分です (A4 横換算)。

⚠ 注意



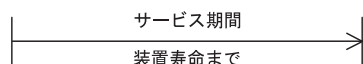
- ・特殊紙の使用割合が極端に多い場合は、寿命が短くなる場合があります。

保守部品の保有期間

本機の保守部品の保有期限は製造打ち切り後 5 年間です。

サービス期間について

本機のサービス期間は下記のとおりです。



サポート対象外機能一覧

次の機能は、サポート対象外となっております。

印刷および動作等の保証はしておりません。

また、質問などにもお答え出来かねますのでよくご理解願います。

この機能をご利用になる場合には、お客様ご自身で十分に動作確認をしていただき、お客様の責任においてご利用いただくようお願いいたします。

(弊社では、この機能に関してのテスト、評価等の確認は行っておりません。)

- NEC PC98 環境での印刷
- EtherTalk
- エミュレーションモード (201H、ESC/P、HP-GL/2、TIFF、RPDL)
- 次の用紙サイズへの印刷レジャー (ダブルレター)、リーガル 14 インチ (リーガル)、リーガル 13 インチ (ガバメントリーガル)、レター、八開
- Salutation6.SunOS 環境での印刷
- PostScript English 版ドライバーでの印刷
- PC-PL3240 用プリンタードライバー以外を使用しての印刷 (PDF ダイレクトプリントは除く)
- Win9x、WinMe、Win NT、Win 2000、MAC OS
- 日本語以外の Windows OS
- NetWare
- DEVmode 構造体を制御した印刷
- Web Image Monitor、NetWork Monitor for Client/Admin 以外の機器の監視
- 下記に示すオプションおよび機能はサポートしません
 - 1) SDRAM モジュールVIII 128MB
 - 2) PDF ダイレクトプリントカード
 - 3) R98/R16 カード
 - 4) PCL カード
 - 5) BMLinkS カード
 - 6) 蓄積文書暗号化カード
 - 7) 個人認証カード
 - 8) 個人認証 IC カード
 - 9) IC カード
 - 10) IC カード管理ソフト

本体、オプション、消耗品一覧

PC-PL3240 ページプリンターは、以下のオプション品、消耗品を用意しています。

形名	品名	備考
PC-PL3240	ページプリンター	本体
PC-PF32401	250 枚増設トレイユニット	オプション ^{*1}
PC-PF32402	500 枚増設トレイ ユニット	オプション ^{*1}
PC-PW3240	両面印刷ユニット	オプション
PC-PA35411	拡張 HDD タイプ M	オプション
PC-PA32402	PS3 カード タイプ D	オプション ^{*2}
PC-PA35503	拡張 1284 ボード タイプ A	オプション
PC-PA35414	拡張無線 LAN ボード タイプ A	オプション
PC-PA35415	1Giga イーサネットボード タイプ B	オプション
PC-PA35416	セキュリティカード タイプ E	オプション
PC-PM35501	SDRAM モジュールⅧ 256MB タイプ C	オプション
PC-PC1025H	インターフェースケーブル タイプ 4BH	オプション
PC-PC2020AB	USB ケーブル	オプション
PC-PB20211	C/S560 対応 LAN アダプタ	オプション
PC-PZ32401A	トナーカートリッジ (6K)	消耗品
PC-PZ32401B	トナーカートリッジ (12K)	消耗品

*1 各々最大 2 つまで増設できますが、組み合わせる場合は、1 つずつとなります。

*2 本オプション装着時は、SDRAM モジュールⅧ 256MB タイプ C のメモリー増設が必要となります。

↓ 補足

・消耗品購入先

- ・(株) 日立システムズ
- ・インターネットショップ Prinfina_M@LL <https://mall.rps.ricoh.co.jp/>
- ・プリンターを購入された販売店

最新ソフトウェアのダウンロード

最新版ソフトウェアは、インターネットのホームページで提供しております。
なお、通信費用はお客様の負担となりますのでご了承ください。
弊社のホームページのアドレス（URL）は以下のとおりです。

<http://prinфина.jp/>

最新の OS について

最新の OS についての情報は、インターネットのホームページで提供しております。
なお、通信費用はお客様の負担となりますのでご了承ください。
弊社のホームページのアドレス（URL）は以下のとおりです。

<http://prinфина.jp/>

搭載されているソフトウェアの著作権等に関する情報

expat (Ver 1.95.2) について

本製品に搭載しているコントローラー等のソフトウェア（以下、ソフトウェア）には expat Ver 1.95.2（以下 expat1.95.2）を下記の条件のもとで使用しています。

- expat1.95.2 の作者および著作権者には一切の責任および義務はありません。

Copyright (c) 1998, 1999, 2000 Thai Open Source Software Center Ltd
and Clark Cooper

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software") , to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

8

↓ 補足

- expat1.95.2 に関する情報は次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。 <http://expat.sourceforge.net/>

NetBSD について

1. Copyright Notice of NetBSD

For all users to use this product:

This product contains NetBSD operating system:

For the most part, the software constituting the NetBSD operating system is not in the public domain; its authors retain their copyright.

The following text shows the copyright notice used for many of the NetBSD source code. For exact copyright notice applicable for each of the files/binaries, the source code tree must be consulted.

A full source code can be found at <http://www.netbsd.org/>.

Copyright (c) 1999, 2000 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

This product includes software developed by the NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.

4. Neither the name of The NetBSD Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE NETBSD FOUNDATION, INC. AND CONTRIBUTORS ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

2. Authors Name List

All product names mentioned herein are trademarks of their respective owners.

The following notices are required to satisfy the license terms of the software that we have mentioned in this document:

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by Jonathan R. Stone for the NetBSD Project.

This product includes software developed by the NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.

This product includes software developed by Manuel Bouyer.

This product includes software developed by Charles Hannum.

This product includes software developed by Charles M. Hannum.

This product includes software developed by Christopher G. Demetriou.

This product includes software developed by TooLs GmbH.

This product includes software developed by Terrence R. Lambert.

This product includes software developed by Adam Glass and Charles Hannum.

This product includes software developed by Theo de Raadt.

This product includes software developed by Jonathan Stone and Jason R. Thorpe for the NetBSD Project.

This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory and its contributors.

This product includes software developed by Christos Zoulas.

This product includes software developed by Christopher G. Demetriou for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Paul Kranenburg.

This product includes software developed by Adam Glass.

This product includes software developed by Jonathan Stone.

This product includes software developed by Jonathan Stone for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Winning Strategies, Inc.

This product includes software developed by Frank van der Linden for the NetBSD Project.

This product includes software developed for the NetBSD Project by Frank van der Linden

This product includes software developed for the NetBSD Project by Jason R. Thorpe.

The software was developed by the University of California, Berkeley.

This product includes software developed by Chris Provenzano, the University of California, Berkeley, and contributors.

Netatalk (NetBSD 1.5.3 kernel)/NetaTalk

1.4b2+asan2.1.3 (pap/atp) について

Copyright (c) 1990,1991 Regents of The University of Michigan. All Rights Reserved.

FreeBSD 4.6.2 について

Copyright (c) 1984, 1985, 1986, 1987, 1993

The Regents of the University of California. All rights reserved.

Modifications Copyright (c) 1995, Mike Mitchell

Modifications Copyright (c) 1995, John Hay

Sablotron

Sablotron (Version 0.82) Copyright (c) 2000 Ginger Alliance Ltd. All Rights Reserved.

a) The application software installed on this product includes the Sablotron software Version 0.82 (hereinafter, "Sablotron 0.82"), with modifications made by the product manufacturer.

The original code of the Sablotron 0.82 is provided by Ginger Alliance Ltd., the initial developer, and the modified code of the Sablotron 0.82 has been derived from such original code provided by Ginger Alliance Ltd.

b) The product manufacturer provides warranty and support to the application software of this product including the Sablotron 0.82 as modified, and the product manufacturer makes Ginger Alliance Ltd., the initial developer of the Sablotron 0.82, free from these obligations.

c) The Sablotron 0.82 and the modifications thereof are made available under the terms of Mozilla Public License Version 1.1 (hereinafter, "MPL 1.1"), and the application software of this product constitutes the "Larger Work" as defined in MPL 1.1. The application software of this product except for the Sablotron 0.82 as modified is licensed by the product manufacturer under separate agreement(s).

d) The source code of the modified code of the Sablotron 0.82 is available at: <http://supportdownload.com/services/device/sablot/notice082.html>

e) The source code of the Sablotron software is available at: <http://www.gingerall.com>

f) MPL 1.1 is available at: <http://www.mozilla.org/MPL/MPL-1.1.html>

RSA BSAFE[®]



- This product includes RSA BSAFE[®] cryptographic or security protocol software from RSA Security Inc.
- RSA is a registered trademark and BSAFE is a registered trademark of RSA Security Inc. in the United States and/or other countries.
- RSA Security Inc. All rights reserved.

Open SSL

Copyright (c) 1998-2004 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (<http://www.openssl.org/>)"
4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact opensslcore@openssl.org.
5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.

8

6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment: "This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS'' AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com) All rights reserved.
This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed. If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement: "This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)" The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement: "This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

Open SSH

The licences which components of this software fall under are as follows. First, we will summarize and say that all components are under a BSD licence, or a licence more free than that.

OpenSSH contains no GPL code.

1)

Copyright (c) 1995 Tatu Ylonen <ylo@cs.hut.fi>, Espoo, Finland All rights reserved As far as I am concerned, the code I have written for this software can be used freely for any purpose. Any derived versions of this software must be clearly marked as such, and if the derived work is incompatible with the protocol description in the RFC file, it must be called by a name other than "ssh" or "Secure Shell".

[Tatu continues]

However, I am not implying to give any licenses to any patents or copyrights held by third parties, and the software includes parts that are not under my direct control. As far as I know, all included source code is used in accordance with the relevant license agreements and can be used freely for any purpose (the GNU license being the most restrictive); see below for details.

However, none of that term is relevant at this point in time. All of these restrictively licenced software components which he talks about have been removed from OpenSSH, i.e.,

- RSA is no longer included, found in the OpenSSL library
- IDEA is no longer included, its use is deprecated
- DES is now external, in the OpenSSL library
- GMP is no longer used, and instead we call BN code from OpenSSL
- Zlib is now external, in a library
- The make-ssh-known-hosts script is no longer included
- TSS has been removed
- MD5 is now external, in the OpenSSL library
- RC4 support has been replaced with ARC4 support from OpenSSL
- Blowfish is now external, in the OpenSSL library

[The licence continues]

Note that any information and cryptographic algorithms used in this software are publicly available on the Internet and at any major bookstore, scientific library, and patent office worldwide. More information can be found e.g. at "<http://www.cs.hut.fi/crypto>".

The legal status of this program is some combination of all these permissions and restrictions. Use only at your own responsibility. You will be responsible for any legal consequences yourself; I am not making any claims whether possessing or using this is legal or not in your country, and I am not taking any responsibility on your behalf.

NO WARRANTY

BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

2)

The 32-bit CRC compensation attack detector in deattack.c was contributed by CORE SDI S.A. under a BSD-style license.

Cryptographic attack detector for ssh -source code

Copyright (c) 1998 CORE SDI S.A., Buenos Aires, Argentina.

All rights reserved. Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that this copyright notice is retained.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL CORE SDI S.A. BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY OR CONSEQUENTIAL DAMAGES RESULTING FROM THE USE OR MISUSE OF THIS SOFTWARE.

Ariel Futoransky <futo@core-sdi.com>

<<http://www.core-sdi.com>>

3)

One component of the ssh source code is under a 3-clause BSD license, held by the University of California, since we pulled these parts from original Berkeley code.

Copyright (c) 1983, 1990, 1992, 1993, 1995

The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

4)

Remaining components of the software are provided under a standard 2-term BSD licence with the following names as copyright holders:

Markus Friedl
 Theo de Raadt
 Niels Provos
 Dug Song
 Kevin Steves
 Daniel Kouril
 Wesley Griffin
 Per Allansson
 Jason Downs
 Solar Designer
 Todd C. Miller

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

5)

Portable OpenSSH contains the following additional licenses:

c) Compatibility code (openbsd-compat)

Apart from the previously mentioned licenses, various pieces of code in the openbsd-compat/ subdirectory are licensed as follows:

Some code is licensed under a 3-term BSD license, to the following copyright holders:

Todd C. Miller
 Theo de Raadt
 Damien Miller
 Eric P. Allman
 The Regents of the University of California

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Open LDAP

The OpenLDAP Public License Version 2.8, 17 August 2003

Redistribution and use of this software and associated documentation ("Software"), with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions in source form must retain copyright statements and notices,
2. Redistributions in binary form must reproduce applicable copyright statements and notices, this list of conditions, and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution, and
3. Redistributions must contain a verbatim copy of this document.

The OpenLDAP Foundation may revise this license from time to time. Each revision is distinguished by a version number. You may use this Software under terms of this license revision or under the terms of any subsequent revision of the license.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OPENLDAP FOUNDATION AND ITS CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OPENLDAP FOUNDATION, ITS CONTRIBUTORS, OR THE AUTHOR(S) OR OWNER(S) OF THE SOFTWARE BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The names of the authors and copyright holders must not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealing in this Software without specific, written prior permission. Title to copyright in this Software shall at all times remain with copyright holders.

OpenLDAP is a registered trademark of the OpenLDAP Foundation.

Copyright (c) 1999-2003 The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA. All Rights Reserved. Permission to copy and distribute verbatim copies of this document is granted.

Heimdal

Copyright (c) 1997-2005 Kungliga Tekniska Högskolan (Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden). All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of the Institute nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE INSTITUTE AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE INSTITUTE OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

IPS™ print language emulations

Copyright (c) 1987-2006 Zoran Corporation. All rights reserved.

racoon

Copyright (C) 1995, 1996, 1997, and 1998 WIDE Project.
All rights reserved.

TrouSerS

THE ACCOMPANYING PROGRAM IS PROVIDED UNDER THE TERMS OF THIS COMMON PUBLIC LICENSE ("AGREEMENT"). ANY USE, REPRODUCTION OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM CONSTITUTES RECIPIENT'S ACCEPTANCE OF THIS AGREEMENT.

1. DEFINITIONS

"Contribution" means:

a) in the case of the initial Contributor, the initial code and documentation distributed under this Agreement, and

b) in the case of each subsequent Contributor:

i) changes to the Program, and

ii) additions to the Program;

where such changes and/or additions to the Program originate from and are distributed by that particular Contributor. A Contribution 'originates' from a Contributor if it was added to the Program by such Contributor itself or anyone acting on such Contributor's behalf. Contributions do not include additions to the Program which: (i) are separate modules of software distributed in conjunction with the Program under their own license agreement, and (ii) are not derivative works of the Program.

"Contributor" means any person or entity that distributes the Program.

"Licensed Patents " mean patent claims licensable by a Contributor which are necessarily infringed by the use or sale of its Contribution alone or when combined with the Program.

"Program" means the Contributions distributed in accordance with this Agreement.

"Recipient" means anyone who receives the Program under this Agreement, including all Contributors.

2. GRANT OF RIGHTS

a) Subject to the terms of this Agreement, each Contributor hereby grants Recipient a non-exclusive, worldwide, royalty-free copyright license to reproduce, prepare derivative works of, publicly display, publicly perform, distribute and sublicense the Contribution of such Contributor, if any, and such derivative works, in source code and object code form.

b) Subject to the terms of this Agreement, each Contributor hereby grants Recipient a non-exclusive, worldwide, royalty-free patent license under Licensed Patents to make, use, sell, offer to sell, import and otherwise transfer the Contribution of such Contributor, if any, in source code and object code form. This patent license shall apply to the combination of the Contribution and the Program if, at the time the Contribution is added by the Contributor, such addition of the Contribution causes such combination to be covered by the Licensed Patents. The patent license shall not apply to any other combinations which include the Contribution. No hardware per se is licensed hereunder.

c) Recipient understands that although each Contributor grants the licenses to its Contributions set forth herein, no assurances are provided by any Contributor that the Program does not infringe the patent or other intellectual property rights of any other entity. Each Contributor disclaims any liability to Recipient for claims brought by any other entity based on infringement of intellectual property rights or otherwise. As a condition to exercising the rights and licenses granted hereunder, each Recipient hereby assumes sole responsibility to secure any other intellectual property rights needed, if any. For example, if a third party patent license is required to allow Recipient to distribute the Program, it is Recipient's responsibility to acquire that license before distributing the Program.

d) Each Contributor represents that to its knowledge it has sufficient copyright rights in its Contribution, if any, to grant the copyright license set forth in this Agreement.

3. REQUIREMENTS

A Contributor may choose to distribute the Program in object code form under its own license agreement, provided that:

- a) it complies with the terms and conditions of this Agreement; and
- b) its license agreement:
 - i) effectively disclaims on behalf of all Contributors all warranties and conditions, express and implied, including warranties or conditions of title and non-infringement, and implied warranties or conditions of merchantability and fitness for a particular purpose;
 - ii) effectively excludes on behalf of all Contributors all liability for damages, including direct, indirect, special, incidental and consequential damages, such as lost profits;
 - iii) states that any provisions which differ from this Agreement are offered by that Contributor alone and not by any other party; and
 - iv) states that source code for the Program is available from such Contributor, and informs licensees how to obtain it in a reasonable manner on or through a medium customarily used for software exchange.

When the Program is made available in source code form:

- a) it must be made available under this Agreement; and
- b) a copy of this Agreement must be included with each copy of the Program.

Contributors may not remove or alter any copyright notices contained within the Program.

Each Contributor must identify itself as the originator of its Contribution, if any, in a manner that reasonably allows subsequent Recipients to identify the originator of the Contribution.

4. COMMERCIAL DISTRIBUTION

Commercial distributors of software may accept certain responsibilities with respect to end users, business partners and the like. While this license is intended to facilitate the commercial use of the Program, the Contributor who includes the Program in a commercial product offering should do so in a manner which does not create potential liability for other Contributors. Therefore, if a Contributor includes the Program

in a commercial product offering, such Contributor ("Commercial Contributor") hereby agrees to defend and indemnify every other Contributor ("Indemnified Contributor") against any losses, damages and costs (collectively "Losses") arising from claims, lawsuits and other legal actions brought by a third party against the Indemnified Contributor to the extent caused by the acts or omissions of such Commercial Contributor in connection with its distribution of the Program in a commercial product offering. The obligations in this section do not apply to any claims or Losses relating to any actual or alleged intellectual property infringement. In order to qualify, an Indemnified Contributor must: a) promptly notify the Commercial Contributor in writing of such claim, and b) allow the Commercial Contributor to control, and cooperate with the Commercial Contributor in, the defense and any related settlement negotiations. The Indemnified Contributor may participate in any such claim at its own expense.

For example, a Contributor might include the Program in a commercial product offering, Product X. That Contributor is then a Commercial Contributor. If that Commercial Contributor then makes performance claims, or offers warranties related to Product X, those performance claims and warranties are such Commercial Contributor's responsibility alone. Under this section, the Commercial Contributor would have to defend claims against the other Contributors related to those performance claims and warranties, and if a court requires any other Contributor to pay any damages as a result, the Commercial Contributor must pay those damages.

5. NO WARRANTY

EXCEPT AS EXPRESSLY SET FORTH IN THIS AGREEMENT, THE PROGRAM IS PROVIDED ON AN "AS IS" BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, ANY WARRANTIES OR CONDITIONS OF TITLE, NONINFRINGEMENT, MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. Each Recipient is solely responsible for determining the appropriateness of using and distributing the Program and assumes all risks associated with its exercise of rights under this Agreement, including but not limited to the risks and costs of program errors, compliance with applicable laws, damage to or loss of data, programs or equipment, and unavailability or interruption of operations.

6. DISCLAIMER OF LIABILITY

EXCEPT AS EXPRESSLY SET FORTH IN THIS AGREEMENT, NEITHER RECIPIENT NOR ANY CONTRIBUTORS SHALL HAVE ANY LIABILITY FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING WITHOUT LIMITATION LOST PROFITS), HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM OR THE EXERCISE OF ANY RIGHTS GRANTED HEREUNDER, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

7. GENERAL

If any provision of this Agreement is invalid or unenforceable under applicable law, it shall not affect the validity or enforceability of the remainder of the terms of this Agreement, and without further action by the parties hereto, such provision shall be reformed to the minimum extent necessary to make such provision valid and enforceable.

If Recipient institutes patent litigation against a Contributor with respect to a patent applicable to software (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit), then any patent licenses granted by that Contributor to such Recipient under this Agreement shall terminate as of the date such litigation is filed. In addition, if Recipient institutes patent litigation against any entity (including a cross-claim or counterclaim in a lawsuit) alleging that the Program itself (excluding combinations of the Program with other software or hardware) infringes such Recipient's patent(s), then such Recipient's rights granted under Section 2(b) shall terminate as of the date such litigation is filed.

All Recipient's rights under this Agreement shall terminate if it fails to comply with any of the material terms or conditions of this Agreement and does not cure such failure in a reasonable period of time after becoming aware of such noncompliance. If all Recipient's rights under this Agreement terminate, Recipient agrees to cease use and distribution of the Program as soon as reasonably practicable. However, Recipient's obligations under this Agreement and any licenses granted by Recipient relating to the Program shall continue and survive.

Everyone is permitted to copy and distribute copies of this Agreement, but in order to avoid inconsistency the Agreement is copyrighted and may only be modified in the following manner. The Agreement Steward reserves the right to publish new versions (including revisions) of this Agreement from time to time. No one other than the Agreement Steward has the right to modify this Agreement. IBM is the initial Agreement Steward. IBM may assign the responsibility to serve as the Agreement Steward to a suitable separate entity.

Each new version of the Agreement will be given a distinguishing version number. The Program (including Contributions) may always be distributed subject to the version of the Agreement under which it was received. In addition, after a new version of the Agreement is published, Contributor may elect to distribute the Program (including its Contributions) under the new version. Except as expressly stated in Sections 2 (a) and 2(b) above, Recipient receives no rights or licenses to the intellectual property of any Contributor under this Agreement, whether expressly, by implication, estoppel or otherwise. All rights in the Program not expressly granted under this Agreement are reserved.

This Agreement is governed by the laws of the State of New York and the intellectual property laws of the United States of America. No party to this Agreement will bring a legal action under this Agreement more than one year after the cause of action arose. Each party waives its rights to a jury trial in any resulting litigation.

↓ 補足

- 本製品に搭載している TrouSerS (Version 0.27) に関するソースコードは、次の URL が示す WWW サイトより入手が可能です。HITAC カスタマー・アンサ・センター (HCA) にお問い合わせください。
- TrouSerS は sourceforge の CVS でバージョン管理されています。ソースコードの入手方法については次の URL が示す WWW サイトでご確認ください。 http://sourceforge.net/cvs/?group_id=126012

索引

アルファベット索引

8021 x	224
access	225
ANK サイズ	145
ANK フォント	145
appletalk	226
authfree	227
autonet	228
AutoNet 機能	311
bmlinks	229
BMLinkS カード	391
CD-ROM 収録ソフトウェア	301
CR、LF、FF 機能	145
devicename	231
DHCP	311
dhcp	231
dhcp6	232
diprint	233
dns	233
domainname	235
/etc/hosts	287
/etc/printcap	287
etherauth	235
etherconfig	235
ftp	306, 309
help	236
hostname	236
ifconfig	237
info	238
lpr	240
IPP	25
ipp	238
ipsec	239
IPsec 通信	325
ipv6	239
IP アドレスの設定 (UNIX)	284
logout	239
lpr	306, 308
LPR ポート	32
NetBSD	395
Network Monitor for Admin	200, 201, 303
Network Monitor for Admin の インストール	196
Network Monitor for Admin を使う	195
Network Monitor for Client	213, 214, 280, 304
Network Monitor for Client (インストール)	21
Network Monitor for Client で IPP を 使用する	215
Network Monitor for Client の インストール	21
Network Monitor for Client ポート	21
Network Monitor for Client ポート (設定変更)	27
passwd	240
pathmtu	241
PDF 設定メニュー	177
PDF マニュアル	305
prnlog	241
PS3	302
PS 設定メニュー	175
rcp	306, 309
bonjour	230
rhpp	241
route	242
RPCS	302
RPDL の印刷条件設定項目一覧表	143
set	243
sftp	306, 309
show	245
slp	246
smb	246
SNMP	259
snmp	247
SNMPv1	259
SNMPv2	259
SNMPv3	259
SNMPv3 暗号化通信の設定	324
SNMP コミュニティ名設定ツール	259
sntp	249
spoolsw	250
ssdp	251

ssh	251
SSL	317
SSL/TLS 通信許可設定	323
Standard TCP/IP ポート	29
status	252
syslog	252
TCP/IP	22
TCP/IP 使用時の注意と制限	381
telnet	223
upnp	252
USB 接続	38
USB 接続 (Windows 2000)	38
USB 接続 (Windows 7、Windows Server 2008 R2)	42
USB 接続 (Windows Server 2003/2003 R2)	39
USB 接続 (Windows Server 2008)	41
USB 接続 (Windows Vista)	41
USB 接続 (Windows XP)	39
web	253
Web Image Monitor	185, 187, 188, 190, 312
Web ブラウザーを使う	185
wiconfig	254
Windows 2000	46
Windows 7、Windows Server 2008 R2	47
Windows Server 2003	46
Windows Server 2003 R2	46
Windows Server 2008	47
Windows Vista	47
Windows XP	46, 47
Windows ネットワークプリンター	36, 279
Windows の印刷ポート	15
wins	257
WINS サーバーの設定	312
WINS サーバーを使用する場合	312
WSD ポート	34
wsmfp	258

あ行

合紙	71
IP アドレス	11
アドレス情報の管理	212
暗号化通信モード	323
イメージ濃度	145
印刷準備	15
印刷条件設定項目	145
印刷条件の設定	141, 142
印刷条件リストの印刷	154
印刷条件リストの見方	155
印刷条件を登録する	156
印刷設定を表示する	53, 54
印刷の中止	89, 119, 120
印刷部数 (UNIX)	295
印刷方向	145
印刷領域	145
印刷を中止する	119
印字モード	145
インストールシェルの実行 (UNIX)	284
インストールシェルの実行結果 (UNIX)	287
インターフェース設定メニュー	179
上余白	145
エミュレーション切替	121
エミュレーションとプログラム (UNIX)	290
エミュレーションの切り替え	141
エラー文書表示	130
エンジン解像度	145
おすすめインストール	19
オプション	12
オプション構成	48
オプション構成 (自動設定)	48
オプション構成 (手動設定)	49
オプション指定 (UNIX)	290
オプション指定の変更方法 (UNIX)	298
オプション装着状況	139

か行

外字文字数	145
解像度 (UNIX)	297
カウンター情報	139
拡張無線 LAN ボードを 取り付けているとき	315
仮想プリンター	80
仮想プリンター (印刷)	85
仮想プリンター (削除)	84
仮想プリンター (設定確認)	83
仮想プリンター (設定変更)	82
仮想プリンター (追加)	80
漢字コード	145
漢字サイズ	145
監視する機器の設定	213
漢字フィルター (UNIX)	292
漢字フォント	145
管理者モード	190
機器情報	263
機器証明書	317
機器の監視	185, 195, 213, 216, 260, 264, 273
機器の状態表示 (UNIX)	299
機器の状態を表示	214
機能別ウィンドウ	51
基本タブ	68
機密印刷	98
機密文書を消去する	103
キャンセルコード	145
給紙トレイ	145
給紙トレイ (UNIX)	292
給紙トレイを選択する	159
強制印刷	88
行ピッチ	145
国別指定	145
グラフィックスユニット	145
困ったときは (USB 接続)	43
困ったときは (インストール)	46
コマンドを使用する	74
コミュニティ名	259
コメントの変更	210

さ行

最新ソフトウェアのダウンロード	393
最新の OS について	393
サポート対象外機能一覧	391
仕上げタブ	68
システム設定メニュー	166
システム設定 (EM) メニュー	173
システムログ情報	273
自動改行	145
自動鍵	326
自動メール通知	220
集約印刷	61
集約印刷の種類	62
集約印刷を設定する	61
手動鍵	326
取得情報の内容	264
寿命および保守について	390
省エネモード	207
使用上の注意	315, 316
使用説明書の紹介	10
状態表示 (Network Monitor for Admin)	209
ジョブリセット	88
スタンプ印字	64
スタンプ印字を設定する	64
スタンプの種類	65
スプール印刷	73
スプール印刷ジョブ一覧の確認	211
スプールディレクトリの作成	288
スペーシングユニット	145
接続方法	15
セットアップ UNIX	283
操作部	13
操作部を使って印刷する	113
操作部を使って機密印刷する	99
操作部を使って保留印刷する	107
双方向通信	48
ソート	72
ソート部数 (UNIX)	296
その他タブ	68

た行

ダイナミック DNS 機能を使用する	313
試し印刷	91, 106
試し印刷文書を消去する	96
調整管理メニュー	160
直接印刷	74, 306, 308
著作権	394
通常印刷	55
通常印刷を設定する	55
通信経路の保護と暗号化通信	317
テスト印刷メニュー	136
搭載エミュレーション情報	139
トップページを表示する	187
ドライバー (PS3)	302
ドライバー (RPCS)	302
トラブルシューティング (USB 接続)	43
トラブルシューティング (インストール)	46

な行

内蔵フォント	389
2 部目以降を印刷する (試し印刷)	93
ネットワークインターフェースボード	197
ネットワークインターフェースボードの 情報	266
ネットワーク経由で確認できる情報	260
ネットワークセキュリティーレベル設定	355
ネットワーク接続	15
ネットワークに ISDN 回線を接続している 場合	315
ネットワークプリンターの設定	279

は行

バージョン情報	139
ハードディスクのデータを 上書き消去する	346
排紙トレイ (UNIX)	295
パスワード (Network Monitor for Admin)	208
パラレル接続	44
半角ピッチ	145
左余白	145

表紙	70
表示言語メニュー	184
ファイル一覧 (CD-ROM 収録ソフトウェア)	301
ファイルにコピーする場合 (UNIX)	299
不正コピーガード機能	75
不正コピー抑止印刷	75
プリンター言語情報	139
プリンタードライバー (インストール)	18
プリンタードライバー画面	51
プリンタードライバー (サポート)	18
プリンタードライバー設定画面	52
プリンタードライバー (ダウンロード)	18
プリントサーバ	16
プリントジョブ情報	264
プリントログ情報	265
プログラム削除	157
プログラム登録	156
プログラム内容印刷	158
プログラム呼び出し	157
プロパティを表示する	52
文書印刷機能	91
文書複製の抑止	75
文書複製の抑止 (おことわり)	78
文書を消去する	116
ページ長	145
ヘルプ (Web Image Monitor)	191
変倍率	145
便利な機能	68
ホスト名	307
ホスト名 (DHCP)	307
ホスト名 (DNS)	307
保存文書	112, 113, 116
保留印刷文書を消去する	109
本体名の変更	210
本体、オプション、消耗品一覧	392

ま行

マークについて	11
マスクパターン	77
メール通知機能	216
メール通知用アカウント	218
メール認証	219
メッセージ一覧	273
メニューキー一覧	123
メニュー構成とモード	188
メニューロック	198
メモリー自動消去設定	346
メモリー全消去	348
メモリー内残存データ状態	
確認メニュー	132
メモリー容量と用紙サイズ	86
文字ストリング	145
文字ピッチ	145

や行

ユーザーコード (UNIX)	297
ユーザー情報管理ツールの起動	200
ユーザー情報の管理	200
ユーザー別印刷枚数情報の保存	201
ユーザー別印刷枚数の表示	201
有償定期交換部品と	
有償寿命部品について	389
要求時メール通知	221
要求メール	222
用紙サイズ (UNIX)	293
用紙種類 (UNIX)	294
用紙設定	
(Network Monitor for Admin)	199
用紙設定メニュー	133
よく使う印刷	55

ら行

リミットレス給紙	145
両面印刷	57, 145
両面印刷 (UNIX)	296
両面印刷の種類	58
両面印刷を設定する	57
両面とじ方向	145
ローカル接続	17
ログファイルの作成	289

わ行


ワンクリック設定	51, 67
----------	--------

HITACHI

株式会社 日立製作所 情報・通信システム社 ITプラットフォーム事業本部
〒259-1392 神奈川県秦野市堀山下1番地

■製品に関するお問い合わせ■

HITACカスタマ・アンサ・センター（HCAセンター）

 0120-2580-12

ご利用時間 9:00～12:00、13:00～17:00
(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

PL3240B-003

製造元: 株式会社リコー

© Hitachi, Ltd. 2014. All rights reserved.